授業コード	0001 0002	科目名	コンピュータ・リテラシー（1）	担当者	村上　幸史

【授業概要】
Word と Powerpoint の基本的な操作、機能について解説します。レポートや論文などの執筆や発表に役立てるスキルを磨いてください。

【到達目標】
文書作成の基礎的なスキルを身に付け、プレゼンテーションの準備ができるようにする

【授業計画】
第１回　文字入力とファイル
第２回　段落や文章の整形
第３回　表の作成
第４回　図の利用
第５回　練習課題１
第６回　スタイルやフォームの利用
第７回　差し込み印刷
第８回　修正、検索と置換
第９回　練習課題２
第10回　プレゼンテーション①
第11回　プレゼンテーション②
第12回　プレゼンテーション③
第13回　プレゼンテーション④
第14回　プレゼンテーション⑤
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
できるだけ使用機会を増やしてください。上達の近道になると思います。

成績評価方法	基本的には授業中の課題と取組姿勢により評価します。
テキスト参考書	『30時間でマスター Windows 7 対応　Word2010』 （※利用法など講義の中で説明しますので、その後に購入するようにしてください）

授業コード	0003 0004	科目名	コンピュータ・リテラシー（1） 初級レベル	担当者	疋田　浩一

【授業概要】
現代の情報化社会において、学生・社会人として必ず必要となるコンピュータ・リテラシー（読み書きの能力）を身につけるための初級講座。コンピュータなどの情報機器の基礎的知識を理解するとともに、パソコンやネットワークなどを活用し、情報の収集、加工、伝達、蓄積といった研究・学習などの知的活動に広く通用する技術を習得することを目指す。

【到達目標】
Internet、e-mail の利用方法、MS-Office の Word による文書作成、PowerPoint によるプレゼンテーション用スライド作成の技術、Excel によるデータの集計方法など、コンピュータを利用する上での初歩的なスキルを習得する。

【授業計画】
1．Introduction、Windows 基礎①
2．Windows 基礎②
3．E-Mail の書き方
4．インターネットと情報検索①
5．インターネットと情報検索②
6．ワープロ（Word）①
7．ワープロ（Word）②
8．ワープロ（Word）③
9．プレゼンテーション（PowerPoint）①
10．プレゼンテーション（PowerPoint）②
11．プレゼンテーション（PowerPoint）③
12．表計算（Excel）①
13．表計算（Excel）②
14．表計算（Excel）③
15．Office の連携、まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義中に扱った演習問題の復習。

成績評価方法	授業への取り組み（50%）、授業内での課題（50%）
テキスト参考書	『30時間でマスター　Office2010』実教出版、適宜プリント配布

授業コード	0005	科目名	コンピュータ・リテラシー（2）	担当者	村上　幸史

【授業概要】
Excel の基本的な操作、機能について解説します。レポートや論文などのデータの処理に役立てるスキルを磨いてください。

【到達目標】
自力で Excel を使い、簡単なデータ処理をできるようになること

【授業計画】
第１回　計算の基礎
第２回　絶対参照・相対参照
第３回　計算演習１
第４回　グラフの作成１
第５回　グラフの作成２
第６回　関数による計算１
第７回　関数による計算２
第８回　計算演習２
第９回　計算演習２
第10回　データベースの作成
第11回　データベースと関数１
第12回　ピボットテーブル
第13回　データベースと関数２
第14回　計算演習３
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
できるだけ使用機会を増やしてください。上達の近道になると思います。

成績評価方法	基本的には授業中の課題と取組姿勢により評価します。 習得状況次第では Excel に関する中テストを予定しています。
テキスト参考書	『30時間でマスター Windows 7 対応　Excel2010』 （※利用法など講義の中で説明しますので、その後に購入するようにしてください）

授業コード	0006	科目名	コンピュータ・リテラシー（2） 中級レベル	担当者	疋田　浩一

【授業概要】
現代の情報化社会において、学生・社会人として必ず必要となるコンピューターリテラシー（読み書きの能力）を身につける。特に、Excel の習得に重点を置く。

【到達目標】
Internet、e-mail の利用方法、MS-Office の Word による文書作成、PowerPoint によるプレゼンテーション用スライド作成の技術、Excel によるデータの集計方法など、コンピューターを利用する上での中級レベルのスキルを習得する。

【授業計画】
1．Introduction
2．PC の基礎　ファイル・データ管理、Cloud サービス
3．Internet①　情報検索とメール　検索、メールの書き方、SNS
4．文書作成①　Word の基礎（文章表現）
5．文書作成②　Word の応用（レポート・ビジネス文書）
6．文書作成③　Word の応用（表・オートシェイプ・差し込み印刷）
7．数値分析①　Excel の基礎（入力・参照）
8．数値分析②　Excel の基礎（関数）
9．数値分析③　Excel の基礎（グラフと分析）
10．数値分析④　Excel の応用（データベース）
11．数値分析⑤　Excel の応用（アンケートの集計）
12．数値分析⑥　Excel の応用（伝票の集計）
13．プレゼンテーションⅠ　PowerPoint の基礎・ビジュアル表現
14．プレゼンテーションⅡ　プレゼン資料の作成
15．プレゼンテーションⅢ　プレゼン実習

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
ある程度 MS-Office を利用した経験のある人が受講してください。講義中に扱った演習問題の復習を行ってください。

成績評価方法	授業への取り組み（50%）、授業内での課題（50%）
テキスト参考書	『30時間でマスター　Office2010』実教出版、適宜プリント配布

授業コード	0007	科目名	ネットワーク・プレゼンテーション メール、SNS、PowerPoint	担当者	足田　浩一

【授業概要】
現代の情報化社会において、学生・社会人として必ず必要となるコンピューターリテラシー（読み書きの能力）を身につける。特に、インターネットを介した情報の習得に重点を置く。

【到達目標】
Internet、e-mail、SNS の利用方法、マルチメディア素材の編集、PowerPoint によるプレゼンテーション用スライド作成の技術など、インターネットを利用する上での初歩的なスキルを習得する。

【授業計画】
1．Introduction
2．PC の基礎　ファイル・データ管理、Cloud サービス
3．Internet　情報検索とメール　検索、メールの書き方
4．SNS①　Twitter
5．SNS②　Facebook 1
6．SNS③　Facebook 2
7．マルチメディア①　画像の編集
8．マルチメディア②　音楽の編集
9．マルチメディア③　ビデオの編集
10．文書作成　Word の基礎
11．表計算　Excel の基礎
12．プレゼンテーションⅠ　PowerPoint の基礎・ビジュアル表現
13．プレゼンテーションⅡ　PowerPoint の応用
14．プレゼンテーションⅢ　プレゼン資料の作成
15．プレゼンテーションⅣ　プレゼン実習

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義中に扱った演習問題の復習を行ってください。

成績評価方法	授業への取り組み（50%）、授業内での課題（50%）
テキスト参考書	『30時間でマスター　Office2010』実教出版、適宜プリント配布

授業コード	0008	科目名	データ処理演習 Excel で学ぶアンケート調査と統計処理	担当者	足田　浩一

【授業概要】
社会学系の調査で用いられるアンケート調査について、その作成から Excel を利用した集計方法、その後の統計処理までを学びます。

【到達目標】
効果的なアンケートを作成し、Excel を利用して集計・分析を行うためのスキルを習得する。

【授業計画】
1．Introduction
2．Excel の基礎
3．調査票の作成
4．結果の入力
5．グラフの作成
6．２項目間の相関
7．相関係数の検定
8．相関係数の差の検定
9．クロス集計
10．独立性の検定
11．比率の差の検定
12．平均の差の検定
13．分散の差の検定
14．１元配置の分散分析
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
高校レベルの数学の知識と、Excel の基本的な操作スキルが必要です。
講義中に扱った演習問題の予習・復習を行ってください。

成績評価方法	授業への取り組み（50%）、授業内での課題（50%）
テキスト参考書	石村貞夫他、『Excel でやさしく学ぶアンケート調査と統計処理』、東京図書、適宜プリント配布

授業コード	0009 0010 0011	科目名	データベース	担当者	寺田　亜佐

【授業概要】
データベースの概念を知り、リレーショナルデータベースシステムの基本操作を身につける。

【到達目標】
まったくの初心者がデータベースを利用・作成する基本的能力を身につけることが目標です。

【授業計画】
データベースの利用・作成について基本的なことがらを、ゆっくりじっくり学びます。
使用するソフトウェアは、Microsoft Access です。
第１回　　：オリエンテーション、データベースとは
第２回～第３回：Access の基本操作
第４回～第６回：データベースとテーブルの作成
第７回～第８回：フォームの作成と編集
第９回　　：レポートの作成と編集
第10回～第12回：クエリの作成
第13回～第14回：総合練習問題
第15回　　：期末試験

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
受講者は、Windows および文字入力の基本、ファイル操作の基本を習得しておいてください。
技能の習得には、毎回の授業出席が欠かせません。
また、テキストを毎回必ず持参してください。

成績評価方法	学期末には、実技試験を実施します。評価は、試験の結果だけではなく、受講態度、授業への取り組み姿勢、提出物等も勘案し、総合的に判断します。
テキスト参考書	Microsoft Access2010 セミナーテキスト基礎（日経 BP 社） このテキストは、必ず購入してください。

授業コード	0012～0015	科目名	総合英語（1）	担当者	有村　久男

【授業概要】
英語の基本理解

【到達目標】
英語の読み、聞く、話す、書くにおける基礎力養成

【授業計画】
この講義では第１回から第15回を通して英語を総合的に復習を中心に進めていく。
長文、会話文、リスニング、等を文法練習問題にあたることで後期の「総合英語（２）」に繋げていく。
各週の講義予定は英文法の重要項目である、文型、動詞、名詞、形容詞・副詞、比較級、時制、不定詞、受動態、関係代名詞等の復習を順を追って進めていく。学生の理解度に応じて柔軟に対応して行くことを基本としているので各週の講義予定の内容を固定するかたちで記述はしない。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎週の課題を確実にこなしていく。

成績評価方法	課題提出、クイズ、と受講状況に基づいて評価する。
テキスト参考書	プリント教材

授業コード	0016〜0019 0301 0307〜0309	科目名	総合英語（2） Speaking（2）再履修	担当者	有村　久男

【授業概要】
英語の構造理解

【到達目標】
より高い英語運用能力の養成

【授業計画】
前期の講義で網羅した内容より高いレベルで第１回〜第15回まで総合的に概観する。
長文、会話文、リスニング、等を文法練習問題にあたることで講義を進めていく。前期同様、各週の講義予定は英文法の重要項目である、文型、動詞、名詞、形容詞・副詞、比較級、時制、不定詞、受動態、関係代名詞等の復習を順を追って進めていく。前期同様学生の理解度に応じて柔軟に対応していくので各週の講義予定について具体的記述はしない。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎週の課題を確実にこなしていく。

成績評価方法	課題提出、クイズ、と受講状況に基づいて評価する。
テキスト参考書	プリント教材

授業コード	0020〜0023 0302 0310〜0312	科目名	総合英語（3） Speaking（3）再履修 英検へのアプローチ	担当者	塩濵　久雄

【授業概要】
英検、その他の資格試験のための基礎力養成

【到達目標】
英語関係の資格試験における成績向上

【授業計画】
第１回〜第12回：Unit 1 から Unit 12まで
第13回・第14回：Review Quizz（3）,Review Quizz（4）
第15回　　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
各 unit の英文中の単語の発音意味を前もって調べておくこと。

成績評価方法	授業中の質疑応答を総合的に評価する
テキスト参考書	宮内猛・John Bowler 著『英検へのアプローチ』（成美堂）

授業コード	0024〜0027 0303 0313〜0315	科目名	総合英語（4） Speaking（4）再履修 英検へのアプローチ	担当者	塩濵　久雄

【授業概要】
英検、その他の資格試験のための基礎力養成

【到達目標】
英語関係の資格試験における成績向上

【授業計画】
第１回〜第12回：Unit 13から Unit 24まで
第13回・第14回：Review Quizz（３）,Review Quizz（４）
第15回　　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
各 unit の英文中の単語の発音意味を前もって調べておくこと。

成績評価方法	授業中の質疑応答を総合的に評価する
テキスト参考書	宮内猛・John Bowler 著『英検へのアプローチ』（成美堂）

授業コード	0028	科目名	日本語・日本文化 読解力養成講座	担当者	阿　部　　忍

【授業概要】
留学生を対象に、論文や日本社会に関する記事などを読むための知識を中心に講義します。
また、読む力、話す力、書く力を伸ばす練習をします。

【到達目標】
①文献を読んで内容を理解し、要約できるようになる。
②興味のあるトピックについて発表したり、レポートを書いたりできるようになる。
③日本社会・日本文化全般についての理解を深める。

【授業計画】
前期：第１回　　ガイダンス
　　第２回〜10回　文章読解の基本　―構造、文体、文法、語彙、引用、要約など―
　　第11回〜14回　文章読解の実践①　―論文を読む―
　　第15回　　前期のまとめ
後期：第１回　　文章読解の実践②　―エッセイを読む―
　　第２回〜６回　文章読解の実践③　―生活・文化に関する記事を読む―
　　第７回〜11回　文章読解の実践④　―社会問題に関する記事を読む―
　　第12回　　文章読解の実践⑤　―ものの見方に関する記事を読む―
　　第13回　　文章読解の実践⑥　―働くことに関する記事を読む―
　　第14回　　文章読解の実践⑦　―科学技術に関する記事を読む―
　　第15回　　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
留学生はできるだけこの科目を履修することが望ましい。また、遅刻・欠席をしないこと。

成績評価方法	受講姿勢70%，　期末のレポート30%
テキスト参考書	なし

授業コード	0029 0261 0262	科目名	ドイツ語･ドイツ文化　ドイツ語･ドイツ文化(1)、(2) ドイツ語圏入門編	担当者	加藤　智也

【授業概要】
SLA（第二言語習得論）を基にした初級ドイツ語の習得を目指します。SLA とは外国語を習得する際のメカニズムを科学的に解明する研究分野です。授業では、まずはアウトプット（作文、会話による言葉の産出）を通じて正確な文章を生み出す力を養います。そして、インプット（読み、ヒアリングによるフレーズの蓄積）をバランスよく混ぜながら、ドイツ語の感覚に慣れてもらいます。ドイツ語圏は文化芸術、科学技術の非常に発達した地域です。これをリアルに体験するためにも DVD などの視聴覚機器を用います。この授業を通じて、ドイツ語のみならず、語学そのものの学び方も分かることでしょう。

【到達目標】
①基礎ドイツ語の理解　②日常生活で使えるコミュニケーションの習得　③ドイツ語検定３，４級程度

【授業計画】
【前期（1）】
1．ドイツ語圏の国とは、ドイツ語でのあいさつ
2．アルファベートと綴り字の読み方
3．動詞の現在人称変化（1）
4．動詞の現在人称変化（2）
5．名詞の性
6．語順と疑問文
7．定冠詞と名詞の格変化（1）
8．定冠詞と名詞の格変化（2）
9．不定冠詞
10. 所有冠詞
11. 現在人称変化の不規則な動詞（1）
12. 現在人称変化の不規則な動詞（2）
13. 人称代名詞
14. 非人称の es
15. テスト

【後期（2）】
1．前置詞
2．前置詞と定冠詞の融合形
3．話法の助動詞（1）
4．話法の助動詞（2）
5．分離動詞
6．命令形
7．時刻の表現
8．形容詞の格変化
9．再帰代名詞と再帰動詞
10. 動詞の三基本形
11. 過去人称変化
12. 従属の接続詞
13. 現在完了形（1）
14. 現在完了形（2）
15. テスト

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業では独和辞典が必要です。わずか週一回の授業ですので、日々の復習を通じて習ったことを忘れないよう努力を続けてください。

成績評価方法	定期試験の結果と平常評価の合計
テキスト参考書	秋田静男ほか『ドイツ語インフォメーション neu 2』 朝日出版社

授業コード	0030 0263 0264	科目名	イタリア語・イタリア文化 イタリア語・イタリア文化（1）、（2）	担当者	高根沢　均

【授業概要】
陽気で楽しいイタリア文化について紹介しながら、イタリア語会話の基礎レベルを習得します。

【到達目標】
イタリア語の基礎文法を学び、基礎的な会話ができるようになる。
イタリアのさまざまな文化（生活・伝統・芸術等）や歴史について学び、イタリア文化の特色を理解する。

【授業計画】
イタリア語文法と会話練習の合間にイタリア文化の紹介を挟んで授業を進める。
第１回　　：オリエンテーション：ようこそ、イタリアへ！！
第２～４回：基礎文法①　イタリア語の特徴、名詞、essere 動詞と avere 動詞
第５回　　：イタリアの歴史と地理
第６～９回：基礎文法②　形容詞・副詞・前置詞・代名詞
第10回　　：イタリアの街と生活
第11～14回：基礎文法③　動詞（規則動詞）
第15回　　：前期のまとめ
第16～18回：基礎文法④　動詞（不規則動詞・再帰動詞）・関係詞
第19回　　：Musica italiana イタリア音楽を楽しむ
第20～22回：基礎文法⑤　さまざまな時制
第23～24回：Cucina italiana 作って学ぶイタリアの食
第25～27回：基礎文法⑥　受動態・条件法・ジェルンディオ
第28回　　：イタリア映画の世界
第29回　　：実践イタリア語会話　イタリアンレストランでイタリア語
第30回　　：総まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
イタリア語は文法的に英語とかなり異なる言語ですが、楽しみながら学ぶことが大切です。アモーレ！、カンターレ！、マンジャーレ！（恋して、歌って、食べまくろう！）という言葉がイタリア人のモットーといわれるように、明るく陽気なイタリア文化に親しみながら、初歩的なイタリア語会話をマスターしましょう！
学ぶにあたっては、文法事項を覚えることと、実践的な会話を並行させることが重要です。テキストに沿って予習復習をしつつ、授業中の会話に積極的に取り組みましょう！

成績評価方法	授業中の取り組み（50%）、適宜実施するテスト（小テスト、期末テストの総計で50%）
テキスト参考書	長神悟、『イタリア語の ABC』、白水社､2003年

授業コード	0031 0032	科目名	ハングル・コリア文化 小旅行気分でハングルを・・・	担当者	朴　基栄

【授業概要】
ハングル独特のきれいな発音で、できるだけ沢山会話をしましょう。
数々の会話文にふれ、文章を自由に組み立てられるようにしましょう。

【到達目標】
①文字、特に終声をきれいに発音出来る。
②自由に文章を組み立て、会話に生かすことが出来る。
③韓国の生活文化に直接ふれることが出来る。

【授業計画】
第１回～第３回　まず一緒に理解しましょう。ハングル文字はブロックを組み立てたようなもの。
　　自分の名前をハングルに置き換えましょう。星座や干支から学びましょう。
第４回～第６回　ハングル文字の子音・母音・終音を理解し、反切表を見ながら少しずつ文字を読みましょう。
第７回～第10回　耳で聞いてカタカナで書き取っても会話はできるものです。
　　小旅行のつもりで、おもいっきり声に出してみましょう。
第11回～第13回　お手軽韓国料理を作りましょう。民族楽器にふれて韓国語の歌も覚えましょう。
第14回　総復習
第15回　試験
第16回～第20回　前期の復習をしながら、美しいハングルの詩の朗読に挑戦し、文法も学びましょう。
第21回～第25回　ハングルの発音現象、文の組み立て方を会話文から理解しましょう。
第26回　古典小説＜沈清伝＞から日本語の文法の共通点を探しましょう。
第27回～第28回　お手軽韓国料理を作ったり民族楽器に触れたりしましょう。
第29回　総復習
第30回　試験

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
テキストを使わないので、毎回のノート、プリントをきちんと整理しておくよう心掛けましょう。

成績評価方法	７対３の割合で評価します。⑦→（受講態度、ノート整理のチェック、ミニテスト、時間毎の会話復習、各課題提出）③→（前、後期テスト）
テキスト参考書	使用しません。

授業コード	0033 0034	科目名	中国語・中国文化	担当者	山本　恭子

【授業概要】
きれいな発音を身につけて中国語で自己紹介しよう。
様々な表現を身につけ、簡単な会話をマスターしよう。

【到達目標】
①発音の基礎を固めて、日常のあいさつを正確に発音しましょう。
②自分の名前を中国語で発音し、数や年月日も言えるようになりましょう。
③ CD を欠かさず聞いて、中国語で自己紹介できるようになりましょう。

【授業計画】
最初に発音の基礎を固めて、日常のあいさつを正確に発音しましょう。次に、自分の名前を中国語で発音し、数や年月日も習います。CD を欠かさず聞いていれば、中国語で自己紹介できるようになります。
中国の歌を聴いたり、映画、伝統劇を見て、人々の暮しやものの考え方にも触れてみます。異文化に接することであなた自身の世界を広げて下さい。
※辞書は、授業でよく話を聞いてから選びましょう。
第１回～第３回　発音の基本を身につけよう。「こんにちは。」「ありがとう。」「どういたしまして。」あいさつしよう。
第４回～第６回　自己紹介しよう。
第７回～第14回　「このギョーザはおいしい。」「このパンダはいくら？」中国語で買物しよう。
第15回　期末テストで自分の力を確認しよう。
第16回～第22回　マーボー豆腐を注文しよう。万里の長城に行こう。
第23回～第29回　タクシーに乗ろう。洋服を試着しよう。
第30回　期末テストで一年間の成果を確かめよう。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
語学は積み重ねです。毎回必ず出席しましょう。家でも毎日 CD をくり返し聞き、大きな声で朗読しましょう。

成績評価方法	自己紹介の朗読、本文の暗唱と期末に行う筆記試験で評価します。
テキスト参考書	『はじめての中国語　すくすく』遠藤光暁監修（朝日出版社）

授業コード	0035	科目名	資格英語（1） 総合英語入門	担当者	有村　久男

【授業概要】
この資格英語（1）では、英語の総合力の向上に努める。大きな括り方として毎回の講義として具体的文法項目を上げているが、実際の授業では各学生に合わせて柔軟に対応して行く。

【到達目標】
基本的な英語の問題を解く練習を重ねる事で、英語の４技能の実践的英語運用能力が伸びてくれる事を目標とする。

【授業計画】
1．基礎動詞・時制
2．基礎助動詞
3．基礎代名詞
4．基礎受動態
5．基礎比較
6．基礎比較
7．基礎不定詞
8．基礎動名詞
9．基礎分詞
10．基礎関係代名詞
11．基礎関係代名詞
12．基礎接続詞
13．基礎接続詞
14．試験
15．復習

【注意点】下記の点は非常に重要である。
1．出席に関しては、２回遅刻は１回の欠席になる。欠席３回以上は原則認めない。但し、出席全てしたからと言って他の点を満たしていなければ不可になる。
2．私語は他の学生に迷惑になるばかりでなく、効率の良いクラス運営の妨げになるので禁止である。私語が目立つ学生や注意に従わない学生は退室をして貰うことがあるので留意すること。
3．授業中の携帯電話使用禁止。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
上記の通り

成績評価方法	下記の点に基づいて下す総合評価方式を取る。 1．授業への積極的参加　2．出された練習問題の完成
テキスト参考書	プリント教材

授業コード	0036	科目名	資格英語（2） 総合英語基礎	担当者	有村　久男

【授業概要】
前期に続いて、資格英語（2）では前期の資格英語（1）で養成した英語の総合力の向上に努める。大きな括り方として毎回の講義として具体的文法項目を上げているが、全体的な授業の構成・進め方に関しては各学生に合わせて柔軟に対応して行く。

【到達目標】
少し応用的な英語の問題を解く練習を重ねる事で、英語の４技能の実践的英語運用能力が伸びてくれる事を目標とする。

【授業計画】
1．応用動詞
2．応用助動詞
3．応用不定詞
4．応用動名詞
5．応用分詞
6．応用比較
7．応用関係詞
8．応用関係詞
9．応用前置詞
10．応用接続詞
11．応用時制
12．応用現在完了
13．応用現在完了
14．試験
15．復習

【注意点】下記の点は非常に重要である。
1．出席に関しては、２回遅刻は１回の欠席になる。欠席３回以上は原則認めない。但し、出席全てしたからと言って他の点を満たしていなければ不可になる。
2．私語は他の学生に迷惑になるばかりでなく、効率の良いクラス運営の妨げになるので禁止である。私語が目立つ学生や注意に従わない学生は退室をして貰うことがあるので留意すること。
3．授業中の携帯電話使用禁止。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
上記の通り

成績評価方法	下記の点に基づいて下す総合評価方式を取る。 1．授業への積極的参加　2．出された練習問題の完成
テキスト参考書	プリント教材

授業コード	0037	科目名	資格英語（3） 表現文法	担当者	塩濵　久雄

【授業概要】
自分の表現したいことを英語にするにはどうすればよいかを、文法項目別に扱い、英語表現を総合的に学習する。

【到達目標】
基礎的な英語表現力の習得

【授業計画】
1．現在の表し方（1）
2．現在の表し方（2）
3．過去の表し方（1）
4．過去の表し方（2）
5．未来の表し方（1）
6．未来の表し方（2）
7．仮定の表し方（1）
8．仮定の表し方（2）
9．使役の表し方（1）
10．使役の表し方（2）
11．命令の表し方（1）
12．命令の表し方（2）
13．許可の表し方（1）
14．許可の表し方（2）
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回の授業予定部分を予習して講義に臨むこと

成績評価方法	授業中の受け答えなどを総合的に評価する。
テキスト参考書	岸野英治『コミュニケーションのための英文法・英作文』（英宝社）

授業コード	0038	科目名	資格英語（4） 表現文法	担当者	塩濵　久雄

【授業概要】
自分の表現したいことを英語にするにはどうすればよいかを、文法項目別に扱い、英語表現を総合的に学習する。

【到達目標】
基礎的な英語表現力の習得

【授業計画】
1．依頼・勧誘の表し方（1）
2．依頼・勧誘の表し方（2）
3．提案の表し方（1）
4．提案の表し方（2）
5．意図・決意の表し方（1）
6．意図・決意の表し方（2）
7．推量・可能性の表し方（1）
8．推量・可能性の表し方（2）
9．原因・理由の表し方（1）
10．原因・理由の表し方（2）
11．目的・結果の表し方（1）
12．目的・結果の表し方（2）
13．譲歩・様態の表し方（1）
14．譲歩・様態の表し方（2）
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回の授業予定部分を予習して講義に臨むこと

成績評価方法	授業中の受け答えなどを総合的に評価する。
テキスト参考書	岸野英治『コミュニケーションのための英文法・英作文』（英宝社）

授業コード	0039 0304	科目名	上級英語（1） Speaking（5） English Workshop	担当者	有村　久男

【授業概要】
English study in English

【到達目標】
可能な限り日本語を介在させないで英語学習が理解できる。

【授業計画】
以下の題目を基礎にして授業を展開していく。

1 & 2. week Computer education
3 & 4. week Environmental issues
5 & 6. week Animals and human beings
7 & 8. week Curute and Fashion
9 &10. week Business Market
11&12. week Going International
13&14. week Tourism
15. week Summary & Test

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
積極的に授業に参加すること。

成績評価方法	受講態度、クイズ、課題提出
テキスト参考書	プリント教材

授業コード	0040 0305	科目名	上級英語（2） Speaking（6） English Workshop	担当者	有村　久男

【授業概要】
English study in English

【到達目標】
可能な限り英語で考えて英語で意見発表出来る。

【授業計画】
1 & 2. week Movie Industry
3 & 4. week Donations
5 & 6. week Big Cities
7 & 8. week Danger of nature
9 &10. week Aging Society
11&12. week YouTube
13&14. week Asian cultures
15. week Summary and test

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
積極的に授業に参加すること。

成績評価方法	受講態度、クイズ、課題提出
テキスト参考書	プリント教材

授業コード	0042〜0045	科目名	日本語表現基礎	担当者	阿部 忍 新稲 法子

【授業概要】
大学生・社会人に必要とされる文章表現のきまりやテクニックを修得します。

【到達目標】
①文体の選び方や原稿用紙の使い方など、文章表現のきまりを修得する。
②読み手に必要な情報を整理して提示できるようにする。
③目的に合わせた文章をまとまりよく書けるようになる。

【授業計画】
第１回　ガイダンス
第２回　文章作成の基本
第３回　推敲の方法
第４回　手紙を書く
第５回　メールの作成
第６回　レストランのメニュー
第７回　文章の要約
第８回　レポートの作成
第９回　映像を見て文章を書く
第10回　日本語弱者のことを考えて書く
第11回　インタビューの方法
第12回　インタビューの成果をまとめる
第13・14回　社会問題について論じる
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
留学生は留学生クラスを受講すること。遅刻・欠席をしないこと。

成績評価方法	受講姿勢と授業中の提出物70%，　期末の最終課題30%
テキスト参考書	なし

授業コード	0047 0048	科目名	日本語表現基礎	担当者	伊多波　宗周

【授業概要】
文章を読み理解すること、文章を通して自身の意思を書き記すことは、あらゆる活動の基礎になる行為です。特に、きちんとした日本語が書けることが大切です。本授業では、具体的な演習を通して、文章の表現力の向上をはかります。

【到達目標】
・文章を書く上でのルール（句点・読点、改行、１字下げなど）を習得すること。
・論理的で明瞭な文章力を養うこと。
・敬語を用いた文章を書けるようにすること。

【授業計画】
第１回　　：イントロダクション、アンケート
第２回　　：文章の書き方の基本について、自己紹介文を書く（課題１）
第３～７回：日本語表現のための基本的練習問題（書き言葉、語順、句読点の打ち方、接続詞の使い方等々）
第８回　　：原稿用紙２枚程度の文章を書く（課題２）
第９～10回：敬語を用いた文章を書くための練習問題
第11回　　：恩師等に手紙を書いてみる（課題３）
第12～13回：論理的な文章を書くための練習問題
第14回　　：筋道だった文章を書く（課題４）
第15回　　：まとめ

※なお、受講生の習熟度により、上記の進行は、若干変更する可能性があります。（課題の回も前後する可能性があります）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
基本的には授業内完結型ですが、時間内に提出できなかった場合など、個別に家庭学習を課す場合があります。

成績評価方法	４回の課題（20%×４）、授業への取り組みによる文章力の向上度（20%）
テキスト参考書	特になし。適宜プリント配布。

授業コード	0050〜0053	科目名	日本語表現応用	担当者	阿部 忍 新稲 法子

【授業概要】
大学生・社会人に必要とされる文章表現のきまりやテクニックを修得します。

【到達目標】
①目的に合わせた効果的な文章が書けるようになる。
②説得的な論説文が書けるようになる。
③レポートの基本を身につける。

【授業計画】
第１回　　ガイダンス
第２回　　エントリーシートを書く
第３回　　エッセイを書く（１）
第４回　　奨学生に応募する
第５・６回　社会問題について論じる（１）（２）
第７回　　サービス案内を作る
第８回　　中途採用の応募書類に転職理由を書く
第９回　　エッセイを書く（２）
第10〜12回　レポートや論文を書く
第13・14回　社会問題について論じる（３）（４）
第15回　　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
留学生は留学生クラスを受講すること。遅刻・欠席をしないこと。

成績評価方法	受講姿勢と授業中の提出物70%，　期末の最終課題30%
テキスト参考書	なし

授業コード	0055 0056	科目名	日本語表現応用	担当者	伊多波　宗周

【授業概要】
文章を読み理解すること、文章を通して自身の意思を書き記すことは、あらゆる活動の基礎になる行為です。特に、きちんとした日本語が書けることが大切です。「日本語表現基礎」につづく本授業では、文章読解力の向上をめざしつつ、引き続き文章の表現力の向上をはかります。

【到達目標】
・新聞記事や、ある程度複雑なエッセイなど、大学・社会生活に必要なレベルの文章読解力を身につけること。
・読解した内容について、過不足なく要約できる力をみにつけること。
・読解した内容について、自分の考えを述べられるようにすること。

【授業計画】
第１回　　：イントロダクション
第２回〜４回：文章を読んポイントをつかむ練習①〜③
第５回　　：新聞記事を要約する（課題１）
第６回〜８回：少し複雑な文章を読んでみる練習①〜③
第９回　　：文章を読んで、それに対する自分の意見を書く（課題２）
第10回　　：添削された前回の課題文をもとに、書き直す練習（課題３）
第11回〜13回：文章力の幅を広げるために①〜③
第14回　　：より高度な文章を書いてみる（課題４）
第15回　　：まとめ

※なお、受講生の習熟度により、上記の進行は、若干変更する可能性があります。（課題の回も前後する可能性があります）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
基本的には授業内完結型ですが、時間内に提出できなかった場合など、個別に家庭学習を課す場合があります。

成績評価方法	４回の課題（20%×４）、授業への取り組みによる文章力の向上度（20%）
テキスト参考書	特になし。適宜プリント配布。

授業コード	0058 0306	科目名	ダンス　身体表現（ダンス）	担当者	岡本　賀洋

【授業概要】
とにかくダンスを好きになってもらうこと。
そのうちに、あらゆる日常や異なった芸術との共通点やヒントに気付くでしょう。

【到達目標】
身体表現の可能性と、柔らかな発想力を引き出します。

【授業計画】
第１回　　：ガイダンス
第２回～第４回：体を温めて、ほぐしていきましょう。
　　筋力トレーニングやストレッチをして、ケガのない、強くしなやかな体作りを目指します。
第５回～第９回：リズム取りやステップの反復練習をしましょう。
第10回～第13回：実際に作品に取りかかります。踊り込みましょう。
第14回～第15回：作品の発表や総評など

以上の行程を踏み、柔軟な心と体を持って、自己から動きを作り出していきます。

成績評価方法	受講態度、授業に取り組む姿勢を見て評価します。
テキスト参考書	なし

授業コード	0059	科目名	手話	担当者	藤井　孝子 丸山　よい

【授業概要】
手話を通して、ろう者の生活、文化、歴史を学び、聴覚障害者の理解を深めると共に、ノーマライゼーションの理念に基づき共生生活を考える。

【到達目標】
・聴覚障害者の講師の対話を中心に、手話で日常会話を行うに必要な手話表現技術を習得する。
・聴覚障害者の生活および関連する福祉制度等についての理解と認識を深める。

【授業計画】
【議題（テキストに基づく）】
第１回　聴こえないとは？（いろいろなコミュニケーション方法／聴覚障害者に対する配慮）
第２回　伝えあってみましょう。（聴覚障害者の生活）
第３回　名前を紹介しましょう。（聴覚障害者と家族）
第４回　家族を紹介しましょう。（生活の不便）
第５回　数を使って話しましょう。（聴覚障害者の職場、職業選択）
第６回　趣味について話しましょう。（ろう教育）
第７回　仕事について話しましょう。（福祉について）
第８回　住所を紹介しましょう。（手話通訳・手話サークル）
第９回　第８回までのまとめと復習。
第10回　話してみましょう。（耳の仕組みと補聴器）
第11回　話してみましょう。（１日のこと）
第12回　話してみましょう。（１カ月のこと）
第13回　話してみましょう。（１年のこと）
第14回　復習
第15回　後期試験　筆記テスト
第16回　後期試験　実技テスト

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
演習授業ですので、可能な限り『欠かさず』出席をしましょう。

成績評価方法	実技試験、筆記試験、受講態度などで総合的に評価する。
テキスト参考書	厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム対応 手話奉仕員養成テキスト「手話を学ぼう　手話で話そう」（社会福祉法人全国手話研修センター）

授業コード	0060 0061	科目名	日本語コミュニケーション	担当者	新稲　法子

【授業概要】
話し言葉を中心に、わかりやすく誤解されない伝え方を課題を通して身に付けます。仕事や改まった場面で、常識ある大人としてコミュニケーションできるようになることを目指します。

【到達目標】
①大勢の前で聞き手と視線を合わせて５分間スピーチができる。
②改まった場でも、知らない人とでも、大人の会話ができる。
③話の流れをつかみ、わかりやすく説明できる。
④感情的にならずに、論理的に自分の意見を主張できる。

【授業計画】
第１回　　：授業ガイダンス
第２回　　：自己紹介をする
第３回　　：インタビューをする
第４回　　：短いスピーチをする
第５～６回：ビブリオバトルをする
第７～９回：ディベートをする
第10～11回：使い方を説明する
第12～14回：５分間スピーチをする
第15回　　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
この授業では主に話すことを取り上げ、二人組になってお互いインタビューしたり、グループで討論したり、時間を計ってスピーチしたりします。積極的に参加しましょう。

成績評価方法	①授業内課題（50%）：課題に参加しなかった場合、その回の点は付きません。 ②期末発表会（50%）：５分間スピーチの内容で評価する実技試験です。
テキスト参考書	特になし。適宜プリント配布。

授業コード	0062	科目名	キャリアデザイン特講（1）	担当者	橘　セツ

【授業概要】
社会の色々な側面を感じ、体験することや、キャリアプランを考えていくことを通して、目標をもって有意義に大学生活を過ごす計画を立てることを目指します。

【到達目標】
卒業後の自らの姿が想像でき、将来へ夢・希望を抱くことが出来る。

【授業計画】
自分は何が好きなんだろう？どんな職業が向いているのかな？将来どんな人になりたい？探してみても見つけることは難しいことです。好きなことと出会うために、まずは、いろいろな職業や生き方を知りましょう。
この授業では社会で活躍されている人生の先輩をお呼びしてお話を聴く機会もあります。また､新商品開発プロジェクト（B－１グランプリ）を通じて、チームで働く力なども養います。
最終的に、卒業後の自分を大まかにイメージして、大学生活の過ごし方（行動計画）をデザインしてみましょう。

【スケジュール：昨年の内容をベースにした予定です】
第１回　授業ガイダンス
第２回　①自分年表を作成しよう！②深層心理の自分発見（心理テスト的に）
第３回　アサーティブ・トレーニング：傾聴するということ
第４回　＜アクティビティ＞異文化コミュニケーション「異文化を理解することから自分を理解する」
第５回　キーワードで学ぶ前向きな学生生活
第６回　私らしく　幸せになる方法
第７回　人をキレイにする仕事：美容師という仕事を通して自分らしく生きることについて考える
第８回　B－１グランプリ：ガイダンス、チームづくりと役割分担
第９回　B－１グランプリ：ミッション発令、企画プランニング
第10回　B－１グランプリ：グループワーク、企画書・プレゼン資料作成
第11回　B－１グランプリ：グループワーク、企画書・プレゼン資料作成
第12回　B－１グランプリ：最終調整、仕上げ
第13回　B－１グランプリ：プレゼン本番、プロジェクト振り返り、個人報告書作成と提出
第14回　「なりたい自分」になるために、今、何をすればいいのでしょう？
第15回　まとめ（最終レポートに向けて）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
参加型の授業です。積極的に発言したり、行動したりしましょう。

成績評価方法	受講態度、提出物、期末レポートによる総合評価
テキスト参考書	毎回、プリントを配ります。

授業コード	0063	科目名	キャリアデザイン特講（2） コミュニケーションスキルアップ	担当者	柳本　周介

【授業概要】
キャリアデザインを考える上で自身を磨くことはもちろんのことその中でもコミュニケーション（ソーシャルスキル）をアップすることを狙いとします。またこの講座では関西で大活躍している経営者や企業の人事担当者にも参加してもらい働くことの意義や人事の採用の本音なども語ってもらいます。実務的な授業を中心に行います。

【授業計画】
《実践的な授業を基本と考えています》
①働くとは（社会の常識を知る）
②質問力セミナー・・・人とすぐに仲良くなる質問力を身につけていただきます。
③販売力セミナー・・・プレゼンテーションの大局を知っていただきます。
④褒めるセミナー・・・人の心が少しでも分かるようになっていただきます。
⑤経営者講演会Ⅰ
⑥グループワーク・・・大統領を選出せよ（テーマ）
⑦伝える＋伝わるセミナー・・・伝える能力を磨いていただきます。
⑧発想力セミナー・・・アイデアが沸きだす人をめざしていただきます。
⑨グループワーク・・・流行るお店　流行らないお店　（テーマ）
⑩言葉の意味を知ろう・・・ポジティブな言葉を使用することの意義を知っていただきます。
⑪パーソナルリレーションテスト・・・自己理解と他人理解の勉強をしていただきます。
⑫サービスマインド研修・・サービスの心得を学んでいただきます。
⑬チームワーク研修・・・和を持って結果を出す研修です。
⑭グループワーク・・・グループで一つの提案を出してもらいます。
⑮総復習

成績評価方法	取組姿勢　50%　テスト　50%　（持ち込み不可）
テキスト参考書	特にありません。独自のテキストのみ（コピーで対応）

授業コード	0064	科目名	インターンシップ 自分の将来を見つけるために	担当者	橘　セツ

【授業概要】
事前指導・実習・事後指導の一連の取組みを通して、自己を見つめ、自身の職業適性や学生と社会人の違いを認識し、働くことの目的、就職活動の目標を定め、就職活動やその先にある社会人として必要となる知識・スキルを身につける。

【到達目標】
【前期授業】①働く意義を理解できる。②組織・業種・職種が理解できる。社会で必要なスキルを理解し､実習で実践できる。
【実　習】単なる職場体験ではなく、①自分の志向（やりたいこと・やりたくないこと）、やりがいを感じるポイント、長所、短所、行動の特徴を実感する。②社会人としての働き方、組織の中での働き方について理解する。
【後期授業】プロジェクトを通し、①就職活動する上での自分の強み、弱みをはっきり認識する。②目的・目標に対して計画を立て実践し、自己効力感（「やりたい」を「できた！」に）を高める。③１年を通し、見えない「不安」をクリアにしていき、それを「推進力」に変え就職活動に臨む。

【授業計画】
【前期】
①オリエンテーション・企業スタディーⅠ（概論）＆インターンシップ先希望調査書記入
②マナートレーニングⅠ
③企業スタディーⅡ（業界、業種、職業選択の多様性）
④自分と他のつながりⅠ＆チーム力・協調性アップトレーニングⅠ
⑤自分と他のつながりⅡ＆チーム力・協調性アップトレーニングⅡ
⑥自己理解とキャリアデザインⅠ
⑦自己理解とキャリアデザインⅡ
⑧パブリックスピーチ
⑨企業スタディーⅢ（「組織」「物事・仕事の取り組み方」）
⑩バーチャル職場体験Ⅰ
⑪バーチャル職場体験Ⅱ
⑫マナートレーニングⅡ
⑬マナートレーニングⅢ
⑭まとめ＆実習諸注意
⑮予備日
【夏季】
インターンシップ実習
【後期】
①インターンシップ実習報告
②アクティビティ＆ワークⅠ（できる自分になるために）
③プロジェクトに向けてのトレーニング（行動目標､計画の立て方）
④プロジェクトに向けてのトレーニング（インタビュースキル、プレゼンスキル）
⑤⑥⑦⑧各自プロジェクト実践期間（授業はありません）
⑨プロジェクト成果発表会
⑩振り返り、総まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
①企業等で実習させて頂くという意識を持ち、就職活動に向け積極的な姿勢で受講すること。
②前期授業３回欠席者、マナートレーニング欠席者は、インターンシップの参加は認めない。

成績評価方法	①実習 30%、②各種課題　35%、③受講態度・参加姿勢　35%
テキスト参考書	特になし。適宜こちらで用意する。

授業コード	0065 0066	科目名	社会貢献活動	担当者	橘　セツ

【授業概要】
環境問題をめぐる社会的活動、社会的弱者・災害被害者、地域でのボランティア活動等を通じて多様な価値観の人々と交流することによって、地域社会への理解や社会人基礎力の向上を目指します。

【到達目標】
地域社会で活動している組織等を通じ、多様な価値観を持った人々と接することによって、社会で求められるコミュニケーション力、人間関係構築力、課題発見力などの社会人基礎力を身に付けます。

【授業計画】
第１回目　　：授業ガイダンス（社会貢献活動とは）
第２回目　　：社会貢献活動先を知る
第３回目　　：社会貢献活動を始めるにあたって（社会常識等を学ぶ）
第４回目　　：「活動計画書」を作成する
第５回目～第12回目：社会貢献活動実践（活動通算48時間以上）
第13回目　　：活動日誌まとめ、活動報告書作成
第14・15回目　：社会貢献活動報告会

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
事前準備として社会貢献活動先の情報収集をしっかりと行い、また地域社会に貢献するなど明確な目的意識を持ち、単位取得後も積極的かつ継続的に活動していくことを望みます。

成績評価方法	①事前学習の取り組み②社会貢献活動の取り組み③「活動計画書」、「活動日誌」、「活動報告書」の内容を元に総合的に評価します。
テキスト参考書	プリントを適宜配付します。

授業コード	0067 0068	科目名	キャリアプランニングＡ	担当者	兼田　裕子

【授業概要】
就職試験の準備として、必要なことをすべて教える授業です。就職希望の学生は必ず受講してください。

【到達目標】
希望の企業へ就職すること。

【授業計画】
【前期】
第１回目：就職して正社員になるとはどういうことか。派遣社員やフリーターとの違い。給料、待遇、福利厚生について。
第２回目：就職活動スケジュール2015年。日本経済と就職環境。
第３回目：就職試験の内容。書類選考、筆記試験、面接試験。
第４回目：自己分析　その１；パーソナリティ編（長所、短所を考える）
第５回目：自己分析　その２；学業編、学外活動編。
第６回目：自己分析を完成させたうえで、自己 PR の作成。
第７回目：企業組織図；縦割りと横割り。採用試験のコース別人事とは。
第８回目：業界と業種と企業。上場と非上場企業。
第９回目：自己 PR「今までで一番打ち込んだこと」の作成（回収して添削、その後返却）
第10回目：社会人としての常識・マナー
第11回目：社会人としての言葉遣い・敬語
第12回目：社会人としての一般教養・常識及び時事
第13回目：第２回目「自己PR」の作成（回収して添削、その後返却）
第14回目：ビジネスマナーテスト
第15回目：第１回就職筆記試験（SPI）
【後期】
第１回目：前期に作成した自己 PR の返却。他学生の自己 PR を添削することで自分の自己 PR を省みる。
第２回目：エントリーシートの書き方、その１
第３回目：エントリーシートの書き方、その２
第４回目：エントリーシートの作成（回収して添削、その後返却）
第５回目：リクルートスーツの選び方と着こなし。
第６回目：業界と業種と職種。希望業界の展望を考える。
第７回目：（５限目）現４年生の内定獲得の先輩の就職活動談とアドバイス。
第８回目：業界と企業研究。メーカー、金融、建築、自動車など。
第９回目：（５限目）第２回就職筆記試験（SPI）
第10回目：就職ナビ登録
第11回目：企業研究ノートの作成の仕方／資本金、売上高、営業利益、経常利益など
第12回目：企業アプローチ／企業への電話の掛け方、E-mail、送付状の書き方
第13回目：（５限目）OB・OG による、職業談。
第14回目：履歴書作成と送付状の書き方。
第15回目：面接の受け方。
第16回目：ディスカッション模擬面接
第17回目：集団模擬面接①
第18回目：集団模擬面接②

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
就職の準備を計画立てて行う授業なので、休まないこと。

成績評価方法	課題提出、前期末試験、受講態度で評価します。
テキスト参考書	学校より配布されるテキスト（無料）と、プリント教材。

授業コード	0069 0070	科目名	キャリアプランニングB 就職筆記試験対策	担当者	南　智子

【授業概要】
就職試験に必出のSPIの非言語分野（数学）を中心に計算力の向上を図り、解法をマスターします。
一般常識の対策は国語を中心に取り組みます。

【到達目標】
出題形式に慣れることで、得点アップを目指します。

【授業計画】
【前期】　前期は主に基本問題に取り組みます
第１回：就職試験の概要・ガイダンス、小数・分数の計算、四則の混合算、連立方程式
第２回：割合・比、金銭計算（損益算）、漢字の読み書き
第３回：金銭計算（料金の割引・代金精算）、漢字の読み書き
第４回：速さ・時間・距離
第５回：流水算・通過算、同音異義語
第６回：SPI確認テスト①、鶴亀算
第７回：濃度算、年齢算、四字熟語
第８回：仕事算・水槽算、集合
第９回：推論、時事問題
第10回：順列・組合せ
第11回：SPI確認テスト②、確率、対義語・同義語
第12回：図表の読み取り、日本地理
第13回：条件と領域、類義語・二語の関係
第14回：物の流れと比率
第15回：総復習

【後期】　後期は実戦問題に取り組みます
第１回：前期復習
第２回：推論①、二語の関係
第３回：割合と比、損益算、料金割引、代金精算
第４回：順列・組み合わせ、確率
第５回：SPI確認テスト①、速度算、語句の意味
第６回：集合、鶴亀算、年齢算、適語の挿入
第７回：仕事算・水槽算、表の解釈
第８回：物の流れ、ブラックボックス、複数の意味
第９回：グラフの領域、条件と領域
第10回：情報の読み取り、推論②、n進法
第11回：SPI確認テスト②、
第12回：テストセンター出題内容の復習①
第13回：テストセンター出題内容の復習②
第14回：玉手箱等Webテスト練習
第15回：総復習、性格適性試験について

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
数学の問題を解くのは久しぶりという人も多いと思います。
授業は、ゆっくりと進めますので、心配しないで受講してください。苦手な人は、復習をしっかりとしましょう。

成績評価方法	SPI確認テスト２回／小テスト11回（第２講から毎回小テストを実施します。）　確認テストと小テストを平常点とします。受講態度30点、平常点40点、期末試験30点で評価します。
テキスト参考書	【前期】SPI対策問題集：実務教育出版､就職用　一般常識：高橋書店　【後期】史上最強SPI＆テストセンター超実戦問題集：ナツメ社、就職用　一般常識：高橋書店（※前期と同じものです）

授業コード	0071	科目名	キャリアプランニングC 模擬就活（モギシュー）	担当者	橘　セツ

【授業概要】
就職活動の始まりから終わりまでを体感し、就職活動のステップごとにすべきことを具体的に認識し、見えない不安（何から始めて、何をしたらいいのか等）を取り除くことと、自分自身をしっかり固めることで自信を持ち、就職活動に一歩踏み出すことを後押しする。

【到達目標】
①就活の常識とマナーを習得する　②希望業種、職種を絞った履歴書の完成する　③グループディスカッション手法、面談手法を学び実践する　④自信を持って、自己PR＆志望動機が言えるようにする　⑤授業終了後、速やかに本番の就職活動へ移行する

【授業計画】
〈第１日目〉
第１回：オリエンテーション　「就活に対する不安を取り除く。就活を知る！」
第２回：動き出す前に必要なこと。「自分をしっかり知り磨く！」
　所作トレーニング（第一印象をよくするトレーニング、スマートな身のこなし方）
第３回：【会社へのアプローチ】マナートレーニング（電話、メール、WEBエントリー、会社訪問）
第４回：【企業説明会参加】架空企業説明会に参加し、実際に参加した場合の手順を踏む
〈第２日目〉
第５回：「自己PRや志望動機に採用側が求めるポイント」「職種別自己PR、志望動機のポイント」
第６～８回：【学内企業説明会参加】実際の企業説明会に参加
【応募書類提出】自己PRや志望動機の徹底指導　→目標：応募書類を必ず作成
①業種、職種別の架空企業に模擬応募、または実際の企業に応募　②神戸山手大の証明書類の申請の仕方　③送付状・封筒の書き方
〈第３日目〉
第９～10回：【企業選考Ⅰ】　グループディスカッション
第11～12回：【企業選考Ⅱ】　グループ面接
〈第４日目〉
第13～15回：【企業選考Ⅲ】　グループディスカッション、グループ面接、個人面接、まとめ（個別合否判定とアドバイス）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
すべて､具体的な手順を踏み､自分で体験し､その都度フィードバックをもらうことで､就活に必要なことを身につけるプログラムである。尚、履修者は事前面談と履歴書・エントリーシートの事前提出を義務付ける。キャリアプランニングAを受講していることが望ましい。

成績評価方法	①各種課題（各種応募書類等の作成）30%　②参加態度・習得レベル40%　③取組姿勢30%　単位取得には、8割以上の出席を要する。集中講義期間中に実際の就職活動における会社説明会（選考の条件になるものに限る）や企業選考試験のために欠席する場合は、所定の届を出すことで考慮はするが、公欠とはならないので注意すること。
テキスト参考書	特になし、適宜こちらで用意する。

授業コード	0201～0204	科目名	基礎英語（1）	担当者	安川　佳子

【授業概要】
本授業では、多様な文に触れながら「英文を読む」とはどういうことか、また「読めるようになる」には、どのような基礎能力が必要かを理解すると共に、文章を正確に読めるリーディングスキルを養うことを目標とする。また、題材を通して、リーディングスキルを支える文法の基本的知識を身につけ、併せて語彙力の向上も図る。

【到達目標】
①英語で書かれた文章を、正確に理解できる。
②読み物を通して、文法事項と表現知識、及びボキャブラリーを習得できる。
③自己表現活動を通して、実践的英語力を身に付けることができる。

【授業計画】
【レベル１】
第１回：Orientation　& " Be "Verb（be 動詞）
第２回：" Be "Verb（be 動詞）
第３回：Simple Present Tense（現在形）
第４回：Simple Past Tense（過去形）
第５回：Pronouns（代名詞）
第６回：Prepositions（前置詞）
第７回：Progressive Tenses（進行形）
第８回：Review Check
第９回：Nouns and Articles（名詞と冠詞）
第10回：Modals（助動詞）
第11回：Suggestions and Commands（提案と命令）
第12回：Simple Future Tense（未来形）
第13回：Question Words and Tag Questions（疑問文と付加疑問文）
第14回：Adjectives（形容詞）
第15回：総まとめ

【レベル２】
第１回：Orientation & Marathon Men and Women（be 動詞）
第２回：Healthy Choices（命令文）
第３回：Laughing Matters（現在時制）
第４回：Animation the Japanese Way（過去時制）
第５回：Review Check Ⅰ
第６回：The Statue of Liberty（Wh 疑問文）
第７回：The Taj Mahal and Shah Jahan（可算名詞）
第８回：Universal Design（代名詞）
第９回：Mars One（will /be going to）
第10回：Review Check Ⅱ
第11回：Trees-One of Nature's Wonders（比較）
第12回：Koban at Your Service（接続詞）
第13回：3-D Printers（接続詞）
第14回：Fashion Trends Start Here（関係詞節）
第15回：総まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・教科書、辞書、適宜配布する資料の持参を以って授業出席条件とするので、教材忘れのないようにすること。　・課題が出された際には必ずその予習をして授業に臨むこと。　・授業方法として、主にペアやグループによる様々なタスク（課題）を行う為、積極的な姿勢で取り組むこと。

成績評価方法	授業内活動（受講態度、発表、提出課題等）30%　小テスト20%　定期試験50%
テキスト参考書	【レベル１】"Grammar Plus"（南雲堂）　Andrew E. Bennett/ Toru Komiya（著） 【レベル２】"Reading Steps"（金星堂）　Robert Hickling / Mosato Usukura（著）

授業コード	0207～0210	科目名	基礎英語（2）	担当者	Andrew Logan Martin Stoute

【授業概要】
The listening sections provide regular opportunities for discussion and interaction, with activities to practice global and close listening skills, as well as chances to critically examine the ideas in the text. Speaking is split into three main parts: grammar, punctuation and speaking. This culminates in a final, realistic, productive task that gives students the opportunity to use their new skills in a meaningful exercise. Packaged with an online Digibook access code, along with a digital version of the text, the students also have access to a wealth of information and activities, including audio files, useful language, dictionary definitions, videos and progress checklists.

【到達目標】
By the end of this two-semester course, students will be able to ask for clarification, ask for more information, ask follow-up questions, ask what something is called, talk about prices, use signal words to order information, express likes and dislikes, make and respond to invitations, summarize information, etc.

【授業計画】
Lesson 1 - Lesson 3 Listening for the main idea; Forming plurals; The verb be; Asking for repetition; Plural endings
Lesson 4 - Lesson 6 Listening for details; Organizing words; Possessive adjectives; Asking follow-up questions; Syllables
Lesson 7 - Lesson 9 Activating prior knowledge; Identifying parts of speech in a dictionary; Possessive pronouns; Word stress; Asking what something is called
Lesson 10 - Lesson 12 Listening for numbers; Using synonyms; Demonstrating pronouns; Intonation in questions; Talking about prices
Lesson 13 - Lesson 15 Listening for times; Changing nouns to adjectives; Simple present tense; Sentence stress; Asking for clarification

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
Attendance is very important in this class. If students miss a class, they will be responsible for catching up with work. Also, students will be expected to actively participate in English.

成績評価方法	40% Homework and participation　20% Mid Term exam and tests　40% Final examination
テキスト参考書	Skillful Listening and Speaking: Student Book Foundation (The level of text book used and subject of each lesson is determined by placement test results. If students test higher than CEFR A 1, they will use a higher level textbook from the same series suitable for their level. The content of each lesson will be changed for higher classes.)

授業コード	0213〜0216	科目名	基礎英語（3）	担当者	坂井　純子

【授業概要】
日常的な内容について英語で書いて伝えられるようにするための講座です。そのために必要となる基礎文法の習得に重点をおき、演習問題に取り組みます。

【到達目標】
書くために必要な基本的な文法を身につけ、自信をもって自分の日常生活について書いて伝えることができるようになることを目指します。

【授業計画】

レベル 1
1. 動詞現在
2. 動詞過去
3. 動詞過去 2
4. まとめ
5. 命令文、There is …
6. 注意すべき疑問文
7. 進行形
8. Review Check
9. 未来系
10. 助動詞 1
11. 名詞・冠詞
12. まとめ
13. 代名詞
14. 前置詞
15. 形容詞・副詞

レベル 2
1. 動詞現在
2. 動詞過去
3. 疑問文
4. 否定文
5. 文型と文の要素
6. 進行形
7. 受動態
8. Review Check
9. 助動詞 1
10. 助動詞 2
11. 現在完了
12. 動名詞と to 不定詞
13. to 不定詞
14. 分詞
15. 第 5 文型

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
本当に英語力をつけたいなら、授業以外での復習が欠かせません。ほぼすべての授業で宿題が出されます。

成績評価方法	授業内活動30%、小テスト等20%、期末試験50%
テキスト参考書	レベル 1 ／『Everyday English Grammar <revised edition>』（南雲堂） レベル 2 ／『Laugh and Learn: Back to the Basics』（南雲堂） 補助プリントも用います。

授業コード	0219〜0222	科目名	基礎英語（4）	担当者	安川　佳子

【授業概要】
本授業では、基礎英語（1）での学習をさらに発展させながら、速読や多読にも取り組み、総合的なリーディング力を向上させることを目標とする。また、英文法の基本的知識やボキャブラリーを復習しつつ、様々なタスク活動を通して、自分の考えや思いを的確に表現できる知識・能力を高め、他者との相互コミュニケーションにおいて場面や状況を踏まえた対話が成立するような実践的英語力を養う。

【到達目標】
①英語で書かれた文章を、正確に理解できる。
②題材を通して、文法事項と表現知識、及びボキャブラリーを習得できる。
③自己表現活動を通して、実践的英語力を身に付けることができる。

【授業計画】

【レベル 1】
第 1 回：Orientation & Comparatives（比較）
第 2 回：Comparatives（比較）
第 3 回：Adverbs（副詞）
第 4 回：Infinitives（不定詞）
第 5 回：Gerunds（動名詞）
第 6 回：Conjunctions（接続詞）
第 7 回：Passive Voice（受動態）
第 8 回：Review Check
第 9 回：Word Parts（語形）
第10回：Adjective Clauses（形容詞節）
第11回：Adverb Clauses（副詞節）
第12回：Conditionals（条件節）
第13回：Noun Clauses（名詞節）
第14回：Present Perfect（現在完了形）
第15回：総まとめ

【レベル 2】
第 1 回：Do Animals know Things We Don't know?（前置詞）
第 2 回：Godiva- The Chocolate and the Lady（前置詞）
第 3 回：Aloha Hawaii（不定詞）
第 4 回：Everyone Loves aCircus（現在完了）
第 5 回：Review Check Ⅰ
第 6 回：Text Messaging（too/ enough）
第 7 回：What Type Are You?（句動詞）
第 8 回：Japanese Food Customs（受動態）
第 9 回：Mascot Characters（5 文型）
第10回：Review Check Ⅱ
第11回：Trees-One of Nature's Wonders（比較）
第12回：Koban at Your Service（接続詞）
第13回：3-D Printers（接続詞）
第14回：Fashion Trends Start Here（関係詞節）
第15回：総まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・教科書、辞書、適宜配布する資料の持参を以って授業出席条件とするので、教材忘れのないようにすること。 ・課題が出された際には必ずその予習をして授業に臨むこと。 ・授業方法として、主にペアやグループによる様々なタスク（課題）を行う為、積極的な姿勢で取り組むこと。

成績評価方法	授業内活動（受講態度、提出課題等）30% 小テスト（プレゼンテーション）20% 定期試験50%
テキスト参考書	【レベル 1】"Grammar Plus"（南雲堂） Andrew E. Bennett/ Toru Komiya（著） 【レベル 2】"Reading Steps"（金星堂） Robert Hickling / Mosato Usukura（著）

授業コード	0225～0228	科目名	基礎英語（5）	担当者	Andrew Logan Martin Stoute

【授業概要】
The listening sections provide regular opportunities for discussion and interaction, with activities to practice global and close listening skills, as well as chances to critically examine the ideas in the text. Speaking is split into three main parts: grammar, punctuation and speaking. This culminates in a final, realistic, productive task that gives students the opportunity to use their new skills in a meaningful exercise. Packaged with an online Digibook access code, along with a digital version of the text, the students also have access to a wealth of information and activities, including audio files, useful language, dictionary definitions, videos and progress checklists.

【到達目標】
By the end of this two-semester course, students will be able to ask for clarification, ask for more information, ask follow-up questions, ask what something is called, talk about prices, use signal words to order information, express likes and dislikes, make and respond to invitations, summarize information, etc

【授業計画】

Lesson 1 - Lesson 3	Making inferences; Collocating with go, play, and do; Prepositions of time（in, at, on）; Intonation patterns in reactions; Reacting appropriately
Lesson 4 - Lesson 6	Listening for and following directions; Writing definitions; Can; Linking sounds; Using signal words to order information
Lesson 7 - Lesson 9	Listening to confirm predictions; Recognizing homophones; So and neither; Stress in responses; Expressing likes and dislikes
Lesson 10 - Lesson 12	Listening for reasons; Forming compound nouns; Verb + infinitive; Reduction of have to; Making and responding to invitations
Lesson 13 - Lesson 15	Taking notes while listening; identifying word families; Quantifiers; Reduction of of and after quantifiers; Summarizing information

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
Attendance is very important in this class. If students miss a class, they will be responsible for catching up with work. Also, students will be expected to actively participate in English.

成績評価方法	40% Homework and participation　20% Mid Term exam and tests　40% Final examination
テキスト参考書	Skillful Listening and Speaking: Student Book Foundation（The level of text book used and subject of each lesson is determined by placement test results. If students test higher than CEFR A 1, they will use a higher level textbook from the same series suitable for their level. The content of each lesson will be changed for higher classes.）

授業コード	0231～0234	科目名	基礎英語（6）	担当者	坂井　純子

【授業概要】
基礎英語（3）をより発展させ、自分の語りたいことを英語で正確に書いて伝えられるようにすることを目指す講座です。そのために必要となる基礎文法を演習問題を通して学びます。

【到達目標】
書く上で必要となる基本文法を身につけ、さらに幅のある表現で、自信をもって自分の語りたい内容について書いて伝えることができるようになることを目指します。

【授業計画】
レベル 1
1. 動詞（応用）
2. 進行形・未来形・助動詞（応用）
3. 名詞・冠詞・代名詞（応用）
4. 前置詞・接続詞 I（応用）
5. 形容詞・副詞と比較
6. 不定詞（応用）
7. 動名詞と分詞（応用）
8. Review Check
9. 各種疑問文・It の特別用法
10. 受動態
11. 完了形
12. 接続詞 II
13. 基本文型
14. 仮定法
15. 関係代名詞

レベル 2
1. 名詞／種類と働き
2. 代名詞
3. 代名詞／ It の特別用法
4. 疑問詞
5. 語彙／語の構造
6. 形容詞
7. 副詞
8. Review Check
9. 動詞の分類と特徴
10. パラグラフ／段落構成のしくみ
11. 関係詞
12. 場所などの前置詞
13. 時などの前置詞
14. 接続詞
15. 法の助動詞

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
本当に英語力をつけたいなら、授業以外での復習が欠かせません。ほぼすべての授業で宿題が出されます。

成績評価方法	授業内活動30%、小テスト等20%、期末試験50%
テキスト参考書	レベル 1 ／『Primer for English Writing』（南雲堂）　レベル 2 ／『Fundamental English for College Students: Parts of Speech』（南雲堂）　補助プリントも用います。

授業コード	0237 0238	科目名	基礎中国語（1）	担当者	田中　智子

【授業概要】
日本人教員とともに中国語の基礎知識（文字、文法、発音）を学びます。前半は他の中国語の授業と同様に、特に発音と発音表記の読み方の習得に重点を置きます。後半は、前半の内容に加え、基本的な文法事項を学びながら、読解力の基礎を身につけます。教科書は、本文の内容を説明し、練習問題を通じて、文法や表現方法の習得を目指します。本文の重要表現は暗唱します。

【到達目標】
（1）ピンイン表記が正しく読める。
（2）簡単な日常会話の表現や基本的文法事項がわかる。

【授業計画】
第1回　　オリエンテーション、あいさつ
第2回～5回　ピンイン（ローマ字表記）、基本的なあいさつ
第6回　　「AはBである」、形容詞述語文
第7回　　疑問文、「～がある、いる」
第8回　　疑問詞疑問文
第9回　　年齢を聞く聞き方
第10回　　時間、曜日
第11回　　場所を表す言い方
第12回　　所有を表す言い方、選択疑問文
第13回　　動詞の重ね形、「～したい」
第14回　　提案の表現、二重目的語
第15回　　およその数を表す表現
※適宜 DVD やパワーポイントを用いて、本文の内容や新出単語に関連する映像や画像を紹介します。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
教科書本文は、音声教材を使ってなんども朗読の練習をし、暗記してください。1日に30分は練習しましょう。

成績評価方法	定期試験60%、受講態度20%、暗唱テスト10%、自主学習10%による評価をします。
テキスト参考書	『漢語口語速成　入門編　上』（北京語言大学出版社第2版）

授業コード	0239 0240	科目名	基礎中国語（2）	担当者	戴智軻 劉争

【授業概要】
中国語の入門基礎をネイティブ教員と一緒に学びます。

【到達目標】
ピンイン、四声、簡体字の三要素を単語ごとに書く、読む、聞くことができる。
名詞、形容詞、動詞など中国語単語の種類分けを理解し、品詞を判別できる。
単語と基礎文法に沿った文を作ることができる。
中国語で簡単な質問と回答ができる。

【授業計画】
第1講目　　イントロダクション
第2～6講目　教科書の課ごとに学習、特にピンインと四声を重点におきます。
第7～14講目　教科書の課ごとに単語、文法を学習。質問と回答の練習も行います。
第15講目　　総合復習
受講者の習得速度によってスケジュールを調節する場合があります。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
単語を暗記するよう毎回の復習をしてください。単語帳を用意してください。
各課の単語を手書きで一回以上書いてください。（書く順番はまずピンインと四声を書く、次に簡体字をピンインの下に書く、最後に日本語の意味を簡体字の横に書く。）すべて書き揃って「一回」とします。書きながら必ず声を出して単語の発音してください。

成績評価方法	定期試験60%、受講態度20%、小テスト10%、自主学習10%による評価をします。
テキスト参考書	『漢語口語速成上　入門編』（北京語言大学出版社第2版）

授業コード	0241 0242	科目名	基礎中国語（3）	担当者	田中　智子

【授業概要】
日本人教員とともに中国語の基礎知識（文字、文法、発音）を学びます。前半は、特に発音と発音表記の読み方の習得に重点を置きます。また、文字については日本語と同じ漢字を使っていますが、中には日本の字とは異なる場合もあります。そのような違いに注意しながら、中国語の漢字を学びます。後半は、前半の内容に加え、基本的な文法事項を学びながら、やさしい作文や日本語から中国語への簡単な翻訳ができるように練習します。

【到達目標】
（1）基本単語の漢字表記やピンイン表記がわかる。
（2）簡単な日常会話に使える表現ができる。

【授業計画】
第1回　　オリエンテーション、あいさつ
第2回～5回　ピンイン（ローマ字表記）、基本的なあいさつ
第6回　　「AはBである」、形容詞述語文
第7回　　疑問文、「～がある、いる」
第8回　　疑問詞疑問文
第9回　　年齢を聞く聞き方
第10回　　時間、曜日
第11回　　場所を表す言い方
第12回　　所有を表す言い方、選択疑問文
第13回　　動詞の重ね形、「～したい」
第14回　　提案の表現、二重目的語
第15回　　およその数を表す表現
※適宜パワーポイントを使ってわかりやすく文法を説明します。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回小テストを行います。何度も書いて、ピンイン表記と漢字を覚えてください。1日に30分から1時間程度の勉強が必要です。

成績評価方法	定期試験60%、受講態度20%、小テスト10%、自主学習10%による評価をします。
テキスト参考書	『漢語口語速成上　入門編』（北京語言大学出版社第2版）及び講師が用意する補充プリント

授業コード	0243 0244	科目名	基礎中国語（4）	担当者	田中　智子

【授業概要】
日本人教員とともに中国語の基礎知識（文字、文法、発音）を引き続き学びます。短い文章も読んでいきます。文構造を意識し、中国語の文章を正しく理解することを目指します。

【到達目標】
（1）正確な発音で、朗読ができるようになる。
（2）ある程度のまとまったストーリーが読んで理解できるようになる。
（3）HSK（国際的な中国語能力検定試験）2級に合格できるレベルの基本的な語彙、表現、文法事項を身につける。

【授業計画】
第1回　動作の進行を表す文
第2回　「～しました」「～したらすぐに…」
第3回　「もうすぐ～します」
第4回　程度補語、「～できる」
第5回　時間の長さを表す表現
第6回　経験を表す表現、HSK 対策
第7回　動作の持続を表す表現、HSK 対策
第8回　結果補語、HSK 対策
第9回　方向補語、HSK 対策
第10回　可能補語
第11回　比較の文
第12回　処置文（1）
第13回　処置文（2）
第14回　受身の文
第15回　意味上の受身の文

※12月上旬に HSK 2級（既習者以外）を受験します。5000円程度の受験料が必要です。
※適宜パワーポイントを使ってわかりやすく文法を説明します。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
学ぶべき単語や表現、文法事項の量が増えます。授業のあとは必ず復習をして覚えるようにしてください。本文もなんども朗読しましょう。毎日30分から1時間の復習の時間が必要です。

成績評価方法	定期試験60%、受講態度20%、小テスト10%、自主学習10%による評価をします。
テキスト参考書	『漢語口語速成　入門編　下』（北京語言大学出版社第2版）及び講師が用意する補充プリント

授業コード	0245 0246	科目名	基礎中国語（5）	担当者	戴　智軻 劉　争

【授業概要】
中国語の入門基礎をネイティブ教員と一緒に学びます。

【到達目標】
中国語で簡単な依頼と説明ができる。
中国語で簡単な日記が書ける。
中国語で簡単な文章が読める。
自分が理解した中国語文法を中国語例文と母国語で解説できる。

【授業計画】
第１講目　　イントロダクション
第２～６講目　教科書の課ごとに学習、特にピンインと四声を重点におきます
第７～14講目　教科書の課ごとに単語、文法を学習。質問と回答の練習も行います。
第15講目　　総合復習
受講者の習得速度によってスケジュールを調節する場合があります。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
単語を暗記するよう毎回の復習をしてください。単語帳を用意してください。
各課の単語を手書きで一回以上書いてください。（書く順番はまずピンインと四声を書く、次に簡体字をピンインの下に書く、最後に日本語の意味を簡体字の横に書く）すべて書き揃って「一回」書いたとします。書きながら必ず声を出して単語の発音してください。

成績評価方法	定期試験60%、受講態度20%、小テスト10%、自主学習10%による評価をします。
テキスト参考書	『漢語口語速成下　入門編』（北京語言大学出版社第２版）

授業コード	0247 0248	科目名	基礎中国語（6）	担当者	田中　智子

【授業概要】
日本人教員とともに中国語の基礎知識（文字、文法、発音）を引き続き学びます。文構造を正しく把握することを目指し、練習します。

【到達目標】
（1）日記や自己紹介のような簡単な文章が書けるようになる。
（2）HSK（国際的な中国語能力検定試験）２級に合格できるレベルの基本的な語彙、表現、文法事項を身につける。

【授業計画】
第１回　動作の進行を表す文
第２回　「～しました」「～したらすぐに…」
第３回　「もうすぐ～します」
第４回　程度補語、「～できる」
第５回　時間の長さを表す表現
第６回　経験を表す表現、HSK 対策
第７回　動作の持続を表す表現、HSK 対策
第８回　結果補語、HSK 対策
第９回　方向補語、HSK 対策
第10回　可能補語
第11回　比較の文
第12回　処置文（１）
第13回　処置文（２）
第14回　受身の文
第15回　意味上の受身の文
※12月上旬に HSK ２級（既習者以外）を受験します。5000円程度の受験料が必要です。
※適宜パワーポイントを使ってわかりやすく文法を説明します。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回小テストを行います。何度も書いて、ピンイン表記と漢字を覚えてください。１日に30分から１時間程度の勉強が必要です。

成績評価方法	定期試験60%、受講態度20%、小テスト10%、自主学習10%による評価をします。
テキスト参考書	『漢語口語速成　入門編　下』（北京語言大学出版社第２版）及び講師が用意する補充プリント

授業コード	0249 0250	科目名	基礎日本語（1）	担当者	松　本　　亮

【授業概要】
大学生活に必要な日本語の知識を身につけるために、四技能（読む、聴く、書く、話す）を総合的に用いて日本語を勉強していきます。そのうち主に読解能力と論理的思考に重点をおきます。

【到達目標】
①テーマに従い自ら調べ、まとめることができる
②文章やデータを適切に読み、理解し、自分の意見を述べることができる
③日本語で論理的に発表できる

【授業計画】
第１回　　イントロダクションと自己紹介
第２回～８回　食文化について（資料の読解、アンケート、ディスカッション、発表をゆっくり時間をかけながら）
第９回～11回　仕事について
第12回～14回　生活習慣と宗教について
第15回　　まとめ
（講義の順序、内容は受講生の日本語力に応じて変わることがあります。）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
辞書を必ず用意してください。読解は＂読む＂作業が必要です。読むことを楽しんでください。

成績評価方法	小テスト、授業への取り組み、提出してもらうリサーチ原稿、および期末試験から総合的に評価します。おおよその目安として、①小テスト20%、②授業への積極的取り組みおよび発表内容50%、③期末試験30%を考えています。
テキスト参考書	『トピックによる日本語総合演習～テーマ探しから発表へ～上級（改訂版）』スリーエーネットワーク（2010）

授業コード	0251 0252	科目名	基礎日本語（2）	担当者	富　田　　愛　佳

【授業概要】
大学生活に必要な日本語の知識を身につけるために、四技能（読む、聴く、書く、話す）を総合的に用いて日本語を勉強していきます。

【到達目標】
大学の授業に対応できる日本語力を身につけることです。（2）では、講義を聴いてしっかりと理解できる、あるいはわかりやすく明快に自分の意見を書けるようになることを目標とします。

【授業計画】
第１回　　オリエンテーション , 聴解（1）
第２回～３回　レポートに使われる文体
第４回　　聴解（2）
第５回～６回　文の基本
第７回　　聴解（3）
第８回～９回　段落を作る
第10回　　聴解（4）
第11回～12回　要約
第13回～14回　意見文
第15回　　まとめ・意見文予備日
（講義の順序、内容は受講生の日本語力に応じて変わることがあります。）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
辞書を必ず用意してください。

成績評価方法	小テスト、授業への取り組み、授業中の課題および期末作文から総合的に評価します。
テキスト参考書	毎回配布する資料を使用します。

授業コード	0253 0254	科目名	基礎日本語（3）	担当者	蝦名　大助

【授業概要】
大学生活に必要な日本語の知識を身につけるために、四技能（読む、聴く、書く、話す）を総合的に用いて日本語を勉強していきます。この授業では実践的な日本語に重きをおきます。

【到達目標】
履修や各種の事務手続きなど大学生活のルールを知り、それに対応できるようになる。
さまざまな授業に対応できる日本語力を身につける。
日本社会に関する知識を身につける。

【授業計画】
第１回～２回　大学生活の基礎知識
第３回～４回　大学の講義（１）
第５回～６回　大学の講義（２）
第７回～８回　さまざまな情報の理解
第９回～10回　レポートの書き方
第11回～12回　大学の講義（３）
第13回～14回　調査・発表の仕方（１）
第15回　まとめ
（講義の順序、内容は受講生の日本語力に応じて変わることがあります。）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
辞書を必ず用意してください。

成績評価方法	小テスト、授業への取り組み、および期末試験から総合的に評価します。
テキスト参考書	特になし。プリントを配布します。

授業コード	0255 0256	科目名	基礎日本語（4）	担当者	松本　亮

【授業概要】
大学生活に必要な日本語の知識を身につけるために、四技能（読む、聴く、書く、話す）を総合的に用いて日本語を勉強していきます。そのうち主に読解能力と論理的思考に重点をおきます。

【到達目標】
①テーマに従い自ら調べ、まとめることができる
②文章やデータを適切に読み、理解し、自分の意見を述べることができる
③聞き取りやすい日本語で論理的に話ができる

【授業計画】
第１回　イントロダクション
第２回～４回　リサイクルについて
第５回～８回　スピーチ原稿の作成・スピーチの練習
第９回　スピーチ大会
第10回～12回　ジェンダーについて
第13回　ディスカッション
第14回　いろいろな種類の文章を読む
第15回　まとめ
（講義の順序、内容は受講生の日本語力に応じて変わることがあります。）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
辞書を必ず用意してください。読解は“読む”作業が必要です。読むことを楽しんでください。

成績評価方法	小テスト、授業への取り組み、スピーチ、および期末試験から総合的に評価します。おおよその目安として、①小テスト20%、②授業への積極的取り組やスピーチ内容50%、③期末試験30%を考えています。
テキスト参考書	『トピックによる日本語総合演習～テーマ探しから発表へ～上級（改訂版）』スリーエーネットワーク（2010）

授業コード	0257 0258	科目名	基礎日本語（5）	担当者	富田　愛佳

【授業概要】
大学生活に必要な日本語の知識を身につけるために、四技能（読む、聴く、書く、話す）を総合的に用いて日本語を勉強していきます。

【到達目標】
大学の授業に対応できる日本語力を身につけることです。（5）では、講義を理解したり、明快に自分の意見を書ける力から一歩進んで、抽象的な話を整理しながら聴いたり、レポートが書けるようになることを目標とします。

【授業計画】
第１回　　オリエンテーション , 分類の表現
第２回　　聴解（１）
第３回　　定義・割合の表現
第４回　　変化・経緯の表現
第５回　　聴解（２）
第６回　　比較の表現
第７回　　因果関係の表現
第８回　　聴解（３）
第９回　　引用の方法
第10回　　聴解（４）
第11回～12回　レポートの構成・内容
第13回～14回　レポート執筆・修正
第15回　　まとめ
（講義の順序、内容は受講生の日本語力に応じて変わることがあります。）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
辞書を必ず用意してください。

成績評価方法	小テスト、授業への取り組み、授業中の課題および期末作文から総合的に評価します。
テキスト参考書	毎回配布する資料を使用します。

授業コード	0259 0260	科目名	基礎日本語（6）	担当者	蝦名　大助

【授業概要】
大学生活に必要な日本語の知識を身につけるために、四技能（読む、聴く、書く、話す）を総合的に用いて日本語を勉強していきます。この授業では実践的な日本語に重きをおきます。

【到達目標】
履修や各種の事務手続きなど大学生活のルールを知り、それに対応できるようになる。
さまざまな授業に対応できる日本語力を身につける。
日本社会に関する知識を身につける。

【授業計画】
第１回　　イントロダクション
第２回～３回　大学の講義（４）
第４回～５回　大学の行事
第６回～７回　日本の文化（１）
第８回～９回　調査・発表の仕方（２）
第10回～11回　日本の文化（２）
第12回～13回　調査・発表の仕方（３）
第14回　　日本の文化（３）
第15回　　まとめ
（講義の順序、内容は受講生の日本語力に応じて変わることがあります。）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
辞書を必ず用意してください。

成績評価方法	小テスト、授業への取り組み、および期末試験から総合的に評価します。
テキスト参考書	特になし。プリントを配布します。

授業コード	0265 0266	科目名	ハングル・コリア文化（1） 小旅行気分でハングルを・・・	担当者	朴　基栄

【授業概要】
ハングル独特のきれいな発音で、できるだけ沢山会話をしましょう。

【到達目標】
①文字、特に終声をきれいに発音出来る。
②韓国の生活文化に直接ふれることが出来る。

【授業計画】
第１回～第３回　まず一緒に理解しましょう。ハングル文字はブロックを組み立てたようなもの。
　　自分の名前をハングルに置き換えましょう。星座や干支から学びましょう。
第４回～第６回　ハングル文字の子音・母音・終音を理解し、反切表を見ながら少しずつ文字を読みましょう。
第７回～第10回　耳で聞いてカタカナで書き取っても会話はできるものです。
　　小旅行のつもりで、おもいっきり声に出してみましょう。
第11回～第13回　お手軽韓国料理を作りましょう。民族楽器にふれて韓国語の歌も覚えましょう。
第14回　総復習
第15回　試験

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
テキストを使わないので、毎回のノート、プリントをきちんと整理しておくよう心掛けましょう。

成績評価方法	７対３の割合で評価します。⑦→（受講態度、ノート整理のチェック、ミニテスト、時間毎の会話復習、各課題提出）③→（前期テスト）
テキスト参考書	使用しません。

授業コード	0267 0268	科目名	ハングル・コリア文化（2）	担当者	朴　基栄

【授業概要】
数々の会話文にふれ、文章を自由に組み立てられるようにしましょう。

【到達目標】
①自由に文章を組み立て、会話に生かすことが出来る。
②韓国の生活文化に直接ふれることが出来る。

【授業計画】
第１回～第５回　前期の復習をしながら、美しいハングルの詩の朗読に挑戦し、文法も学びましょう。
第６回～第10回　ハングルの発音現象、文の組み立て方を会話文から理解しましょう。
第11回　韓国の詩や古典小説＜沈清伝＞から日本語の文法の共通点を探しましょう。
第12回～第13回　お手軽韓国料理を作ったり民族楽器に触れたりしましょう。
第14回　総復習
第15回　試験

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
テキストを使わないので、毎回のノート、プリントをきちんと整理しておくよう心掛けましょう。

成績評価方法	７対３の割合で評価します。⑦→（受講態度、ノート整理のチェック、ミニテスト、時間毎の会話復習、各課題提出）③→（後期テスト）
テキスト参考書	使用しません。

授業コード	0269	科目名	キャリアガイダンスⅠ 就業力を身につける	担当者	小野田　金司 櫻井　一成

【授業概要】
観光サービス産業で働く力、働き続ける力＝就業力を身につける科目です。内容は、大きく３つに分かれてます。
1．合宿（ルーキージャム）
　野外研修や体験型プログラムを実施しながら、社会で必要なチームワーク、コミュニケーション能力を磨きます。２泊３日で楽しい研修です。上級生や専門指導員が指導します。
2．イベントの実践
　日本最大のチャリティロックフェス「COMIN'KOBE15」の運営ボランティアに参加し、イベント業務、ボランティアを実践しながらスキルを身につけます。厳しいですが、仲間と達成感が共有でき、就職活動に役立ちます。
3．自己管理能力を身につける。上級生や専門家が指導します。
　学生生活・社会生活上最も大切なことは、心と体の体調管理（自己管理）です。体の仕組みと働きについて学びながら、疾患に対する基本的な医学的知識を習得し、健康・保健に対する自己意識を向上させることを主目的としています。

【到達目標】
1．合宿を通じて社会人基礎力として重要視されるコミュニケーション力やチームワーク力を高める。
2．イベントの実践を通じて神戸における震災の意味を理解し、音楽フェスにおける業務の内容と来場者や出演者、スタッフへのホスピタリティの重要性を認識する
3．学生生活や社会活動の基本となる「心と体の健康管理」の重要性について認識させ、職業人として必要とされる健康保持についてのモチベーションを高める。

【授業計画】
本学 WEB サイト参照のこと

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
本講は必修科目です。遅刻は厳禁、３回で欠席扱い。授業中の私語、スマホは厳禁、授業妨害とみなし退場してもらいます。
欠席が６回で再履修となります。
ルーキージャムの参加費用が必要です（別途案内）
COMIN'KOBE15への交通費が必要となります。日程がイレギュラーですから注意してください。
準備学習　必要な資料等は授業で配布する。それを事前に予習するとともに WEB 等で情報を深めておくことが望ましい。
復習　講義で配布する資料や小テストの問題を繰り返して復習することにより理解が深まる。

成績評価方法	全回を通じて受講態度（20%）を評点に加える。　第１回～10回は実践授業理解度（50%）と貢献度（30%） 第11回～15回は講義内容の理解度判定（80%）＋出欠調査を兼ねた小テストを毎回施行し評価する。
テキスト参考書	特になし。適宜プリント配布。

授業コード	0270	科目名	キャリアガイダンスⅡ 就業力を身につける	担当者	小野田　金司 櫻井　一成

【授業概要】
観光サービス産業で働く力、働き続ける力＝就業力を身につける科目です。内容は、大きく３つに分かれてます。
1．就業力の必要性を理解する
　企業（観光サービス産業）が求める人材要件､社会人基礎力やマナーなど｡卒業生や専門家をゲストに指導する機会もある予定です。
2．イベントの実践
　神戸ルミナリエや大学祭などの運営ボランティアに参加し、イベント業務、ボランティアを実践しながらスキルを身につけます。社会貢献地域貢献を実践します。
3．旅行医学（トラベルヘルス）
　旅行時における健康上のリスクについて知り、そのリスクを最小限に止める方法を学習します。また、「環境変化」や「感染症」に関する学習は、観光産業のみならず高齢者・障がい者介護等の分野に役立ちます。

【到達目標】
1．企業側の視点で、求められる人材要件を理解し、基礎的なマナースキルを身につける。
2．前期に引き続き、イベントの実践を通じて神戸における震災の意味を理解し、イベントにおける業務内容と来場者や出演者、スタッフへのホスピタリティの重要性を認識する。
3．「トラベルヘルス」に関する理解を深め、旅行者の緊急時に適切な対処できる人材を目指す。また、健康管理を重視した職業意識を高める。

【授業計画】
本学 WEB サイト参照のこと

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
本講は必修科目です。遅刻は厳禁、３回で欠席扱い。授業中の私語、スマホは厳禁、授業妨害とみなし退場してもらいます。
欠席が６回で再履修となります。
神戸ルミナリエの交通費が必要です。
準備学習
必要な資料等は授業で配布する。それを事前に予習するとともに WEB 等で情報を深めておくことが望ましい。
復習
講義で配布する資料や小テストの問題を繰り返して復習することにより理解が深まる。

成績評価方法	全回を通じて受講態度（20%）を評点に加える。　第１回～５回､11回～15回は実践授業理解度（50%）と貢献度（30%）　第６回～10回は講義内容の理解度判定（80%）＋出欠調査を兼ねた小テストを毎回施行し評価する。
テキスト参考書	特になし。適宜プリント配布。

授業コード	0271 0272	科目名	インターンシップA、B 短期企業実習	担当者	山本　健 小野田　金司

【授業概要】
①観光業界を対象とした企業・団体などでの実習します。　②実習参加に必要なビジネスマナー、企業研究など事前研修を実施します。　③実習後は事後学習として実習成果発表を行います。

【到達目標】
①企業・団体などで働くうえでの基本的なビジネスマナーの習得。　②実習を通して社会人としてのコミュニケーション能力を養成する。　③進路選択を具体的に考えるための業界、企業研究方法の習得

【授業計画】
「事前学習」「企業実習」「事後学習（成果発表）」が履修に際しての必須要件です。
どれも省くことはできません。
履修は、前・後期それぞれ各１回受け付けます。

【単元】
①事前学習　８時間
　ビジネスマナー、企業研究などを外部講師、専門講師、OB などを招聘し実施予定
②企業実習　80時間（例：一日８時間×10日）
　要件は「実習時間」で期間ではない
③事後学習　８時間
　実習日誌・報告書などの作成、成果発表（パワーポイントでのプレゼンテーション）

【スケジュール】　※以下の日程は目安
●前期
①ガイダンス：４、５月（２回）
②事前学習　：６、７月（２回）
③学内面談　：６～７月
④実習先決定：７月（夏季休業期間）
⑤企業実習　：８～９月
⑥事後学習　：10月
●後期
①ガイダンス：10月
②事前学習　：11､12月（２回）
③学内面談　：11～12月
④実習先決定：12月
⑤企業実習　：12～１月、２月～３月（冬期または、春期休業期間）
⑥事後学習　：５月
※単位認定　：事後学習を実施した学期

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
インターンシップを通じて、ビジネスマナーの習得や、企業での実践的な就業体験をすることは、現実的な業界・企業研究ができ、その後の就職活動に大いに役立ちます。ふるって履修してください。

成績評価方法	①事前・事後学習での受講態度　（10%）　②実習中の日誌、報告書　（20%）　③受入企業からの実習態度に対する評価　（20%）　④事後学習成果発表時のプレゼンテーション　（50%）　以上４点を総合して成績評価します。
テキスト参考書	講義時に適宜配布

授業コード	0273	科目名	資格英語（1）	担当者	坂井　純子

【授業概要】
各種資格試験を受けるため基礎となる英文法と、多くの学生にとって苦手ポイントであるリーディングを集中的に鍛えます。

【到達目標】
１．英語の基本文法をきちんと習得する
２．学習した文法知識を使いながら英文を読むことができるようになる

【授業計画】
１．動詞、否定文
２．疑問文、助動詞
３．第１～４文型
４．進行形、受動態
５．第５文型
６．第５文型
７．完了形
８．動名詞
９．不定詞１
10．不定詞２
11．分詞
12．名詞節と副詞節
13．分詞構文
14．関係代名詞
15．関係副詞

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
本当に英語力をつけたいなら、授業以外での復習が欠かせません。それほど多くはありませんが、ほとんどすべての授業で宿題が出されます。宿題がなされていることを前提に授業が進みますので、ご注意ください。

成績評価方法	予復習を含む授業での活動状況（60%）、期末試験（40%）
テキスト参考書	『大学基礎英文法＆リーディング：First Voyage – From Grammar to Reading』（南雲堂）

授業コード	0274	科目名	資格英語（2）	担当者	坂井　純子

【授業概要】
各種資格試験を受けるために必要となる英文法を復習しながら、多くの学生にとって苦手ポイントであるリーディング演習をたくさん行うことで集中的に鍛えます。

【到達目標】
1．英語の基本文法の知識を完全なものとする
2．学習した文法知識を使いながら多様な英文を、楽しく自信をもって読むことができるようになる

【授業計画】
1．Chapter 1
2．Chapter 2
3．Chapter 3，4
4．Chapter 5，6
5．Chapter 7，8
6．Chapter 9
7．Chapter 10
8．Chapter 11
9．Chapter 12
10．Chapter 13
11．Chapter 14
12．Chapter 15
13．Chapter 16
14．Chapter 17
15．Chapter 18

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
本当に英語力をつけたいなら、授業以外での復習が欠かせません。ほとんどすべての授業で宿題が出されます。宿題がなされていることを前提に授業が進みますので、ご注意ください。

成績評価方法	予復習を含む授業での活動状況（60%）、期末試験（40%）
テキスト参考書	『Let's Enjoy English（大学生のための総合英語）』（南雲堂）

授業コード	1001	科目名	現代社会概論	担当者	山本　賢治

【授業概要】
21世紀が直面する現代社会の諸問題について社会学的考察を中心に検討し、あわせて現代社会学部の学びの内容について概観する。

【到達目標】
①現代社会学部とはどんなことを学ぶ学部であるかを理解する。
②現代社会が抱える問題の核心をえぐり出す方法を身につける。
③社会学の面白さを感じる。

【授業計画】
第１回　現代社会はどこに向かうか
第２回　社会学の方法
第３回　グローバル化
第４回　都市化と地域社会
第５回　格差社会
第６回　少子高齢社会
第７回　福祉国家
第８回　リスク社会
第９回　消費社会
第10回　現代人の社会心理
第11回　観光の時代
第12回　環境社会学
第13回　神戸の歴史と観光空間
第14回　教育と職業
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
新聞をよく読むこと。
何事にも知的好奇心を持つこと。
テキストの予習復習。

成績評価方法	授業の理解度を試験を中心に評価する。授業への参加姿勢も考慮する。
テキスト参考書	友枝敏雄・山田真茂留編　『Do！ソシオロジー』　改訂版　有斐閣

授業コード	1002 2001	科目名	社会学入門　社会学	担当者	永井　純一

【授業概要】
社会学についての基礎的な知識や概念および社会学的思考を身につける。

【到達目標】
社会学とは「社会」を対象とする学問である。その社会とは端的にいって人の集まりであり、その営みや文化、制度など社会学の研究領域は多岐に及んでいる。事の大小はあれども、わたしたちの社会生活すべてが対象であるといっても過言ではないだろう。
本講義はそうした社会学の入門編と位置づけ、具体例として身近な問題をとりあげながら社会学の基礎的な知識や概念を身につけ、わたしたちの生活の諸相を考えるための新たな視点を獲得し、論理的な思考能力を養うことを目的とする。

【授業計画】
1．導入
2．親密性と公共性
3．相互行為と自己
4．社会秩序と権力
5．組織とネットワーク
6．メディアとコミュニケーション
7．歴史と記憶
8．空間と場所
9．環境と技術
10．医療・福祉と自己決定
11．国家とグローバリゼーション
12．家族とライフコース
13．ジェンダーとセクシュアリティ
14．文化と再生産
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業の前にテキストを必ず読んで予習しておくこと。

成績評価方法	小レポート、期末レポートにより総合的に評価する。
テキスト参考書	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』（有斐閣、2007）

授業コード	1003 2002	科目名	心理学入門　心理学	担当者	村上　幸史

【授業概要】
現代は「こころ」の時代と言われます。「こころ」とは何を指すのでしょうか。人間だけが 「こころ」を持つのでしょうか。どうやったら「こころ」を理解することができるでしょうか。
授業では心理学ではどのように「こころ」をとらえようとしてきたのか、そのとらえ方自体を考えていくための授業にします。

【到達目標】
一般的な「心理」と、心理学の違いを理解すること

【授業計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　心理学の歴史
第３回　自己概念と対人認知
第４回　子どもの認知と発達理論
第５回　青年期の心理的特徴
第６回　知能を測定する
第７回　性格とパーソナリティの理論
第８回　性格検査とその特徴
第９回　動機づけとやる気の心理
第10回　感情・情動
第11回　はまることと学習原理
第12回　記憶
第13回　思考と推論の特徴
第14回　コミュニケーション
第15回　まとめ

授業内容は講義を中心に、簡単な実験やビデオなども交えて進めていきます。
進行進度により、一部講義内容を変更する場合があります。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義で説明したことを、自分の考えでまとめたり、他者に説明できることを目指してください

成績評価方法	授業中の課題／受講態度／試験により評価します。
テキスト参考書	授業の中で紹介する予定です。

授業コード	1004 3013	科目名	経済・経営学入門　経済学	担当者	佐　藤　　光

【授業概要】
世界と日本の現実的な経済問題を解説しながら、経済・経営学の学習に向けての道案内をする。

【到達目標】
現実経済と経済・経営学への関心を高める。

【授業計画】
1．「経済」ってなんだろう
2．いろいろな経済
3．いろいろな経済学
4．いろいろな経済問題
5．世界の経済問題①－頻発する金融危機
6．世界の経済問題②－新興国の現状
7．世界の経済問題③－地球環境問題と天然資源
8．日本の経済問題①－高度経済成長の終わり
9．日本の経済問題②－正社員と派遣社員の二重構造
10．日本の経済問題③－安売り競争＝デフレからの脱却
11．日本の経済問題④－財政赤字と高齢化社会
12．日本の経済問題⑤－原発か再生エネルギーか
13．日本の経済問題⑥－アベノミクスと消費税
14．日本経済の未来
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
熱心にノートをとり、積極的に質問すること。

成績評価方法	平常点と期末試験による。
テキスト参考書	テキストは使用しないが、必要に応じて、プリントを配布し参考文献を紹介する。

授業コード	1005	科目名	観光学入門 國の光を観る	担当者	山崎　正雄

【授業概要】
「観光」とは何か。近代に発生した社会現象としての観光の意義について考える。
観光の歴史（マスツーリズムから持続可能な観光）を概観し、大いなる経済的波及効果が期待される新たな観光のパワーを検証する。

【到達目標】
観光の意義を理解する。
観光学全体に関する基礎知識を習得する。

【授業計画】
第１回　　オリエンテーション
第２回　　観光学で何を学ぶのか？　国家試験科目について
第３回　　観光の歴史
第４回　　観光資源とは？
第５回　　観光関連事業と経済波及効果
第６回　　観光立国基本法のめざすもの　　観光の現代的意義
第７回　　観光と地域振興　着地型観光　訪日観光
第８回　　神戸と観光
第９回－10回　各自神戸の観光情報収集と観光プラン作成とプレゼンに挑戦
第11回－12回　国際観光（海外旅行）について
第13回　　世界遺産について
第14回　　海外観光旅行について
第15回　　試験
＊講義の順序、内容は多少変更する場合があります。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
20分以上の遅刻は欠席扱い。但し受講は可。

成績評価方法	授業への積極的参加、発表、試験等により判断する。
テキスト参考書	観光白書データ等、都度資料を配布します。

授業コード	1006	科目名	環境学入門 環境の学び方	担当者	井上　尚之

【授業概要】
環境学は広範囲の知識が必要な学問です。ここでは歴史・技術・マネジメントを中心に学習します。

【到達目標】
環境学としての歴史・技術・マネジメントをプレゼンできるまでの力を養うことを目指す。

【授業計画】
第１回　環境問題をめぐる世界と日本の現状
第２回　環境問題はいつごろから発生したのか？ギリシャ・ローマ編
第３回　環境問題はいつごろから発生したのか？イスラム編
第４回　環境問題はいつごろから発生したのか？中世ヨーロッパ編
第５回　環境問題はいつごろから発生したのか？イギリス編
第６回　環境問題はいつごろから発生したのか？アメリカ編
第７回　環境問題はいつごろから発生したのか？日本編
第８回　環境問題はいつごろから発生したのか？中国編
第９回　環境問題はいつごろから発生したのか？クリーンエネルギーをめぐる世界と日本
第10回　環境問題はいつごろから発生したのか？地球温暖化
第11回　環境問題はいつごろから発生したのか？持続可能な発展とはなにか
第12回　環境問題はいつごろから発生したのか？ ISO14001の登場
第13回　環境問題はいつごろから発生したのか？ ISO14001の PDCA サイクルとはなにか
第14回　環境問題はいつごろから発生したのか？ ISO14001の規格
第15回　環境問題はいつごろから発生したのか？ ISO14001の著しい環境側面

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習：教科書の授業範囲を読む。
復習：その日の授業の板書を整理する。

成績評価方法	積極的授業参加度・発表45％、試験55％
テキスト参考書	テキスト：井上尚之著『環境学－歴史・技術・マネジメント』（2011、関西学院大学出版会）

授業コード	1007	科目名	建築・インテリア入門	担当者	田中　栄治

【授業概要】
建築・インテリアを学ぶ上で必要となる幅広い分野のうち、特に建築の歴史・計画・技術・都市・景観・環境などの分野についての基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
建築・インテリアの各分野について概要を把握し、建築・インテリアフィールドの修学計画の指針を得る。

【授業計画】
建築の歴史・計画・技術・都市・景観・環境などの分野について概説を行うとともに、神戸の建築・まちのフィールドワークを通して建築・インテリアの基礎知識について実感を持って学ぶ。
第１回　　建築・インテリアとは　－建築ができるまでのプロセスを通して－
第２回　　建築学の領域と建築・インテリアの仕事
第３～４回　建築の歴史（日本と西洋）
第５回　　フィールドワーク１（神戸の歴史的建築：神戸旧居留地など）
第６～７回　建築の計画と設計
第８回　　フィールドワーク２（建築の計画的視点：神戸山手大学３号館など）
第９回　　建築の技術（建築材料と構法）
第10回　　建築と都市・景観
第11回　　フィールドワーク３（伝統的建造物群保存地区・都市景観形成地域：北野町異人館など）
第12回　　建築と環境
第13回　　フィールドワーク４（環境建築：神戸税関など）
第14回　　建築・インテリアと室内環境
第15回　　建築・インテリアと関連分野
フィールドワークは学外において建築・インテリアの見学・講義を行い、各自レポートをまとめる。
　※事情により場所および日時が変更する場合がある。
また、DVD 等の映像を通して建築家の設計した建築や建築設計の実例に関する知識を深める。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
将来建築・インテリアフィールドを希望する学生は、この授業を履修し単位修得することを推奨する。
フィールドワークの時は、歩きやすい靴と服装で出席すること。

成績評価方法	レポートによる。受講態度を重視する。（2／３以上出席のこと）
テキスト参考書	授業時にプリントを配布する。〔参考書〕『初学者のための 建築学入門』笹川和郎著（鹿島出版会）、『手にとるように建築学がわかる本』鈴木隆行監修 田口昭編著（かんき出版）、『建築ガイダンス 初めて建築を学ぶ人のために』大野隆司監修（市ヶ谷出版社）

授業コード	1008 1009	科目名	哲学	担当者	加藤　恵介

【授業概要】
哲学の基本的な問題のいくつかを紹介しながら、「哲学的」な思考と日常的な問題との接点を示す。

【到達目標】
学生の主体的、批判的な思考を養うことを目標とする。

【授業計画】
「哲学的」なものの見方、というものがあるとすれば、それは、とりあえず、日常的な態度においてはことさら意識されず「当たり前」だとされる事柄の内に、考えるべき問題を発見するような視点である、と言えるだろう。体系的、学問的な研究の出発点にあるのも、このような視点であろうと思われる。ここでは、「哲学的」問題と呼ばれているものの中から、そのような、日常と「哲学的」な思考の接点となるような主題を選んで紹介していきたい。
1　「哲学」とは
2　ソクラテスの対話
3　ソフィストと相対主義
4　他人の心
5　デカルトの懐疑
6　「マトリックス」の哲学
7　ハイデガーと「日常性」
8　ハイデガーと「死」の問題
9　エピクロスの「快楽主義」
10　アイデンティティの問題
11　「共同体」をめぐって
12　「自由」の意味
13　「愛」をめぐる議論
14　「子供」のための哲学
15　再び「哲学」とは

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回、授業で扱った問題について意見を書いてもらうので、自分の意見を明確に表現することを心がけてください。

成績評価方法	学期末に試験を行う（論述式。自筆ノートと配布資料は持ち込み可） 試験の成績：80%　受講態度・参加姿勢：20%
テキスト参考書	プリント配布

授業コード	1010 3106	科目名	倫理学　生命倫理 生命倫理の諸問題	担当者	加藤　恵介

【授業概要】
この授業では生命倫理の諸問題を扱う。医療における科学技術の発展によって、人間の生命と死は、きわめて人工的にコントロール可能なものとなった。これに伴う倫理的な問題について考察する。

【到達目標】
人生のさまざまな局面で我々に関わってくる生命倫理の問題について、自己決定を行うために役立つ知見を提供することを目標とする。

【授業計画】
生命倫理学の中心的な概念である「自己決定権」（自分のことは自分で決める権利があるという考え方）についての理解を深めると共に、この考え方がはらむ問題について考察する。
1　生命倫理とは
2　生命倫理の歴史
3　自己決定権について
4　インフォームド・コンセント
5　インフォームド・コンセントと「日本文化」
6　人工妊娠中絶をめぐって
7　パーソン論（1）
8　パーソン論（2）
9　脳死・臓器移植の諸問題（1）　その歴史
10　脳死・臓器移植の諸問題（2）　日本の旧臓器移植法の特徴
11　脳死・臓器移植の諸問題（3）　臓器移植法改正をめぐる議論
12　尊厳死をめぐる議論
13　医療と政治
14　医療と経済
15　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回、授業で扱った内容について意見を書いてもらうので、自分の意見を明確に表現することを心がけてください。

成績評価方法	学期末に試験を行う（論述式。自筆ノートと配布資料は持ち込み可） 試験の成績：80%　受講態度・参加姿勢：20%
テキスト参考書	プリント配布

授業コード	1011	科目名	文学 文体研究	担当者	塩濵　久雄

【授業概要】
小説家にはそれぞれの文体ある。本講義では村上春樹の文体について考察する。

【到達目標】
日本語の文体理解を目標とする。

【授業計画】
1．文体とは何か
2．文章のリズムについて
3．文順（描写の順番）
4．文順（見出し効果）
5．文順（視界に入った順番）
6．アフターダークの文体（1）
7．アフターダークの文体（2）
8．アフターダークの文体（3）
9．アフターダークの文体（4）
10. アフターダークの文体（5）
11. アフターダークの文体（6）
12. アフターダークの文体（7）
13. アフターダークの文体（8）
14. アフターダークの文体（9）
15. まとめ

成績評価方法	授業への参加意欲と期末のレポートで評価する。
テキスト参考書	村上春樹『アフターダーク』（講談社文庫）

授業コード	1012 3001	科目名	歴史学　日本史（1）	担当者	福原　栄太郎

【授業概要】
日本古代における歴史上の諸問題を取り上げます。話が抽象的なものにならないよう、できる限り人物にスポットをあて、その時代がどのような時代であったのかを考察します。

【授業計画】
次の各テーマをそれぞれに１～２講義時間を当てて講義します。
1．授業の進め方・歴史の考え方
2．日本人はどこからきたのか
3．文字の受容
4．古代における国際関係 －高句麗好太王碑文に書かれたことは －
5．倭の五王 －特に雄略天皇とその時代 －
6．聖徳太子と17条の憲法 －憲法の内容を知っていますか －
7．大化の改新と藤原鎌足
8．中大兄皇子をめぐる人物像
9．壬申の乱 －古代最大の戦乱のもたらしたもの －
10. 壬申の乱後の情勢
11. まとめ
講義はパワーポイントを使用します。

成績評価方法	レポート、筆記試験、受講態度重視（原則として遅刻、途中退席は認めない）
テキスト参考書	授業中にプリント資料を配付する。

授業コード	1013 3005	科目名	地理学　地理学（1）	担当者	橘　セツ

【授業概要】
人間が自ら生活している世界をどのように認識し、記述表現してきたのかについて空間的、歴史的視角から考察する学問である地理学の考え方を紹介します。

【到達目標】
1、人間が自ら生活している世界をどのように認識し、記述表現してきたのかについて、さまざまな世界の多様な表現としての地図の持つ力について理解する。
2、地理学の多様なスケールとして文化－自然、社会－空間、空間－場所、ローカル－グローバル、自己－他者、イメージ－現実などの関係に注目しながら、地理学のものの見方や考え方に親しみ、理解する。

【授業計画】
講義では、文化－自然、社会－空間、空間－場所、ローカル－グローバル、自己－他者、イメージ－現実などの多様なスケールの関係に注目しながら、地理学のものの見方や考え方ついて紹介します。この講義は、ポール・クローク、フィリップ・クラング、マーク・ゴドウィン編著『人文地理学入門』（Paul Cloke, Philip Crang, Mark Goodwin Eds.（1999）Introducing Human Geographies. Arnold.）と中川正、森正人、神田孝治（2006）『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）をもとにして展開します。
授業では、ビデオなどの視聴覚教材を利用します。また、授業中に、学生には、課題や作業を行ってもらう予定です。したがって、学生の授業への出席、作業の参加を重視します。

1　イントロダクション：大学で学ぶ地理学とは？
2　地図を使って考えよう
3　地図の発達史：世界編
4　地図の発達史：日本編
5　地図の持つ力
6　自然－文化（1）
7　自然－文化（2）
8　社会－空間
9　空間－場所
10　ローカル－グローバル（1）グローバル化の理論
11　ローカル－グローバル（2）ローカルについてのグローバル感覚
12　自己－他者
13　イメージ－現実
14　地理的想像力と心象地理
15　まとめとレポートの作成指導および提出

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業では、生活に身近な事例からも地理学のものの見方を学習します。また、あたりまえだと思われていることを疑うことから出発し、説明や解釈をこころみます。授業中に、受講生には、主として地図を使った課題や作業を行ってもらう予定です。ふだんから地図や地図の表現に親しむように心がけて下さい。

成績評価方法	小テスト（20%）と授業内レポート（20%）と期末レポート（60%）。
テキスト参考書	中川正、森正人、神田孝治『文化地理学ガイダンス』ナカニシヤ出版。補足プリントも配布します。

授業コード	1014 3019	科目名	文化人類学　民族と生活 文化人類学の視点	担当者	行木　敬

【授業概要】
前半では異文化理解の基礎となる文化相対主義の視点を、後半では現代における文化や民族の解読に不可欠な構築主義の視点を学ぶ。

【到達目標】
①文化を記述・分析するための基礎的な理論を身につける。
②それらを使い、何らかの文化的事象を分析、レポートとして提出する。

【授業計画】
第1回　ガイダンスおよびレポート課題発表
【第一部：異文化理解と相対主義】
第2回　自文化の相対化
第3回　文化の多様性
第4回　19世紀の文化人類学とその問題点
第5回　フィールドワークと機能主義の登場
第6回　システムとしての文化
第7回　機能主義と文化相対主義
【第二部：文化の変化と構築主義】
第8回　文化の接触と変化をめぐる初期理論
第9回　初期理論の限界と解釈モデル
第10回　グローバライズとローカライズ
第11回　観光開発と自文化の再解釈
第12回　国家とポップカルチャー
第13回　地域紛争と「民族」の構築
第14回　本質主義と構築主義
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
信仰や儀礼に関心がある人は、後期「宗教と社会」もあわせて受講することを勧める。

成績評価方法	授業への取り組みや期末レポートから総合的に評価する。
テキスト参考書	テキストは用いない。毎回レジメを配布する。

授業コード	1015	科目名	宗教と社会 文化人類学の理論	担当者	行木　敬

【授業概要】
宗教を文化人類学の視点から考えていく。すなわち宗教を、個々人を巻き込み社会に組み上げていく文化的な仕組みとしてとらえ、またそのような仕組みを明らかにするために文化人類学が作り出してきた様々な理論を解説していく。

【到達目標】
①文化を記述・分析するための理論を身につける。
②それらを使い、何らかの文化的事象を分析、レポートとして提出する。

【授業計画】
第１回　ガイダンスおよびレポート課題発表
第２回　初期理論１：宗教と呪術
第３回　初期理論２：呪力と精霊
第４回　機能主義：妖術と機能
第５回　構造主義１：神話分析
第６回　構造主義２：トーテミズム分析
第７回　構造主義３：構造と世界観
第８回　境界論１：アノマリー・禁忌・ケガレ
第９回　境界論２：境界化と儀礼的逆転
第10回　境界論３：コムニタスとトリックスター
第11回　象徴論１：病を投げ捨てる方法
第12回　象徴論２：供儀と身体の拡張
第13回　物語論１：うわさとリアリティ
第14回　物語論２：癒しと世界の再構築
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・前期「民族と生活」あるいは「文化人類学」で、文化人類学の基礎を身につけた上で受講することを勧める。
・仏教やイスラム教など世界宗教に関心がある人は、この授業より「アジア文化論」の受講を勧める。

成績評価方法	授業への取り組みや期末レポートから総合的に評価する。
テキスト参考書	テキストは用いない。毎回レジメを配布する。

授業コード	1016 1017	科目名	法学	担当者	山下　紗矢佳

【授業概要】
私たちの日常生活における様々な場面で「法」が関わっていることを認識するとともに、法がいったい何のためにあるのか、また法に関する知識を養うことを目的とする。講義形式の下、法の機能や法制度について、多様な事例、判例を活用しながら、幅広く概観する。

【到達目標】
社会における法整備の必要性を理解し、基礎的な理論と知識を深めること。

【授業計画】
第１回目：ガイダンス
第２回目：法学を学ぶにあたって
第３回目：法とは何か①
第４回目：法とは何か②
第５回目：法の解釈
第６回目：財産と法
第７回目：家族と法
第８回目：企業と法
第９回目：消費者と法
第10回目：経済法
第11回目：中小企業政策①
第12回目：中小企業政策②
第13回目：中小企業基本法と政策①
第14回目：中小企業基本法と政策②
第15回目：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
日常生活と法の関わりについて関心を持ち履修することが望ましい。

成績評価方法	平常点、レポート、定期試験で評価する。
テキスト参考書	授業中に紹介する。

授業コード	1018 3015	科目名	自然史　自然史（1）（動物） 生物の多様性と動物を分類する構造	担当者	吉岡　英二

【授業概要】
動物がどのように整理・分類されているかを理解し、その中でヒトがどのような特徴を持つかを、生物学的な観点から議論する。

【到達目標】
生物界の階層性を理解し、門・綱・目・科・属・種の大きさを理解する。
さらに、日常で語られる多くの生物名に対応する分類学上の位置を理解する。

【授業計画】
第１回：自然史（natural history）の歴史的位置づけと現代的意義
第２回：個体群 / 群集 / 生態系の階層性
第３回：多様性の３つの側面（生物種・生息環境・遺伝子）
第４回：生物を分類する論理と系統分類学
第５回：生物全体の多様性と階層性
第６回：学名（scientific name）歴史的意義およびその表記法
第７回：原核生物と真核生物
第８回：原生生物と多細胞生物
第９回：植物界と菌界
第10回：動物界を区分する原理
第11回：無脊椎動物各門の特徴と生活史　|放射相称動物・前口動物・後口動物|
第12回：脊椎動物各綱の分類と進化系列　|無顎・板皮・棘魚・軟骨魚・硬骨魚・両生・爬虫・鳥・哺乳|
第13回：哺乳綱の各目の分類と生態・霊長目の位置づけと進化系列
第14回：ヒト上科の進化と現生人類の分類学的位置づけ
第15回：総括　生物としてのヒト：人間と社会を理解するための前提として

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
日ごろ見聞きする生物の名称などが、分類上どこに位置づけられるのか、興味を持ってください。

成績評価方法	１）毎回、授業のさいごに短答式の問題を課す。　２）階層的な分類構造と命名法について理解されているか、各動物門について、その基本体制・生活史・生態などが理解されているかを、期末のレポートで評価する。
テキスト参考書	各回にプリントなどを配布

授業コード	1019	科目名	生物学 生物学と行動生態学の基礎	担当者	吉岡　英二

【授業概要】
生物は突然変異と自然淘汰によって進化してきた。それらを前提として、生物の生態や行動について生物学が明らかにしてきたことを、よく知られた事例から理解する。さらに私たちの行動もしばしばその理論に支配されていることを意識していく。

【到達目標】
１．分類・生態・遺伝など、生物学の基本的な内容について理解すること。
２．生物進化の基本的な理論について理解し、生物の生態や行動が、生物進化の文脈のもとに説明できることを理解すること。
３．進化生物学・行動生態学の基本的な原理と矛盾する説明に対して批判的に評価する能力を備えること。

【授業計画】
第１回　生物分類学における分類階層
第２回　動物の分類と学名について
第３回　生態学における生態系の階層性
第４回　さまざまな種間関係
第５回　遺伝学の基礎，進化を理解するにあたって
第６回　ヒトの遺伝，そのほかの動物の遺伝
第７回　進化生物学と行動生態学の歴史的経緯
第８回　ダーウィニズム－突然変異と自然淘汰による進化のメカニズム
第９回　性と生殖－性の起源
第10回　性比－なぜオスとメスは同数なのか
第11回　性転換と雌雄同体
第12回　包括適応度と血縁淘汰－ハチの社会性をめぐって
第13回　利他的行動・犠牲的行動
第14回　ヒトの進化と行動をめぐって
第15回　総括－より深い人間理解のための人間行動学

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
むかしから根強く信じられていた「生物の種の保存・種の繁栄のため」という考え方を持ち込まず、純粋に個体のため・遺伝子のためという考え方になじんでほしいと思います。ヒトの行動を説明し、理解することから、より深い人間理解にも進むことができます。

成績評価方法	期末試験によって評価する。
テキスト参考書	

授業コード	1020	科目名	統計学	担当者	飯嶋　香織

【授業概要】
数値データを分析するのに必要な基礎的な統計学について、確率論との関係に配慮しながら講義する。

【到達目標】
統計学に対する基本的な理解を深めることが目標である。さらに出来るだけ実際のデータにふれることで、社会における統計の役割についても実感してもらうことも目標の一つである。

【授業計画】
第１回　統計学と確率論～歴史の概観
第２回　分布の特性値～平均・分散・標準偏差
第３回　データの抽出法と乱数表の利用
第４回　確率論は役に立つ？～モンテカルロ実験で円周率を求める
第５回　確立分布の基礎と利用①～二項分布
第６回　確立分布の基礎と利用②～ポワソン分布
第７回　確立分布の基礎と利用③～正規分布
第８回　母集団の推定①～標本平均の分布と母平均の推定
第９回　母集団の推定②～カイ二乗分布と母標準偏差の推定
第10回　母集団の推定③～ｔ分布と母平均の推定
第11回　仮説検定①～その基本概念と計算
第12回　仮説検定②～カイ二乗検定とｔ検定
第13回　仮説検定③～差の検定と独立性の検定
第14回　相関の意味と計算～相関係数と偏相関係数
第15回　回帰の意味と応用事例の紹介

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
統計学の入門の講座であるが、講義に出席し理解を積み上げていくことが重要である。講義を聴いてすぐにわからないことが多いと思われ、積み重ねが重要である。

成績評価方法	講義中に課す演習課題レポート（30%）最終試験（70%）出席は単位取得の必須条件となります。
テキスト参考書	「統計学がわかる（ファーストブック）」 向後千春・富永敦子著 【参考書】「ひとりで学べる社会統計学」 浅川達人著、「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」 吉田寿夫著　北大路書房

授業コード	1021	科目名	基礎数学（1）	担当者	佐　藤　　光

【授業概要】
大学の講義や社会人として活躍する際に必要な数学を、できるだけわかりやすく講義する。

【到達目標】
入門的数学の習得。

【授業計画】
1．数と式の計算
2．１次方程式と連立方程式
3．図形
4．因数分解
5．平方根
6．２次方程式の解き方
7．不等式
8．関数とグラフ
9．順列と組合せ
10．確率
11．図形と方程式
12．三角関数
13．微分
14．積分
15．まとめ

受講者の予備知識に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
配布されるプリントの予習と復習が不可欠。

成績評価方法	平常点と期末試験による。
テキスト参考書	プリントを配布する。

授業コード	1022	科目名	基礎数学（2） ゲーム理論の基礎	担当者	吉岡　英二

【授業概要】
ゲーム理論では、対立する２人以上のプレイヤーの意思決定を分析する。プレイヤーとは、個人だけでなく国家・企業・組織などさまざまな「意思決定の主体」を含む。授業では、それらを数学的に表現し、その基礎的な分析手法について取り扱う。

【到達目標】
対立する社会問題や生活上の課題について、プレイヤー・戦略・利得という要素によるゲームの利得行列で表現できること。
利得行列で表現されたゲームの解を求めることができること。
対立する相手の立場に立ってものごとを分析できるようになること。

【授業計画】
第１回　ゲーム理論とはなにか（歴史，協力 / 非協力，戦略型 / 展開型）
第２回　同時ゲーム（= 戦略型）と交互ゲーム（= 展開型）
第３回　同時ゲームの構成要素（プレイヤー・戦略・利得）と支配戦略
第４回　同時ゲームのナッシュ均衡
第５回　交互ゲームとバックワードインダクション
第６回　ナッシュ均衡のない利得行列
第７回　混合戦略のナッシュ均衡を求める
第８回　ゼロサムゲームとミニマックス戦略
第９回　交渉と最後通牒，先手か後手か，ゲーム理論の実践
第10回　オークション
第11回　２×２ゲームのまとめ
第12回　より複雑なゲーム（１）部分ゲーム
第13回　より複雑なゲーム（２）循環多数決と戦略的投票
第14回　より複雑なゲーム（３）繰り返しゲーム
第15回　全体のまとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
自分の周辺のできごとや社会的なできごとについて、戦略的に分析するように心がけてください。授業に出席したうえで、それぞれの課題などに積極的に理解し質疑に参加しなければ単位を得ることはできません。

成績評価方法	適宜レポート課題を課し、その成果より評価する。
テキスト参考書	

授業コード	1023 3017	科目名	健康科学（1）　健康科学１ 人が健康に生きる	担当者	中島　佳代子

【授業概要】
様々な因子と健康について学び QOL（生活の質）の向上について考える。

【到達目標】
健康に生きるとはどういうことかを理解する。
自分の健康を自分の心と知識でつくる。

【授業計画】
第１回 健康について・ライフスタイルと健康
第２回 メタボリックシンドローム・肥満
第３回 食生活と健康・運動と健康
第４回 喫煙・アルコール
第５回 薬物乱用
第６回 性感染症
第７回 メンタルヘルス・ストレスと健康
第８回 生活リズム・睡眠と健康
第９回 生活環境・住環境・水・化学物質
第10回 放射線・紫外線
第11回 感染症
第12回 加齢・糖尿病
第13回 がん・心疾患・脳卒中
第14回 腰痛・骨粗鬆症
第15回 試験

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
知りたいことがあれば何でも質問して下さい。共に探究していきましょう。

成績評価方法	筆記試験
テキスト参考書	プリントのみ　参考書：基礎としての健康科学（大修館書店）、テキスト健康科学（南江堂）、The State of Health Atlas（Diamuid O'Donovan 著）

授業コード	1024 3018	科目名	健康科学（2） 健康科学2 寄生虫と環境	担当者	小國　昭信

【授業概要】
ヒトに寄生する代表的な寄生虫の生活史、寄生虫がヒトの健康に及ぼす影響、及び環境要因と寄生虫の関係を学び、日常生活の中で気をつけるべきことを考える。

【到達目標】
1．代表的なヒトの寄生虫の概要ならびに、日常生活や食文化と寄生虫のかかわりが理解できる。
2．地球温暖化のような環境の変化がヒトの寄生虫感染に及ぼす影響が理解できる。
3．寄生虫に感染しないために、日常生活の中で気をつけなければならないことが分かる。

【授業計画】
第1回　Ⅰ　寄生とはどのような現象か
第2回　Ⅱ　環境の変化が寄生虫の分布に及ぼす影響
第3回　Ⅲ　現在の日本国内の寄生虫と海外で気をつけるべき寄生虫
第4回　Ⅳ　人体寄生性原虫類のヒトの健康に及ぼす影響
　1．赤痢アメーバおよびその他のアメーバ
第5回　2．マラリア原虫
第6回　Ⅴ　人体寄生性線虫類のヒトの健康に及ぼす影響
　1．回虫及びその他の回虫類
第7回　2．有棘顎口虫及びその他の顎口虫類
第8回　3．バンクロフト糸状虫及びその他の糸状虫類
第9回　Ⅵ　人体寄生性吸虫類のヒトの健康に及ぼす影響
　1．肝吸虫
　2．横川吸虫
第10回　3．ウエステルマン肺吸虫及びその他の肺吸虫
第11回　4．日本住血吸虫及びその他の住血吸虫類
第12回　Ⅶ　人体寄生性条虫類のヒトの健康に及ぼす影響
　1．広節裂頭条虫
　2．マンソン裂頭条虫
第13回　3．有鉤条虫
　4．無鉤条虫
第14回　5．単包条虫と多包条虫
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回の講義内容をまとめた問題用紙を配付するので、理解に役立ててください。

成績評価方法	平常点及びレポート：50点、筆記試験：50点
テキスト参考書	とくになし。毎回資料を配付する。

授業コード	1025	科目名	特殊講義（1） 表現する力を養う	担当者	楠本　和歌子

【授業概要】
本講義では、繰り返しの演習を通して自分の意見を適切に表現する様々な方法を身につけることを目的とする。日常生活での対人関係、学業、就職活動等に実践的に役立つよう演習時にはビデオを用い、それをフィードバックする形式をとる。

【到達目標】
・対人場面での適切な主張性を身につける。
・スピーチ場面での表現力の向上。
・面接場面での表現力の向上。
・プレゼンテーションの能力の向上。
・ディスカッション場面で意見を適切に主張する力の向上。

【授業計画】
第1回　導入（本講義における課題と今後の演習方法の説明）
第2回　自己紹介の練習　（対人場面・スピーチ場面）
第3回　基礎的なコミュニケーションスキルの説明
第4回　短いスピーチの練習1
第5回　短いスピーチの練習2
第6回　コミュニケーションスキルワーク1（話す・きく・感じる）
第7回　面接場面の練習1
第8回　面接場面の練習2
第9回　ディスカッション場面の練習1
第10回　コミュニケーションスキルワーク2（価値観・葛藤）
第11回　ディスカッション場面の練習2
第12回　コミュニケーションスキルワーク（わかちあう・伝える）
第13回　プレゼンテーションの練習1
第14回　プレゼンテーションの練習2
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
上述の通り、ほぼ毎回一人ずつ発表やグループでの演習を行います。また、発表をビデオ撮影し、授業内でフィードバックするといった実践的手法を用います。発表や演習に意欲的に参加できる人が受講してください。

成績評価方法	授業における発表や演習への取り組み状況と意欲（表現力の有無ではなく、授業に対する積極性を特に評価します）
テキスト参考書	教科書は指定せず、適宜プリントを配布する

授業コード	1026 3020	科目名	特殊講義（2） ヨーロッパ思想史	担当者	加藤　恵介

【授業概要】
ルソーの思想を中心に、「自然」をめぐる思想の歴史を紹介する。

【到達目標】
ルソーの思想を、現代の人間と自然の関係を考えるための手がかりとして役立てる。

【授業計画】
18世紀の思想家、ジャン＝ジャック・ルソーは、いくつもの面を持っているが、文明や進歩を悪、自然を善とみなす思想を唱えたことで知られている。この思想は、現代のエコロジー運動や、子供をめぐる考え方など、後世に大きな影響を与えている。ルソーを中心に、これに先立つ諸思想や、これに影響を受けた後の思想も参照しながら、「自然」の捉え方について考察を深めたい。
1 「自然」観について
2 ルソー紹介
3 『学問芸術論』（1）－文化と自然
4 『学問芸術論』（2）－進歩と堕落
5 『人間不平等起源論』（1）－「自然状態」の人間
6 『人間不平等起源論』（2）－ホッブズとルソー
7 『人間不平等起源論』（3）－理性と感情
8 『人間不平等起源論』（4）－不平等の起源
9 『社会契約論』（1）－「民主主義」をめぐって
10 『社会契約論』（2）－社会契約について
11 『エミール』（1）－ルソー以前の「子供」についての考え方
12 『エミール』（2）－ルソーの影響力
13 エコロジー思想へのルソーの影響（1）
14 エコロジー思想へのルソーの影響（2）
15 まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回、授業で扱った問題について意見を書いてもらうので、自分の意見を明確に表現することを心がけてください。

成績評価方法	学期末に試験を行う（論述式。自筆ノートと配布資料は持ち込み可） 試験の成績：80%　受講態度・参加姿勢：20%
テキスト参考書	プリント配布

授業コード	1027 3009	科目名	特殊講義（3） ことばと人間 言語学入門	担当者	阿部　忍

【授業概要】
言語学の基礎を講義します。

【到達目標】
①言語学の基礎（知識、考え方）が理解できるようになる。
②身近なことばについて意識的に考えることができるようになる。

【授業計画】
第１回　人間のことば
第２回　世界の言語
第３回　言語の変化
第４回　文字の発達
第５・６回　音の構造
第７・８回　語の構造
第９・10回　文の構造
第11回　意味の構造、談話の構造
第12回　ことばの運用
第13回　ことばと脳
第14回　ことばと社会
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
遅刻・欠席をしないこと。

成績評価方法	受講姿勢70%，　期末のレポート30%
テキスト参考書	なし

授業コード	1029	科目名	特殊講義（5） 現代社会論	担当者	永井　純一

【授業概要】
現代社会について考える。論理的な考察力を身につける。

【到達目標】
毎回文献やデータを参照しながら、現代社会の諸相を読み解く。社会学的な立場から、身近な問題をとりあげつつ、日常に溢れている価値観を照射し、検証することを目的とする。

【授業計画】
1．絶望の国の幸福な若者？
2．記号消費と嫌消費――『私をスキーに連れてって』
3．「賢い消費者」の功罪――『食べログ』
4．物語からデータベース――『新世紀エヴァンゲリオン』
5．監視されたがる私たち――『トゥルーマンショー』
6．終わりなき日常――『ラブ&ポップ』
7．「たとえばゆるい幸せがだらっと続いたとする」――『ソラニン』
8．趣味か仕事か――『働きすぎる若者たち「自分探し」の果てに』
9．多様化する雇用と「自己責任」――『助けてと言えない　いま30代に何が』
10．都市から郊外（ジモト）へ――『池袋ウェストゲートパーク』『木更津キャッツアイ』
11．いまどきの友情――『桐島、部活やめるってよ』
12．いまどきの恋愛と結婚――『モテキ』
13．いまどきの家族――『クレヨンしんちゃん』『11人もいる！』
14．セカイ系、日常系と決断主義――『ほしのこえ』『涼宮ハルヒの憂鬱』、『バトルロワイヤル』、銀杏BOYZ、アジアン・カンフー・ジェネレーション
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
受講生にはコメントペーパーなどによって毎回意見を求めるので、その際は意欲的に取り組むこと。

成績評価方法	受講態度、小レポート、期末レポートにより総合的に評価する。
テキスト参考書	授業内で参考文献を適宜指示する。

授業コード	1030 3008	科目名	特殊講義（6）　文化研究入門 「日本人論」を読む	担当者	加藤　恵介

【授業概要】
第二次世界大戦後に書かれた「日本人論」「日本文化論」の読み直しの作業から、文化をめぐる諸問題を考察する。

【到達目標】
「日本文化」と「異文化」という固定した枠組みにとらわれることなく、「文化」への柔軟なまなざしを身につける。

【授業計画】
第二次世界大戦後に書かれた「日本人論」「日本文化論」は多数あるが、その多くは「日本文化」「日本社会」の特質を、肯定的にであれ否定的にであれ、西洋的な近代的個人の不在と集団主義によって特徴づけている。しかし、文化本質主義的に「日本の特異性」を語ること自体に問題が含まれているのではないだろうか。「日本人論」の読み直しの作業から、文化をめぐる諸問題を考察する。
1　講義の趣旨
2　『菊と刀』（1）
3　『菊と刀』（2）
4　文化相対主義について
5　『タテ社会の人間関係』（1）
6　『タテ社会の人間関係』（2）
7　『「甘え」の構造』（1）
8　『「甘え」の構造』（2）
9　『人と人との間』（1）
10　『人と人との間』（2）
11　『世間とは何か』
12　『日本社会で生きるということ』
13　『日本人は「日本的」か』
14　「日本人論」のはらむ問題
15　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回、授業で扱った問題について意見を書いてもらうので、自分の意見を明確に表現することを心がけてください。

成績評価方法	学期末に試験を行う（論述式。自筆ノートと配布資料は持ち込み可） 試験の成績：80%　受講態度・参加姿勢：20%
テキスト参考書	プリント配布

授業コード	1031 3115	科目名	特殊講義（7） 神戸の生活と文化 地域研究の方法（分析編）	担当者	行木 敬

【授業概要】
グローバル化した現代社会の中で、なお存在する地域文化。そこにある地域文化の維持や生成をめぐる仕組みを、特に神戸特有の地域文化を事例にとり、文化人類学の諸理論を用いながら分析していきたい。

【到達目標】
①地域研究の方法、特に地域文化の維持・生成の分析方法を身につける。
②その上で、自分の地元文化の分析をレポートとして提出してもらう。

【授業計画】
第１回　ガイダンスおよびレポート課題発表
第２回　現代社会における地域文化
第３回　地域経済と文化１――瓶ジュース「アップル」と神戸
第４回　地域経済と文化２――「とくれん」と神戸
第５回　地域経済と文化３――サンテレビと神戸
第６回　コミュニケーションと文化１――「うらおもて」と神戸
第７回　コミュニケーションと文化２――「首なしライダー」と神戸
第８回　異文化の解釈１――ダボ／アホ境界と神戸
第９回　異文化の解釈２――諏訪神社と神戸
第10回　異文化の解釈３――「サンライズ」と神戸
第11回　観光と再解釈１――南京町と神戸
第12回　観光と再解釈２――「いまいち萌えない娘」と神戸
第13回　アイデンティティ化と再解釈１――土足の小学校と神戸
第14回　アイデンティティ化と再解釈２――震災と神戸
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
卒論で地域研究をおこなう人はぜひ受講してほしい。また、後期「アジア文化論」では、地域研究の方法を記述の組み立て方から解説している。

成績評価方法	授業への取り組みや期末レポートから総合的に評価する。
テキスト参考書	テキストは用いない。毎回レジメを配布する。

授業コード	1032 3116	科目名	特殊講義（8） 神戸の産業と文化	担当者	久富 健治

【授業概要】
神戸の産業の歴史・現状・問題点について、可能な限り文化的視点を織り交ぜながら解説を試みる。
フィールドワークとして神戸の産業（企業）博物館の見学も行う（入館料・交通費は自己負担となっています）。
なお、フィールドワークとの調整上、授業計画を変更することがある。

【到達目標】
地域産業を知ることで、地域に関心を持ち、愛着を持てるようにする。

【授業計画】
第１回　産業集積地としての神戸
第２回　神戸の産業史と企業人①マッチ製造と瀧川弁三
第３回　神戸の産業史と企業人②川崎造船所と川崎正蔵
第４回　神戸の産業史と企業人③羊毛貿易と兼松房次郎
第５回　神戸の産業史と企業人④紡績業と武藤山治
第６回　神戸の産業史と企業人⑤鈴木商店と金子直吉
第７回　産業の発展と「阪神間モダニズム」の形成
第８回　戦後経済と神戸①川崎製鉄と西山弥太郎
第９回　戦後経済と神戸②公共デベロッパーとしての神戸市株式会社
第10回　戦後経済と神戸③神戸港の役割変化
第11回　神戸の地場産業①酒造、真珠
第12回　神戸の地場産業②ケミカルシューズ
第13回　神戸の都市型産業①観光産業とコンベンション産業
第14回　神戸の都市型産業②ファッション産業
第15回　神戸の都市型産業③医療産業

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
まず、無理矢理にでも神戸の産業に関心を持とうと努めること。そのうち面白くなってきます。

成績評価方法	①神戸の産業史、現状について基本的知識を身につけているか。　②フィールドワークに積極的に参加し、レポートを提出しているか。　試験（授業中に小テスト、ミニレポートを課す場合があるが、それらも評価の材料にする。出席点はない）
テキスト参考書	

授業コード	1033 3023	科目名	特殊講義（9） フィールドワーク３ 生物相の多様性と個々の種の生態的位置づけ	担当者	吉岡　英二

【授業概要】
都市環境での２つの生物相について、その多様性と生態に実際に触れることを通じて、都会でもさまざまな生物の活動があることを理解する。

【到達目標】
河川・海岸の生物相の特徴と多様性を実感し、個々の種の生態学上および分類学上の位置づけと特性・特徴について理解する。また、学名の意義を理解し、その同定に必要な手続きを知ること。

【授業計画】
テーマ１：都市の河川の生物相
１．構内の宇治川河川敷で、水棲昆虫・その他の水棲生物の採集・観察をおこない、それらの分類学上・生態学上の位置付け、注目すべき種（指標種・表徴種）について解説する。（植物１回、昆虫１回、その他の動物１回）
２．採集された水生生物・植物などを固定し、標本として作成・保存する手法を学び、その意義を考える。（２回）
３．同一種について、時期の異なる２回以上の採集をおこない、そのサイズ組成の違いから、生物の成長について理解する。（２～３回）
テーマ２：人工海岸の生物相
人工海岸の付着生物相について、校地から最寄の人工岸壁の海岸に赴き、その潮間帯に付着する生物の生活環境を観察する。また、その生物相全体を採集してそのなかに含まれる付着生物にどのようなものがあるか、それらが群集／生態系の中でどのような位置づけにあるかについて、実際に標本をソーティングしながら解説する。（採集１回、ソーティング１回）
テーマ３：具体的測定を通じての動植物の生理的特性の理解
特性の異なる２つの測定項目を実際に測定し、その整理・総括を通じて、実際のデータの取り扱いについて学ぶ。
まとめ：テーマ１．２．の生物相より、特に興味を持った種について、標本として保存し、図鑑等を用いて同定する。

天候・潮汐の状況等により、観察・採取などの日程は適宜調整して通知する。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
天候等で予定が変更される場合があります。つねに野外で活動できるような服装・くつ・帽子などを準備して受講するようにしてください。

成績評価方法	動物または植物を２種以上採集し、標本として保存したうえ、図鑑等を使って種を同定し、レポートを提出する。それらの中での、その種の生態的位置づけおよびその種が必要とする生息環境についての理解度を評価する。
テキスト参考書	

授業コード	1034 3022	科目名	特殊講義（10） フィールドワーク２ 神戸のフィールドコミックを作る	担当者	行木　敬

【授業概要】
神戸の街で撮ってきた写真をマンガのコマのように組み合わせ、セリフやイラストを添えて数ページのルポタージュに仕上げる。街の風景をマンガの形で物語化することで、「自分にとっての神戸」「自分が伝えたい神戸」が、はっきりと形になるはずである。

【到達目標】
取材の立案や写真技術から、実際の現地取材、データの処理、編集ソフトの操作、そして他人に伝わる魅力的な表現の作り方まで、それぞれ具体的な技術を身につける

【授業計画】
フィールドコミックとは、ある地域（フィールド）の人や風景、イベントを写真に撮り、それらをマンガのコマとして並べ、さらにセリフや解説の文字、イラストなどを添えながら、数ページのルポタージュとして仕上げたものである。http://bit.ly/KZLCnG に完成のイメージを示す。このようなフィールドコミックを、各人に製作してもらう。

第１回　　授業ガイダンス・受講者の確定
第２～５回　フィールドワークの準備：撮影場所の選定、班分け（３班に分ける予定）。写真撮影の練習。
第６～８回　フィールドワーク：
各班で決めた日、決めた場所に集合し、撮影をおこなう。（休日に実施。通常の授業は休講とする）
第９～15回　コミックの作成：
写真の選択、ネーム（大まかなコマの流れ）の作成、画像編集ソフトの使い方など。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
機材の関係で人数制限をおこないます。受講希望者はメールをください（ k-nameki@kobe-yamate.ac.jp ）。早い者順に受け入れます。履修登録はこちらでおこないます。

成績評価方法	授業への取り組みや提出課題の内容などから総合的に評価します。
テキスト参考書	授業の進行にあわせて、レジメやワークシート、各種資料を配布していきます。

授業コード	1101	科目名	情報社会論	担当者	永井　純一

【授業概要】
情報社会の進展について理解を深め、必要なメディアリテラシーを高める。

【到達目標】
テレビや携帯電話にパソコン、新聞やラジオなど、私たちの生活は数多くのメディアに囲まれ、それらを介して私たちは膨大な量の情報に接している。こうした社会はしばしば「情報社会」と呼ばれ、それは現代社会を特徴付ける大きな要因のひとつとなっている。
本講義では、過去から今日に至るまでのメディアの発展およびその研究動向を概括し、その上で今日のメディア状況、私たちの生活においてメディアが果たす役割について考え、情報社会を生きぬくための知恵や方法を身につける。

【授業計画】
1．導入
2．ウェブは本当に情報の大海か
3．ネットは自由な空間か管理された箱庭か
4．ケータイは友人関係を広げたか
5．ゲームでどこまで恋愛できるか
6．動画共有サイトでは何が共有されないのか
7．iPod はコンテンツ消費に何をもたらしたか
8．オンラインで連帯する
9．「つながり」で社会を動かす
10. ケータイで都市に関わる
11. リアルタイムにウェブを生きる
12. デジタルメディアで創作する
13. デジタルコンテンツとフリー経済を考える
14. メディア・リテラシーの新展開
15. まとめ

成績評価方法	小レポート、期末レポートによって総合的に評価する。
テキスト参考書	『デジタルメディアの社会学』土橋臣吾ほか（北樹出版）

授業コード	1102 3026	科目名	教育社会学　特殊講義（2）	担当者	飯嶋　香織

【授業概要】
私たちが身近であたりまえに感じている教育について問い直し、さらに学校教育の抱える問題などについて相対化して考えることができる力を養うことが授業の目的である。

【到達目標】
現代における教育の諸問題（学校教育、社会階層の問題など）の現状や原因等について社会学的な観点から理解できるようになることが目標である。

【授業計画】
第１回　教育の社会的機能①　社会化
第２回　教育の社会的機能②　社会化　（視聴覚教材　「狼に育てられた少年」）
第３回　学校の社会的機能　　選抜・配分、正当化を中心に
第４回　教育改革の社会学①　学校選択制
第５回　教育改革の社会学②　ゆとり教育
第６回　教育改革の社会学③　学力低下問題
第７回　教育と職業①　　学校教育と職業の結びつき
第８回　教育と職業②　　若年者雇用の問題 、フリーター問題
第９回　格差社会と教育①　格差は広がっているのか
第10回　格差社会と教育②　階層と教育　（視聴覚教材「マイフェアレディ」）
第11回　格差社会と教育③　学校現場で何か起きているのか（視聴覚教材 NHK「ワーキングプアⅡ」）
第12回　現代の教育問題①　不登校
第13回　現代の教育問題②　いじめ
第14回　現代の教育問題③　複雑化する問題　（視聴覚教材 NHK「愛美さんが学校に戻れる日」）
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
皆さんが受けてきた学校教育への疑問や関心などがほんとうに正しいのか、データなどを用いて現実を考えていくのが教育社会学です。それを通して自分がいま生きているこの社会のあり方を相対化することにつながることでしょう。そのためには関連する情報を自分で集めたり、本を読んだりすることが必要です。

成績評価方法	授業で提出するレポート40%　期末試験60%
テキスト参考書	【参考書】「教育社会学への招待」 若槻　健 他 著　大阪大学出版会、「教育社会学」 J .H. バランタイン／F.M. ハマック 著　東洋館出版社

授業コード	1103	科目名	高齢社会論 －認知症の人とともに生きる－	担当者	豊田　謙二

【授業概要】
①現在から20年さらに25年後について、将来の推定値から「高齢社会」を展望します。
②社会を構成している「世帯」のうち、単身世帯の増加が予想されているが、その意味は？
③現在の「社会福祉」は、将来の「高齢社会」に向けて変革を必要としています。
④認知症の人は増加を続けています。認知症の人と暮らす社会について考えます。

【到達目標】
授業における基本姿勢は、「考えること」。それは「認知症の人との暮らし」について「考えること」です。
その思考のプロセスにおいて、私たち一人ひとりが何をすべきか、どんな活動が、どんな仕事が重要かを探ってみます。

【授業計画】
1．2．「データ」で考える「高齢社会」（導入部）
3．　認知症ケアにおける古さと新しさ（パーソンセンタード・ケア）
4．　認知症の人の「行方不明」を防ぐ（ネットワークの試み）
5．6．認知症ソーシャルワーク（日本とドイツ）
7．　認知症の人はどこに住むのか（グループホーム）
8．9．認知症の人と介護保険（日本とドイツ）
10．　高齢者を支える非営利活動（ＮＰＯ）
11．　高齢社会を支える福祉・介護専門職
12. 13. 認知症の人と成年後見制度
14. 15. 看取りケアとボランティア活動（日本とドイツ）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義に際しては事前にテーマを申し上げるので、事前学習が望ましい。
また受講時の質問を受け、さらに質問紙を配布したい。
積極性が能力を大いに高めます。

成績評価方法	レポート提出とその評価
テキスト参考書	『認知症の人とつくるケアの世界』豊田　謙二（ナカニシヤ出版）

授業コード	1104	科目名	消費生活論 自立した消費者	担当者	白﨑　夕起子

【授業概要】
近年、サービスの多様化や情報化の急速な進展により、消費者を取り巻く環境は大きく変化し、様々な消費者問題が発生しています。まず、身近な消費者問題について考えましょう。そして、安全・安心な消費生活を営む上で必要な知識や能力を身に付け、自立した消費者になることを目指しましょう。

【到達目標】
①消費に関する基礎的・基本的な知識及び技能を修得する。
②消費者トラブル未然防止のための危機回避能力を身に付ける。
③消費者トラブル被害回復のための実践的な問題解決能力を身に付ける。
④高齢者等を見守るなど、消費者市民社会の一員として主体的に行動できるようにする。

【授業計画】
第１回　　：授業ガイダンス・身近な消費者問題について考える
第２回　　：消費者の権利、消費者市民社会（消費者基本法・消費者教育推進法）
第３回～第４回：情報化社会における消費者問題
第５回　　：契約の知識（民法・消費者契約法）
第６回～第８回：取引の適正化（特定商取引法・金融商品取引法）
第９回　　：消費者信用取引（割賦販売法、貸金業法）
第10回　　：表示の適正化（景品表示法）
第11回　　：衣・食・住の知識（家庭用品品質表示法、食品表示法、宅地建物取引業法）
第12回　　：製品等の安全（消費者安全法、消費生活用製品安全法、製造物責任法）
第13回　　：消費者庁・消費生活センターの役割
第14回　　：環境問題
第15回　　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回の学習内容を振り返りながら、消費生活（ライフスタイル）の見直しを心掛けてください。また、消費者庁や国民生活センターのホームページを閲覧したり、消費生活センター（生活情報センター）を見学してパンフレット等を入手するなどして、情報収集してください。

成績評価方法	毎回レポート提出50%、期末試験50%
テキスト参考書	独立行政法人国民生活センター編集・発行「くらしの豆知識2015」。適宜プリントを配布。

授業コード	1105	科目名	ジェンダーと世代	担当者	荒木　菜穂

【授業概要】
この授業では、生活の場での身近な問題としてのジェンダー、すなわち「男らしさ」「女らしさ」を取り巻く様々なことにについて考えます。「あたりまえのことを疑う」という視点から、恋愛や結婚、家族、教育、労働など現代社会で生きる上での様々な場面、切り口からジェンダーに関する社会のしくみについて学び、考えていきます。

【到達目標】
ジェンダーに関する「あたりまえ」を疑うためには、さまざまな社会のしくみを知るという作業が必要です。授業では様々な角度から、それらについて学びます。上記のプロセスを通じ、最終的には、「常識」を疑うという「しんどいこと」を、この授業を通じ柔軟にできるようになることが望ましいです。

【授業計画】
1.「関係性」としてのジェンダー
2. メディアにおける男女の描かれ方　ステレオタイプの問題を中心に
3. ネットワークメディアの時代におけるジェンダーとメディアリテラシー
4. 恋愛・結婚・家族とジェンダー（1）～モテ非モテ、愛と暴力など
5. 恋愛・結婚・家族とジェンダー（2）～現代社会と結婚
6. 恋愛・結婚・家族とジェンダー（3）～家族というしくみ
7. 身体と性～出産・健康・医療とジェンダー
8. セクシュアリティとジェンダー～性をめぐる様々なこと
9. 労働とジェンダー（1）～格差社会と男女共同参画
10. 労働とジェンダー（2）～ライフコースと働くことについて
11. 異なる文化におけるジェンダーの問題と私たち
12. フェミニズム運動について現代社会から考える
13. 教育とジェンダー
14. ジェンダーに関する今日的課題
15. まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
各回の授業で扱った内容に関係する時事問題がおそらく見つかると思います。各回の授業後､新聞やインターネットのニュースなどを見る際、そのような視点でニュースを探し考える習慣をつけることが望ましいです。

成績評価方法	平常点（40 %）と試験（60 %）をもとに、総合的評価する。
テキスト参考書	授業中に適宜指示する。

授業コード	1106	科目名	コミュニティ論	担当者	山本　賢治

【授業概要】
都市化にともなって人間関係の絆が弱体化する中で、地域社会における共同性の再生について考える。

【到達目標】
①現代社会におけるコミュニティの意義について理解する。
②自助・公助・共助からなる生活様式のバランスについて自分なりの見解をもつ。

【授業計画】
第１回　都市と人間
第２回　都市化社会における人のつながり
第３回　都市化と都市問題
第４回　都市の社会構造
第５回　地域住民組織
第６回　アーバニズム
第７回　都市的生活様式
第８回　生活の社会化
第９回　都市の消費生活
第10回　コミュニティの概念
第11回　コミュニティと住民意識
第12回　コミュニティ施設と住民管理
第13回　コミュニティと行政
第14回　コミュニティとまちづくり
第15回　地域社会における公共性と共同性

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
新聞をよく読むこと。
講義ノートをしっかりとること。

成績評価方法	授業の理解度について試験またはレポートで評価する。授業への参加姿勢も考慮する。
テキスト参考書	適宜プリントを配布する。参考書は授業の中で紹介する。

授業コード	1107	科目名	家族論 家族の現在とそのゆくえ	担当者	門野　里栄子

【授業概要】
当たり前に存在しているかにみえる「家族」を、他文化との比較や歴史の中に置くことによって相対化し、とらえ直す作業を行う。

【到達目標】
「家族」の多様性を理解し、自分が将来築いていく家族や他の家族について、いろんな家族を受け入れられるようになることを目指す。

【授業計画】
第１回　家族をみる視点：「家族」は定義できるか？
第２回　未婚化：結婚しないかもしれない？
第３回　少子化：子どもを大事にすればするほど子どもの数は減る？
第４回　「恋愛＋結婚」と離婚
第５回　児童虐待：子どもは大切にされなくなったのか？
第６回　つくられる母性愛
第７回　「近代家族」の特徴
第８回　討論：現代の家族問題
第９回　夫婦別姓：夫婦同姓は家族の一体感か、古いイエ意識か？
第10回　事実婚：愛情としての結婚と制度としての結婚
第11回　同性愛：異性ではなく同性を愛するということ
第12回　明治民法：嫁入り婚、夫婦同姓、戸籍のルーツを探る
第13回　いろんな家族：誰と共に生きるか？
第14回　「家族」をパフォーマンスする
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回、授業に対する質問・感想などのコメントを提出してもらう。任意ではあるが、授業の最後に書くことを念頭に置きながら授業を聞いてほしい。

成績評価方法	期末試験85点、毎授業のコメント提出15点
テキスト参考書	テキストは特に指定しない。必要に応じて、授業時に資料を配布する。

授業コード	1108	科目名	福祉とボランティア －福祉施設体験学習－	担当者	山本　孝司

【授業概要】
社会福祉施設の体系を学習し、高齢者又は障害者施設で、２日間の福祉施設体験学習を実践し、利用者とのふれあい、交流、施設の業務を理解する。

【到達目標】
福祉の現場を体験し、社会福祉を必要とする人たちと職員の業務についての理解を深め、ボランティア体験ではなく、福祉業界のインターンシップと位置付ける。

【授業計画】
１．ボランティアとは
２．社会福祉施設とは、高齢者の施設
３．児童福祉・障害児にかかわる施設
４．障害者（知的、身体、精神）にかかわる施設
５．生活保護施設及び地域福祉の内容
６．福祉体験にあたってのＱ＆Ａ、車椅子介助実習、福祉体験学習の心構え
７．グループ単位で受け入れ施設オリエンテーション
上記７回の教室講義の後、２日間の福祉施設体験学習を行う。

○後期の講義開始は11月中旬、福祉体験学習は１月下旬か２月初旬。
体験学習は必須であり公休以外の欠席は認められない。また、授業中の受講態度の不適格な者は福祉体験参加を認めない。
福祉体験学習の関係で授業開始が学期の途中からとなるが、日程については掲示板等で必ず確認すること。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
２日間の福祉体験は厳しいものであり、かつ、必須なので安易な気持ちでの履修は控えること

成績評価方法	所定の福祉体験記録、福祉体験感想文を体験終了後提出すること。本レポートの提出なき者は単位取得が認められない。
テキスト参考書	「新版・よくわかる社会福祉施設－教員免許志願者のためのガイドブック」（全国社会福祉協議会）

授業コード	1109	科目名	社会保障論 生活を支える社会保障	担当者	田畑　洋一

【授業概要】
社会保障は、社会の中にしっかりと構造化され、国民生活になくてはならない存在となっている。そのため、ここでは社会保障に関する基本的テキストとレジュメを併用しながら、社会保障が身近な生活の中でどのような役割を果たしているかを考える。具体的には、社会保障の理念や概念の理解を前提に、①その役割を説明できるようにする、②日常生活の中から社会保障の事例を学び、実践に役立てられるようにする。

【到達目標】
1．生活と社会保障のつながりを学ぶ
2．社会保障の理念に関連して人権や人間の尊厳への理解を深める
3．社会保障に関わる基本的知識を学び、生活に役立てられるようする

【授業計画】
01. 生活と社会保障―社会保障を学ぶ意味
02. 社会保障とは何だろうか
03. 社会保障の理念を理解する
04. 生存権と社会保障
05. 社会福祉・社会保障のしくみの全体像
06. 事例①所得保障制度―年金と生活保護
07. 事例②医療保障制度―医療保険
08. 事例③介護保険のしくみ
09. 事例④労災保険
10. 事例⑤雇用保険
11. 社会保障を担う専門職
12. 社会保障専門職の価値と倫理
13. 福祉と共生への新たな視点
14. 終わりのない関係づくり
15. まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
新聞を読み、生活の中の社会保障を考える

成績評価方法	基本的知識の理解＝定期試験（60%）、レポート・平常点（40%）により総合的に評価する
テキスト参考書	第２版新社会福祉・社会保障

授業コード	1110	科目名	市場調査論	担当者	久富　健治

【授業概要】
市場調査に必要なデータに親しむとともに、市場データの種類、採取・分析手法の概要と利用法について学ぶ。講義の前半はマーケティングの手段としての市場調査について、後半は市場調査で利用する記述統計の基本について学ぶ（多変量解析などの概要も解説するが、その詳細は「社会調査法」で扱われる。）

【到達目標】
①マーケティングの基本概念について理解する。
②マーケティングのツールとしての基本的な統計学について学ぶ。

【授業計画】
第１回　市場調査の歴史と目的
第２回　マクロ経済の調査と分析①～景気動向を知る（その１）
第３回　マクロ経済の調査と分析②～景気動向を知る（その２）
第４回　自社と競争環境を知る①～プロダクトライフサイクル
第５回　自社と競争環境を知る②～プロダクトポートフォリオマネジメント
第６回　自社と競争環境を知る③～ SWOT 分析
第７回　市場データの種類～一次データと二次データ、定量データと定性データなど
第８回　市場データのまとめ方の基本①～度数分布表とヒストグラムの読み方と作成法
第９回　市場データのまとめ方の基本②～クロス集計表の読み方と作成法
第10回　市場データのまとめ方の基本③～平均・分散・標準偏差
第11回　市場データのまとめ方の基本④～相関関係と因果関係
第12回　多変量解析の考え方と活用事例①～重回帰分析
第13回　多変量解析の考え方と活用事例②～主成分分析と因子分析
第14回　多変量解析の考え方と活用事例③～クラスター分析
第15回　データマイニングとテキストマイニング

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
「統計学」と合わせて履修すると効果的であろう。

成績評価方法	①マーケティング課題に対応した市場調査の方法を理解しているか。　②市場データのまとめ方、分析の方法の基本を理解しているか。期末試験による。
テキスト参考書	特になし

授業コード	1111 3024	科目名	フィールドワーク　フィールドワーク４	担当者	山本　賢治

【授業概要】
社会調査で用いられる様々な質的データの収集と分析の技法を学ぶ。

【到達目標】
①生活分析・社会分析の方法を身に付ける。
②社会調査士の資格取得を目指す。

【授業計画】
1　「調べる」とは－社会調査の意義
　調査するとはいかなる実践であり、またどのような社会的行為であるか。
2　質的調査とは何か－量的調査と質的調査
　量的調査と質的調査を比較し、質的調査の意義を学ぶ。
3　質的調査の類型　　質的調査の技法の概要説明。
4　質的調査の歴史－社会学的調査の研究事例
　先行研究の中から社会学における質的調査の位置を学ぶ。
5　インタビュー・その１　　インタビューとは何か。
6　インタビュー・その２　　インタビュー法の実践。
7　ライフヒストリー分析　　ライフヒストリー法における語りと文脈、解釈と技法。
8　参与観察法　　参与観察を行った研究の対象・方法・知見について学ぶ。
9　フィールドワーク・その１　　フィールドワークの諸技法の説明。
10　フィールドワーク・その２　　観察・考現学の実践。
11　フィールドワーク・その３　　タウンウォッチングの実践。
12　内容分析・その１　　新聞記事の内容分析。
13　内容分析・その２　　雑誌記事の内容分析。
14　ドキュメント分析　　ドキュメント分析の手法と事例について学ぶ。
15　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
あたりまえと思っている日常生活や身の回りについて疑問のまなざしを向けること。

成績評価方法	授業への参加姿勢・授業態度を中心に、質的社会調査法の理解度について評価する。
テキスト参考書	〔参考書〕谷富夫・芦田徹郎編『よくわかる質的社会調査技法編』ミネルヴァ書房

授業コード	1112	科目名	社会調査法（1）	担当者	永井　純一

【授業概要】
社会調査に関する基礎的な知識と、調査結果の読解能力の習得を目指す。

【到達目標】
講義の前半では調査の種類とそれぞれの特性、情報の取扱いについての注意事項などを理解することにあてる。後半では官庁統計やマーケティングデータなどさまざまな統計資料に触れ、高度な読解能力を身につける。最終的にはレポートとして調査の設計をすることによって、学んだスキルの定着をはかり、高度なリサーチ・リテラシーの習得を目指す。

【授業計画】
1．導入
2．社会調査とは
3．社会調査の歴史
4．質的調査と量的調査
5．調査の倫理
6．報告書の読み方①
7．報告書の読み方②
8．文献・情報検索
9．データの問題点を探る①
10．データの問題点を探る②
11．データの問題点を探る③
12．国勢調査を読む
13．官庁統計を読む①
14．官庁統計を読む②
15．まとめ

成績評価方法	期末レポート
テキスト参考書	

授業コード	1113	科目名	社会調査法（2）	担当者	村上　幸史

【授業概要】
データを収集し、それを分析可能な形に加工していくスキルを身につける。実際に調査票を作成し、それをもとにデータのコーディング、クリーニングの手法を統計ソフトを用いながら習得する。質的調査については文献購読によってフォローする。

【授業計画】
第１回　調査企画
第２回　調査の設計①仮説構成
第３回　調査の設計②調査票の配布及び回収法
第４回　質問紙及び選択肢の作成①
第５回　質問紙及び選択肢の作成②
第６回　サンプリング法
第７回　データコーディング
第８回　データクリーニング
第９回　記述統計
第10回　推測統計
第11回　フィールドノーツ
第12回　質的調査文献購読①
第13回　質的調査文献購読②
第14回　質的調査文献購読③
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
社会調査士の資格用の科目であるので、基本的に資格取得を意図して受講すること。特別な復習は必要ないが、事前あるいは並行して、統計学やデータ処理演習、コンピュータ・リテラシー（2）を受講することが望ましい。

成績評価方法	平常点とレポート
テキスト参考書	テキスト：「実践　はじめての社会調査―テーマ選びから報告まで―」（白谷秀一・内田龍史・朴相権（著），自治体研究社）　参考書：「聞き方の技術―リサーチのための調査票作成ガイド―」（山田一成（著），日本経済新聞出版社）

授業コード	1114	科目名	社会調査実習（1）	担当者	村上　幸史

【授業概要】
調査の設計から実査、分析までを手がけることによって、他の科目で習得した知識の定着をはかり、社会調査に必要なスキルを身につける。質的調査と量的調査を組み合わせることによって、それぞれの特徴を学び、ひとつのテーマに対して多角的なアプローチをおこなう。調査票を用いた調査が軸となるが、その前後に観察調査、聞き取り調査を配置し、それぞれのデータを補完する形で報告書をまとめる。また報告書の作成以外にも、口頭発表の場を設けるなどして高いプレゼンテーション能力の習得も目指す。

【授業計画】
ひとつのテーマに対して観察調査、質問紙調査、聞き取り調査を用いて多角的にアプローチする。構成および内容については以下のとおり。
・観察調査（仮説を構築し、問題点を明らかにし、質問紙調査につなげる）４～６月
・質問紙調査（観察調査で得た知見をもとに、質問紙によって明らかにしたい項目をまとめ、調査を実施）６～７月

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
社会調査士の資格用の科目であるので、基本的に資格取得を意図して受講すること。特別な復習は必要ないが、事前あるいは並行して、統計学やデータ処理演習、コンピュータ・リテラシー（2）を受講することが望ましい。

成績評価方法	平常点とレポート
テキスト参考書	テキスト：「実践　はじめての社会調査―テーマ選びから報告まで―」（白谷秀一・内田龍史・朴相権（著），自治体研究社）　参考書：「聞き方の技術―リサーチのための調査票作成ガイド―」（山田一成（著），日本経済新聞出版社）

授業コード	1115	科目名	社会調査実習（2）	担当者	永井　純一

【授業概要】
社会調査に必要なスキルとプレゼンテーション能力を身につける。

【到達目標】
調査の設計から実査、分析までを手がけることによって、他の科目で習得した知識の定着をはかり、社会調査に必要なスキルを身につける。質的調査と量的調査を組み合わせることによって、それぞれの特徴を学び、ひとつのテーマに対して多角的なアプローチをおこなう。調査票を用いた調査が軸となるが、その前後に観察調査、聞き取り調査を配置し、それぞれのデータを補完する形で報告書をまとめる。また報告書の作成以外にも、口頭発表の場を設けるなどして高いプレゼンテーション能力の習得も目指す。

【授業計画】
1．データ処理・クリーニング①
2．データ処理・クリーニング②
3．調査票分析・基礎集計①
4．調査票分析・基礎集計②
5．調査票分析・クロス集計①
6．調査票分析・クロス集計②
7．調査票分析・相関係数①
8．調査票分析・相関係数②
9．調査票分析まとめ
10．インタビュー調査・企画①
11．インタビュー調査・実習①
12．インタビュー調査・実習②
13．報告書の書き方・作成
14．発表①
15．発表②

成績評価方法	期末レポート
テキスト参考書	

授業コード	1116 1117	科目名	情報のかたち	担当者	渡辺　卓也

【授業概要】
「情報とは何か」を考えながら、情報化社会を支える基本的な仕組みと、その社会で生きるための基本的姿勢を学びます。

【到達目標】
①人間が情報を知覚する基本的なしくみについて理解する。
②コンピュータが情報を処理する基本的なしくみについて理解する。
③コンピュータの今後の発展や、人間とコンピュータの望ましい関係について、さまざまな側面から考える力を持つ。

【授業計画】
第１回　はじめに
第２回　知覚と情報（１）　いろいろな知覚
第３回　知覚と情報（２）　情報としての光や音
第４回　人間の情報処理（１）　絵から文字へ
第５回　人間の情報処理（２）　数と計算
第６回　コンピュータの誕生（１）　計算機の歴史
第７回　コンピュータの誕生（２）　コンピュータ計算のしくみ
第８回　コンピュータの誕生（３）　デジタル計算の基本
第９回　マルチメディア（１）　文字
第10回　マルチメディア（２）　画像
第11回　マルチメディア（３）　音声
第12回　情報化社会（１）　インターネットの発達
第13回　情報化社会（２）　変貌する社会
第14回　情報化社会（３）　今後の展望
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
いろいろな分野と関連する話をしますので、興味を広く持って授業にのぞんでください。また、講義内容に関する発展課題への取り組みを重視しています。

成績評価方法	①「受講態度」：各回の授業内容の理解度により評価　②「課題」：各授業の発展学習と自分で考えて書く力を評価　③「試験」：基本事項の確認および総合力を評価
テキスト参考書	プリントを配布します。

授業コード	1118 1119	科目名	マルチメディア入門	担当者	渡辺　卓也

【授業概要】
画像・音声・動画の作成を通して、マルチメディアの基本を理解することを目標とします。

【到達目標】
①コンピュータが画像、音声、動画を表現する基本的なしくみについて理解する。
②マルチメディアを作成するソフトの種類や操作方法の基本を理解する。

【授業計画】
第１回　はじめに・Word で自己紹介
第２回　色について
第３回　画像処理
第４回　Word で図形描画
第５回　画像とりこみとアニメーション
第６回　３DCG に挑戦（１）
第７回　３DCG に挑戦（２）
第８回　音声の録音と編集（１）
第９回　音声の録音と編集（２）
第10回　MIDI による音楽の作成
第11回　音声と MIDI のミキシング
第12回　動画の編集
第13回～第15回　作品制作（最終課題）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
作品制作を楽しみながら、知識が身につくような授業にしたいと考えています。

成績評価方法	①「受講態度」: 各回の練習の提出状況により評価　②「課題」: 練習を応用した各自の小品の提出状況により評価　③「最終課題」: 各回の知識を組み合わせた総合作品により評価
テキスト参考書	プリントを配布します。

授業コード	1120 3208	科目名	コンピュータグラフィクス　コンピュータグラフィクス（1） Flash アニメーション制作	担当者	嶋田　理博

【授業概要】
Adobe Flash を使ったアニメーションの制作を通じて、マルチメディア作品制作の基礎を学びます。Adobe Flash は、画像や文字、音声、動画など様々なコンテンツを組み合わせ、アニメーションやインタラクティブなウェブページを制作するツールとして、広く普及しているソフトです。

【到達目標】
Adobe Flash を使って、ストーリーのあるアニメーションを制作することが出来るようになる。

【授業計画】
①　講義ガイダンス、Flash の概要
②　描画ツールの使い方
③　パラパラマンガを作る（フレームアニメーション）
④　課題制作（１）
⑤　コマとコマの間をつなぐ（モーショントゥイーン）
⑥　２つ以上の物を動かす（レイヤー）
⑦　場面を転換する（シーン）
⑧⑨　課題制作（２）
⑩　音をつける、声をあてる
⑪　アニメーションの表現を学ぶ
⑫　作品を構想する（絵コンテ）
⑬　作品を公開する（パブリッシュ）
⑭⑮　課題制作（３）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
アニメーションを制作するには、日常の観察や発想が重要です。人間の動き、動物の動き、機械の動きなど、ふだんから観察する目を養いましょう。

成績評価方法	毎回の作業内容の提出（30点）、課題制作（70点）の合計点で評価します。５回欠席した人は「不可」です。
テキスト参考書	教材資料を配付します

授業コード	1121	科目名	メディア文化論	担当者	永井　純一

【授業概要】
メディア文化としてのポピュラー音楽について考える。

【到達目標】
本講義ではメディア文化としてポピュラー音楽をとりあげる。20世紀を通じて発展してきたポピュラー音楽は、われわれの日常生活において非常に身近なものであるが、アカデミックな、あるいはジャーナリスティックな視点から注目したとき、「メディア」「社会構造」「民族性」など、さまざまなテーマを見出すことができる。本講義ではそれらに関わるいくつかのトピックを取り上げ、メディアと社会に関連した研究を紹介しつつ、ひろく社会と音楽の関連について考察する。

【授業計画】
1．はじめに
2．ポピュラー音楽と聴衆
3．Jポップ論1
4．Jポップ論2
5．Jポップ論3
6．音楽のデジタル化
7．フェスティバル
8．サウンドとイメージ（ビデオクリップ）
9．音楽の社会的影響
10．ブリットポップとクールブリタニア
11．ジェンダー、セクシュアリティと音楽
12．音楽とアイデンティティ――沖縄音楽
13．ジャマイカ・ピース・コンサート
14．震災と音楽
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
映像・音源資料または参考文献を多く紹介するので、関心を持ったものについてはフォローしておく。

成績評価方法	授業中におこなう小レポートと期末レポートによって、総合的に評価する。
テキスト参考書	なし。参考文献を適宜指示する。

授業コード	1122	科目名	マスコミ論	担当者	佐久川　昌彦

【授業概要】
テレビ、新聞、ラジオ、雑誌を４大マスコミと言っていた時代がありました。それほど影響力が大きく、情報をいわば独占していました。でも今はどうでしょうか。活字メディアの凋落に加え、生き残りに必死のテレビ。一方、ネット上には文字、動画、映像など、ありとあらゆるものがあり、誹謗、中傷、デマを含め情報は氾濫しています。今は誰もが情報の受信者であり、発信者になる時代です。情報社会をさまざまな角度から考えましょう。

【到達目標】
①情報リテラシーを養う。
②各メディアの特質を理解する。
③マスコミの歴史を知る。

【授業計画】
第１回　ガイダンス
第２回　「情報」とは何か①
第３回　「情報」とは何か②
第４回　「情報」はどのように伝えられたか①
第５回　「情報」はどのように伝えられたか②
第６回　映画－闇の劇場、映像の眩惑①
第７回　映画－闇の劇場、映像の眩惑②
第８回　テレビの衝撃①
第９回　テレビの衝撃②
第10回　フリーペーパー、フリーマガジン
第11回　ラジオと電話、ケータイ、スマートフォン①
第12回　ラジオと電話、ケータイ、スマートフォン②
第13回　ネット社会を疑う①
第14回　ネット社会を疑う②
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
メディアに親しみながらも、情報に溺れないように心がけましょう。

成績評価方法	平常点（40点）：基本的知識を理解しているかを見る。 レポート（60点）：課題に対して、自分なりの見解を持っているかを見る。
テキスト参考書	特になし。適宜プリント配布。

授業コード	1123	科目名	メディア・文化演習	担当者	永井　純一

【授業概要】
メディアを読み解くより高度なリテラシーの習得をめざす。

【到達目標】
テレビプログラムの分析を通じて、文化研究や批評の手法を学び、高いメディア・リテラシーを身につける。

【授業計画】
1.　　導入
2～3. メディアとはなにか
4～5. 私たちのメディア史
6～8. メディアと流行
9～10. コマーシャルとはなにか
11～12. テレビドラマと私たちの世界
13～14. ニュース報道を読み解く
15.　　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業内ではディスカッションをおこなうので、積極的な態度で臨むこと。

成績評価方法	授業への積極性（発言等）、期末レポートにより総合的に評価する。
テキスト参考書	Study　Guide　メディア・リテラシー【入門編】　鈴木みどり　リベルタ出版

授業コード	1124	科目名	新聞研究	担当者	佐久川　昌彦

【授業概要】
新聞は岐路に立っています。アメリカでは部数減が続いていて、経営困難から、紙の新聞そのものの発行をやめ、ネット上での配信のみ、というのも珍しくありません。日本の新聞も夕刊の部数減に直面しています。メディアへの信頼度が低下しつつある中、新聞は今後どう進むのか。新聞をめぐるさまざまな問題を考えます。

【到達目標】
①時事問題への理解を深め、幅広い知識を身につける。
②新聞に親しみ、記事を読みこなすことができるようになる。
③文章力を養う。

【授業計画】
第１回　授業ガイダンス
第２回　新聞を読む①
第３回　新聞を読む②
第４回　新聞を読む③
第５回　事件・犯罪報道を考える①
第６回　事件・犯罪報道を考える②
第７回　事件・犯罪報道を考える③
第８回　報道の自由と人権①
第９回　報道の自由と人権②
第10回　報道の自由と人権③
第11回　記事の真偽－誤報、捏造①
第12回　記事の真偽－誤報、捏造②
第13回　新聞の歴史
第14回　新聞のビジネスモデル
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
とにかく毎日、新聞（紙）に目を通すこと。興味や関心を持った記事があれば、各紙を比較するとよい。

成績評価方法	平常点（40点）：基本的知識の理解度を見る。 レポート（60点）：課題に対して、問題を把握し、自分なりの見解を持っているかを見る。
テキスト参考書	特になし。適宜プリント配布。

授業コード	1125	科目名	放送研究	担当者	吉田　秀子

【授業概要】
「放送」とは何か、「放送」は暮しの中でどのような存在か、影響や恩恵はあるのかを、放送の歴史から考察する。

【到達目標】
①放送の誕生から現在までの歴史を知り、理解する。
②受動のみでなく、能動的なかかわり方を模索する。

【授業計画】
第１回　　ガイダンス
第２回　　放送の定義
第３～５回　放送のはじまり、世界では？日本では？
第６回　　戦争と放送
第７～10回　ラジオとテレビと広告
第11回　　災害と放送
第12～14回　放送の抱える問題と提議
第15回　　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
放送を聴く、見る、を心がける。

成績評価方法	①授業への参加姿勢・受講態度 ②期末レポート
テキスト参考書	特になし

授業コード	1201	科目名	心理学概論 心理学を通した世界の見方	担当者	矢野　のり子

【授業概要】
心理学の基礎・基本となる理論や研究を学ぶ。同時にそれらを心理学史のなかに位置付ける。

【到達目標】
心理学の知見のもつ意味や実生活とのかかわりについて発見し，学ぶ。

【授業計画】
1．心理学の歴史と方法
2．構成主義（意識について）
3．感覚と知覚
4．ゲシュタルト心理学Ⅰ
5．ゲシュタルト心理学Ⅱ
6．行動主義
7．学習（古典的条件付け）
8．学習（オペラント条件付け）
9．精神分析
10．意識と無意識
11．臨床（適応とコーピング）
12．病理と異常
13．記憶Ⅰ
14．記憶Ⅱ（記憶と脳，自伝的記憶）
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
各自の経験と照らし合わせて理解していくことを望む。

成績評価方法	平常点（講義時に提出する小レポート）と定期試験で総合評価する。
テキスト参考書	詫摩武俊編「心理学【改訂版】」新曜社 適宜プリントを配布する。

授業コード	1202	科目名	心理学研究法	担当者	矢野　のり子

【授業概要】
心理学の研究には，個性記述的アプローチと法則定位的アプローチの二つの方法がある。前者は臨床心理学や発達心理学で用いられる質的アプローチである。本授業では，このような研究方法のいくつかの中から，とりわけ前者の行動観察や事例研究を集中的に学ぶ。

【到達目標】
研究方法の基礎を身につけることをめざす。また，心理測定の基礎について学び，習得することをめざす。

【授業計画】
1．オリエンテーション
2．仮説と検証
3．信頼性と妥当性
4．量的アプローチと質的アプローチ
5．調査法
6．調査法
7．観察法
8．観察法
9．観察法
10．KJ 法
11．KJ 法
12．ライフヒストリー
13．基礎的データの取り扱い
14．まとめ
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業への積極的な参加を望む。

成績評価方法	授業中の小レポートと期末レポートで評価する。
テキスト参考書	教科書は使わない。参考書は適宜紹介する。資料はコピー配布。

授業コード	1203	科目名	心理測定法	担当者	楠本　和歌子

【授業概要】
心理学における、心理学的要素や概念を測定するということはどういう理論を背景に持つのか、また、どのような測定手法があるのかについて概観する。測定したものが科学的に意味を持つために必要な知識について学ぶ。また、そのうちの一つの調査尺度を作成し、データを処理しまとめることを経験する。

【到達目標】
・心理学研究における測定法の理論や方法について基本的な内容について理解する。
・ある概念を測定するための質問紙を作成するという「尺度作成研究」を体験する。
・上記を通して、心理学研究の計画から報告までの流れについて基礎的な部分を理解する。

【授業計画】
第１回　導入（本講義における課題と今後の演習方法の説明）
第２回　心理学における測定の概観
第３回　実験的測定の方法１
第４回　実験的測定の方法２
第５回　調査による測定の方法１　調査法の概説
第６回　調査による測定の方法２　質問紙作成１：研究計画の作成
第７回　調査による測定の方法３　質問紙作成２：項目の作成と回答法
第８回　調査による測定の方法４　調査の手順
第９回　調査による測定の方法５　信頼性・妥当性
第10回　調査による測定の方法６　回答の整理、解析（１）
第11回　調査による測定の方法７　回答の整理、解析（２）
第12回　調査による測定の方法８　研究全体の報告の仕方
第13回　心理検査による測定の方法１
第14回　心理検査による測定の方法２
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
本授業は、講義だけではなく、実際に質問紙を作成し、小規模な調査を行い、そのデータを処理しまとめるという実習も含んでいる。その際、グループワークなども実施する。それらに積極的に参加することが望まれる。

成績評価方法	授業内で指定された課題の遂行状況、ワーク等への積極性を評価する。
テキスト参考書	教科書は指定せず、適宜プリントを配布する [参考書：①『看護・医療系研究のためのアンケート・面接調査ガイド』（診断と治療社）、②『心理学マニュアル　質問紙法』（北大路書房）]

授業コード	1204	科目名	心理学基礎実験	担当者	矢野　のり子

【授業概要】
心理学の基礎的な実験としてよく知られているものを取り上げる。知覚・認知・記憶・社会等の領域を中心に実験の方法について学ぶ。これらを通して，実証的手法の体系的な知識を身につけていくことをめざす。

【到達目標】
実験者および研究対象者（被験者，実験参加者，協力者等）として参加体験する。ディスカッションを通じて得られたデータを分析・考察してレポートにまとめる。

【授業計画】
1　オリエンテーション
2　実験の基礎
3　レポートの書き方
4　ミュラーリヤー
5　ミュラーリヤー
6　その他の錯視
7　盲点
8　鏡映描写
9　鏡映描写
10　触２点弁別閾値
11　触２点弁別閾値
12　記憶の実験
13　ストループ効果
14　ストループ効果
15　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回出席を前提とする。積極的な授業参加を特に望む。

成績評価方法	受講態度，および毎回の小レポートと中レポート提出によって評価する。
テキスト参考書	教科書は使用しない。資料コピーを配布する。

授業コード	1205	科目名	心理学実験実習	担当者	矢野　のり子

【授業概要】
心理学の基礎的な実験実習であるが，やや応用的なものを取り上げる。認知，社会，発達，臨床の領域を中心に，観察・調査・心理検査，面接の方法について学ぶ。また，実習の実験者（テスター）および研究対象者（被験者，実習参加者，調査協力者等）として参加体験する。

【到達目標】
得られたデータや検査結果をディスカッション，および分析・考察してレポートにまとめる。調査や検査を体験し，その手法の体系的な知識を身につけることをめざす。

【授業計画】
1．オリエンテーション
2．実験・実習の枠組み（樹のセッション１）
3．実験・実習の枠組み（樹のセッション２）
4．性格テスト
5．パースナルスペース１
6．パースナルスペース２
7．知能テスト・発達テスト１
8．知能テスト・発達テスト２
9．SD 法
10．なぐり描き１
11．なぐり描き２
12．風景構成法
13．波と星のテスト，ワルテッグテスト
14．重さの弁別
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回授業に参加し，体験することを原則とする。

成績評価方法	受講態度とレポートによる総合評価。
テキスト参考書	教科書は使わない。参考書は適宜紹介する。資料はコピー配布。

授業コード	1206	科目名	社会心理学実験実習	担当者	村上　幸史

【授業概要】
社会心理学の代表的なデータ測定の手法を体験して、それを元に報告型のレポートを書くスキルを養います。

【到達目標】
データの収集や処理方法を学び、報告型のレポートを書けるようになること

【授業計画】
第１回　　オリエンテーション
第２回～第３回　実験法１（社会的ジレンマ）
第４回～第６回　レポートの書き方
第７回　　観察法１（儀礼行動におけるコミュニケーション）
第８回～第９回　実験法２（対人認知と一対比較法）
第10回～第11回　実験法３（根本的な帰属の錯誤）
第12回～第14回　実験法４（記憶と自己関連づけ）
第15回　　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
測定方法、データ分析、レポートの執筆に関連するものとして、エクセルの基本的な操作や統計学の知識、論文の書き方など、基礎的なことについて、他の講義も合わせて受講してください。普通の講義形式の授業とは区別して、積極的な態度で授業に臨んでください。

成績評価方法	授業への参加、及び提出されたレポートで評価をします。実習内で測定したデータを元に課題を作成してもらいますので、毎週の参加が必須条件であると考えてください。
テキスト参考書	

授業コード	1207 4206	科目名	臨床心理学概論　臨床心理学 学問としての臨床心理学	担当者	楠本　和歌子

【授業概要】
ともすれば社会的に注目を集めた一部分のみで語られる臨床心理学であるが、本講義では、学問としての臨床心理学について、その歴史と理論および実践の基礎的知識について体系的に学ぶことを目的とする

【到達目標】
・臨床心理学の定義と歴史について基礎的知識を理解する。
・臨床心理学の主要な理論について知る。
・臨床心理学の実践における基礎的な考え方について学ぶ。

【授業計画】
第１回　　臨床心理学とは何か
第２回　　臨床心理学の主要な理論１（精神力動的立場）
第３回　　臨床心理学の主要な理論２（行動論的立場）
第４回　　臨床心理学の主要な理論３（人間性心理学の立場）
第５回　　臨床心理学の対象（乳幼児期・学童期）
第６回　　臨床心理学の対象（思春期・青年期）
第７回　　臨床心理学の対象（成人期・老年期）
第８回　　臨床アセスメントの基本的な考え方
第９回　　臨床アセスメントの手法
第10回　　臨床アプローチの形態（個人・家族への介入）
第11回　　臨床アプローチの形態（学校・職場・地域への介入）
第12回～第14回　臨床面接の進め方（認知行動理論を中心として）
第15回　　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
活発な意見交換を通じて、自ら具体的に実践的に考える力を養うように心がけて下さい

成績評価方法	期末の試験，授業への取り組み状況を総合的に評価
テキスト参考書	教科書は指定せず、適宜授業中に紹介する （参考書：ベーシック現代心理学８『臨床心理学』有斐閣　坂野雄二・管野純・佐藤正二・佐藤容子

授業コード	1208	科目名	認知心理学	担当者	村上　幸史

【授業概要】
日常生活の中で私たち自身が物事を理解するしくみと、それに関わる「こころ」のはたらきについて、基礎的な部分での理解を目指します。また応用的な題材として、科学的には否定される不思議現象に関する認知を具体例として取り上げます。

【到達目標】
私たち自身が物事を理解するしくみとその誤りを理解できるようになること

【授業計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　脳と心の関係
第３回　知覚のふしぎ１
第４回　知覚のふしぎ２
第５回　意識と無意識１
第６回　意識と無意識２
第７回　学習の心理学
第８回　記憶のしくみ１
第９回　記憶のしくみ２
第10回　記憶のしくみ３
第11回　思考と推論１
第12回　思考と推論２
第13回　思考と推論３
第14回　思考と推論４
第15回　まとめ

授業内容は講義を中心に、簡単な実験やビデオなども交えて進めていきます。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義で説明したことを、自分の考えでまとめたり、他者に説明できることを目指してください

成績評価方法	授業中の課題／受講態度／試験により評価します。
テキスト参考書	授業の中で紹介する予定です。

授業コード	1209	科目名	教育心理学 児童・生徒の理解につながる心理学的視点を学ぶ	担当者	楠本　和歌子

【授業概要】
教育に関わる心理学的知見について学ぶ。また、具体的な教育場面についても扱い、児童・生徒の理解を助ける心理学的な視点の基礎を身につけることを目指す。

【到達目標】
心理学という学問を背景にして、教育について考えることができる考察力を身に付ける。

【授業計画】
第１回　教育心理学とは何か
第２回　遊びと学び
第３回・第４回　発達と教育
第５回・第６回　学習と教育
第７回・第８回　社会と教育
第９回・第10回　発達障害
第11回　精神的障害
第12回～第14回　問題を抱える生徒の理解と対応
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
活発な意見交換を通じて、自ら具体的に実践的に考える力を養うよう心がけて下さい。

成績評価方法	期末のレポート試験，授業への取り組み状況を総合的に評価
テキスト参考書	教科書は指定せず、適宜授業中に紹介する

授業コード	1210	科目名	発達心理学 生涯発達の視点	担当者	楠本　和歌子

【授業概要】
発達心理学の基礎的知識を学ぶ。その際、生涯発達の視点、発達臨床心理学の視点にも触れ、各発達段階における変化や課題について考える

【到達目標】
・臨床心理学の定義と歴史について基礎的知識を理解する。
・臨床心理学の主要な理論について知る。
・臨床心理学の実践における基礎的な考え方について学ぶ。

【授業計画】
第１回　発達心理学とは
第２回　発達精神病理学的理論１
第３回　発達精神病理学的理論２
第４回　胎生期から新生児期における発達過程と問題
第５回　乳幼児期における発達過程と問題１
第６回　乳幼児期における発達過程と問題２
第７回　乳幼児期における発達過程と問題３
第８回　児童・青年期における発達過程と問題１
第９回　児童・青年期における発達過程と問題２
第10回　成人期・老年期における発達過程と問題
第11回　育児に関わる困難
第12回　子どもを支える資源
第13回　発達臨床の現場１
第14回　発達臨床の現場２
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義形式のため学生は受身になりがちですが、講義の内容を自らの生活に引きつけて考察し、活発な意見交換を通じて、能動的に考える力を養うように心がけて下さい。

成績評価方法	期末の試験，授業への取り組み状況を総合的に評価
テキスト参考書	教科書は指定せず、適宜授業中に紹介する

授業コード	1211	科目名	教育評価	担当者	飯嶋　香織

【授業概要】
教育評価に関する基本的な用語や考え方の理解を通して、教育評価についての理論的、実践的内容の理解を深めることを目的としています。

【到達目標】
教育評価に関する資料の収集方法としての心理・教育測定法や評価資料の整理の仕方について理解することを目標としています。

【授業計画】
第１回：教育評価とは何か。教育目標，教育評価の説明
第２回：教育評価の意義と方法（１）評価の目的，機能，事前評価，事後評価，形成的評価
第３回：教育評価の意義と方法（２）評価基準，評価者・被評価者，他者評価，自己評価，相対評価，絶対評価，到達度評価，個人内評価
第４回：教育評価の歴史（絶対評価と相対評価，教育測定運動，教育評価運動，ブルームの教育目標の分類）
第５回：心理・教育統計法の基礎（１）
第６回：心理・教育統計法の基礎（２）
第７回：心理・教育統計法の基礎（３）
第８回：心理・教育統計法の応用（１）
第９回：心理・教育統計法の応用（２）
第10回：心理・教育統計法の応用（３）
第11回：学力テスト問題の種類と特徴（１）
第12回：学力テスト問題の種類と特徴（２）
第13回：観察法の種類と特徴（１）
第14回：観察法の種類と特徴（２）
第15回：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
統計学の基礎的な知識が必要となりますので、未修者は併せて履修してください。

成績評価方法	期末試験70%　　授業での課題30%
テキスト参考書	向後千春他　『統計学がわかる（回帰分析・因子分析編）』技術評論社

授業コード	1212 4205	科目名	カウンセリング　カウンセリング論 対人援助視点を学ぶ	担当者	楠本　和歌子

【授業概要】
カウンセリングの基本的な知識，技術を学び，他者との相互作用の姿勢について考えることを目標とする。
講義および演習（ワーク）形式にて，カウンセリングの基礎的・具体的な技法を習得することを目指す。

【到達目標】
・カウンセリングの基礎的傾聴姿勢について理解する。
・基本的応答技法について身に付ける。

【授業計画】

第１回	カウンセリングとは何か
第２回	導入への働きかけ
第３回	カウンセリングに対する心理的防御の緩和
第４回	非言語コミュニケーション
第５回	質問の技法
第６回	必要最小限の言語化
第７回～第９回	基本的応答技法
第10回	感情の反映
第11回	話を聴く態度について
第12回	問題解決とは
第13回	目標設定とは
第14回	聴くことの実践
第15回	まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
個別ワーク、グループワーク、ロールプレイを多く実施します。それらのワークに積極的に取り組んで下さい。

成績評価方法	受講態度、授業内でのワークへの参加状況、期末テストを総合的に評価します。
テキスト参考書	教科書は指定せず、適宜プリントを配布する （参考書：『カウンセリング実践への道』高山巌・園田順一（角川書店））

授業コード	1213	科目名	教育相談 学校教育相談の理論と実際を学ぶ	担当者	楠本　和歌子

【授業概要】
本講義では、教師による学校教育相談の基礎的な知識と対応を習得することを目指す。カウンセリングの基礎理論や基本的な技法を学び、児童・生徒本人への対応及び保護者や他機関等との連携の仕方を実践的に学ぶ。そのため、授業では講義だけでなく、事例検討、グループワーク、演習も実施する。

【到達目標】
学校教育相談の現場で生じ得る事例について、その対処の道筋や対処に必要なことについて知識として理解できるようになる。

【授業計画】

第１回	教育相談とは
第２回	教育相談の歴史
第３回	カウンセリングマインドと教育相談
第４回	導入への働きかけ
第５回	傾聴と共感
第６回・第７回	支持的な対応
第８回	保護者への対応
第９回	職場内の連携
第10回	他機関への連携
第11回～第13回	事例検討
第14回	教育相談における配慮
第15回	まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
個別ワーク、グループワーク、ロールプレイに積極的に取り組んで下さい。

成績評価方法	ワークへの参加状況、レポートや試験の成績等を総合的に評価する。
テキスト参考書	教科書は指定せず、適宜プリントを配布する （参考書：『カウンセリング実践への道』高山巌・園田順一（角川書店））

授業コード	1214	科目名	人格心理学 パーソナリティの形成と病理	担当者	矢野　のり子

【授業概要】
人格（パーソナリティ）とは，個人の言動の背景にあって個人に特徴的な，一貫して持続的なまとまりであるといえる。人格についての代表的アプローチである類型論，特性論，精神分析，発達，文化人類学について論述する。また，パーソナリティの形成や社会・文化との関わり，そして病理についても学ぶ。

【到達目標】
人のパーソナリティへの興味を深めるとともに，他者理解や自己理解を促進する。

【授業計画】
1　Introduction（人格・気質・性格）
2　人格とは（名づけ）
3　意識と無意識
4　パーソナリティとアイデンティティ
5　類型論的観点から
6　人格と発達
7　自我の発達Ⅰ
8　自我の発達Ⅱ（自己と他者）
9　自分を物語る（I と me）
10　対象喪失
11　心理的危機
12　人格と病理Ⅰ
13　人格と病理Ⅱ
14　死と再生
15　文化とパーソナリティ・まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
受講者自らが考え，学び，自己の体験をとらえなおす。授業への積極的参加が望まれる。

成績評価方法	平常点とレポートにより総合評価する。
テキスト参考書	教科書は使わない。コピー資料を配布。　参考文献（より学びたい人は・・）：岡本夏木・山上雅子編「意味の形成と発達」，ミネルヴァ書房。　滝川一廣著「『こころ』の本質とは何か」，ちくま新書。

授業コード	1215	科目名	青年心理学 青年期について考える	担当者	矢野　のり子

【授業概要】
青年期は、子どもから大人への移行期であり，心身の両面において重要な変容を遂げる。本授業では青年期について、発達課題、自我形成、対人関係の諸相についてみていく。

【到達目標】
青年期についての代表的な説をとりあげ、生涯発達における青年期の諸問題を考える。青年期を客観的にみていくだけでなく、渦中にある学生自身とともに考え、自己理解と他者理解そして自己洞察を深めていくことをめざす。

【授業計画】
①オリエンテーション
②青年期とはどのような時期か
③ピーターパン症候群といばら姫
④人間のこころの発達と課題Ⅰ
⑤人間のこころの発達と課題Ⅱ
⑥愛着について
⑦アイデンティティの理解Ⅰ
⑧アイデンティティの理解Ⅱ
⑨青年期における I と me
⑩青年期の孤独感
⑪青年期の病理
⑫自己理解と他者理解
⑬青年期の対人関係
⑭まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
主体的に授業に参加して、問題意識と疑問を抱いてほしい。主人公は受講者自身である。

成績評価方法	授業への参加度、授業中の小レポート＋期末レポートで評価する。
テキスト参考書	テキストは使用しない。適宜プリントを配布。参考書や映画等を適宜紹介する。

授業コード	1216	科目名	社会心理学	担当者	村上　幸史

【授業概要】
われわれは思う以上に多くの人と接しており、そのことが自分自身の態度、行動を決めているとは言い過ぎでしょうか。
私・私たち・集団とその範囲を拡大して見ていくことで、社会とその中で暮らす人についての理解を試みます。

【到達目標】
社会的な意味を持つ人の行動について、興味を持ち、理解するようになること

【授業計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　自己呈示
第３回　人の印象と魅力
第４回　恋愛を科学する
第５回　人が見ていることの影響１
第６回　人が見ていることの影響２
第７回　状況の力
第８回　うわさの魔力
第９回　説得
第10回　少数者影響１
第11回　少数者影響２
第12回　集団討議１
第13回　集団討議２
第14回　なわばり
第15回　まとめ

授業内容は講義を中心に、簡単な実験やビデオなども交えて進めていきます。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義で説明したことを、自分の考えでまとめたり、他者に説明できることを目指してください

成績評価方法	授業中の課題／受講態度／試験により評価します。
テキスト参考書	授業の中で紹介する予定です。

授業コード	1217	科目名	環境心理学	担当者	上村　晃弘

【授業概要】
環境心理学とは、人間と広い意味での環境との関係を研究する、心理学の中でも比較的新しい学問分野です。本講義では、物理的環境、住環境、社会的環境から自然環境まで幅広く学んでいきます。

【到達目標】
①様々な環境でよりよく生きていくための知識を獲得する。
②環境と私たちの関係について意識し、理解を深める。

【授業計画】
第１回　　：環境心理学とは何か
第２回～第３回：環境の知覚と認知
第４回　　：環境の評価
第５回　　：環境査定と環境デザイン
第６回～第７回：パーソナリティ・個人差と環境
第８回～第９回：対人・社会環境
第10回　　：住環境と都市環境
第11回～第12回：教育環境と労働環境
第13回　　：自然環境の心理学
第14回　　：犯罪と環境
第15回　　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
受講態度を重視する。教科書は、毎回使用するので必ず購入すること（教科書を所有しない人は単位認定しない）。
また、授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は厳禁とする。

成績評価方法	①『受講態度』：まじめに出席して知識の獲得に努めたか（10回以上出席すること） ②『期末レポート』：環境と私たちの関係について理解し、自分の意見を述べたか
テキスト参考書	羽生和紀　(2008)『環境心理学―人間と環境の調和のために』 サイエンス社

授業コード	1218	科目名	集団心理学	担当者	矢野　のり子

【授業概要】
人間は活動している社会のなかで人々と相互作用を繰り返しながら生活しており，その意味で基本的に社会的存在である。家族・学校・職場といった集団のなかで行動する私たちは，その集団の影響を受けて，一人のときとは異なった行動をすることもある。本授業では，社会行動とその心理についてさまざまな面から学ぶ。

【到達目標】
自分と他の人との関わりのなかで生じるさまざまな心理や行動のしくみ，個人や集団との関わり，集団のなかでの人間行動などについて考える。

【授業計画】
1　Introduction
2　集団とは？
3　集団のジレンマ
4　他者とのかかわり・孤独感
5　集団の光と影（学校について考える）
6　光背効果
7　ステレオタイプ
8　印象形成
9　原因帰属とバイアス
10　噂・デマ・風評
11　子どもにおける他者理解
12　社会的知能と嘘
13　同調行動
14　まとめ
15　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
新聞等を通して社会への関心をもつこと。授業への積極的な参加を望む。

成績評価方法	平常点とレポートにより評価する。
テキスト参考書	教科書は使用しない。コピー資料を配布する。

授業コード	1219	科目名	産業心理学 産業・組織心理学	担当者	楠本　和歌子

【授業概要】
産業・組織におけるさまざまな心理学的知見について学ぶ。大学卒業後、職業に就き、組織に属することになる多くの大学生にとって、学問としてだけでなく、自分自身に引きつけて将来有用な知識となることを目指す。

【到達目標】
・産業・組織心理学に関する基礎的な理論について知る。
・その理論が実社会にどのように活かされるかを理解する。
・組織のなかの個（自分自身）について検討する力を養う。

【授業計画】
第１回　産業・組織心理学とは何か
第２回　モチベーション１
第３回　モチベーション２
第４回　組織のコミュニケーションと人間関係
第５回　組織における意思決定
第６回　組織におけるリーダーシップ
第７回　仕事の能率と安全
第８回　キャリア開発とキャリアカウンセリング１
第９回　キャリア開発とキャリアカウンセリング２
第10回　職場のストレスとサポート１
第11回　職場のストレスとサポート２
第12回　職場のストレスとサポート３
第13回　消費者行動とマーケティング１
第14回　消費者行動とマーケティング２
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
グループ討議を取り入れた授業を行います。活発な意見交換を通じて、自ら具体的に実践的に考える力を養うように心がけて下さい。

成績評価方法	期末の試験，授業への取り組み状況を総合的に評価
テキスト参考書	教科書は指定せず、適宜授業中に紹介する （参考書：『産業心理学』培風館、『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房　等）

授業コード	1220	科目名	消費者の心理 売り手と買い手の心理学	担当者	池内　裕美

【授業概要】
なぜ“期間限定”や“人気商品”といわれると、その商品が魅力的に見えてしまうのだろうか。なぜ“298円”や“1980円”だと得したように感じてしまうのだろうか。本講義では、こうした消費生活を取り巻く身近な諸問題について、特に企業のマーケティング活動や消費者行動に関する数々の理論や法則に焦点を当てて解説していく。

【到達目標】
効果的なマーケティング活動を実現するには、企業側の心理と消費者側の心理の両方に対する理解が不可欠となる。本講義では、こうした消費の現場における売り手と買い手の心理について具体的に把握できること、そして講義を通して得た知識を日頃の自分自身の購買行動や、実際の消費現象に当てはめて分析できるようになることを目指す。

【授業計画】
＜０．イントロダクション＞
第01回　オリエンテーション：売り手と買い手の心理学（マーケティングと消費者心理）
＜１．マーケティングの心理学＞
第02回　売り手の心理①：「マーケティング」って何？
第03回　売り手の心理②：マーケティング戦略の構築
第04回　売り手の心理③：マーケティングの成功事例（雑誌『sweet』、いろはす、スターバックス等）
第05回　売り手の心理④：マーケティング・ミックス
第06回　売り手の心理⑤：マーケティングの新展開（ソーシャル・マーケティング、コーズ・マーケティング等）
＜２．消費者の心理学＞
第07回　買い手の心理①：消費者の購買意思決定過程：ブランド選択の心理
第08回　買い手の心理②：衝動買いはなぜ起きるのか１：非計画購買を引き起こす状況要因
第09回　買い手の心理③：衝動買いはなぜ起きるのか２：非計画購買を引き起こす状況要因
第10回　買い手の心理④："198円 " が安く感じる理由１：価格判断の過程と法則
第11回　買い手の心理⑤："198円 " が安く感じる理由２：価格判断の過程と法則
第12回　買い手の心理⑥：評判がよいと欲しくなる１：口コミによる流行現象と影響過程
第13回　買い手の心理⑦：評判がよいと欲しくなる２：インターネットによる消費者間コミュニケーション
第14回　買い手の心理⑧：消費者心理の闇１：騙される消費者と訴える消費者
第15回　買い手の心理⑨：消費者心理の闇２：コレクターの心理と買物依存症
※トピックスの順序およびタイトルは、進捗状況に応じて変更・統合する可能性がある。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
特に心理学やマーケティングに関する専門的知識がなくても、理解できるように進めていく予定であるが、モノを買ったり広告を見たりした時の自分自身の心理状態について、日頃から関心を持つようにして欲しい。

成績評価方法	基本的に期末に実施する定期試験の成績にて評価する予定である。ただし受講生の状況によっては、受講態度を平常点として取り扱うこともある。
テキスト参考書	テキストは用いない。教科書代用の配布プリントを中心に、パワーポイントを使用した講義形式で授業を進めていく。また可能な限り、テーマに合わせてビデオ教材を用いる予定である。

授業コード	1301	科目名	ミクロ経済学	担当者	佐藤　光

【授業概要】
ミクロ経済学を初心者向けにわかりやすく講義する。

【到達目標】
経済活動を論理的に考える習慣を身につける。

【授業計画】
1．市場経済のしくみ
2．ミクロ経済学とはなにか
3．完全競争市場の特徴
4．消費者の行動
5．企業の行動
6．需要曲線と供給曲線
7．市場の均衡
8．市場均衡の安定性
9．市場均衡と経済厚生（1）－生産者余剰、消費者余剰、社会余剰
10．市場均衡と経済厚生（2）－競争と最適性
11．いろいろな不完全競争市場
12．独占
13．寡占－ゲームの理論によるアプローチ
14．市場の失敗と政府の役割
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
熱心にノートをとり、積極的に質問すること。

成績評価方法	平常点と期末試験による。
テキスト参考書	テキストは使用しないが、必要に応じて、プリントを配布し参考文献を紹介する。

授業コード	1302	科目名	マクロ経済学	担当者	佐　藤　　光

【授業概要】
マクロ経済学を初心者向けにわかりやすく講義する。

【到達目標】
日本経済の時事的問題を理論的に考える力を身につける。

【授業計画】
1．マクロ経済学とはなにか
2．マクロ経済学の基礎概念－ GDP、GNP など
3．IS － LM 分析①－ IS 曲線
4．IS － LM 分析②－ LM 曲線
5．IS － LM 分析③－ケインズ均衡と GDP の決定
6．IS － LM 分析④－財政政策の効果
7．IS － LM 分析⑤－金融政策の効果
8．IS － LM 分析⑥－開放経済のマクロ分析
9．IS － LM 分析⑦－開放経済における財政政策と金融政策の効果
10．短期分析と長期分析
11．経済成長の理論①－新古典派
12．経済成長の理論②－ケインズ派
13．経済成長の理論③－シュンペーター派
14．経済成長の理論④－どの理論が正しいか
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
熱心にノートをとり、積極的に質問すること。

成績評価方法	平常点と期末試験による。
テキスト参考書	テキストは使用しないが、必要に応じて、プリントを配布し参考文献を紹介する。

授業コード	1303	科目名	日本経済論	担当者	佐　藤　　光

【授業概要】
戦後日本経済の発展過程を振り返ったあと、日本経済が現在直面する諸問題を分析して、将来の進路を展望する。

【到達目標】
新聞、テレビ、ネットなどに出てくる日本経済に関する記事を体系立てて理解する。

【授業計画】
1．日本経済論がめざすもの
2．日本経済の現状
3．敗戦後の日本経済－焼け跡からの再出発
4．朝鮮特需と高度経済成長のはじまり
5．第１次高度成長期
6．第２次高度成長期
7．高度成長をもたらしたもの（１）－国外要因
8．高度成長をもたらしたもの（２）－国内要因
9．安定成長時代の訪れ
10．バブル経済とその破綻
11．「失われた20年」とデフレーション
12．財政赤字と少子・高齢化社会
13．アベノミクス
14．豊かな低成長時代に向かって
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
熱心にノートをとり、積極的に質問すること。

成績評価方法	平常点と期末試験による。
テキスト参考書	テキストは使用しないが、必要に応じて、プリントを配布し参考文献を紹介する。

授業コード	1304	科目名	国際経済論	担当者	佐藤　光

【授業概要】
国際経済学の基礎知識を解説した上で、現実の世界経済の動向を分析する。

【到達目標】
新聞、テレビ、ネットなどに出てくる世界経済に関する記事を体系的に理解する。

【授業計画】
1．国際経済論がめざすもの
2．世界経済の現状と課題
3．国際収支とはなにか
4．国際経済のフレームワーク－国際通貨制度と為替レート制度
5．貿易、資本移動、為替レート
6．自由貿易の利益（1）－リカードの比較生産費説
7．自由貿易の利益（2）－要素賦存比率と比較優位
8．自由貿易の利益（3）－収穫逓増と不完全競争
9．自由貿易は常に利益をもたらすか
10．保護貿易の利益と不利益
11．理論から現実へ
12．TPP はなにをもたらすか
13．EU の現在
14．中国、インド、新興国の台頭
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
熱心にノートをとり、積極的に質問すること。

成績評価方法	平常点と期末試験による。
テキスト参考書	テキストは使用しないが、必要に応じて、プリントを配布し参考文献を紹介する。

授業コード	1305	科目名	金融論 制度と政策を中心に	担当者	久富　健治

【授業概要】
経済社会からどのように金融機能が分離したか、それが現在どのような制度になっているか、まずは歴史と制度論から入り、金融政策や銀行行政のような政策論、現代的な具体的課題としての中小企業金融の解説をする。
難解な金融理論にはあまり立ち入らず、地域社会の活性化に結び付く中小企業金融に重点を置く。

【到達目標】
わが国の金融制度の全体像を理解し、地域社会活性化の手段としての中小企業金融の仕組みを修得する。

【授業計画】
1．社会的分業における金融
2．わが国の金融制度①
3．わが国の金融制度②
4．金融政策のあらまし①
5．金融政策のあらまし②
6．わが国の銀行行政の歴史と制度①
7．わが国の銀行行政の歴史と制度②
8．中小企業の資金調達構造の特徴と問題点
9．中小企業をめぐる最近の金融手法①～スコアリング融資、動産担保融資
10．中小企業をめぐる最近の金融手法②～デットエクイティスワップ、知的財産担保融資
11．中小企業と「地域密着型金融」①～中小・地域金融機関をめぐる銀行行政の経緯
12．中小企業と「地域密着型金融」②～中小・地域金融機関による取組事例の分析
13．中小企業融資審査の手法①～定量的側面
14．中小企業融資審査の手法②～定性的側面
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業をしっかり聞き、復習に力を入れること。

成績評価方法	期末試験による。随時小テストを実施することもある。
テキスト参考書	特になし。

授業コード	1306	科目名	経営学原理（1）	担当者	久富　健治

【授業概要】
現代社会において企業とはどのような存在かを学ぶ。

【到達目標】
「会社（企業）」について、その種類や成り立ちを理解し、個人との関係、市民社会との関係、環境問題との関係など、多様な側面から考えるための基礎知識を習得する。

【授業計画】
第１回　ガイダンス「経営学原理（１）で何を学ぶのか」
第２回　「会社」にはどのような種類があるか
第３回　株式会社の基本的性格「株主有限責任と株式自由譲渡性」
第４回　株式会社のガバナンス構造①　「所有と経営の分離」論
第５回　株式会社のガバナンス構造②　「ステイクホルダー・アプローチ」
第６回　組織と個人を考える①　「テイラーの科学的管理法の功罪」
第７回　組織と個人を考える②　「ビデオ鑑賞『モダン・タイムス』」
第８回　組織と個人を考える③　「ホーソン実験と人間関係論」
第９回　法人資本主義と企業①　「自然人と法人～法人格否認の法理」
第10回　法人資本主義と企業②　「八幡製鉄政治献金事件を題材に」
第11回　法人資本主義と企業③　「チッソ水俣病事件を題材に」
第12回　環境問題と経営学①
第13回　環境経営と経営学②
第14回　CSR（「企業の社会的責任」）と経営学①
第15回　CSR（「企業の社会的責任」）と経営学②

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習は不要だが、復習には力を入れてほしい。ノートの整理や基本用語・概念の習得に毎回１時間以上はかけること。
著しい遅刻、途中退出、居眠り、私語、内職等は厳禁である。授業に集中すること。

成績評価方法	①会社の種類や株式会社の基本的成り立ちを理解しているか。　②現代社会における法人企業の社会的意義を理解しているか。　③現代社会における経営学の役割を理解しているか。　小テスト（ミニレポートを課す場合もあり）と期末テストによる。なお、出席はして当然なので「出席点」なるものは存在しない。
テキスト参考書	なし

授業コード	1307 2003	科目名	経営学原理（2）　経営学	担当者	久富　健治

【授業概要】
「経営学原理（1）」では、企業の「社会的意味」のようなものを主に取り扱ったが、「経営学原理（2）」では、企業の「社会的機能」を扱う（「経営学」と聞いて、通常イメージするものに近いと思う）。

【到達目標】
資本主義的企業は、収益をあげ、存続するために、労働者を管理し、組織を構築し、戦略を練り、市場への浸透、開拓を行う。その過程でさまざまな「革新（イノベーション）」が引き起こされ、新たなビジネスモデル、新技術、新製品が生まれ、社会そのものの姿を変えていく。このような企業の「社会的機能」を学び、動態的な「企業観」を身に付けてほしい。

【授業計画】
第１回　ガイダンス「経営学原理（２）で何を学ぶのか」
第２回　経営学の歴史①　「バーナード概観」
第３回　経営学の歴史②　「サイモン概観」
第４回　経営学の歴史③　「ドラッカー概観」
第５回　企業における組織①
第６回　企業における組織②
第７回　企業と戦略①
第８回　企業と戦略②
第９回　企業と財務①
第10回　企業と財務②
第11回　企業の人的資源管理
第12回　企業とマーケティング①
第13回　企業とマーケティング②
第14回　企業とイノベーション①
第15回　企業とイノベーション②

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習は不要だが、復習には力を入れてほしい。ノートの整理や基本用語・概念の習得に毎回１時間以上はかけること。
著しい遅刻、途中退出、居眠り、私語、内職等は厳禁である。授業に集中すること。

成績評価方法	①組織論、戦略論、財務論、人的資源管理論などの基本を理解しているか。　②現代社会における企業のダイナミズムをマーケティングとイノベーションの視点から理解しているか。　小テスト（ミニレポートを課す場合もあり）と期末テストによる。なお、出席はして当然なので「出席点」なるものは存在しない。
テキスト参考書	なし

授業コード	1308 3113	科目名	社会的企業論　NPO 論	担当者	山地　久美子

【授業概要】
現代社会では社会問題の解決を目指した様々な社会活動が行われています。社会活動を継続していくためにはボランティアに加えて、別の仕組みが必要です。益々注目されているのが NPO（Non-Profit Organization：民間非営利組織）と社会的企業であり、これらの活動は今後大きくなると期待されています。講義では日本の NPO、社会的企業の取組を中心に米国、韓国等の取組を交えながらそれらの歴史、組織、仕組み、運営、実態について学びます。そして、一般企業と NPO・社会的企業との役割などの違いを比較検討し、NPO を「働く場」として捉えます。また、東日本大震災からの復興の過程で NPO や社会的企業が大きな役割を果たしていることを確認するとともに、阪神・淡路大震災（1995年）の経験や神戸で発動する NPO・ボランティア団体を訪問するフィールドワークを行います。

【到達目標】
①NPO、社会的企業の実態、社会的意味を学び、組織、仕組み、運営方法を理解する
②自ら NPO や社会的企業のアイディアをうみ出す
③フィールドワークを通じて実践を学ぶ

【授業計画】
（1）　社会問題の見つけ方
（2）　ボランティアから NPO へ（阪神・淡路大震災から東日本大震災の復興へ）
（3）・（4）　米国・韓国などの NPO
（5）　NPO の組織、特定非営利活動促進法（NPO 法）など
（6）　社会的企業って何？
（7）　社会的企業の仕組みと実践
（8）　神戸の NPO
（9）・(11)　NPO の現場　フィールドワーク
(10)・(12)　NPO の運営・マネジメント・ファンドレイジング
(13)・(14)　NPO をつくろう、NPO で働いてみよう
(15)　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
なぜ、社会に NPO や社会的企業が必要なのか、日々の生活の中で社会的課題を見つける目を養うこと。日本、さらに国際的な視野で考えるため新聞やテレビニュースを日常的にチェックする習慣を身につけてください。

成績評価方法	①期末試験（レポート）、②講義中のミニレポート、③授業への参加姿勢
テキスト参考書	必要な資料を配布する。

授業コード	1309	科目名	会計学原理	担当者	久富　健治

【授業概要】
ビジネスパーソンの基本的な素養として、企業会計（株式会社会計）の成り立ちを学ぶ。

【到達目標】
①株式会社会計の基本的な仕組みを理解する。
②決算書等から自分で簡単な経営分析を出来るようにする。

【授業計画】
第１回　企業会計の目的と体系
第２回　財務諸表の種類と目的
第３回　賃借対照表の構造と見方
第４回　資産会計の基本
第５回　負債会計の基本
第６回　資本会計の基本
第７回　損益計算書の構造と見方
第８回　キャッシュフロー計算書の構造と見方
第９回　連結会計の基本
第10回　税効果会計の基本
第11回　経営的意思決定と管理会計
第12回　経営分析の基礎①各種の分析指標
第13回　経営分析の基礎②損益分岐点分析
第14回　会計の新潮流～環境会計とＣＳＲ会計
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
簿記、会計学はシステマティックで積み上げ型の分野なので、休まず受講されたい。なお、基本的な事柄を扱うので各種会計資格等の取得者には物足りないかもしれない。

成績評価方法	①財務会計の役割と構造を理解しているか。　②管理会計の役割と方法を理解しているか。 ③決算書等から自分で経営分析ができるか。　試験
テキスト参考書	「ビジネス会計検定３級　公式テキスト」 大阪商工会議所

授業コード	1310	科目名	経営分析論	担当者	久富　健治

【授業概要】
企業のさまざまな定量・定性データを用いて、企業経営の特徴（良否）を明らかにし、経営の意思決定の判断材料を提供するのが経営分析の役割である。本授業では、財務諸表（決算書）のあらましを確認したうえで、経営分析の各手法について解説する。適宜、演習を交える。

【到達目標】
自分で興味を持った企業の経営分析をできるだけの基礎知識と手法を身に着ける。

【授業計画】
1．財務諸表のあらまし
2．経営分析のあらましと体系
3．収益性分析①
4．収益性分析②
5．効率性分析①
6．効率性分析②
7．安全性（流動性）分析①
8．安全性（流動性）分析②
9．生産性分析①
10．生産性分析②
11．キャッシュフロー計算書分析
12．CVP 分析①
13．CVP 分析②
14．定性分析のあらまし
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
適宜、演習を交えるので電卓を持参し積極的に参加すること。

成績評価方法	演習への取組態度と期末試験
テキスト参考書	なし

授業コード	1311	科目名	生活経済論 身近な生活から経済を考える	担当者	伏木　真理子

【授業概要】
私たちは、今、お金で商品やサービスを買って生活しているが、当たり前と思っているこの仕組みは、どのようにしてできて来たのだろうか。そもそもお金とは何だろうか。また、様々なものにマニュアル（使用・取扱説明書）がついているが、振り返って見れば、私たちの生活には切っても切り離せない存在であるお金には、マニュアルがついていない。
この授業では、上記のような素朴な疑問からスタートして、現在、社会で起こっている種々の問題について、基礎的な経済学の理論にも触れながら、考えていく。また、その使い方によっては人を幸福にも不幸にするお金の、言わばマニュアルに当たる、お金の管理の仕方などについても解説をしていく。

【到達目標】
・経済社会におけるモノとお金の循環について理解する。
・自らのライフプラン（人生・生活設計）に基づき、生活資源の管理ができるようになる。

【授業計画】
1．オリエンテーション
2．経済の基本的問題（資源の稀少性、トレード・オフ、機会費用）
3．交換経済（社会的分業、特化、余剰生産物、市場）、貨幣経済
4．市場経済と計画経済、市場経済社会における消費者の役割、経済的投票
5．様々な決済方法（現金、プリペイドカード、クレジットカード、デビットカード、電子マネー等）
6．個人の価値観、経済的目標に基づいた主体的な人生・生活設計
7．収入・所得（職業選択、生涯所得等）、意思決定過程
8．貯蓄
9．投資（国債、債券、株式、投資信託等。株式学習ゲームも活用する。）
10．税金
11．保険（生命保険、医療保険、火災保険、自動車保険等）
12．年金、相続
13．現在の日本経済（景気循環、インフレ、デフレ、ＧＤＰなど経済指標、財政・金融政策）
14．先進国と発展途上国（南北問題）、経済成長と持続可能な経済
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎週の課題提出は、自己管理、ひいては生活資源の管理にもつながります。

成績評価方法	定期試験 50%、課題 35%、授業への参加姿勢・受講態度 15%
テキスト参考書	特になし。適宜プリント配付。

授業コード	1312	科目名	労働経済論	担当者	佐藤　光

【授業概要】
戦後日本の企業社会を念頭に置いて、労働や仕事のあり方の特徴や変化をわかりやすく解説する。

【到達目標】
自分の職業を考えるヒントを得る。

【授業計画】
1．労働経済論がめざすもの
2．市場経済のなかの労働と仕事－「労働の商品化」
3．戦後日本の会社と経済－日本的経営と日本的経済システム
4．日本的経営の特徴①－終身雇用、年功賃金、企業別組合
5．日本的経営の特徴②－ OJT（仕事をしながらの技能訓練）
6．高度経済成長の終わりと日本経済①－高度成長を可能としたもの
7．高度経済成長の終わりと日本経済②－バブル経済の原因と帰結
8．高度経済成長の終わりと日本経済③－「失われた20年」とデフレスパイラル
9．高度経済成長の終わりと日本経済④－財政赤字と高齢化社会
10. 日本経済の現状と近未来－低成長時代をどう生きるか
11. 日本的経営の変貌①－さよなら「会社人間」
12. 日本的経営の変貌②－増え続ける派遣社員
13. 日本的経営の変貌③－女性と高齢者の役割
14. 外国人労働者の役割
15. まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
熱心にノートをとり、積極的に質問すること。

成績評価方法	平常点と期末試験による。
テキスト参考書	テキストは使用しないが、必要に応じて、プリントを配布し参考文献を紹介する。

授業コード	1313	科目名	ファイナンシャルプランニング（1）	担当者	飯嶋　香織

【授業概要】
卒業後の長い人生で必ず必要となる、パーソナル・ファイナンスの基礎知識を修得し、さらに今後の人生設計を考えることを目標にしています。ファイナンシャル・プランニング技能検定３級の試験合格で今後の人生設計や就職に生かせるようにすることです。

【到達目標】
現在及び卒業後の長期の人生設計をお金の面から総合的に考え、今後の人生設計について具体的なプランを立てること、年金・税金・資産運用・不動産・相続・保険など生活に密着した知識を身につけることを目標にしています。

【授業計画】
1）ライフプランニングと資金計
　①ライフプランニング、ライフイベント表
　②医療、介護、年金など、公的制度のしくみ
　③まとめと確認テスト
2）リスク管理
　①生命保険の分類、保険料の仕組みと構成、商品の基本類型
　②生命保険と税金
　③損害保険の分類、保険料の仕組みと構成、商品の基本類型
　④損害保険と税金
　⑤まとめと確認テスト
3）金融資産運用設計
　①リスクとリターン・分散投資
　②各種預金の種類と特徴、各種金融商品の特徴
　③金融資産運用設計
　④まとめと確認テスト
4）タックスプランニング
　①所得税、法人税、消費税などの基本的理解
　②所得税の計算手順、税額の計算方法
　　利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得、給与所得など
　③所得税の申告と納付、税額控除
　④まとめと確認テスト
5）不動産運用
　①不動産の見方、取引、法律
　②不動産に関する法令上の規制
　③不動産の取得・保有・譲渡に係る税金
　④まとめと確認テスト
6）相続・事業承継
　①贈与と税金
　②相続と法律
　③相続と税金
　④まとめと確認テスト

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
試験に合格するためは、授業時間だけでなく、自学自習が必要となります。
※平成27年９月13日（日）実施のファイナンシャル・プランナー（FP）３級の試験を受検してください。

成績評価方法	授業内演習問題のと最終試験で評価します。授業内演習問題（40%）と最終試験（60%）
テキスト参考書	前田信弘「一発合格！FP 技能士３級完全攻略テキスト14－15年版」ナツメ社

授業コード	1314	科目名	ファイナンシャルプランニング（2）	担当者	飯嶋　香織

【授業概要】
卒業後の長い人生で必ず必要となる、パーソナル・ファイナンスの基礎知識を修得し、さらに今後の人生設計を考えることを目標にしています。ファイナンシャル・プランニング技能検定２級、３級の試験合格をめざし、就職や今後の人生に生かせるようにすることです。

【到達目標】
現在及び卒業後の長期の人生設計をお金の面から総合的に考え、今後の人生設計について具体的なプランを立てること、年金・税金・資産運用・不動産・相続・保険など生活に密着した知識を身につけることを目標にしています。

【授業計画】
1）ライフプランニングと資金計画
　①ライフプランニングの意味と必要性個人バランスシートの作成
　②教育、住宅、老後の三大資金計画の課題と設計
　③公的制度と公的年金制度を補完する私的制度の役割と仕組み
2）リスク管理
　①生命保険の分類、主な特約の理解、保険証券の読み取りなど
　②第三分野の保険
　③生命保険と税金
　④損害保険の種類と特徴（火災・地震、自動車、傷害、賠償責任保険など）
　⑤損害保険と税金（個人と法人の場合、保険料支払いと保険金受取りの場合）
3）金融資産運用設計
　①主要なマーケット指標、マーケットの変動要因
　②各種預金の種類と特徴、投資信託、信託商品、金融債などの種類と特徴
　③金融資産運用設計
　④投資信託　債権投資　株式投資など
4）タックスプランニング
　①わが国の税制
　②所得税、法人税、消費税などの税額算出の体系
　③法人住民税・法人事業税、消費税
5）不動産運用
　①不動産の見方、取引、法律
　②不動産に関する法令上の規制
　③不動産の取得・保有・譲渡に係る税金
　④不動産の賃貸と税金
　⑤不動産の有効活用
6）相続・事業承継
　①贈与と税金
　②相続と法律
　③相続財産の評価、税金
　④相続対策、事業承継対策

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
前期のファイナンシャルプランニングを受講していることが望まれます。
試験に合格するためには、授業時間だけでなく、自学自習が必要となります。
※平成28年１月24日（日）実施のファイナンシャル・プランナー（FP）２級の試験を受検してください。

成績評価方法	授業内演習問題のと最終試験で評価します。授業内演習問題（40％）と最終試験（60％）
テキスト参考書	前期受講していない学生は、前田信弘「一発合格！FP 技能士３級完全攻略テキスト14－15年版」を各自で購入してください。

授業コード	1315	科目名	生活と法	担当者	山下　紗矢佳

【授業概要】
私たちの日常生活のルールとなる民法について身近な事例を通じてその基礎的知識及び意義について解説する。

【到達目標】
社会における民法の必要性を理解し、基礎的な理論と知識を深めること。

【授業計画】
第１回目：ガイダンス
第２回目：民法を学ぶにあたって
第３回目：民法総論
第４回目：契約総論
第５回目：通謀虚偽表示
第６回目：錯誤
第７回目：消滅時効
第８回目：取得時効
第９回目：即時取得
第10回目：対抗要件
第11回目：相隣関係
第12回目：担保
第13回目：不法行為
第14回目：相続
第15回目：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
日常生活と法の関わりについて関心を持ち履修することが望ましい。

成績評価方法	平常点、レポート、定期試験で評価する。
テキスト参考書	授業中に紹介する。

授業コード	1316	科目名	企業と法	担当者	山下　紗矢佳

【授業概要】
現代の企業経営においてコーポレート・ガバナンス（企業統治）の役割の重要性が増してきている。その背景としては企業の不祥事の多発があげられる。企業経営において必要とされる法律の基礎知識を学び法律的思考を身につける。

【到達目標】
企業の概念および企業経営における法制について理解を深める。

【授業計画】
第１回目：ガイダンス
第２回目：企業と法
第３回目：法理念
第４回目：権利・義務
第５回目：会社の種類
第６回目：大企業と中小企業
第７回目：株式会社①
第８回目：株式会社②
第９回目：契約の種類
第10回目：企業の不祥事①
第11回目：企業の不祥事②
第12回目：企業の不祥事③
第13回目：その他契約
第14回目：グローバル化と企業経営
第15回目：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
日常生活と法の関わりについて関心を持ち履修することが望ましい。

成績評価方法	平常点、レポート、定期試験で評価する。
テキスト参考書	授業中に紹介する。

授業コード	1317	科目名	行政と法	担当者	山下　紗矢佳

【授業概要】
「行政」とは法律学において立法や司法と並ぶ一つの国家作用である。立法権、司法権と並び、統治権の一つとして、行政を行う権能を行政権がある。講義形式の下、法の機能や法制度について、多様な事例、判例を活用しながら、幅広く概観する。

【到達目標】
社会における法整備の必要性を理解し、基礎的な理論と知識を深めること。

【授業計画】
第１回目：ガイダンス
第２回目：行政を学ぶにあたって
第３回目：行政とは何か
第４回目：行政法について
第５回目：行政組織について
第６回目：行政行為について
第７回目：行政事件訴訟①
第８回目：行政事件訴訟②
第９回目：行政事件訴訟③
第10回目：行政不服審査①
第11回目：行政不服審査②
第12回目：行政不服審査③
第13回目：国家賠償法
第14回目：損失補償
第15回目：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
日常生活と法の関わりについて関心を持ち履修することが望ましい。

成績評価方法	平常点、レポート、定期試験で評価する。
テキスト参考書	授業中に紹介する。

授業コード	1318 3012	科目名	国家と法　日本国憲法	担当者	山下　紗矢佳

【授業概要】
戦後の民主化政策のもとで大日本帝国憲法から日本国憲法へ改定された。その背景と日本国憲法の意義、憲法のもとで多くの法整備がすすめられていることを説明する。

【到達目標】
日本国憲法の概念と意義、民主主義について理解を深める。

【授業計画】
第１回目：ガイダンス
第２回目：憲法とはなにか
第３回目：大日本帝国憲法と日本国憲法
第４回目：日本国憲法への改定
第５回目：日本国憲法の基本原理
第６回目：民主主義
第７回目：法の下の平等
第８回目：国民主権
第９回目：基本的人権の尊重
第10回目：平和主義①
第11回目：平和主義②
第12回目：三権分立
第13回目：社会権・人身の自由
第14回目：地方自治
第15回目：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
日常生活と法の関わりについて関心を持ち履修することが望ましい。

成績評価方法	平常点、レポート、定期試験で評価する。
テキスト参考書	授業中に紹介する。

授業コード	1319	科目名	自治体論	担当者	井筒　紳一郎

【授業概要】
皆さんは神戸市や兵庫県（自治体）のことを考えたことがありますか？まず自治体をめぐる最新のトピックスを通じて関心と興味を持ってもらった上で、県の政策の企画総合調整に長年携わった実務家として、自治体の基本的な仕組み、現状や課題、今後のあり方などについて、具体的な事例を紹介しながら一緒に考えていきます。

【到達目標】
①地方自治がどういうものなのか大枠を理解する。　②自治体と自分たちの暮らしの関わりを理解する。
③兵庫県や神戸市の行政に関心を持つ。　④自治体の今後のあり方について自分なりの見解を持つ。

【授業計画】
１．授業ガイダンス
２．新聞報道を通して自治体を知る
３．地方の自治とはどういうことなのか
４．私たちの社会はどのように変化しているのか
５．民主主義を地方自治に生かす
６．神戸・兵庫の歩みと現在を知る
７．市町村や府県はどのように変わり、変わっていくのか
８．暮らしの中に地方分権を生かす
９．兵庫県政を考える
10．県民とともに描いた兵庫県の未来ビジョン
11．兵庫県議会又は神戸市会の本会議傍聴
12．住民の参画協働による兵庫・神戸の地域づくり
13．阪神淡路大震災の経験と教訓を生かす
14．兵庫の人口減少社会を考える
15．まとめ（兵庫県・神戸市への期待）
上記のほか、時の話題を教材として取り上げ、意見交換を行いながら一緒に考えます。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
①テレビや新聞などで報道される地域のニュースに関心を持つように心がけてください。
②事前の予習は必要ありませんが、授業の後は学習した内容を振り返って整理するように心がけてください。

成績評価方法	①『期末レポート』：課題に対して自分の考えを的確にまとめて述べているか。 ②『平生の授業』：授業態度の積極性や授業内容の理解度
テキスト参考書	講師作成の講義レジュメ冊子を事前に配布し、毎回の授業はパワーポイントによりインターネットやＤＶＤなども活用しながら行います。参考図書は適宜紹介します。

授業コード	1320	科目名	地域経済論（1）	担当者	佐藤　光

【授業概要】
グローバルに展開する市場経済と身近な地域社会との関係を、初心者にわかりやすく講義する。

【到達目標】
経済学の視点から地域社会が発展するためのヒントを得る。

【授業計画】
1．地域経済論がめざすもの
2．市場経済の発展とコミュニティの変貌
3．市場経済の発展と国民国家の興隆
4．産業革命による自然破壊
5．地域社会が直面する諸問題①－「顔が見える市場」と「顔の見えない市場」
6．地域社会が直面する諸問題②－中央の過密と地方の過疎
7．地域社会が直面する諸問題③－コミュニティセンターの崩壊
8．地域社会が直面する諸問題④－教育と治安
9．地域社会の再生①－ボランティア、ＮＰＯ、コミュニティビジネス
10．地域社会の再生②－地域通貨の実験
11．地域社会の再生③－スローフード運動
12．諸外国の事例－フランスの農業政策に学ぶ
13．兵庫県と神戸市の事例
14．地域と国家と世界の発展のために
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
熱心にノートをとり、積極的に質問すること。

成績評価方法	平常点と期末試験による。
テキスト参考書	テキストは使用しないが、必要に応じて、プリントを配布し参考文献を紹介する。

授業コード	1321 4105	科目名	地域経済論（2）　地域経済論 地域活性化をサポート	担当者	中村　嘉雄

【授業概要】
大学における教育・研究活動と商工会地域の経済・企業の活性化に資する事業を行うため、神戸山手大学と兵庫県商工会連合会が産学連携しています。地域資源を活用した特産品の開発、グルメフェア（食べ歩きなど）、広域観光、マンガによる商店街の活性化、創業・経営革新支援など商工会の活動を知ってもらうと共に地域経済の活性化や企業経営に関する実践的な知識の習得を目的とします。

【到達目標】
1．地域経済の活性化や中小企業振興に向けたアイデアを皆さんに考えていただきます。
2．実在企業をサンプルとした経営革新等ビジネスモデルの構築を各グループに分かれて皆さんと共に考え、課題の解決策や経営改善策を提案するため、楽しみながらグループディスカッションを行ないます。
※実在企業の生きた経営や地域事情を学んでもらうことのできる講義ですので、就職活動にとても役立ちます。

【授業計画】
Ⅰ　授業内容
まず、「中小企業支援と地域経済」について講義します。その中で、産学連携事業や地域経済活性化の取組や商工会、商工会議所の組織論、中小企業支援のあり方等を説明します。次に、地域中小企業をサンプルとした事例検証を行います。まずＳＷＯＴ分析を行い、各グループで企業のビジネスプランを提案していきます。

Ⅱ　授業計画
第１回　オリエンテーション
第２回　中小企業支援と地域経済（１）
第３回　中小企業支援と地域経済（２）
第４回　中小企業支援と地域経済（３）
第５回　地域活性化をサポート（１）
第６回　地域活性化をサポート（２）
第７回　地域活性化をサポート（３）
第８回　グループワーク（１）
第９回　グループワーク（２）
第10回　グループワーク（３）
第11回　グループワーク（４）
第12回　グループワーク（５）
第13回　グループワーク（６）
第14回　グループワーク（７）
第15回　まとめと講評

成績評価方法	受講態度（20%）、各グループによるビジネスプランの提案内容（50%）、期末レポート（30%）
テキスト参考書	「鳥かごから墓場まで」 ～ 地方の再生に向けた商工会の取り組み ～ 「時の流れ（人生　体罰）」 他

授業コード	1322	科目名	地域政策論	担当者	井上　尚之

【授業概要】
現代の国や地方の地域政策のあり方、地域政策の問題点、今後の方向について、事例等を交えて講義する。

【到達目標】
現代の地域政策について把握し、今後の地域政策のあり方について自分なりの見解を持つ。

【授業計画】
第１回　地域政策論とは
第２回　地域政策の概念
第３回　日本の地域政策と課題
第４回　地域住民と企業の立地理論
第５回　地域政策行政の理論
第６回　地域空間構造の理論
第７回　地域発展と地域格差の理論
第８回　地域政策の構成内容
第９回　地域政策の策定過程
第10回　地域政策の調査と立案
第11回　地方の空間利用計画と事業計画
第12回　地域政策の調整と決定
第13回　諸外国の地域政策の事情
第14回　これからの地域政策の展望
第15回　まとめ（論点整理）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回復習すること。

成績評価方法	レポート、試験を総合的に評価する。
テキスト参考書	プリントを配布する。

授業コード	1401	科目名	観光文化論	担当者	橘　セツ

【授業概要】
19世紀に誕生した観光（tourism）が、人間の感覚や考え方とどのようにかかわってきたかについて考える。そして、よその土地を訪れ、そこに住む人々や文化との交流を含む観光が、異文化間の接触にかんして、どのような役割をはたしてきたかについて考える。

【到達目標】
１、観光（tourism）が､19世紀の英国において、どのように誕生して、どのような新しい観光文化やものの考え方を人びとにもたらしたのか理解する。
２、よその土地を訪れ､そこに住む人々や文化との交流を含む観光が､異文化間の接触・交流の場である「コンタクト・ゾーン contact zone」において、どのような新しい文化を創造したのか理解する。

【授業計画】
19世紀のイギリスにおいて観光（tourism）とツーリスト（tourist）が誕生していったプロセスについて、観光を構成している世界観とともに概観し、観光を含む旅行によって引き起こされるゲストとホストの出会い、異文化間の接触・交流について考える｡この授業では､「コンタクト・ゾーン contact zone」をキー概念にして､旅行や観光にともなう異文化間の接触・交流が創りだす新しい文化について考える。
1　イントロダクション：「観光のまなざし」と「コンタクト・ゾーン」
2　グランドツアーとピクチャレスク
3　ツーリストの誕生
4　世界漫遊旅行者 globe-trotter とオリエンタリズム
5　世界博覧会観光とパノラマ
6　異文化体験の案内としての地図とガイドブック
7　異文化体験の記録としての旅行記
8　観光と庭園の変容
9　観光と百貨店
10　ホリデーの習慣とリゾート地の誕生
11　ヨーロッパの森と観光
12　エコツーリズム
13　観光と宿泊施設
14　世界遺産と自然・文化遺産：自然保護と文化保全の考え方
15　「持続可能な」（sustainable）観光

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
受講生の皆さんは今までにどのような観光旅行をしてきましたか？みなさんがあたりまえのようにしている「楽しみのための旅行」である「観光」は、いつどのようにはじめられたのでしょうか？授業では観光旅行の歴史をひもときながら、現代生活のルーツの諸相を垣間見ます。さらに観光によってもたらされた新しい考え方や世界観について紹介します。受講生それぞれの自らの体験のなかで、どのように観光文化との関わってきたかについて、授業ではまとめてもらう予定ですので、準備してください。

成績評価方法	小テストと授業内レポート（40%）、期末レポート（60%）
テキスト参考書	プリントを配布します。

授業コード	1402	科目名	観光地理学	担当者	橘　セツ

【授業概要】
観光地理学の講義では、人間と場所や地域との関係から人間の文化を考察してきた地理学から観光地について考える。

【到達目標】
どのように観光地が形成されてきたのか、また時代によってその観光地がどのように変容してきたのか、具体的な観光地の事例を通して理解することを目標とする。

【授業計画】
人間の生活世界と観光地との関係を、「人間－自然」と「社会－空間」の両軸から概観する。講義では、世界遺産に登録された観光地などの世界の多様な観光地を、主として自然地形的な特徴によって類型化し、それらの観光地がどのようにして観光地域として認識されるようになってきたかという、観光地の歴史的・空間的な生成のプロセスを考察する。

1　イントロダクション
2　世界遺産・文化遺産
3　世界遺産・自然遺産
4　世界遺産・複合遺産
5　海岸線と観光地
6　高原・山岳と観光地
7　森と観光地
8　湖水・河川と観光地
9　湿原と観光地
10　温泉と観光地
11　島と観光地
12　都市と観光地
13　産業遺産と観光地
14　宗教と観光地
15　まとめとレポート作成指導および提出

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業では受講生のみなさんの観光地での経験についても、まとめてもらう予定です。受講生のみなさんは、観光地で、どのような情報をどんなメディアから得て、どのような行動をとりましたか。なぜそこの観光地に行こうと思ったのですか？自らの観光の経験を今までどのように人びとに語ってきましたか？授業は講義形式ですが、受講生の皆さんにも自らの観光の経験について地理学的に分析をしてもらう機会を設け、双方向になるように試みます。したがって、授業では、意見発表等の参加を重視します。また、毎回、授業の最後に授業内レポートを提出してもらいます。

成績評価方法	小テスト（20%）と授業内レポート（20%）と期末レポート（60%）。
テキスト参考書	神田孝治編『観光の空間：視点とアプローチ』ナカニシヤ出版

授業コード	1403	科目名	地域文化論	担当者	山本　賢治

【授業概要】
グローバル化が進行する中での、個性ある地域社会やまちづくりについて考察する。

【到達目標】
①地域がなぜ大切かを理解する。
②中央と地方の格差について理解する。
③真の豊かさとは何かについて自分なりの見解を持つ。

【授業計画】
第１回　「地域」へのアプローチ
第２回　地域生活の変化
第３回　文化が地域をつくる
第４回　グローバルとローカル
第５回　中央と地方
第６回　変貌する国土
第７回　地域社会とは何か
第８回　地域の思想
第９回　内発的発展
第10回　地方的生活様式
第11回　なぜ地域が大切か
第12回　まちづくりと文化
第13回　観光とまちづくり
第14回　市場の論理と生活の論理
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
新聞をよく読むこと。
講義ノートをしっかりとること。

成績評価方法	授業の理解度について試験またはレポートで評価する。授業への参加姿勢も考慮する。
テキスト参考書	適宜プリントを配布する。参考書は授業の中で適宜紹介する。

授業コード	1404	科目名	旅と歴史	担当者	福原　栄太郎

【授業概要】
人々は様々な理由によって旅をします。自分たちの暮らしとは違った世界を見たい、知りたい、というごく素朴な欲求に発する旅もあれば、職務上の必要によって生じる旅もあります。また、自分の意志とは無関係に生じる戦争による移動や漂流もあれば、食を求めてさすらう旅もあります。そのようななかで旅の記録を書きとどめたものが旅日記や紀行文という形で残されるようになるのは中世になってからでしょう。それらは、異なった世界の見聞に素直に驚きを表したものから文学として書かれたもの、或いは旅行ガイド的なものまで多様で、興味深いものがあります。
この授業では近世の代表的な教養人である貝原益軒の紀行文を輪読することによって、江戸時代初期の旅のあり方や当時の景観、或いは考え方について学びます。

【到達目標】
①読書能力を磨く
②調査能力の向上
③地図読解力を身につける

【授業計画】
貝原益軒の紀行文、「島上紀行」「丹波丹後紀行」を輪読します。
休日を利用して現地調査も行ないます。

※国土地理院発行　２万5000分の１地形図　淀・京都西南部を用意しておくこと。

成績評価方法	受講態度（原則として遅刻、途中退席は認めない）、レポート、筆記試験
テキスト参考書	授業中にプリント資料を配付する。

授業コード	1405	科目名	観光人類学	担当者	行　木　　敬

【授業概要】
観光は商業活動であると同時に、観光客に向けた地域文化の再解釈や、観光地をめぐる解釈の共有を通じて、観光地側に、また観光客側に、新しい文化を作り出すきっかけともなる。観光をめぐるこのような文化の動態を文化人類学の手法で分析していく。

【到達目標】
①観光に対する文化人類学の分析手法を身につける
②その上で、観光に関する何らかの事例を各人に分析してもらい、レポートとして提出してもらう。

【授業計画】
第１回　観光人類学とは――「伝統の島・バリ」の構築を例に
【観光地側の文化構築】
第２回　神戸に「中国」ができた日――自文化の再解釈
第３回　増殖する七福神たち――伝統の発明１
第４回　謎のオミヤゲ「黒豆ひねり餅」と記号的価値――伝統の発明２
第５回　地域文化を身にまとうキティたち――商品の文化化１
第６回　ご当地Ｂ級グルメはどこへ向かうのか――商品の文化化２
【観光客側の文化構築】
第７回　嬉しくないオミヤゲが嬉しい理由――贈与行為と価値観の共有
第８回　せんとくんはなぜヒットしたか――価値観の共有とコミュニティ形成
第９回　ツッコミを待つご当地キャラたち――解釈コミュニティと観光戦略１
第10回　無料のキャラ、非公認のキャラ――解釈コミュニティと観光戦略２
第11回　聖地巡礼からご当地アニメへ――解釈コミュニティと観光戦略３
【観光とアイデンティティ】
第12回　ハワイ先住民からの批判――何のために観光を研究するのか
第13回　「人食い人種」を演じる人々――観光とアイデンティティ１
第14回　ローカルヒーローの戦い――観光とアイデンティティ２
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・観光人類学は、文化人類学の理論や問題意識を出発点とした学問である。できれば前期「文化人類学」を受講しておいてほしい。
・第１回でレポート課題を説明する。欠席しないこと。

成績評価方法	授業への取り組みや期末レポートから総合的に評価する。
テキスト参考書	テキストは用いない。毎回レジメを配布する。

授業コード	1406	科目名	欧米文化論 英語の歴史	担当者	塩濵　久雄

【授業概要】
英語の歴史を、英語が成立する以前まで一旦さかのぼり、その後古英語から現代英語までを概観する。

【到達目標】
英語史を通して現代英語を理解する。

【授業計画】
1．言語以前（1）
2．言語以前（2）
3．印欧語（1）
4．印欧語（2）
5．印欧語（3）
6．古英語（1）
7．古英語（2）
8．古英語（3）
9．中英語（1）
10．中英語（2）
11．中英語（3）
12．現代英語（1）
13．現代英語（2）
14．現代英語（3）
15．まとめ

成績評価方法	期末のレポートで評価する。
テキスト参考書	寺沢盾　英語の歴史－過去から未来への物語（中公新書）

授業コード	1407	科目名	アジア文化論 地域研究の方法（記述編）	担当者	行木　敬

【授業概要】
前半：アジアを６つの地域に分け、それぞれの概要を紹介していく。
後半：特に沖縄に焦点を当て、その信仰、歴史、政治などを連関させた地域研究を展開する。

【到達目標】
①アジア全域について基本的な知識を持つ。
②地域研究の方法、特に地域記述の組み立て方を身につける。
③その上で、各人にアジアの一地域を選んでもらい、その地域研究をレポートの形で提出してもらう。

【授業計画】
第１回　　授業ガイダンスおよびレポート課題発表
第２回～８回　アジア概要編
・北アジア――モンゴロイドの形成
・中央アジア――遊牧の経済学
・東南アジア――海洋と国家
・西アジア――イスラームとは何か
・南アジア――解脱の技法
・東アジア――歴史記述の政治性
第９回～15回　地域研究編（沖縄を例に）
・信仰１：マユンガナシ――来訪神と聖地
・信仰２：オナリ神――女性と異界
・歴史１：シジをタダす――霊媒師ユタと戦争の記憶
・歴史２：占領下の沖縄と密貿易の女王ナツコ
・政治１：基地と補助金と人工の楽園
・芸能　：沖縄音楽の構築
・政治２：ポップミュージックと沖縄の矛盾

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
卒論で地域研究をおこなう人はぜひ受講してほしい。また、前期「特殊講義（７）」「神戸の生活と文化」では、地域研究の方法を分析理論の面から解説している。

成績評価方法	授業への取り組みや期末レポートから総合的に評価する。
テキスト参考書	テキストは用いない。毎回レジメを配布する。

授業コード	1408	科目名	ホスピタリティ論 顧客満足の収益化	担当者	山崎　正雄

【授業概要】
2020年、オリンピックという追い風を得て訪日観光客数2000万人（現状約1300万人）が国家戦略の一つになっている。単なる「おもてなし」ではなく、顧客創造をめざすホスピタリティーマーケティングの意義を考える。観光産業のみならず、役所、病院その他、顧客と直接接するさまざまな分野に浸透しつつあるこの考え方の可能性と問題点について考える。

【到達目標】
サービス産業全般に関するソフト、ホスピタリティーマーケティングの基本を学ぶ。

【授業計画】
第１回　　オリエンテーション
第２回　　観光業とホスピタリティー　　ホスピタリティーの語源と新たな意義
第３回　　ホスピタリティーマーケティングは何をめざすのか？
第４回　　ホスピタリティー戦略　　顧客確保のための戦略
第５回　　観光関連業におけるホスピタリティー（リッツカールトンホテル）
第６回　　観光関連業におけるホスピタリティー（ディズニーランド）
第７回　　組織内部へのホスピタリティー展開　　対顧客の取り組みだけでは何が不足するのか？
第８回　　ホスピタリティーマーケティングの新たな展開　（観光関連以外におけるホスピタリティーの重要性）
第９回　　ホスピタリティーマーケティングの収益化と問題点
第10回－11回　各自ホスピタリティーについてレポートとプレゼン
第12回　　クレーム対応とホスピタリティー（１）
第13回　　クレーム対応とホスピタリティー（２）
第14回　　全体の復習
第15回　　まとめ
＊講義の順序内容は多少変更する場合があります。
＊ホスピタリティー関連の最新事情、トピックスなどについてもコメントします。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
＊20分以上の遅刻は欠席扱い。但し受講は可。

成績評価方法	授業への積極参加、発表、試験等総合的に判断
テキスト参考書	都度資料を配布します

授業コード	1409	科目名	観光事業論 感動の収益化	担当者	山崎　正雄

【授業概要】
旅行業、運輸業、宿泊業、観光施設業等具体的な事業を取上げ観光事業全体を概観します。医療、スポーツ、フードツーリズム等にも注目し観光事業の新たな展開を検証する。公官庁が推進する観光関連政策（観光立国、ウェルカムジャパン、クールジャパン）にも敷衍。

【到達目標】
観光プロフェッショナルへの第一歩

【授業計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　観光事業の歴史とその特性　　観光事業とはどんな事業なのか？　観光資源とは？
第３回　観光に関するデータ分析（最新観光白書概観）
第４回　国内観光と外国人の訪日観光、いわゆるインバウンドの動向と現状
第５回　国際観光の歴史と現状　　1964年の海外旅行自由化以降の数量増加と問題点
第６回　旅行業について、その制度と経営（１）
第７回　旅行業について、その制度と経営（２）
第８回　旅行業周辺の法令
第９回　宿泊業（ホテル／旅館）・交通関連事業について
第10回　神戸市内観光関連事業へのフィールドワーク
第11回　観光事業について各自レポートとプレゼン（１）
第12回　観光事業について各自レポートとプレゼン（２）
第13回　ニューツーリズムについて。　メディカルツーリズム　スポーツツーリズム等
第14回　観光プロモーションと観光まちづくり
第15回　まとめ
＊講義の順序内容は多少変更する場合があります
＊観光事業関連の最新事情、トピックスなどに対し議論、発表形式で進める場合もあります

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
＊20分以上の遅刻は欠席扱い。但し受講は可
＊教科書の購入が必要

成績評価方法	授業への積極参加、発表、試験等総合的に判断する
テキスト参考書	大学生の観光学ノート

授業コード	1410	科目名	ホテル事業論 進化するホテル	担当者	山崎　正雄

【授業概要】
近代におけるホテル事業の歴史は、幕末の開港から明治期に始まり、その後の国家的イベントと関連している。1960－70年代、東京オリンピック等国家的プロジェクトを背景とした大型ホテルの開業ラッシュ。1990年代外資系ホテルの日本進出。そして現代、スーパーラグジュアリーと宿泊特化型に２極化するホテル事業の最新事情を概観。顧客創造のためのホスピタリティーマーケティング、海外のホテル事情、著名ホテルの学習を通じホテル事業全体を理解する。

【到達目標】
現代社会の多様なニーズに対応し大きく進化するホテル事業の全体像を理解する。
宿泊・飲食・管理のホテル営業３分野の基礎実務を理解する。旅館業法、宿泊約款等関連法令を概観する。

【授業計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　ホテルに関する基礎知識（１）　ホテル用語等
第３回　ホテルに関する基礎知識（２）　ホテルの組織
第４回　我が国におけるホテルの歴史（明治、大正、昭和）
第５回　二極化するホテル（現代）
第６回　旅館（ホテル）業法と宿泊約款
第７回　旅館業法と宿泊約款
第８回　ホテル事業におけるホスピタリティー（１）
第９回　ホテル事業におけるホスピタリティー（２）
第10回　ホテルにおけるクレームとその処理　　トラブルのケーススタディー
　　ホテルについての情報収集とレポート作成　発表（１）
第11回　ホテルについての情報収集とレポート作成　発表（２）
第12回　世界のホテル（アジアのクラシックホテル、ヨーロッパの著名ホテル）
第13回　世界のホテル（北米その他）
第14回　世界の珍しいホテル
第15回　まとめ
＊講義の順序、内容は多少変更する場合があります。
＊ホテル事業関連の最新事情、トピックスなどに対してもコメントします。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
＊ホテル事業を学ぶことにより、ホスピタリティー、サービス産業全体について目を向けてみよう。
＊20分以上の遅刻は欠席扱い。但し受講は可。

成績評価方法	授業への積極的参加、発表、試験等総合的に判断
テキスト参考書	都度資料を配布します

授業コード	1411	科目名	国際観光論 グローバルな視点	担当者	山崎　正雄

【授業概要】
国際観光の２つの局面、アウトバウンド（海外旅行・国際理解・国際交流）とインバウンド（訪日観光推進・地域活性化）の意義を考える。
総合旅行業務取扱管理者試験科目、「海外旅行実務」も視野に入れ学習する。

【到達目標】
国際観光（アウトバウンド・インバウンド）のエキスパートをめざす。

【授業計画】
第１回　　オリエンテーション
第２回　　国際観光（アウトバウンド、インバウンド）に関する白書データの分析
第３回　　国際観光（アウトバウンド、インバウンド）推進政策の歴史と検証
第４回　　海外旅行（アウトバウンド）募集パンフレットの見方（パッケージ旅行の基礎知識）
第５回　　日本の政府観光局（JNTO）の観光客誘致への取組み検証
第６回　　中国／韓国／台湾その他アジア地域の国際観光動向概観
第７回　　アメリカ／カナダ／欧州地域の国際観光動向概観
第８回　　オセアニア、その他地域の国際観光動向概観
第９回　　国際観光関連フィールドワーク
第10回－第11回　国際観光のプラン作成　各自の企画プレゼン
第12回　　ビジットジャパンキャンペーンとインバウンドの販売促進（外国から日本への誘致等）
第13回　　兵庫県／神戸市の観光の魅力は何か？　兵庫県、神戸市の海外からの観光客誘致施策について
第14回　　海外から日本への観光客をより多く誘致するには何が必要か？（議論形式）
第15回　　まとめ
＊講義の順序、内容は多少変更する場合があります

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
＊新聞その他国際観光関連の記事など観光に関する情報にも注目してください。
＊20分以上の遅刻は欠席扱い。但し受講は可。

成績評価方法	積極的な授業参加、発表、試験等により総合的に判断する。
テキスト参考書	都度資料を配布する。

授業コード	1412	科目名	レジャー・レクリエーション論	担当者	尾上　尚司

【授業概要】
余暇活動のリソース、環境、年代による変化とその経営について学び、余暇の価値について考える。

【到達目標】
1．自分自身の余暇活動について気づき、今後の余暇を考える。
2．余暇活動の指導について考える。
3．余暇活動の経営について考える。

【授業計画】
1．日本の余暇生活と自分の余暇の現状
2．年代による余暇活動の変化
3．世代による余暇活動
4．高齢者の余暇活動
5．子ども、青年の余暇活動
6．レクリエーション理解
7．自治体の余暇施策
8．企業の余暇に関する事業
9．非営利団体の余暇活動
10．外国人の余暇
11．余暇産業における人材と資質、経営
12．求められる資質
13．スキルアップ実習１
14．スキルアップ実習２
15．これからの自分自身の余暇活動開発

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
見学、体験なども含む授業なので、場所などに注意する。
毎日のレポートを中心に評価し、最終的にレポートをまとめる。

成績評価方法	レポート評価。見学の際の参画度。
テキスト参考書	

授業コード	1413	科目名	観光英語	担当者	John Snelling

【授業概要】
1．日本を訪れる外国人の観光旅行者に神戸の地理と文化を効果的に紹介できる方法の学習
2．外国の大都市を訪れる日本人の旅行者に、訪れる場所や楽しみ方を提案できるようにする方法

【到達目標】
観光ガイド初級レベルの英語力を身につける。

【授業計画】
第１回　　オリエンテーション・自己紹介
第２回～第５回　外国の大都市の文化（料理、芸術、教育等）
第６回～第９回　神戸の特色の案内の仕方
第10回～第14回　日本各地
第15回　　復習
※以上は予定であり、学生のレベルによって教材や授業の進め方を調整します。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
この授業は従来の英会話の授業ではありませんので、受講生の会話力が具体的に要求されておりません。
各学生のレベルに合わせて、授業展開を考えています。
過去の実績を考慮に入れて、クラス内では英語と日本語を併用する場合もあります。

成績評価方法	積極性40%、提出物20%、クイズ40%
テキスト参考書	プリント教材

授業コード	1414	科目名	まちづくり論 まちづくり協議会とコンパクトシティ	担当者	小林　郁雄

【授業概要】
さまざまな「まちづくり・すまいづくり」を神戸の実例に学び、まちづくりの現場や協議会活動を直接理解し、めざすべき自律連帯都市（コンパクトシティ）を論じる。

【到達目標】
まちづくり・すまいづくりとは何か。21世紀の市民活動社会における重大な役割を知る。
特に神戸における、まちづくり・すまいづくりの実際に触れて、その今後を理解する。

【授業計画】
＜都市計画とまちづくり・すまいづくり・・・第１回～第６回＞
第１・２回　神戸のまちづくり・すまいづくり100年
第３・４回　人口減少時代の社会
第５・６回　都市計画・住宅計画からまちづくり・すまいづくりへ
＜さまざまなまちづくり・すまいづくりの状況・・・第７回～第11回＞
第７回　　ウォーターフロントのまちづくり・すまいづくり
第８回　　緑と花のまちづくり・すまいづくり
第９回　　震災復興のまちづくり・すまいづくり
第10回　　NPO とまちづくり・すまいづくり
第11回　　市民主体のまちづくり・すまいづくり
＜自律連帯都市・・・第12回～第15回＞
第12回　　まちづくり協議会
第13回　　参画協働社会
第14回　　コンパクトシティ
第15回　　コンパクトタウン

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
都市計画との違いの中で、人口減少時代の背景の中にある、まちづくり・すまいづくりを考えていく必要がある。

成績評価方法	レポート
テキスト参考書	「都市計画とまちづくりがわかる本」 2011年　彰国社 〔参考書〕「まちづくり教科書　全10巻」 日本建築学会編 2004～2006年　丸善、「まちづくり学　アイディアから実践までのプロセス」 西村幸夫編　2007年　朝倉書店

授業コード	1415 3025	科目名	神戸学フィールドワーク　フィールドワーク５ 神戸のフィールドクリップを作る	担当者	行木　敬

【授業概要】
神戸の街で撮ってきた写真に音楽をあわせた映像クリップを制作する。街の風景を曲展開に沿って物語化していくことで、「自分にとっての神戸」「自分が伝えたい神戸」が、はっきりと形になるはずである。

【到達目標】
人に何かを伝えるためには、どのような素材をどのような形で表現すればよいか、そのための具体的な技術を身につける

【授業計画】
フィールドクリップとは、ある地域（フィールド）の人や風景、イベントを写真に撮り、説明テロップと共に、それらを音楽にあわせてテンポよく見せていく映像クリップのことである。http://bit.ly/KZLCnG にこれまでに作成した作品をいくつかアップした。これを各人に製作してもらう。

第１回　　授業ガイダンス・受講者の確定
第２～５回　フィールドワークの準備：撮影場所の選定、班分け。写真撮影の練習。
第６～８回　フィールドワーク：
　　各班で決めた日、決めた場所に集合し、撮影をおこなう。（休日に実施。通常の授業は休講とする）
第９～15回　クリップの作成：
　　写真の選択、音楽の選択、動画編集ソフトの使い方、テロップの作成、トランジションの技術など。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
機材の関係で人数制限をおこないます。受講希望者はメールをください（ k-nameki@kobe-yamate.ac.jp ）。早い者順に受け入れます。履修登録はこちらでおこないます。

成績評価方法	授業への取り組みや提出課題の内容などから総合的に評価します。
テキスト参考書	授業の進行にあわせて、レジメやワークシート、各種資料を配布していきます。

授業コード	1416	科目名	エコツーリズム論	担当者	橘　セツ

【授業概要】
マスツーリズムは、観光地の自然環境や生活文化の破壊につながることがありました。1980年代から自然環境や生活文化などの資源を持続させていくようなエコツーリズムの実践が試みられてきています。授業では、エコツーリズムの歴史と事例を紹介して、これからの新しいツーリズムのあり方について考えます。

【到達目標】
1、授業で紹介する個々のエコツーリズムの事例において、そのツーリズムのどんな側面が自然環境や生活文化などの資源を持続させていっているのかについて考え、理解する。
2、受講生の皆さんがエコツーリズムを実現するためにできることを考え、実践する。その過程や結果について、期末レポートとしてまとめる。

【授業計画】
エコツーリズムは、自然保護と地域再生にかかわる持続可能なツーリズムとして注目されています。日本でも2008年４月からエコツーリズム推進法が施行されています。授業で紹介するエコツーリズムの事例は、豊かな大自然を訪れるようなツーリズムから、里山や農村生活を体験し、その土地に住む人々と交流するツーリズムまでさまざまです。またエコツーリズムを、持続させるためには、「カントリーサイド・コード」のような一定のルールが必要です。そのようなエコツーリズムを成立させている一連のプロセスを授業では紹介していきます。
授業では、DVD などの視聴覚教材を利用します。また、授業中に、学生には、課題や作業を行ってもらう予定です。したがって、学生の授業への出席、作業の参加を重視します。

1　イントロダクション：エコツーリズムの定義とエコツーリズム推進法
2　エコツーリズムの歴史：壮大な自然から里山まで
3　エコツーリズムとグリーンツーリズム、ルーラルツーリズム、アグリツーリズモ
4　カントリーサイド・ルネッサンス：英国の農村再生の事例
5　ＥＵの主導する「LEADER +事業」：ツーリズムと地域再生
6　ＥＵの主導する「LEADER +事業」：英国のカンブリアの事例
7　ＥＵの主導する「LEADER +事業」：イタリアのリグイア地方とギリシャの事例
8　エコツーリズムのルール（1）：ツーリストの責任
9　エコツーリズムのルール（2）：ツーリストを迎える人々の責任
10　エコツーリズムにおける交流
11　英国の「カントリーサイド・コード」と教育プログラム
12　「カントリーサイド・コード」教育プログラムの活動を実践してみよう（その１）
13　「カントリーサイド・コード」教育プログラムの活動を実践してみよう（その２）
14　里山をめぐるエコツーリズム
15　まとめとレポート作成指導および提出

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業では，世界の様々な場所でのエコツーリズムのこころみについて紹介します。これらの事例は自分の住む場所からは遠い場所の事例かもしれません。しかしながら、それらの事例から、受講生のみなさんは、想像力をふくらませてください。これらの事例をとおして、あなたは、どのように考えるのか、実践するのか、さらにはどのように生きるのかについて考える手がかりとしてください。これらの作業を通して期末レポートで「あなたの考えるエコツーリズム」についての考えをまとめてください。

成績評価方法	小テスト（20%）と授業内レポート（20%）と期末レポート（60%）。
テキスト参考書	プリントを配布します。

授業コード	1417 4102	科目名	国内旅行業務（1）　国内旅行実務（1） 国内旅行の運賃・料金	担当者	高嶋　重次

【授業概要】
国内旅行をする際にはJRや航空会社、宿泊施設を利用するが、その運賃・料金はどのようなルールに基づいて適用されているのか、その考え方と計算式を学ぶ。国家試験対策となると同時に、お得な国内旅行の仕方を修得することが可能に。

【到達目標】
①国内旅行業務取扱管理者試験合格が最大の目標。
② JR、国内航空、宿泊施設、貸切バス、フェリーの運賃・料金計算をマスターする作業を通じて、旅行業務実務の体験トレーニングに。
③国内旅行業務実務の学習を通じて、旅行産業の全体像とディーテイルを理解する。
④関連する約款類の補足学習により、日常の観光行動と法規範との関連性を把握する。

【授業計画】
第１回：ガイダンスと国家試験過去問題概観
第２回：JR 普通運賃
第３回：JR 割引運賃
第４回：JR 料金
第５回：JR 団体旅客運賃・料金
第６回：貸切バス（１）
第７回：貸切バス（２）
第８回：フェリー（１）
第９回：フェリー（２）
第10回：国内航空運送実務
第11回：国内航空運賃・料金（１）
第12回：国内航空運賃・料金（２）
第13回：国内旅行業務実務知識
第14回：国家試験過去問題の研究
第15回：総括講義

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
９月に実施される国内旅行業務取扱管理者国家試験受験を希望する人は、旅行業法、約款および国内観光地理科目の併行受講が望ましい。

成績評価方法	※受講態度40点＋毎回授業終了時提出のコメントシート評価30点＋期末リポート30点。 ※出席時間数が授業時間数の２／３に満たない場合（出席10回未満）は不合格とします。
テキスト参考書	『国内旅行実務Ｉ＝運賃・料金／旅行実務知識』（株式会社 TJ ホスピタリティ）

授業コード	1418 4103	科目名	国内旅行業務（2） 国内旅行実務（2）	担当者	橘　セツ

【授業概要】
日本の観光資源について学習する。「国内旅行業務取扱管理者」試験の国内地理の領域を学習する。

【到達目標】
1、日本国内の多様な観光資源の地理について理解することを目標とします。
2、「国内旅行業務取扱管理者」試験の国内地理の領域について80点以上を取得する実力をつけることを目標とします。

【授業計画】
1　日本の観光資源の特徴：地図帳を活用する
2　日本の観光ガイドブックを読んでみよう：祭と鉄道と温泉
3　日本の国立公園
4　日本の世界遺産（自然遺産）
5　日本の世界遺産（文化遺産）
6　北海道
7　東北
8　関東
9　中部
10　近畿
11　中国
12　四国
13　九州
14　季節の名所：桜・紅葉・雪見など
15　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業のテキストでもある平凡社編集『日本を旅する大旅行地図帳』平凡社をいつも身近かにおき、ひまがあれば眺めてください。時には、地図の中で旅行を夢見るだけではなく、この地図帳で紹介されている観光地に実際に足を運んで下さい。自分で訪れた場所についての観光地理の知識は本当に自分のものとなります。

成績評価方法	授業中に毎回行う小テスト30点、授業内小レポート30点、期末レポートおよび試験40点
テキスト参考書	平凡社編集『日本を旅する大旅行地図帳』平凡社､2015年度版

授業コード	1419 4104	科目名	旅行業約款　観光実務演習（1） 約款とは何か？	担当者	山崎　正雄

【授業概要】
旅行会社が旅行者（消費者）との間に生じる大量かつ画一的な取引を処理するために定めた契約条項である約款学習をつうじて企画旅行・手配旅行とはどのような旅行なのかを学習する。
国内旅行、総合旅行業務取扱管理者試験（国家試験）の主要科目。民法（契約法)、消費者契約法等、観光関連諸法令が実務上はたす実践的な役割について学ぶ。

【到達目標】
民法「契約」概念の理解、消費者契約法その他も合わせて学び強い消費者をめざす。
国内旅行業務管理者試験（国家試験）合格。

【授業計画】
第１回　　オリエンテーション
第２回　　標準旅行業約款とは
第３回～８回　募集型企画旅行約款を条文に準じて学ぶ
第９回～10回　募集型企画旅行約款の学生による模擬授業。
第11回～14回　受注型企画旅行約款、手配旅行約款、その他国内航空、フェリー、宿泊、貸切自動車約款
第15回　　まとめ
＊講義の順序、内容は多少変更する場合があります

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
＊国家試験受験希望者に受講を勧める。
＊基礎的な法律知識を学ぶことは生活力アップにもつながる。学ぼうとする努力が必要。
＊テキストの購入が必要。
＊20分以上の遅刻は欠席扱い。但し受講は可。
＊留学生にとって学習のハンディーが大きい。

成績評価方法	授業への積極参加、発表、試験等総合的に判断する。
テキスト参考書	トラジャルウエスト　テキスト２　約款 国内旅行業務管理者試験受験者はテキスト１．業法、３．観光地理、　４．運賃料金も必要となる。

授業コード	1420	科目名	旅行業法 旅行業の基本法令	担当者	山崎　正雄

【授業概要】
国家試験（国内、総合旅行業務取扱管理者試験）の主要科目である旅行業法の学習。
観光庁、都道府県など所轄官庁の規制概要や旅行実務上の諸問題を考える。

【到達目標】
国内旅行業務取扱管理者試験（国家試験）合格

【授業計画】
第１回　　オリエンテーション
第２回　　旅行業法の概要およびその他関連法令について
第３回～10回　各条文の理解と国家試験の過去問題に挑戦
第11回～12回　各条文を割り当てそれぞれについて発表（模擬講義）
第13回～14回　全体の復習と確認
第15回　　まとめ
＊講義の順序、内容は多少変更する場合があります

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
＊国家試験受験希望者に受講を勧める。
＊法令自体を学ぶのはあまり楽しくないかもしれない。
　しかしながら、国家試験も視野に入れながら旅行業実務の基礎としてしっかり学ぶ。
＊教科書の購入が必要。
＊20分以上の遅刻は欠席扱い。但し受講は可。
＊留学生にとって学習のハンディーが大きい。

成績評価方法	授業への積極参加、発表、試験等により総合的に判断する。
テキスト参考書	トラジャルテキスト　1　旅行業法令 国内旅行業務管理者試験を目指す者は、テキスト２．約款、３．国内観光地理、４．運賃料金が必要となる。

授業コード	1501	科目名	現代環境論 現代の環境問題の実態と解決の方向性	担当者	千田　眞喜子

【授業概要】
地球環境問題に対応して、これまでのコストや利便性に加えて、環境に配慮した製品作り、事業活動、社会システム作りなどが求められています。このような転換への契機となった要因や、今後人間社会に求められる方向について理解できるようになりましょう。

【到達目標】
①現代の環境問題の原因を理解する。
②現代の環境問題に対して、どのような新しい対策が行われているかについて知識を深める。
③現代の環境について自らの考え方をしっかり持つ。

【授業計画】
第１回：ガイダンス
第２回：現代の地球環境問題の国際的な状況と地域的な状況
第３回：エネルギー問題と地球温暖化対策
第４回：都市環境問題とヒートアイランド問題
第５回：都市環境問題と廃棄物問題
第６回：都市環境問題と水環境問題
第７回：ダイオキシン問題
第８回：日本におけるダイオキシン問題の特徴
第９回：ダイオキシン問題の解決策と課題
第10回：環境配慮型製品開発，ライフサイクルアセスメント（Life Cycle Assessment:LCA）とは
第11回：環境調和型製品の開発と最新の動き
第12回：低炭素社会に向けて：日本の目標
第13回：低炭素社会に向けて：国際的な目標
第14回：現代環境を良くするための提案に関するレポートの発表会
第15回：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
現代環境に関するニュースや新聞記事を調べる。毎回復習する。

成績評価方法	評価方法：試験40%、課題レポート及び発表30%、授業への積極的な取り組み・態度30% の総合評価。　評価基準：①現代の環境問題の原因を理解しているか、②現代の環境問題に対して、どのような新しい対策が行われているかについて知識を取得したか、③現代の環境について自らの考え方を発表できるか、について到達度をみる。
テキスト参考書	テキストは無。毎回プリント配布。

授業コード	1502	科目名	環境と法	担当者	山下　紗矢佳

【授業概要】
多くの国々の経済活動促進、及び企業の生産活動の一方で、地球環境問題は深刻化している。とくに現代の企業経営において企業は利潤の拡大追求だけではなく社会的責任が求められてきている。講義形式の下、多様な事例・判例を活用しながら、幅広く概観する。

【到達目標】
持続可能な社会の追求・構築にあたり求められる法整備についての理解を深める。

【授業計画】
第１回目：ガイダンス
第２回目：環境と法を学ぶにあたって
第３回目：環境紛争と法
第４回目：環境法の規制システム
第５回目：環境政策の手法
第６回目：環境法と行政機関
第７回目：公害・環境民事訴訟
第８回目：環境行政訴訟
第９回目：国際環境法と国内環境法の対応
第10回目：環境紛争と行政
第11回目：自然環境保全
第12回目：CSR 事例①
第13回目：CSR 事例②
第14回目：CSR 事例③
第15回目：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
日常生活と法の関わりについて関心を持ち履修することが望ましい。

成績評価方法	平常点、レポート、定期試験で評価する。
テキスト参考書	授業中に紹介する。

授業コード	1503	科目名	環境とライフスタイル ライフスタイルはどう環境に影響しているのか考えよう	担当者	中野　加都子

【授業概要】
現在の便利な私たちのライフスタイルは環境への負荷を高めつつある。ここでは私たちのライフスタイルと環境がどのような関係にあるのか、それを知ることによってどうすべきなのかを学ぶ。

【授業計画】
現在の私たちの便利な暮らしは産業革命以来の工業の発展によることが大きい。しかし、利便性の拡大や資源の大量消費による環境への負荷は、今後の地球環境問題をも大きく左右するほどのレベルに達している。
本講義では私たちのライフスタイルが環境にどのような影響を与えているのかを具体例を通じて理解する。また、日本とドイツの比較などを通じて文化や歴史との関係を考察し、幅広く人間生活面から環境を考える。
以下の内容について学ぶ。

第１～２回　私たちの暮らしと環境への影響
第３～４回　食生活の変化が環境に及ぼす影響
第５～６回　企業の製品づくりと環境対策の変化
第７～８回　日本とドイツのライフスタイルの比較
第９～10回　環境に対する日本人の文化
第11～12回　私たちの価値観をどうすべきか
第13～14回　環境に優しい暮らし
第15回　　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
自分の暮らし方が環境に影響を与えていることを知ろう。

成績評価方法	受講態度と試験（又はレポート）点数の合計点から評価
テキスト参考書	必要に応じて資料を配付する。〔参考書〕『環境にやさしいのはだれ？』 K.H. フォイヤヘアト・中野加都子（技報堂出版）、『先進国の環境ミッション－日本とドイツの使命－』 K.H. フォイヤヘアト・中野加都子（技報堂出版）

授業コード	1504	科目名	環境教育論 環境教育の視座	担当者	井上　尚之

【授業概要】
環境教育を行うにあたっては、国際的な環境保護の歴史と現状を十分に理解しておくことが不可欠である。本講義はアメリカと日本の環境破壊と保護の歴史を知り、持続可能な発展に向けての十分な知識を得ることを目指す。

【到達目標】
日本とアメリカの環境保護の違い及び持続的な発展のために必要なことをいうことができる。

【授業計画】
第１回　シエラクラブ、全米オーデュボン協会設立
第２回　保存（preservation）と保全（conservation）
第３回　ヘッチ・ヘッチィ論争
第４回　原生自然法
第５回　レイチェル・カーソンの登場
第６回　アメリカ社会の２重性
第７回　国家環境政策法（NEPA）と環境保護局（EPA）設置
第８回　環境 NGO がアメリカの環境保護を支える
第９回　ラルフネーダーとは？
第10回　GM 告発から消費者運動、反公害運動の旗手へ
第11回　アメリカ環境保護政策におけるネーダーの位置づけ
第12回　日本の環境汚染と環境保護
第13回　1992年地球サミット
第14回　ポスト京都議定書
第15回　日本における地球温暖化対策

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習として授業予定範囲の教科書を読む。復習としてその日の授業内容をノートにまとめる。

成績評価方法	積極的授業参加・発表・態度・中間試験・定期試験等による総合評価。詳細は授業中に説明する。
テキスト参考書	井上尚之著『環境学』（関西学院出版会）

授業コード	1505	科目名	リサイクル論 リサイクルはどうすればうまくいくか	担当者	中野　加都子

【授業概要】
リサイクルの必要性、リサイクルが成立する条件、リサイクルの現状、現状における国内・海外の事例と問題点及び今後の課題を理解できるようにする。

【到達目標】
身のまわりで実施されているリサイクルのしくみ、問題点、方向性を理解できるようにする。

【授業計画】
深刻な廃棄物問題や地球環境問題を背景に、これまでの大量消費型社会にかわって循環型社会の構築が必要となっている。このような転換期にあってリサイクルを実施するには様々な問題が生じる。授業では、リサイクルの現状と、行政、事業者、生活者の各主体に求められる課題を明確にし、環境負荷の少ないリサイクルを行うためにどのように工夫すべきかなどを講義する。また、循環型社会構築のために制定された法律やその施行状況についても学び、これまでの使い捨て型社会をどのように転換していけばいいのかを考える。

○リサイクルが成立する条件
　第１回　リサイクルはなぜ行なわれてこなかったのか
　第２回　リサイクル関連法整備の背景
　第３回　リサイクル関連法の説明
○容器包装のリサイクル
　第４回　どのように行われているか
　第５回　問題点と今後の方向
○食品リサイクル
　第６回　どのように行われているか
　第７回　問題点と今後の方向
○家電リサイクル
　第８回　どのように行われているか
　第９回　問題点と今後の方向
○自動車リサイクル
　第10回　どのように行われているか
　第11回　問題点と今後の方向
○リサイクルに関する各種制度
　第12回　デポジット制度について
　第13回　デポジット制度の問題点と課題
　第14回　ビールびん保証金制度
　第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
リサイクルに自分の考え方、行動がどのように関係しているか考えよう。

成績評価方法	受講態度と試験（又はレポート）点数の合計点から評価
テキスト参考書	毎回プリント配付

授業コード	1506	科目名	資源とエネルギー クリーンエネルギーをめぐる世界と日本の現状を知る	担当者	井上　尚之

【授業概要】
クリーンエネルギーとは何かを知り、クリーンエネルギーの世界の現状と日本の実態を認識する。

【到達目標】
再生可能エネルギーと新エネルギーとは何であるか、またその長所と短所ををを説明できるできるようになる。更に将来の日本においてはどのようなエネルギーのベストミックスが良いのか自分なりの意見を言うことができる。

【授業計画】
第１回　クリーンエネルギーをめぐる世界と日本の現状
第２回　再生エネルギーと新エネルギー
第３回　2030年､2050年に向けたクリーンエネルギーの日本の目標
第４回　新エネルギー：太陽光発電
第５回　新エネルギー：風力発電
第６回　新エネルギー：バイオマス熱利用・バイオマス発電・バイオマス燃料製造
第７回　新エネルギー：中小規模水力発電
第８回　新エネルギー：太陽熱利用
第９回　地熱発電
第10回　温度差熱利用
第11回　雪氷熱利用
第12回　革新的高度利用技術（１）
第13回　革新的高度利用技術（２）
第14回　原子力発電の将来
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習として授業予定範囲の教科書を読む。復習としてその日の授業内容をノートにまとめる。

成績評価方法	積極的授業参加・発表・態度・中間試験・定期試験等による総合評価。詳細は授業中に説明する。
テキスト参考書	井上尚之著『環境学』（関西学院出版会）

授業コード	1507	科目名	現代都市論	担当者	井上　尚之

【授業概要】
現代都市の成り立ち、現代都市計画の問題点、都市の在り方について、計画の方法論等を交えて講義する。

【到達目標】
都市についての課題、問題点を把握し、都市計画についての自分なりの見解を持つ。

【授業計画】
第１回　現代都市論とは
第２回　都市計画の役割
第３回　都市の歴史
第４回　近代都市の思想
第５回　日本近代都市計画の歩み
第６回　都市計画の調査
第７回　都市計画の立案
第８回　土地利用計画
第９回　都市交通施設
第10回　公園緑地
第11回　供給処理施設
第12回　市街地整備計画
第13回　防災環境計画
第14回　全国総合開発計画
第15回　まとめ（論点整理）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回復習をすること。

成績評価方法	レポート、試験を総合的に評価する。
テキスト参考書	『都市計画（四訂版)』 新谷洋二・高橋洋二・岸井隆幸著 （株式会社コロナ社）

授業コード	1508	科目名	陸上環境論 植物を取り巻く環境の働きを学び自然の保全を考える	担当者	片山　雅男

【授業概要】
植物を取り巻く主要な環境要因、光、水、大気、温度や土壌の働きについて習熟するとともに、生物多様性の高い日本の自然への理解を深めます。また、自然の保全についての基礎的概念を学びます。

【到達目標】
① 植物に影響するさまざまな環境要因について、その基本的な働きについて理解する。
② 日本の森林植生について概観し、気候要因との関わりを理解する。
③ 植生におよぼす地形や地質、人為の影響を理解し、同一気候下における生態系の多様性を認識する。
④ 身近な自然として里山をとりあげ,そこに生育する生物の保全について考える

【授業計画】
第１回～第８回：環境要因と植物
　環境要因。光要因。温度要因。空気要因。水要因。土壌要因。生態的最適と生理的最適。
第９回～第13回：日本の自然とその保全
　東亜の植生帯と水平分布。日本の植生と垂直分布。温量指数。日本の自然と植生の特徴。
　亜熱帯植生。暖温帯植生（照葉樹林帯）。中間温帯植生（クリ帯）。冷温帯植生（ブナ帯）。
　亜寒帯植生（亜高山帯植生）。高山帯生。
第14回　：自然保全
　里山の生態学。ヒトと自然の関わり方。生物多様性。身近な自然を守るために。
第15回　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
植物は移動が難しいため、生育地の環境の影響を強く受けて生活しており、その暮らしぶりを把握しやすい。身近な植物を対象に、どのような影響を受けているのかを意識してみると植物生活が理解できることも多い。

成績評価方法	①定期試験：基本的な知識の理解と実践、②受講態度：授業への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
テキスト参考書	テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

授業コード	1509	科目名	海洋環境論 地球環境における海の位置づけ	担当者	吉岡　英二

【授業概要】
地球の環境は、同体地球・海洋・大気が有機的に結びついている。それらの個々の様態と相互関係について総合的に理解する。

【到達目標】
地球環境における海の位置づけと海洋環境の現状（とくに熱環境）について理解する。
とくに、天気予報で示される天気図・衛星画像などで示される解説についてより深く理解できる。

【授業計画】
地球環境・海洋環境にかかわるさまざまなデータをもとに、それらがどのような現象を捉えているか、どのように解釈できるかについて以下のタイトルに沿って講義する。また、期間中に１回程度もよりの人工海岸に赴き、海岸の様態と生物の観察をおこなう。

第１回・第２回　地球の大気と温室効果
第３回・第４回　地球の熱環境と海流および南極環海流によるサーモスタット効果
第５回・第６回　海水の大循環
第７回・第８回　二酸化炭素と地球温暖化
第９回・第10回　エルニーニョ（ENSO）
第11回・第12回　潮汐が起こるしくみおよび大潮・小潮がうまれるしくみ
第13回・第14回　海洋生物における物質汚染
他１回程度　別に、海岸での観察に赴く。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
宇宙空間での球体としての地球のありさまを心に描いて受講してください。

成績評価方法	・中間試験　第１回から第８回について、学期の中間に試験を実施する。 ・期末試験　全体について、学期末にレポートを課す。
テキスト参考書	毎回資料を配布する

授業コード	1510	科目名	環境社会学	担当者	武田　祐佳

【授業概要】
戦後、日本で発生した具体的な環境問題をとりあげながら、環境問題が発生する社会的な仕組みについて解説していきます。

【到達目標】
環境問題の背後にある、社会における格差の問題（経済的格差など）について考える力をつけることが目標です。

【授業計画】
第１回：ガイダンス（環境社会学の視点）
第２回：日本における環境問題の変遷（１）
第３回：日本における環境問題の変遷（２）
第４回：水俣病と被害構造（１）
第５回：水俣病と被害構造（２）
第６回：水俣病と被害構造（３）
第７回：大規模開発と環境問題（１）
第８回：大規模開発と環境問題（２）
第９回：大規模開発と環境問題（３）
第10回：社会的ジレンマと環境問題
第11回：リスク社会と環境問題
第12回：経済のグローバル化と環境問題（１）
第13回：経済のグローバル化と環境問題（２）
第14回：まとめ
第15回：期末試験
※順序・内容を変更することもある。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
環境（問題）にかんしてはテレビや新聞、雑誌などでもよく取り上げられているので、自分の関心のある問題については、そうした情報に積極的に接するよう心がけてください。

成績評価方法	出席、受講態度、提出物（レポートなど）、期末試験によって総合的に評価します。 ６回以上授業を欠席した場合、期末試験の受験を認めないので注意してください。
テキスト参考書	使用しません。毎回、必要な資料を配布します。なお、授業全般にかかわる参考書として、鳥越皓之・帯谷博明編2009『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房。

授業コード	1511	科目名	環境と科学技術 科学技術と環境問題の関係を知る	担当者	井上　尚之

【授業概要】
ギリシャ以降の科学技術の発達に伴ってどのように環境問題が生じてきたかを闡明する。

【到達目標】
科学技術の発達に伴って生じた環境問題を、具体的にいくつかあげることができる。

【授業計画】
（1）ギリシャの科学技術
（2）ギリシャの環境破壊
（3）ローマの科学技術
（4）ローマの環境破壊
（5）イスラムの科学技術
（6）イスラムの環境破壊
（7）中世ヨーロッパの科学技術
（8）中世ヨーロッパの環境破壊
（9）世界初の公害摘発本『フミフギウム』
(10) 環境破壊とペスト大流行
(11) 産業革命による無機化学工業の発達
(12) 産業革命期の環境破壊
(13) 産業革命の影
(14) 産業革命以後の大気汚染
(15) 科学技術の発達と環境破壊の関係
以上の内容などを教授する予定である。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習として授業予定範囲の教科書を読む。復習としてその日の授業内容をノートにまとめる。

成績評価方法	積極的授業参加・発表・態度、中間試験、定期試験による総合評価。詳細は授業中に説明する。
テキスト参考書	『科学技術の発達と環境問題　２訂版』（井上尚之、東京書籍）

授業コード	1512	科目名	環境歴史学	担当者	福原　栄太郎

【授業概要】
人類の活動と環境の変動の関係を歴史の中で検証する。すなわち、人類の活動がどのような環境変動を引き起こしたか、反対に、環境変動がどう人類に影響を及ぼしたかを明らかにし、私たちの未来を考えます。

【授業計画】
1．序論 －環境歴史学とはなにか
2．モアイの見た風景
3．ギルガメシユ神話とレバノン杉の物語１
4．ギルガメシユ神話とレバノン杉の物語２
5．スペイン、アルマダ（無敵艦隊）の背景
6．イギリスにみる森林の復活
7．日本の森林の現状
8．日本の古典にみる環境
9．ヤマタノオロチ退治神話の意味するもの
10. 常陸国風土記にみえる開発と蛇
11. 天平九年天然痘流行と政治への影響１
12. 天平九年天然痘流行と政治への影響２
13. 宮崎駿の意図したもの －もののけ姫にみる人間と自然の共生 －１
14. 宮崎駿の意図したもの －もののけ姫にみる人間と自然の共生 －２
15. まとめ。

成績評価方法	レポート、筆記試験、受講態度重視（原則として遅刻、途中退席は認めない）
テキスト参考書	授業中にプリント資料を配付する。

授業コード	1513	科目名	環境科学 地球環境問題の真実を知ろう	担当者	井上　尚之

【授業概要】
地球環境問題の真実を知り、我々がどのような生活を送っていけばよいかを考えていく。

【到達目標】
地球環境問題の原因と対策を述べることができるようになる。

【授業計画】
（１）地球環境問題　地球温暖化問題　①宮沢賢治と地球温暖化
（２）地球環境問題　地球温暖化問題　②地球温暖化の原因　③ IPCC 設立
（３）地球環境問題　地球温暖化問題　④気候変動と社会変化　⑤地球の過去の温度と CO_2 の関係
（４）地球環境問題　地球温暖化問題　⑥ミランコビッチサイクルとベルトコンベヤー説
⑦地球温暖化は果たして悪なのか
（５）地球環境問題　オゾン層破壊　①フロンガスとは何か　②オゾン層とは何か
（６）地球環境問題　オゾン層破壊　③フロンガスによるオゾン層破壊　④紫外線による被害
（７）地球環境問題　オゾン層破壊　⑤オゾンホール　⑥フロンガス対策
（８）地球環境問題　酸性雨　①酸性雨とは何か　②酸性雨の原因
（９）地球環境問題　酸性雨　③日本の酸性雨の現状　④世界の酸性雨
（10）地球環境問題　酸性雨　⑤酸性雨の影響　⑥日本における NO_2 と SO_2 の大気濃度
（11）環境基本法と地球環境問題
（12）エコロジー
（13）地球サミット
（14）京都議定書
（15）ポスト京都議定書
以上の内容などを教授する予定である。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習として授業予定範囲の教科書を読む。復習としてその日の授業内容をノートにまとめる。

成績評価方法	積極的授業参加・発表・態度、中間試験、定期試験による総合評価。詳細は授業中に説明する。
テキスト参考書	『科学技術の発達と環境問題　２訂版』（井上尚之、東京書籍）

授業コード	1514	科目名	環境政策論 環境政策の視座	担当者	井上　尚之

【授業概要】
環境政策に必要な知識と視点を提供することを目指す。

【到達目標】
環境政策について具体的にいくつか言うことができるようになる。

【授業計画】
（1）日本の鉱山による環境汚染と環境政策
（2）日本の都市における大気汚染と環境政策
（3）４大公害裁判事件と環境政策
（4）公害対策基本法と環境政策
（5）環境基本法と環境政策
（6）エコロジーと環境政策
（7）『沈黙の春』と環境政策
（8）エコロジー運動と環境政策
（9）動物裁判と環境政策
(10) ディープエコロジーと環境政策
(11) 持続可能な発展と環境政策
(12) 京都議定書と環境政策
(13) ライフスタイルの変更と環境政策
(14) 炭素税と環境政策
(15) ポスト京都議定書と環境政策
以上の内容などを教授する予定である。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習として授業予定範囲の教科書を読む。復習としてその日の授業内容をノートにまとめる。

成績評価方法	積極的授業参加・発表・態度、中間試験、定期試験による総合評価。詳細は授業中に説明する。
テキスト参考書	『科学技術の発達と環境問題　２訂版』（井上尚之､2006、東京書籍）

授業コード	1515	科目名	環境倫理学 「人間中心」か「自然中心」か	担当者	加藤　恵介

【授業概要】
環境問題の深刻化にしたがって、エコロジー運動が関心を集めているが、環境倫理学とは、その理論的な基礎を考えようとする学問である。環境倫理学の基本的な考え方と、とりわけその目立った主張である「人間中心主義批判」の問題を紹介する。

【到達目標】
人間と自然の関係についての柔軟なまなざしを獲得する。

【授業計画】
既存の倫理学においては、一般に人間社会の内部の関係だけが問題になっており、他の生物や自然環境への責任は問題にされてこなかった。近代社会が基本的に人間中心の考え方によって成り立っているのに対して、環境倫理学においては、人間以外の生物や環境に対する人間の責任や、それらのもつ権利が取り上げられ、とりわけディープ・エコロジーの思想家たちによって、人間中心ではなく自然中心、あるいは生態系中心の考え方への転換が主張されている。このような、人間と自然の関係についての基本的な考え方をめぐる対立と問題点を紹介する。
1　環境倫理学とは
2　環境をめぐる思想の歴史
3　「人間中心主義」とその批判
4　ルソーの影響（1）
5　ルソーの影響（2）
6　「動物に平等を」（シンガー）（1）
7　「動物に平等を」（2）
8　「動物に平等を」（3）
9　ディープ・エコロジー（ネス）（1）
10　ディープ・エコロジー（2）
11　自然物の権利
12　「救命ボート倫理」
13　世代間倫理
14　環境と政治・経済
15　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回、授業で扱った問題について意見を書いてもらうので、自分の意見を明確に表現するよう心がけてください。

成績評価方法	学期末に試験を行う（論述式。自筆ノートと配布資料は持ち込み可） 試験の成績：80%　受講態度・参加姿勢：20%
テキスト参考書	プリント配布

授業コード	1516	科目名	都市環境論 都市の環境を学ぶ。	担当者	千田　眞喜子

【授業概要】
現代社会における都市環境の抱える問題点を把握し、その改善方法、維持発展するための重要な事柄についての事例などを学びましょう。

【到達目標】
①現代の都市環境について知識を取得する。
②今後の都市環境のあり方について自分で考える力をつける。

【授業計画】
第１回：ガイダンス　都市環境論とは
第２回：都市型社会の到来
第３回：ヒートアイランド
第４回：都市の大気環境
第５回：都市災害
第６回：都市環境計測手法
第７回：自然や気候を生かした都市熱環境の改善
第８回：市のインフラストラクチャー整備
第９回：都市のエネルギー供給システム
第10回：都市の水供給処理システム
第11回：都市の廃棄物処理システム
第12回：都市環境計画と環境管理
第13回：環境のまちづくり事例と環境評価
第14回：都市環境問題に対し自分たちでできる解決策についてのレポートの発表会
第15回：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
都市環境に関するニュースや新聞記事を調べる。毎回復習する。

成績評価方法	評価方法：試験40%、課題レポート及び発表30%、授業への積極的な取り組み・態度30% の総合評価。　評価基準：①現代の都市環境について知識を取得したか、②今後の都市環境のあり方について自分で考える力をつけたか、について到達度をみる。
テキスト参考書	テキストは無。毎回プリント配布。参考書：「都市環境学」都市環境学教材編集委員会（森北出版）

授業コード	1517	科目名	環境データ分析 環境データを取得し分析する。	担当者	千田　眞喜子

【授業概要】
環境データ（情報）の集め方、読み方、判断の仕方を把握し、データの分析の方法論について学びましょう。

【到達目標】
①環境や経済社会一般のデータを取得できる。
②データから図表を作成できる。
③データの分析力やまとめ方を身につける。

【授業計画】
第１回：ガイダンス
第２回：経済社会一般データ：国内基本指標（都道府県別　人口・面積　都市人口、エネルギーフロー）
第３回：経済社会一般データ：海外基本指標（国などの人口・面積　主要都市人口、エネルギー）
第４回：気象データ
第５回：水環境：水質
第６回：水環境：海洋汚染
第７回：パソコンによる図表作成
第８回：物質循環（物質フロー）
第９回：資源有効利用（パソコンの再利用など）
第10回：自然環境：土地利用、都市公園、水際線、生物多様性
第11回：地球環境：酸性雨、水質
第12回：地球環境：オゾン層破壊、水資源
第13回：データのまとめ方
第14回：自分が注目する環境データの図表作成と発表会
第15回：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
環境に関するニュースや新聞記事の「図表」、「まとめ方」を調べる。毎回復習する。

成績評価方法	評価方法：試験40%、課題レポート及び発表30%、授業への積極的な取り組み・態度30% の総合評価。　評価基準：①環境や経済社会一般のデータを取得できるか、②データから図表を作成できるか、③データの分析力やまとめ方を身につけるか、について到達度をみる。
テキスト参考書	テキストは無。毎回プリント配布。

授業コード	1518	科目名	環境経済学 環境経営を知る	担当者	井上　尚之

【授業概要】
本講義は、環境経済学の一分野である、環境経営について学習する。環境経営とは「事業活動に投入される資源・エネルギー・化学物質などの使用から生ずる環境負荷を低減して環境保全を意識的に行いながら、経済価値の創造を同時に追求する経営活動」のことである。これは換言すればＣＳＲ（企業の社会的責任）でもある。この環境経営について具体例を交えながら分かり易く解説する。

【到達目標】
環境経営について具体的に説明できるレベルを目指す。

【授業計画】
第１回　経済学では環境をどうとらえてきたか？
第２回　ハーマン・デイリーの法則
第３回　ファクター10
第４回　環境クズネッツ曲線
第５回　時代はＣＳＲからＣＳＶへ－マイケル・ポーターの考え方
第６回　３Ｒそして４Ｒへ
第７回　ゼロエミッション
第８回　グリーン購入・グリーン調達
第９回　エコデザイン
第10回　ライフサイクル・アセスメント（ＬＣＡ）
第11回　環境会計
第12回　環境効率
第13回　環境イノベーション
第14回　エコファンド
第15回　排出量取引制度

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習として授業予定範囲の教科書を読む。復習としてその日の授業内容をノートにまとめる。

成績評価方法	積極的授業参加・発表・態度・中間試験・定期試験等による総合評価。詳細は授業中に説明する。
テキスト参考書	金原達夫著『環境経営入門－理論と実践－』（創成社）

授業コード	1519 3109	科目名	環境マネジメント論　環境マネジメント論（1） 環境国際標準規格 ISO14001 の内容を知る	担当者	井上　尚之

【授業概要】
2009年度に神戸山手大学は ISO14001を阪神間で初めて大学全体で認証取得した。
神戸山手大学の『環境マニュアル』を基にして環境国際標準規格である ISO14001の内容を学習する。

【到達目標】
ISO14001の項番の内容を言うことができるようになる。

【授業計画】
（１）ISO14001の歴史、ISO14001の構成、ISO14001の認証登録
（２）ISO14001の「環境方針」「神戸山手大学の環境方針」
（３）ISO14001の「環境側面」「神戸山手大学の環境側面」
（４）ISO14001の「法的及びその他の要求事項」「神戸山手大学の法的及びその他の要求事項」
（５）ISO14001の「目標及び実施計画」「神戸山手大学の目的、目標及び実施計画」
（６）ISO14001の「資源、役割、責任及び権限」「神戸山手大学の資源、役割、責任及び権限」
（７）ISO14001の「力量、教育訓練及び自覚」「神戸山手大学の力量、教育訓練及び自覚」
（８）中間試験
（９）ISO14001の「コミュニケーション」「文書類」「文書管理」「神戸山手大学のコミュニケーション、文書類、文書管理」
（10）ISO14001の「運用管理」「神戸山手大学の運用管理」
（11）ISO14001の「緊急事態への準備及び対応」「神戸山手大学の緊急事態への準備及び対応」
（12）ISO14001の「監視及び測定」「順守評価」「神戸山手大学の監視及び測定、順守評価」
（13）ISO14001の「不適合並びに是正処置及び予防処置」「記録の管理」「神戸山手大学の不適合並び是正処置及び予防処置」
（14）ISO14001の「内部監査」「神戸山手大学の内部監査」
（15）ISO14001の「マネジメントレビュー」「神戸山手大学のマネジメントレビュー」
以上の内容などを教授する予定である。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習として授業予定範囲の教科書を読む。復習としてその日の授業内容をノートにまとめる。

成績評価方法	積極的授業参加・発表・態度、中間試験、定期試験による総合評価。詳細は授業中に説明する。
テキスト参考書	『環境学』　井上尚之著　（関西学院大学出版会）

授業コード	1520 3111	科目名	環境マネジメント演習　環境マネジメント演習（1） ISO14001 の内部監査の方法を学習する	担当者	井上　尚之

【授業概要】
前期で学習した「環境マネジメント論」で得た知識をベースに、環境内部監査の方法を学ぶ。地域貢献としての大学周辺の清掃も実施。

【到達目標】
企業における環境内部監査に参加できるレベルの技術を身につける。

【授業計画】
（1）内部監査とは何か
（2）内部監査チェックリストの作成①
（3）内部監査チェックリストの作成②
（4）内部監査チェックリストの作成③
（5）内部監査計画書の作成
（6）理事長、環境監査責任者、事務局長、教員を対象に監査実施
（7）内部監査実施報告書の作成①
（8）内部監査実施報告書の作成②
（9）是正処置報告書／回答書の作成①
(10) 是正処置報告書／回答書の作成②
(11) 実際の会社の内部監査の実態①
(12) 実際の会社の内部監査の実態②
(13) 地域貢献①
(14) 地域貢献②
(15) 地域貢献③
以上の内容などを行う予定である。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習として授業予定範囲の教科書を読む。復習としてその日の授業内容をノートにまとめる。

成績評価方法	積極的授業参加・発表・態度、定期試験による総合評価。詳細は授業中に説明する。
テキスト参考書	『環境学』　井上尚之著　関西学院大学出版会

授業コード	1601 3201	科目名	建築文化史　建築文化史（1）	担当者	田中　栄治

【授業概要】
日本の近代建築は明治維新から始まった。近世以前の日本および西洋の建築の歴史を概観した上で、明治以降の日本人建築家たちの作品を通して現代建築に至る過程を学ぶ。

【到達目標】
日本建築および西洋建築の歴史の概要を把握し、建築史の視点から現代建築の理解を深める。

【授業計画】
日本および西洋の建築の歴史をふまえ、明治以後日本人建築家達がいかに西洋建築を学び、マスターしたか、そして如何にすればそれを越えた日本建築が出来るかを考え、デザインしながら現代建築に繋がってきたかを学ぶ。
第１回　日本と西洋の建築　近世以前と近代以降
　　日本の近世以前　神社建築
第２回　日本の近世以前　寺院建築
第３回　日本の近世以前　住宅・城郭・茶室建築
第４回　フィールドワーク１（予定：神戸の社寺建築）
第５回　西洋の近世以前　古代ギリシア建築・古代ローマ建築
第６回　西洋の近世以前　ロマネスク建築・ゴシック建築
第７回　西洋の近世以前　ルネサンス建築・バロック建築・古典主義建築
第８回　近代以降　明治期日本における西洋建築の導入
第９回　西欧における建築ムーブメントの影響
第10回　フィールドワーク２（予定：神戸旧居留地の建築）
第11回　近代主義建築の影響と展開
第12回　ポスト・モダンの時代
第13回　フィールドワーク３（予定：神戸における安藤忠雄設計の建築）
第14回　環境の時代
第15回　まとめ
フィールドワークは学外において建築の見学・講義を行い、各自レポートをまとめる。
※事情により場所および日時が変更する場合がある。
また、DVD 等の映像を通して建築家の設計した建築や建築設計の実例に関する知識を深める。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
フィールドワークの時は、歩きやすい靴と服装で出席すること。

成績評価方法	レポートおよび試験による。受講態度を重視する。（2/ 3以上出席のこと）
テキスト参考書	授業時にプリントを配布する。〔参考書〕『カラー版 建築と都市の歴史』 光井渉、太記祐一　井上書院、『建築の歴史　西洋・日本・近代』 西田雅嗣・矢ケ崎善太郎 （学芸出版社）

授業コード	1602	科目名	住居学	担当者	田中　栄治

【授業概要】
人間の最も基本的な生活環境である住まいに関する基礎的知識を学ぶ。
また、建築士・インテリアコーディネーター試験のうち住宅分野の基礎知識を習得する。

【到達目標】
住まいと人間の生活や周辺環境との関連、日本の住まいの歴史や建て方、住環境に関する基礎知識を習得し、戦後の日本の住宅問題の変遷を理解することにより、現代の日本の住まいが持っている課題を把握する。

【授業計画】
住まいを人間の生活および周辺環境との関連で捉え、住環境を計画するために必要な基礎的知識を学ぶ。
第１回　　住まいとは
第２回　　人間の生活と住まい
第３～５回　日本の住まい －住まいの変遷－
第６回　　住まいの建て方 －住まいの材料・構法－
第７回　　見学１（予定：住宅設備メーカーのショールーム見学）
第８回　　室内環境と私たちの生活
第９～11回　住まいの問題
第12回　　見学２（予定：神戸市すまいの安心支援センター見学）
第13～14回　環境問題と住まい
第15回　　まとめ
※学外での見学は見学先の事情により、見学先および見学日時が変更する場合がある。
また、ビデオ等の映像を通して建築家の設計した住宅や住宅設計の実例に関する知識を深める。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
将来建築・インテリアフィールドを希望する学生はこの授業を履修することを推奨する。

成績評価方法	レポート及びテストによる。受講態度を重視する。（2/ 3以上出席のこと）
テキスト参考書	授業時にプリントを配布する。〔参考書〕『図説テキスト・住居学　第二版』岸本幸臣編　岸本幸臣著（彰国社）、『図解住居学シリーズ１～６』図解住居学編集委員会編（彰国社）　その他、建築士・インテリアコーディネーター等の試験資料を参考にする。

授業コード	1603	科目名	建築一般構造（1） 木構造	担当者	山隈　直人

【授業概要】
建築の安全性の基礎となる建築構造の分類、特徴、構法などについての基礎知識を学ぶ。
この授業では、おもに木構造についての基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
建築士免許を取得すること。

【授業計画】
第１回　　：建築物への荷重・外力
第２回・第３回：建物全体の構造計画
第４回・第５回：木構造の基礎知識
第６回～第８回：在来工法の基礎・軸組
第９回・第10回：在来工法の耐力壁
第11回　　：在来工法の小屋組、床組
第12回　　：在来工法の接合部
第13回　　：木造枠組壁構造
第14回　　：伝統木造
第15回　　：その他の木構造
教室内で行う授業と合わせて、学外での見学等も予定している。（建設現場などの見学を予定。）

成績評価方法	レポート及びテストによる。受講態度を重視する。（2/ 3以上出席のこと）
テキスト参考書	「図説　やさしい建築一般構造」 今村仁美・田中美都　学芸出版社 〔参考書〕『構造用教材』 日本建築学会編著　日本建築学会

授業コード	1604	科目名	建築一般構造（2） 鉄骨構造・鉄筋コンクリート構造	担当者	田中　栄治

【授業概要】
建築の安全性の基礎となる建築構造の分類、特徴、構法などについての基礎知識を学ぶ。
この授業では、おもに鉄骨構造・鉄筋コンクリート構造についての基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
鉄骨構造および鉄筋コンクリート構造について、各部の名称としくみ、それぞれの構造の特徴や施工法を理解する。

【授業計画】
第１回　　：建築物の構造の分類
第２回　　：鉄骨構造形式の分類
第３回　　：鉄骨の接合方法（継手・仕口など）
第４回　　：鉄骨構造の地業・基礎
第５回・第６回：鉄骨構造のフレームと耐震要素
第７回　　：フィールドワーク１（予定：鉄骨構造建築物の見学）
第８回　　：鉄筋コンクリート構造形式の分類と原理
第９回　　：鉄筋コンクリート構造の配筋・型枠
第10回　　：鉄筋コンクリート構造の地業・基礎
第11回・第12回：鉄筋コンクリート構造の各部躯体
第13回　　：フィールドワーク２（予定：鉄筋コンクリート構造建築物の見学）
第14回　　：その他の構造
第15回　　：まとめ
フィールドワークは学外において建築の見学・講義を行い、各自レポートをまとめる。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
フィールドワークの時は、歩きやすい靴と服装で出席すること。

成績評価方法	レポートによる。受講態度を重視する。（2/３以上出席のこと）
テキスト 参考書	『図説やさしい建築一般構造』　今村仁美・田中美都　学芸出版社 〔参考書〕『構造用教材』　日本建築学会編著　日本建築学会

授業コード	1605	科目名	建築生産	担当者	山隈　直人

【授業概要】
企画、設計、施工、運用、保全から解体・リサイクルまで21世紀の建築生産活動に関わる主体とその役割、これらが構成するシステムについて、その業務の内容や関連する理論と手法などの基礎的事項を学ぶ。

【授業計画】
第１回　建築生産の歴史－日本の伝統的建築物から現代、そして新しい時代へ。建築生産の歴史を概観する。
第２回　建築生産とそれを取り巻く環境の変化－ストック型社会のなかでの環境問題に対する建築生産の課題を概観する。
第３回　建築プロジェクトの起こり方、経済行為としての建築プロジェクト－ストック活用を視野に入れた建築プロジェクト、および経済行為としての特徴と評価について学ぶ。
第４回　建築プロジェクトの編成と産業構造　一般建設業と住宅産業－日本の建設業と住宅産業の歴史、ストック型社会における建築プロジェクトの特徴と課題について学ぶ。
第５回　建築生産と社会規範－建築生産に関わる法規および規格・標準について学ぶ。
第６回　建築生産のプロセス－建築の生産から維持保全、建築ストックとしての活用、解体から再建築へのプロセスを学ぶ。
第７回　建築の企画、発注と契約－建築における企画業務の役割、および設計者・施工者の発注方式と選定および契約について学ぶ。
第８～９回　設計と監理－設計監理業務の役割と担い手、および設計情報の連携・統合による設計品質の確保について学ぶ。
第10～12回　施工　建築現場における生産管理－建築生産におけるコスト管理、施工管理、品質管理、工程管理、安全衛生管理について学ぶ。
第13回　ファシリティマネジメント－土地・建物・設備・環境などを総合的に企画・管理することによる最適化と再有効利用について学ぶ。
第14回　解体と資源循環－建築物の解体・廃棄・リサイクルと地球環境への影響について学ぶ。
第15回　建築生産の未来像－ストック型社会における建築生産の未来像について考える。
教室内で行う授業と合わせて、学外での見学等も予定している。（建設現場などの見学を予定。）

成績評価方法	レポート及びテストによる。受講態度を重視する。（2/３以上出席のこと）
テキスト 参考書	授業時にプリントを配布する。 〔参考書〕『建築生産』村松秀一他著　市ヶ谷出版社（2004/04）

授業コード	1606	科目名	建築材料 建築材料の種類と性質	担当者	田中　栄治

【授業概要】
様々な建築材料を適切に選択し使用するための基礎的知識を学ぶ。主に構造躯体に用いられる木材、鋼材、コンクリートを中心として学習するほか、建築各部の建築材料の種類と性質についても学ぶ。

【到達目標】
建築の構造及び各部に用いられる材料の種類と性質についての基礎知識を習得する。

【授業計画】
［１日目］建築構造材料の種類と性質について学ぶ。
第１回　　建築構成部位と構造材料　建築物の構成と構造方式の各種分類、構造各要素にかかる力の種類について学ぶ。
第２回　　構造材としての木材の性質　自然材としての木の性質、木材の種類と規格、構造材としての長所と短所など木材の特性について学ぶ。
第３・４回　木質材料の種類と木造構法の特徴　木質材料の種類と性質、および日本における木造構法の種類と特性を学ぶ。
［２日目］建築構造材料の種類と性質について学ぶ。
第５～８回　鋼材の種類と性質　鉄の性質、鋼材の種類と規格、構造材としての長所と短所など鋼材の特性について学ぶ。
［３日目］建築構造材料の種類と性質について学ぶ。
第９・10回　コンクリートの種類と性質　コンクリートの材料と性質、種類と規格、構造材としての長所と短所などコンクリートの特性について学ぶ。
第11・12回　鉄筋コンクリート構造の特徴　鋼材とコンクリートのそれぞれの特性を組み合わせることにより成り立つ鉄筋コンクリート構造の特徴を学ぶ。
［４日目］建築各部、特に外部に用いられる建築材料の種類と性質について学ぶ。
第13回　　建築の基礎に用いられる建築材料の種類と特性を学ぶ。
第14回　　屋根および建築の壁に用いられる建築材料の種類と特性を学ぶ。
第15回　　建築の開口部、床および階段に用いられる建築材料の種類と特性を学ぶ。
授業は集中講義として行う。授業各日の最後にレポート課題もしくはテストを行う。
授業時間中に工場や資料館、建材ショールームなどにて、建築材料実物の見学予定である。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
見学にはスカートやサンダル等は避け、ズボンやスニーカー等の動きやすい服装で出席すること。

成績評価方法	レポート及びテストによる。受講態度を重視する。（２ / ３以上出席のこと）
テキスト参考書	『図説やさしい建築一般構造』 今村仁美・田中美都　学芸出版社 〔参考書〕『構造用教材』 日本建築学会編著　日本建築学会　その他、建築士・インテリアコーディネーター等の試験資料を参考にする。

授業コード	1607	科目名	設計製図基礎	担当者	山隈　直人

【授業概要】
建築設計図を作成するための製図の基礎的な技術を習得する。
建築士・インテリアコーディネーター試験のうち製図分野の基本的技術を習得する。

【到達目標】
建築製図の基本を身につける。

【授業計画】
第１回　　建築における図面の役割説明
　　建築製図の基本的技術説明
　　道具の使い方：鉛筆、平行定規、三角定規、三角スケールの使い方など
　　線の引き方：線の太さの使い分け、平行線、直角の線の引き方、文字の書き方など
第２回　　身体寸法、線の練習
第３回　　平面図の製図
第４～５回　断面図、立面図、配置図の製図
第６～７回　らせん階段、傾斜した壁の製図、縮尺と図面表現
第８～15回　木造住宅の製図：住宅実例図面をトレースすることにより、建築製図の方法を学ぶ。

（第８～10回：平面図の製図、第11～13回：断面図の製図、第14～15回：立面図の製図）

授業は演習形式で行ない、各自が課題図面を作図する。
第１回目の授業で道具の使い方や基本的な線の引き方、図形の描き方を説明するので、履修希望者は必ずこれに出席すること。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
課題を真面目に丁寧にこなしていくと、自然に基本的な技術が身につきます。

成績評価方法	作図された図面により行う。受講態度を重視する。（2/ 3以上出席のこと）
テキスト参考書	授業時にプリントを配布する。 〔参考書〕建築ドリル　空間表現の基礎を学ぶ（学芸出版社） その他、建築士・インテリアコーディネーター等の試験資料を参考にする。

授業コード	1608	科目名	設計製図演習 住環境の提案・設計	担当者	山隈　直人

【授業概要】
住宅の設計を行い、設計図および模型を制作してプレゼンテーション図面として表現・発表し、これからの住環境のあり方を考える。建築士・インテリアコーディネーター試験のうち製図分野の技術を修得する。

【到達目標】
戸建て住宅の平面、断面、立面を計画する技術を習得する。また、自分のアイデアを形にし、提案を図面や模型で表現してプレゼンテーションする力を身に付ける。それを通して、より良い住まいはどうあるべきか考える。

【授業計画】
「設計製図基礎」で修得した技術を用いて住宅を中心とした建築の設計製図課題を行う。
課題１：定められた敷地の中に住宅のプランニングを行う。（期間：７週間程度）
　第１回　　課題説明：敷地条件、敷地内での住宅の配置、外部空間を活用したプランニングなどについて
　第２・３回　エスキース検討とチェック
　第４回　　エスキース検討とチェック、中間発表
　第５・６回　プレゼンテーション図面・模型の作成とチェック
　第７回　　図面・模型提出とプレゼンテーション及び講評会
課題２：定められた実際の敷地の中に住宅のプランニングを行う。（期間：８週間程度）
　第８回　　課題説明：敷地設定や現地調査、周辺環境を考慮した住宅のプランニングなどについて
　第９・10回　エスキース検討とチェック
　第11回　　エスキース検討とチェック、中間発表
　第12～14回　プレゼンテーション図面・模型の作成とチェック
　第15回　　図面・模型提出とプレゼンテーション及び講評会
授業は演習形式で行ない、各自が課題図面を作図する。
課題で設定された諸条件に基づき、各自が自分のアイデアを考え、住宅の設計を行い、配置図、平面図、断面図、立面図等の設計図面の作成を行う。さらに建築模型を制作することで自分の考えた空間を立体的に表現し、それらをプレゼンテーション図面としてまとめることにより、よりよい住環境のあり方を考える。またそれを表現し、他の人に伝えるための技術を学ぶ。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
この演習を履修する場合は、「設計製図基礎」の単位取得または同時履修が望ましい。

成績評価方法	提出された図面・模型およびプレゼンテーションにより行う。受講態度を重視する。
テキスト参考書	なし　[参考書]『住宅をデザインする－はじめての建築学－建築デザイン基礎編』　建築学教育研究会　鹿島出版会　その他、建築士・インテリアコーディネーター等の試験資料を参考にする。

授業コード	1609 3212	科目名	ＣＡＤ　ＣＡＤ（１） コンピュータによる設計製図の基礎	担当者	井田　英石

【授業概要】
コンピュータ（CAD ソフト）を用いて建築製図を行うための基本的な技術を習得する。

【到達目標】
建築設計図を CAD ソフト Jw_cad で描く技術を学ぶ。

【授業計画】
第１回　　Jw_cad の使い方
第２～３回　Jw_cad を用いた線の引き方、図形の描き方
第４～15回　建築設計図データの描き方：住宅図面のトレースを通して、CAD を用いた製図の方法を学ぶ。
（第４～７回　平面図、第８～10回　断面図、第11～13回　立面図、第14～15回　配置図）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業は演習形式で行ない、各自がテキストにそって課題図面を作図する。
第１～３回目の授業でソフトの使い方や基本的な線の引き方、図形の描き方を説明するので、履修希望者は必ずこれら全てに出席すること。

成績評価方法	提出された図面による。取組姿勢を考慮する。
テキスト参考書	『5日で学ぶJw_cad 4－手塚貴晴＋手塚由比の屋根の家を描く』Obra Club 著（エクスナレッジ）〔参考書〕『やさしく学ぶJw_cad 5』Obra Club 著（エクスナレッジ）、『Jw_cad 5徹底解説（操作編）』Jiro Shimizu, Yoshifumi Tanaka著（エクスナレッジ）、『Jw_cad 5徹底解説（リファレンス編）』Jiro Shimizu, Yoshifumi Tanaka著（エクスナレッジ）

授業コード	1610	科目名	建築計画	担当者	山隈　直人

【授業概要】
建築を計画・設計するときに必要な建築計画学の基礎的知識を学ぶ。建築士・インテリアコーディネーター試験のうち計画分野の基礎知識を習得する。

【到達目標】
・空間を計画する際に必要な基本的な知識を身につける。
・戸建住宅、集合住宅、学校など典型的な用途の建物における、計画上必要な知識を身につける。

【授業計画】
建築の形態を決めるための諸条件等、建築設計の基礎となる建築計画の理論と方法を学ぶ。
第１回　空間の計画－かたちは何で決まるか－　地理的環境や機能、構造、技術、安全性、美しさなど建築の形を決定するための諸条件を概観し、建築計画が取り扱う領域を考える。
第２回　建築計画とは　現代建築を取り巻く非常に複雑な諸条件のなかで、建築に計画的視点が必要な理由を考察し、建築計画の役割を学ぶ。
第３回　計画のための調査　建築計画は既存建築の調査データの体系的蓄積を基礎としている。その調査の目的や方法について学ぶ。
第４回　寸法の計画　人間工学を中心に、建築に必要な寸法の知識、およびモデュールなどの寸法体系について学ぶ。また、空間を認識する人間の感覚についても学習する。
第５回　規模の計画　建築の規模を設定するための施設利用の特性把握と分析の方法を学ぶ。
第６回　空間の計画　建築空間の分節・配置・連結する方法を、ゾーニングや機能図、動線図などの手法を中心に学ぶ。
第７回　形の計画　建築の形態について、床・壁・天井などの各要素の機能と特性を中心に実例写真を交えて学ぶ。また、それを検討・表現するスケッチや図面の役割についても学習する。
第８回　住宅・集合住宅の計画　住宅の特性と必要な機能・空間などの基礎事項、および近年の住生活の傾向と住宅実例を学ぶ。また、住居集合の実例についても学ぶ。
第９回　学校・幼稚園・保育園の計画　学校・幼稚園・保育園の特性と必要な機能・空間などの基礎事項、および近年の教育・保育施設の傾向と実例を学ぶ。
第10回　オフィスの計画　事務所建築の特性と必要な機能・空間などの基礎事項、および近年のオフィス空間の傾向と実例を学ぶ。
第11回　集会施設の計画　劇場やコミュニティホールなどの集会施設の特性と必要な機能・空間などの基礎事項、および近年の集会施設の傾向と実例を学ぶ。
第12回　商業施設の計画　商店やショッピングセンターなどの商業施設の特性と必要な機能・空間などの基礎事項、および近年の商業施設の傾向と実例を学ぶ。
第13回　図書館の計画　図書館建築の特性と必要な機能・空間などの基礎事項、および近年の図書館の傾向と実例を学ぶ。
第14回　博物館・美術館の計画　博物館・美術館建築の特性と必要な機能・空間などの基礎事項,および近年の博物館・美術館の傾向と実例を学ぶ。
第15回　見学（大工道具館）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
前半は、各授業のテーマに促した小演習をして理解を深めるようにしています。後半も事例を画像で紹介して理解を深めるようにしているので、毎回出席すること。

成績評価方法	レポートによる。受講態度を重視する。（2／３以上出席のこと）
テキスト参考書	参考書：『建築設計資料集成』日本建築学会（丸善）、建築士・インテリアコーディネーター等の試験資料を参考にする。

授業コード	1611	科目名	建築・インテリア法規	担当者	小林　賢一

【授業概要】
建築の専門家として必要な法規について、その体系と各種基準を理解することを目標とする。

【到達目標】
２級建築士試験に出題される基礎的な問題程度の理解を目指す。

【授業計画】
建築基準法とその関係法規の基本的知識の習得のため、以下の内容の講義を行う。
具体的には法文の読み方や各種規制項目の関連性などを学ぶ。また、法の基準だけではなく法の目的を理解し、ひいては建築技術者としての社会的責任を理解し、技術者倫理を育成することを目指す。
第１回～第５回
・建築基準法・建築行政の概要
・建築基準法の総則
第６回～第10回
・建築基準法の一般構造・設備規定
・建築基準法の防火・避難規定
第11回～第15回
・建築基準法の都市計画関連規定
・バリアフリー新法、耐震改修促進法、建築士法　その他関連法規。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
集中講義なので予習復習は特に必要ない。授業中に何度かグループ討議を行うので、自分の考えを積極的に発言すること。

成績評価方法	原則としてレポート課題により成績評価を行う。受講態度も考慮する。
テキスト参考書	『基本建築関係法令集』　国土交通省住宅局建築指導課・建築技術者試験研究会編（井上書院） 建築基準法と同法施行令の掲載された冊子を用意すること。（出版社は不問）

授業コード	1612	科目名	建築・インテリア環境学	担当者	山隈　直人

【授業概要】
安全・衛生的かつ快適な住環境を実現するために必要な建築環境工学の各分野の基礎的事項の理解を図る。

【到達目標】
・人間を取り巻く物理的環境、すなわち、光、温熱、空気、音に関する基本的知識を習得する。

【授業計画】
住居をとりまく自然環境と屋内環境を構成する各種要因の中から、光、音、温湿度、室内空気などの環境要因に関する基礎的知識を学ぶ。さらに、環境負荷軽減や省エネルギー、省資源などの現代の住居にかかわる環境問題と、それに対する取組みの事例について学ぶ。
第１回　　住居と環境
第２回　　日照と日射
第３～４回　光環境
第５～６回　音環境
第７～８回　温湿度環境
第９～10回　室内空気環境
第11～12回　住居と環境問題
第13～15回　環境問題への取組み

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・各章末の復習問題等を利用して、復習することが望ましい。

成績評価方法	テストによる。受講態度を重視する。（2／3以上出席のこと）
テキスト参考書	「図説　やさしい建築環境」 辻原万規彦監修　今村仁美・田中美都著　　学芸出版社

授業コード	1613 1614	科目名	インテリア基礎	担当者	中西　眞弓

【授業概要】
住まいやインテリアについての基礎的な知識を学ぶ。住まいやインテリアに関連した幅広いテーマを取り上げ、初めてこの分野を学ぶ学生にも興味を持ってもらえる内容とする。

【到達目標】
①住まいは人間にとって、とても重要な生活の場であることを理解する
②日常あまり考えずに過ごしている事項について改めて考える習慣をつける
③住まいやインテリアに関して興味を高める
④自分の住まいを人任せにせず、自分で考え工夫することができるための基礎を学ぶ。

【授業計画】
第１回　　：生活行為と住居
第２回　　：間取りの基礎とスケール感
第３～４回：照明について
第５～６回：色彩調整
第７回　　：デザインの基礎
第８～９回：家具について
第10～11回：住まいの中のプライバシーの場
第12回　　：住まいの中のコミュニケーションの場
第13回　　：欠陥住宅
第14回　　：住まいの特性
第15回　　：まとめ
（順番・内容は受講生により変わることがあります。）

成績評価方法	受講態度、提出物、試験の総合評価とする。
テキスト参考書	なし

授業コード	1615	科目名	インテリア計画論	担当者	中西　眞弓

【授業概要】
美しさだけでなく機能性にも配慮する必要があることを学び、バランスのとれたインテリア計画を行うための知識を学ぶ。

【到達目標】
①美しさと機能性の両面からインテリアを考えることの大切さを知る
②インテリアに関心を持ち、自分で計画できるようになる
③インテリアコーディネーター資格受験に必要な知識の一部を学ぶ

【授業計画】
第１回　　風土と住まい
第２回　　通風・換気・窓
第３回　　結露と住まい
第４～５回　冷暖房と温熱環境
第６回　　騒音と音環境
第７～８回　照明・照明計画
第９回　　ウィンドウトリートメント
第10～11回　インテリアの歴史
第12回　　木材の基礎知識
第13回　　家具について
第14回　　収納
第15回　　まとめ
(順番、内容は受講生により変わることがあります。)

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
プリントは毎回ではありません。わからないところがあった場合、プリントがあればそれに書き込んでください。プリントがない場合は終了時に聞きに来てください。

成績評価方法	提出プリント、 受講上の態度、 試験　の総合評価とする。
テキスト参考書	なし

授業コード	1616	科目名	インテリアマテリアル	担当者	瀬部　明

【授業概要】
建築およびインテリアに用いられる材料について細かく紹介していきます。商品選択に役立つ知識も盛り込みます。

【到達目標】
①さまざまな材料の特性を理解する。
②どこに何が使えるか理解する。

【授業計画】

第１回. 玄関に必要なものは	受講にあたっての注意点、一連の講義の概説
第２回. 土足厳禁の決まり	日本の風土とインテリアの歴史
第３回. れんがは強かった　by　こぶた	西洋の風土とインテリアの歴史
第４回. 空間の掟	インテリアの構法
第５回. よく見て！さわって！	テクスチャー
第６回. 木を使おう	木質系材料、製品の紹介
第７回. 土・石を使おう	土・石系の材料、製品の紹介
第８回. 紙・布を使おう	紙・布製品の紹介
第９回. 金属を使おう	金属材料、製品の紹介
第10回. ガラスを使おう	ガラスの特性、魅力ある使用例の紹介
第11回. プラスチックを使おう	化学工業系の材料、製品の紹介、リサイクル問題
第12回. 生き物を使おう	インテリアとしての植物やアクアリウム
第13回. 芸術品を使おう	芸術品、オブジェの飾り方と生かし方
第14回. 人間工学を知っておこう	人間工学とインテリアマテリアルの関連
第15回. まとめ	

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
前もって指示した材料を探す努力をして下さい。また、ホームセンターなどの商品はもとより、街中の壁や柱などあらゆるものを触って踏みしめて、感触を経験しておいて下さい。極めて大事な学習です。

成績評価方法	小レポートおよび後期試験で総合評価する。
テキスト参考書	毎回レジメを配る。

授業コード	1617 3029	科目名	リビングスタイリスト　特殊講義（6） インテリア関連の資格取得を目指して	担当者	瀬部　明

【授業概要】
近年注目を浴びつつある「リビングスタイリスト２級」資格取得を目指して、流通販売の知識に加えてインテリアの知識も身につけていきます。

【到達目標】
①リビングスタイリスト２級資格を取得する。
②流通販売のしくみを理解する。
③販売実務の流れを理解する。

【授業計画】
第１回.　　リビングスタイリストの仕事、流通のしくみ
第２回.　　小売業について
第３回.　　情報
第４～７回.　接客販売
第８回.　　ビジネスマナー
第９回.　　家具
第10回.　　窓装飾
第11回.　　照明、設備
第12回.　　住生活アクセサリー
第13回.　　模擬テストなど
第14回.　　リビングスタイリスト２級受験（学内で団体受験）
第15回.　　試験の解説など
※受験日以降の講義が発生する可能性があるが、必ず出席すること。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
リビングスタイリスト２級試験の問題量が多く、読むだけでもかなり時間がかかるため、留学生は日本語能力をさらにつけて２年生以降に受講および受験する方が望ましいと思われます。

成績評価方法	リビングスタイリスト２級試験の団体受験を学校で行うので、必ず受験すること（要受験料６,500円）。 リビングスタイリスト試験に不合格でも評価をする。
テキスト参考書	２級リビングスタイリスト資格試験公式テキスト

授業コード	1618・1619 3030・3031	科目名	カラーコーディネート論（1）　特殊講義（7）	担当者	石井　冨久

【授業概要】
「色」に関する基本的なことを学ぶ。

【到達目標】
文部科学省後援「色彩検定３級」に合格する力を身に付ける。

【授業計画】
第１回：色彩と生活
第２回：色のはたらき
第３回：眼のしくみ
第４回：混色
第５回：色の三属性
第６回：PCCS
第７回：言葉による色表示
第８回：色の心理的効果
第９回：色の視覚効果
第10回：色の知覚効果
第11回：色彩調和
第12回：色彩効果
第13回：ファッションと色彩
第14回：インテリアと色彩
第15回：まとめ

成績評価方法	受講態度・試験の総合評価
テキスト参考書	授業内で紹介

授業コード	1620 3032	科目名	カラーコーディネート論（2） 特殊講義（8）	担当者	石井 冨久

【授業概要】
「色」に関して、基礎的なことに加え、「ビジュアルデザイン」「プロダクト」「環境」について学ぶ。

【到達目標】
文部科学省後援「色彩検定２級」に合格する力を身に付ける。

【授業計画】
第１回：光の性質と色
第２回：視覚系の構造と色
第３回：照明
第４回：マンセル表色系
第５回：JIS の系統色名
第６回：JIS の慣用色名
第７回：自然の秩序からの色彩調和
第８回：配色技法
第９回：配色イメージ
第10回：ビジュアルデザインと色
第11回：ファッションと色彩
第12回：プロダクトデザインと色彩
第13回：インテリアデザインと色彩
第14回：エクステリア環境と色彩
第15回：まとめ

成績評価方法	受講態度・試験の総合評価
テキスト参考書	授業内で紹介

授業コード	1621	科目名	福祉住環境論	担当者	中西 眞弓

【授業概要】
高齢者や障碍者を含めたすべての人に住みやすい住宅や街を考える。
「福祉住環境コーディネーター」資格の取得を目指してその内容に取り組む。

【到達目標】
①高齢者や障碍者が求めている住まいについて理解する
②高齢者や障碍者の特性を知る
③福祉住環境コーディネーター３級に合格する（２級受験も可能）

【授業計画】
第１回　　なぜバリアフリー住宅なのか
第２回　　日本の住環境の問題点
第３回　　少子高齢化社会の現状と課題
第４回　　福祉住環境コーディネーターとは
第５回　　介護保険制度
第６～８回　安全快適な住まいの整備
第９～11回　バリアフリーとユニバーサルデザイン
第12回　　ライフスタイルの多様化と住まい
第13回　　安心して暮らせるまちづくり
第14回　　高齢期の身体の変化と特定疾患
第15回　　まとめ
（順番、内容は受講生により変わることがあります。）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
資格試験のためのテキストを使用しますが、授業のみでの試験合格は難しいので、資格取得を目指す学生は、テキストを全部読む必要があります。資格試験を受験する学生は、定期試験は免除しています。

成績評価方法	提出プリント、 受講上の態度、 試験　の総合評価とする。
テキスト参考書	「新版　福祉住環境コーディネーター３級テキスト」東京商工会議所編

授業コード	1911	科目名	基礎演習（シニア） 大学でのレポート，とくに「実験レポート」の書き方	担当者	吉岡　英二

【授業概要】
大学生活を通して必要なスキルを中心に，とくに実験的なことも加えてどのようにまとめて発信していくかということを学んでいく。

【到達目標】
前期は、情報の交換や交流を通じて大学での学びに必要な知識の習得は情報収集・情報発信ができること。
後期は、自らが設定したテーマについて、調査・実験を通じてレポートを作成するまでのスキルを身に着けることを目標とする。

【授業計画】
「基礎演習」に加えて、受講生の実情に応じて独自のプログラムも実施する予定。

成績評価方法	レポート・授業での活動状況で評価する。
テキスト参考書	

授業コード	1912〜1915	科目名	基礎演習	担当者	基礎演習担当教員

【授業概要】
一年生がとまどうことの多い「レポートの書き方」を、少人数の対話的な授業（ゼミ）で身につけていきます。

【到達目標】
レポートの書き方を軸として、資料検索など大学での学びに必要な技術、また様々な社会問題に対して自分なりの考察を立てる技術、それを分かりやすく論理的に表現する技術を身につけていきます。

【授業計画】
【前期】期末レポートの提出時期に間に合うよう、「序論・本論・結論」からなるレポートの書式や、資料の検索や引用、メール添付の方法など、レポート執筆の基本を身につけていきます。
第１回　　一年間の目標を立てよう（前期ガイダンス）
第２回　　大学の授業とは
第３回　　レポートとは
第４～５回　わかりやすい説明とは
第６～８回　伝わりやすい意見とは
第９回　　図書館で資料を探そう（入門編）
第10回　　資料を引用してみよう
第11回　　メールでレポートを提出してみよう
第12～15回　事例を挙げて説明しよう（前期最終レポート）

【後期】さらに質の高いレポートが書けるよう、資料を手早く読み取り適切な要約を作るコツや、そこから自分の意見を論理的に展開させる方法などを身につけていきます。
第１回　　後期の目標を立てよう（後期ガイダンス）
第２～３回　意見を展開させてみよう（ソーシャルビジネス・アイディア・コンテスト応募）
第４回　　図書館で資料を探そう（上級編）
第５～７回　資料の読み方、まとめ方
第８～11回　資料をまとめた上で意見を展開しよう
第11～15回　自分なりの研究をしてみよう

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
１年生の学生生活の中心になる重要な授業です。必ず出席すること。

成績評価方法	授業への取り組みや提出課題の内容などから総合的に評価します。
テキスト参考書	授業の進行にあわせて、レジメやワークシート、各種資料を配布していきます。

授業コード	1921	科目名	課題研究 生物と環境の一年の変化を記録する	担当者	吉岡　英二

【授業概要】
一年間の継続的な観察と作業を通じて、とくに農作物を生産する植物のあり方を理解するとともに、環境と生物の記録を残すことの意義を理解して、実験科学で求められる形式に沿ったレポートを作成する。

【到達目標】
自分の選んだ作物の成長と生産について適切に記録し、その同化生産物を定量的に評価できること。
植物によって生産された有機物が、どのような条件のもとで分解・循環するかを理解し、それらが促進される条件について議論できること。

【授業計画】

【前期】

第１回	調査・実験場所の確認と実験デザインの説明
第２回	炭素・窒素、そのほかの物質の挙動について
第３回	前年度の堆肥などの確認，栽培場所のセッティング
第４回	栽培品種の決定と調達
第５回	植え付けと植栽場所の調整
第６回－第13回	成長・収穫物などの記録，環境条件の記録 ・栽培場所の継続的管理 ・天候悪化時の管理，有害動物への対処など
第14回	収穫物の総括と前期レポートのまとめ
第15回	前期の総括

【後期】

第16回	秋季の作物の植え付け・管理
第17回－第20回	成長・収穫物などの記録・環境条件の記録
第21回－第23回	植物体などの撤収・堆肥の準備 ・収穫物の利用・加工など
第24回－第26回	植物体の分解と循環についての実験
第27回－第29回	後期レポートの作成と評価
第30回	後期および全体の総括

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
全員での作業が多くなりますので、それぞれ協力的に作業を進めるように心がけてください。

成績評価方法	前後期末のレポートに加えて、作業への参加・手技の理解について、平常の授業態度などから評価する。
テキスト参考書	

授業コード	1922	科目名	課題研究 現代社会と地域文化	担当者	行木　敬

【授業概要】
交通網や流通網、情報網の発達によって、文化の地域差などとうに消えてしまってもおかしくない現代社会。しかし一方では、方言や地元の祭り、地域独自の食文化、給食メニューや遊びのルール、ローカル CM やローカル商品、ご当地キャラやご当地グルメ、都市伝説からコンビニのエリアマーケティングまで、「地域文化」は、話のネタとしてもビジネスとしても強い関心を集めている。現代社会と地域文化、このふたつの事象はどのようなつながりを持っているのだろうか？　おそらく様々な発見につながるこの問いを、本ゼミでは１年かけて皆で追求していく。

【到達目標】
・１年ゼミではあまりできなかった自由な研究やそのプレゼンを経験する
・３年ゼミ、特に社会学や観光学のゼミにつながるような知識を身につける

【授業計画】
三つのプロジェクトを柱とする：
１）論文講読
地域文化をめぐる論文をいくつか配布する。章ごとに担当者を決め、その内容を、自分の見解も付け加えた上で発表していってもらう。発表はパワーポイントを使って行う（講読に入る前に、パワーポイントの作り方・使い方を覚える回を数回置く予定）。基礎理論の習得とプレゼンの練習を兼ねている。主に前期におこなう。
２）地域文化マッピング
地域文化をめぐる掲示板や SNS で、しばしば貼られる全国の雑煮の分布図がある。作成したのはかつて本学におられた奥村先生である。こうした地域文化の分布図を、みんなでアイディアを出し合っていくつも作り、ネットに放流していきたい。企画立案の練習、およびパソコンによるデータ処理の練習を兼ねている。前期の後半から後期の前半にかけておこなう。
３）プレ卒論
以上を踏まえた上で、後期の中盤からは、各人自分の関心にあわせた個人研究を進めていってもらう。テーマは自由だが、将来書く卒論の練習になるよう、論文の構成やデータ収集の方法については綿密に指導する。また卒論発表会のように、ここでも論文の概要を伝えるパワーポイントを作成、最後に発表してもらう。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
作業量が多く、忙しいゼミになると思いますが、一緒にがんばりましょう。

成績評価方法	授業への取り組みや発表、最終論文などから総合的に評価する。
テキスト参考書	テキストは用いない。必要に応じて論文のコピーやレジメ、その他資料を配布する。

授業コード	1923	科目名	課題研究	担当者	飯嶋　香織

【授業概要】
私たちが身近であたりまえに感じていることについて、社会学的に考える力を養うとともに、社会学の基礎知識を習得することをめざします。３年次以降の社会学の勉強を深めるために必要な基礎的な知識や考え方を理解することが本授業の目的です。
前期は、取り上げる分野としては、現在の若者の在り方に注目することで、自己と社会の関係についての見方を深めることを目標としている。後期は３年次以降の社会学の勉強を深めるために必要な基礎的な知識や考え方を深めることも目標としています。

【到達目標】
自分の興味や能力に応じて学びを深め、長期にわたって１つのテーマを持続的に探求することができ、その成果について、発表やレポートでプレゼンテーションを行うことができるようになることが本授業の目標の一つです。
本講義は、３年次以降の演習で　各自が研究したいテーマ・問題意識などを考えるために準備としての位置づけももっています。今後研究したいテーマに関する基礎的な知識を身につけること、研究方法についても検討していくことも目標にしています。

【授業計画】
第１回　　オリエンテーション
第２～３回　社会学とはどういった学問か
第４～５回　社会学を研究するとは－プレゼンテーションの準備のために
第６～15回　テキストを使い、具体例として身近な問題から社会学的な見方を学ぶ
第16～27回　テキストの中で自分の興味・関心のある箇所の発表
第28～30回　３年次以降の各自が研究したいテーマなどを具体的に考える
※前期、後期共にフィールドワークを予定しています。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
本講義は、受講生の発表によって行なわれるため、各自が発表資料を作成することになります。さらに全員あるいはグループでのディスカッションまたはグループワークなどもおこないます。授業への積極的な参加が望まれます。

成績評価方法	発表時作成資料及び発表内容（70％）討論などへの参加状況（30％）出席は単位取得の必須条件となります。
テキスト参考書	長谷川公一（他）『社会学』有斐閣　3,675円　※後期の教科書は2011～2014年度講義「社会学入門」及び「社会学」のテキストと同じです。履修者ですでに持っている場合は購入は不要。［参考文献］阿部真大「居場所の社会学」日本経済新聞出版社　1,785円、阿部真大「ハタチの原点」筑摩書房　1,470円、加藤美帆「不登校のポリティクス」勁草書房　3,150円、牧野智和「自己啓発の時代」勁草書房　3,045円

授業コード	1924	科目名	課題研究 ロジカル・シンキング	担当者	加藤　恵介

【授業概要】
「論理的に考える」というと難しい印象があるが、論理とは言葉と言葉の関係であり、言葉の使い方の問題と捉えるほうがわかりやすいように思う。専門分野としての「論理学」ではなく、普段使う言葉について、意味や根拠を考え、より「論理的」に言葉を使うための練習を行う。

【到達目標】
レポートや論文などにおいて、より筋の通った説得力のある文章を書くこと。本や論文の内容を把握すること。根拠をあげて議論すること。これらに役だつ能力を育成する。

【授業計画】
練習問題を解くことによって言葉と言葉のつながり、主張と根拠の関係、批判や議論のやり方、などについて学ぶ。学期末には学んだ内容を生かしてレポートを書く。
前期
１．「論理的」とは（第１回－第３回）
２．言葉のつながり（第４回－第７回）
３．論証―主張と根拠（第８回－第12回）
４．レポート執筆（第13回－第15回）
後期
１．演繹とは（第１回－第５回）
２．批判の仕方（第６回－第８回）
３．議論の仕方（第９回－第12回）
４．レポート執筆（第13回－第15回）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
練習問題にじっくり取り組んでほしい。

成績評価方法	普段の授業への取り組みと期末レポートによって評価する。
テキスト参考書	『新版　論理トレーニング』野矢茂樹著　産業図書

授業コード	1925	科目名	課題研究	担当者	山下　紗矢佳

【授業概要】
本専門演習では、現代企業が経済構造の中で直面してくる諸問題について、現状を客観的に検討し、理論的かつ政策的な立場の視点に立って検討することを目的とする。特に中小企業の経営戦略と中小企業政策に関する問題について検討していき、知識を深めることを目的とする。

【到達目標】
日本の企業数の大多数を占める中小企業の現状について理解を深めることで日本経済の現状・問題点に関心をもつ。

【授業計画】
第１回：ガイダンス 本講義の目標・概要
第２回～第５回：テキストの輪読（１）
第６回～第７回：各自のテーマで発表及びディスカッション
第８回～第11回：テキストの輪読（２）
第12回～第13回：各自のテーマで発表及びディスカッション
第14回～第17回：テキストの輪読（３）
第18回～第19回：各自のテーマで発表及びディスカッション
第20回～第23回：テキストの輪読（４）
第24回～第25回：各自のテーマで発表及びディスカッション
第26回～第29回：中小企業の展望と課題
第30回　　：評価（到達度の確認）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
普段から新聞を読み現代社会の抱える問題について理解を深める。

成績評価方法	出席は大前提とし、授業への取組・発表内容で評価する。
テキスト参考書	授業中に紹介する。

授業コード	1927	科目名	課題研究 建築・インテリア基礎	担当者	山隈　直人

【授業概要】
よりよい建築・インテリアを設計するためには、既存建物の調査・研究をすることが重要である。建築・インテリアに関わる課題の発見・調査・研究方法についてフィールドワークを通して学ぶ。

【到達目標】
フィールドワークを通して建築・インテリアを見る視点を身に付け、課題の発見・調査・研究の方法を学び、建築・インテリアを設計するための手がかりを探る。

【授業計画】
＜前期＞　建築・インテリアの実例を調べ、それらを調査・研究するための視点を身に付ける。
第１回　　ガイダンス　ゼミの進め方
第２～３回　①調べる 建築・インテリアの実例について設計の意図や建物の特徴を調べる。
建築・インテリア雑誌に掲載された神戸の建築・インテリアの実例を調べる。
設計・デザインの特徴やポイントについてレポートし、フィールドワーク対象を決める。
第４～12回　①で調べた対象に対して、以下のフィールドワークを行う。
②見る：実際に建築・インテリアの実例を観察し、その特徴や利用状況を調査する。
③話し合う：設計の意図や建物の特徴について理解を深める。また、その課題を発見する。
④確認する：類似施設の調査や、実例の再調査を通して理解した内容を確認する。
第13回　　⑤まとめる：調べたものをまとめ、建築・インテリアを設計するための手がかりを探る。
第14～15回　⑥発表する：まとめたものを発表する。

＜後期＞　建築・インテリアの実例の空間や寸法を調べ、設計のための手がかりを探る。
第１回　　ガイダンス　ゼミの進め方
第２～５回　建築家の設計した住宅について、設計の意図や建物の特徴を調べる。
戸建て住宅の図面をトレースする。
トレースした図面をもとに戸建て住宅の模型をつくり、空間を立体的に把握・理解する。
第６～９回　建築の空間を取り上げ、実例を実測して図面を描き、使い勝手を検証する。
建築の空間の実例を実測して図面を描く。例：階段など
描いた図面を比較検討し、実際の使い勝手を検証する。
第10～13回　建築の空間を取り上げ、利用実態を調査し、設計上の課題を発見する。
建築の空間の実例を実測して図面を描く。例：エントランスホールなど
実測した空間の利用実態を調べ、建築・インテリアを設計するときの課題を発見する。
第14～15回　調べたものをまとめ、建築・インテリアを設計するための手がかりを探る。

成績評価方法	フィールドワークへの参加状況、提出レポートと口頭発表の内容で評価する。 また受講態度を重視する。
テキスト参考書	特に定めない 〔参考書〕『新版 建築を知る はじめての建築学』建築学教育研究会（鹿島出版会）など

授業コード	1931 4933	科目名	専門演習　都市交流学演習	担当者	永井　純一

【授業概要】
研究テーマの発見。研究方法の検討。

【到達目標】
文献購読やディスカッションを通じて、社会学やメディア研究の現代的な現象と、基礎的な研究動向を探る。

【授業計画】
前期
第１回～14回　文献購読・個人発表
第15回　まとめ
後期
第16回～23回　ディベート
第24回～30回　個人報告
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
学外のイベント等に参加することがあるので、その際には積極的な態度で臨むこと。

成績評価方法	受講態度、レポートにより総合的に評価。
テキスト参考書	

授業コード	1932 4932	科目名	専門演習　都市交流学演習 好奇心と教養の眼（芽）を開こう。	担当者	矢野　のり子

【授業概要】
日常の疑問や体験から出発して、卒業研究のための問題意識とテーマ、方法の明確化を図る。あまりにも身近すぎて対象化しにくい人間関係や日常から何を切り取るかというテーマと対象を探る。

【到達目標】
読書と思弁を基本としつつ、本やマスコミからの情報と他者の学説から結論を容易に導くのではなく、仮説や理論をどのように実証していくかを学ぶ。一方で、先行研究を学び、まとまった論文へと仕上げていく。卒業論文に向けて、調査研究を実際に体験しトレーニングすることを目的とする。

【授業計画】
①「知りたい、不思議、興味がある」といったことを見つけて、自分たちで調査計画し、実施していく。
②レサーチクエスチョンと仮説をたてる。③調査方法は、参与観察や定点観察、測定尺度の使用、アンケート調査などである。③調査結果を集計し､何が明らかになったか考察する。④全体をまとめ発表する。プレゼンテーションを工夫する。最低、表やグラフで示す。⑤可能であれば統計解析を試みる。また出来ればパワーポイントを使って発表する。⑥発表を通して自由討論していく。⑦前期はグループで、後期は各自テーマを決めて文献や先行研究を探し、レジュメを作って発表していく。また、研究論文の書き方を学ぶ。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
積極的なディスカッションへの参加を望む。主人公はゼミ生のみなさんである。流暢でなくてもいいので自分のことばで話そう。社会と自分をふくむ人間への関心を深めてほしい。お互いに刺激し合うこと。

成績評価方法	平常点＋レポートで評価する。ゼミは参加が前提である。
テキスト参考書	適宜案内する。

授業コード	1933 3932	科目名	専門演習　環境文化学演習	担当者	佐　藤　　光

【授業概要】
複数のテキストを輪読・報告・討論して、現代世界の諸問題に関する理解を深め解決策を探る。

【到達目標】
特に、自分の意見を発表（プレゼン）して、他人と討論する力を養う。

【授業計画】
1.　　ガイダンス
2～10.『カール・ポランニーと金融危機の時代』の輪読・報告・討論
11～19.『経済の文明史』の輪読・報告・討論
20～28.『21世紀の資本』の輪読・報告・討論
29.　　全体討論
30.　　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義ではなく演習なので、なにより自学自習する意欲と努力が求められる。

成績評価方法	報告と討論などに関する平常点による。
テキスト参考書	1．佐藤光『カール・ポランニーと金融危機以後の世界』（晃洋書房､2012年）　2．K．ポランニー『経済の文明史』玉野井ほか訳（筑摩書房､2003年） 3．T．ピケティ『21世紀の資本』山形ほか訳（みすず書房､2014年）　演習の流れや受講生の予備知識などに応じて、テキストを変更することがある。

授業コード	1934 4931	科目名	専門演習　都市交流学演習 何にでも挑戦！	担当者	山　崎　　正　雄

【授業概要】
1、2学年で学んだ「観光」を総括し卒業論文にいたる自らの研究テーマを視野に学習する。
タイムリーな話題に関してディスカッション、ディベートにも挑戦する。
ボランティアガイド、ボランティアイベントにも積極的に参加する。
読書：まずは月１冊から開始、概要をまとめ発表。

【到達目標】
自ら目標を定め挑戦する。
観光マーケティング（旅の企画と集客）について実践する。
国内旅行業務取扱管理者試験合格。合格者は総合旅行業務取扱管理者試験合格をめざす。
留学生は日本語検定試験１級をめざす。

【授業計画】
【前期】
神戸市観光ボランティアグループとの連携により神戸観光推進への取組み。
兵庫県のまち歩きボランティアへの参画、観光企画のプランニング。
観光関連事業へのボランティア参画。
観光関連国家試験対策（約款他）・留学生は日本語検定試験対策。
【後期】
神戸市、兵庫県が推進する国際交流事業や多文化共生事業に参画。
観光／感動の仕掛け創りに挑戦する。（企画と集客）
国家試験挑戦（国内、総合旅行業務取扱管理者試験）・日本語検定試験挑戦
＊その他前期取組みの継続等。
＊前期後期ともテーマを定め、調査とプレゼンを実施する。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
何にでも意欲をもって自ら挑戦してみようという学生！
年間５－６回、土日を利用しボランティア、イベント参加に取組みます。（参加出来る学生）
チームワークが重要。
「旅行業約款」の既学習者が望ましい。日本語検定試験２級以上取得者が望ましい。
無届けの遅刻、欠席はレポート提出（Ａ４：１枚）

成績評価方法	ゼミ活動への積極的参加、チームワークへの貢献度その他総合的に判断する。
テキスト参考書	都度資料を配布する / 各試験受験用のテキスト購入が必要（別途指示）

授業コード	1935 3931	科目名	専門演習　環境文化学演習 CSR 報告書と ISO26000　を読み解く	担当者	井上　尚之

【授業概要】
前期は企業がネットや紙媒体で提供している CSR 報告書を読み込み、環境経営を切り口に企業を研究していく。後期は CSR 報告書のベースになっている ISO26000の内容を学習する。

【到達目標】
企業の CSR の実態を知る。

【授業計画】
第１～３回　CSR 報告書収集
第４～12回　CSR 報告書分析
第13～15回　結果発表
第16回　ISO26000とは？
第17回　ISO26000の歴史と構成
第18回　ISO26000の組織統治
第19～20回　ISO26000の人権
第21～22回　ISO26000の労働慣行
第23～24回　ISO26000の環境
第25～26回　ISO26000のコミュニティへの参画及びコミュニティの発展
第27～30回　ISO26000と CSR 報告書

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業中に説明する。

成績評価方法	積極的授業参加・発表・態度・レポート等による総合評価。詳細は授業中に説明する。
テキスト参考書	授業中に指示する

授業コード	1936 3933	科目名	専門演習　住環境・インテリア演習	担当者	田中　栄治

【授業概要】
建築学に関する知見を深め、現代社会の生活基盤である建築・インテリアが抱える課題の発見と、よりよい建築・インテリアを設計するための基礎となる調査・研究方法を学ぶ。

【到達目標】
建築・インテリアに関する調査・研究を通して、それまでに身に付けた研究方法をより専門的レベルに応用し、問題発見から解決に至る道筋を見出し、自発性、分析力、構成力、表現力を高める。４年次の卒業研究の基礎を身に付ける。

【授業計画】
＜前期＞建築・インテリアの空間構成や動線計画などを調べ、課題発見のための基礎調査を行う。
第１回　ガイダンス　課題の進め方
第２～５回　建築家の設計した建築・インテリアについて、設計の意図や建物の特徴を調べる。
建築家の設計した建築・インテリアについて実例を集める。
集めた実例について比較検討し、設計の意図や建物の特徴を調べる。例：セイムスケールなど
第６～９回　比較検討した建築・インテリアについて、図面上で空間構成や動線計画などを調べる。
建築・インテリアの空間構成を調べる。例：ゾーニング図など
建築・インテリアの動線計画を調べる。例：動線検討図など
第10～13回　上記の調査をもとに、実際の建築・インテリア空間の実態を調査する。
空間の利用実態を調べ、建築・インテリアの課題を発見する。
第14～15回　調べたものをまとめ、建築・インテリアを設計するための手がかりを探る。

＜後期＞既存研究調査を通して建築・インテリアに関する課題の発見・調査・研究の方法を学ぶ。
第１回　ガイダンス　課題の進め方
第２～５回　建築・インテリアに関する既存研究を調べる。
既存研究の文献調査を行う。例：図書館や学会論文集・Cinii など
既存研究のテーマ設定・課題の発見・調査・研究の方法について分析する。
第６～９回　実際の建築・インテリア空間を取り上げ、テーマ設定・調査・研究計画を立てる。
空間を実測して図面を描き、基礎資料をつくるとともに空間構成の分析を行う。
テーマを設定し、調査・研究の具体的な計画を立てる。
第10～13回　上記の調査計画をもとに、実際の建築・インテリア空間の利用実態を調べる。
空間の利用実態を調べ、建築・インテリアの課題を発見する。
第14～15回　調べたものをまとめ、建築・インテリアを設計するための手がかりを探る。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
建築やインテリアに関する資格取得を目指す学生はこの授業を履修することを推奨する。また、「設計製図基礎」「設計製図演習」と合わせて履修することが望ましい。

成績評価方法	フィールドワークへの参加状況、提出レポートと口頭発表の内容で評価する。
テキスト参考書	なし 〔参考書〕『建築設計資料集成』日本建築学会（丸善）など

授業コード	2004	科目名	観光学概論	担当者	原　一樹

【授業概要】
日本は今後、ますます「観光立国」化が進み、観光産業が発展し、観光に関わる社会・文化現象が注目される時代となります。この講義では、社会の様々な側面と関わる観光や観光産業について、基本的知識や考え方を身に付けて貰うことを目指します。

【到達目標】
・観光が人間や社会に対して持つ意義、効果を理解する。
・観光産業や新しい観光の在り方について、基本的知識や考え方を習得する。

【授業計画】
第１回　イントロダクション
第２回　観光の広がり
第３回　観光に関する言葉
第４回　観光の仕組み
第５回　観光と旅行の歴史
第６回　観光資源・観光対象①
第７回　観光資源・観光対象②
第８回　前半部確認試験
第９回　観光産業の概要
第10回　旅行業の概要
第11回　運輸・交通産業の概要
第12回　宿泊産業の概要
第13回　集客産業の概要
第14回　新たな観光の時代、新たな観光の形①
第15回　新たな観光の時代、新たな観光の形②

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
観光を学ぶ上での基本的知識を身に付ける必修科目です。広く観光に関するニュースや情報を日頃から入手するよう心掛け、授業配布プリントを必ず復習して下さい。授業内で実施する、観光や観光産業についての意見交換・ディスカッションにも積極的に取り組むよう、心がけて下さい。

成績評価方法	毎回の小テスト４点×13回＝52点と、前半部確認試験（第８回）24点、後半部確認試験（定期試験期間）24点の積算100点で評価します。
テキスト参考書	特定のテキストは用いません。毎回プリントを配布します。

授業コード	2005	科目名	インバウンド論（1） 観光立国を理解する	担当者	小野田　金司

【授業概要】
2013年､2014年に文部科学省委嘱事業「成長戦略、観光分野の中核人材養成事業」として製作されたインバウンド人材育成のｅラーニング教材などを利用して､2020年の東京オリンピック・パラリンピックに2000万人以上と予測される訪日外国人観光（インバウンド観光）客に対応する知識と技能を身につける科目です。
次の３つの学習形態で授業を展開します。
１．ｅラーニングとテキストフォロー　　インバウンド観光の基礎的知識や着地型観光の作り方、神戸における地域産業や観光素材を理解します。加えて、テキストを利用して授業を展開します。
２．ゲスト講師によるセミナー　　日本のインバウンド観光の最先端を走るドン・キホーテグループ、㈱ジャパンインバウンドソリューションズの代表取締役でもあり､テキストと利用する「インバウンド戦略」の著者中村好明氏（本学客員教授）によるセミナーを開催します。セミナーは社会人と一緒に受講します。
３．フィールドワーク　　神戸におけるインバウンド観光実践フィールドを訪れ、現場の状況を体験します。

【到達目標】
１.インバウンド観光人材レベル３　　インバウンド観光の基礎的知識・理念を理解している。
インバウンド観光を意欲的に研究できるモチベーションがある。
インバウンド観光に関心を持ち、自ら情報を収集することができる。

【授業計画】
第１回～第９回　（担当：小野田）インバウンドの基礎知識、神戸における地域産業と観光文化、着地型観光
第10回　フィールドワーク
第11回～第12回　（担当：中村）インバウンド観光戦略を学ぶ
第13回～第15回　（担当：小野田）振り返りとまとめ
※客員教授の都合により回数が入れ替わる場合があります。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
本講は必修科目です。遅刻は厳禁、３回で欠席扱い。授業中の私語、スマホは厳禁、授業妨害とみなし退場してもらいます。欠席が６回で再履修となります。
フィールドワークの交通費が必要です（別途案内：行先は神戸市内を予定）
ゲスト講師とフィールドの日程がイレギュラーですから注意してください。
準備学習　テキストを事前に予習するとともに WEB 等で情報を深めておくことが望ましい。
復習　講義で配布する資料や小テストの問題を繰り返して復習することにより理解が深まる。

成績評価方法	全回を通じて受講態度（20%）を評点に加える。　授業理解度（50%）と貢献度（30%）　理解度判定（80%）の小テストとレポートで評価する。
テキスト参考書	「インバウンド戦略」中村好明著　後期も使用します。

授業コード	2006	科目名	インバウンド論（2） 外客免税販売士	担当者	小野田　金司

【授業概要】
インバウンド論（1）に引き続き､2013年､2014年に文部科学省委嘱事業「成長戦略、観光分野の中核人材養成事業」として製作されたインバウンド人材育成のｅラーニング教材などを利用して､2020年の東京オリンピック・パラリンピックに2000万人以上と予測される訪日外国人観光（インバウンド観光）客に対応する知識と技能を身につける科目です。
次の３つの学習形態で授業を展開します。
1．ｅラーニングとテキストフォロー　インバウンド観光で重要なことは、訪日外国人数を増やすことよりもインバウンド観光により日本GDPを向上させることです。都市観光（アーバンツーリズム）、地方再生には、外客免税を理解が必要です。テキストを利用して外客免税販売士の資格講座授業を展開します。
2．ゲスト講師によるセミナー　日本のインバウンド観光の最先端を走るドン・キホーテグループ、㈱ジャパンインバウンドソリューションズの代表取締役でもあり、テキストと利用する「インバウンド戦略」の著者中村好明氏（本学客員教授）によるセミナーを開催します。セミナーは社会人と一緒に受講します。
3．フィールドワーク　神戸におけるインバウンド観光実践フィールドを訪れ、現場の状況を体験します。

【到達目標】
1．免税免許取得および免税販売に関する知識を身につけるために常に努力を惜しまない。　2．外国人観光集客、販売までの一連の取組が理解できる。　3．常に訪日外国人旅行者の目線に立って行動できる。　4．訪日外国人旅行者がリピートできる環境づくりを心掛けることができる。　5．外客免税販売士でとどまらず、チッキを元気にすることを常に意識して行動できる。

【授業計画】
第１回～第10回　（担当：小野田）免税制度、おもてなし、情報発信力についての講義
第11回　フィールドワーク
第12回～第13回　（担当：中村）外客免税の理念とノウハウを学ぶ
第14回～第15回　（担当：語学教員）語学（売れる免税イングリッシュ）
※客員教授の都合等により順序が入れ替わる場合があります。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
本講は必修科目です。遅刻は厳禁、３回で欠席扱い。授業中の私語、スマホは厳禁、授業妨害とみなし退場してもらいます。欠席が６回で再履修となります。
フィールドワークの交通費が必要です（別途案内：行先は神戸市内を予定）
ゲスト講師とフィールドの日程がイレギュラーですから注意してください。
準備学習　テキストを事前に予習するとともにWEB等で情報を深めておくことが望ましい。
復習　講義で配布する資料や小テストの問題を繰り返して復習することにより理解が深まる。

成績評価方法	全回を通じて受講態度（20%）を評点に加える。　授業理解度（50%）と貢献度（30%）　理解度判定（80%）の小テストとレポートで評価する。
テキスト参考書	「インバウンド戦略」中村好明著　前期も使用します。新しいテキストが出版される可能性があります。授業で発表する予定です。

授業コード	2007	科目名	観光文化入門 新たな観光の時代へ	担当者	小槻文洋 小磯学 原一樹 高根沢均

【授業概要】
４名の教員によるオムニバス形式

【到達目標】
今日、従来の枠に納まりきらない新しい観光が続々と生み出されています。「ツーリズム」とカタカナで表現されるのもそのためです。文化の多種多様な側面と広く関わる「ツーリズム」はなぜ生まれ、どのような方向性をもつのでしょうか。最前線の理解を目指します。

【授業計画】
小槻　第１講　授業オリエンテーション、観光文化学の対象領域
　　第２講　観光の政治経済的側面、社会・文化的側面…ホスト・ゲスト論、まなざし論、真正性
　　第３講　観光経験…疑似イベント論、シミュラークル論、物語性
小磯　第４講　スピリチュアルツーリズム：心の観光を求めて
　　第５講　エスニックツーリズム：異なる文化で生きる人々を訪ねる
　　第６講　エコツーリズム：自然を守る・歴史を守る・文化を守る
　　第７講　アーバンツーリズム：都市がもつ無限の魅力
原　第８講　コンテンツツーリズム①：文学と映画の舞台を巡る旅
　　第９講　コンテンツツーリズム②：クールジャパンと「アニメ聖地巡礼」
　　第10講　アートツーリズム：絵画や音楽を求める旅
　　第11講　ポスト・ツーリズム：近代観光の終焉？
高根沢　第12講　ヘリテージツーリズム
　　第13講　ガストロノミックツーリズム
　　第14講　アグリツーリズモ（農村ツーリズム）
　　第15講　伝統産業と観光

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
観光文化フィールドの４人の教員が順に担当します。世の中の変化とともに、観光のあり方もまた変化を遂げています。もちろんそれは、人々が求める旅のあり方が、そして人生の過ごし方が変化しているからにほかなりません（皆さんはいかがですか？）。今､どのような観光が注目されているのか探って行きましょう。　授業内容を確認する小テストを毎回行います。しっかりとノートを取りましょう。

成績評価方法	授業毎の小テスト ＋ 期末テスト
テキスト参考書	小槻文洋・原一樹・高根沢均 他本学教員　2014『観光研究のキーコンセプト』現代図書　2000円。 購入方法については、履修時に指示します（市販よりも安く購入できます）。

授業コード	2008	科目名	観光ビジネス入門	担当者	司正芳吉 祥典隆 中山水 田森西清

【授業概要】
観光を通じた営利的営みを「観光ビジネス」と総称することができるが、実際には一口に「観光ビジネス」として括りきれないほど、様々な業種が成立している。
本科目では、観光ビジネスにおける代表的な業種を紹介するとともに、今後の観光ビジネスの可能性についても言及する。

【到達目標】
1、観光ビジネスにかかわる基礎知識を習得する。
2、観光ビジネス特有の事象について、その背景にある基礎理論を理解する。
3、観光ビジネスの今後の可能性について学ぶ。

【授業計画】
第1講　旅行業界とは
第2講　旅行商品の造成
第3講　旅行商品の流通
第4講　旅行業界の新たな挑戦
第5講　ホテルの成立ち、種類と分類
第6講　ホスピタリティマインドの育成
第7講　ホテル運営のおける指針、ホテル業界の企業模範
第8講　ホテル業の今後の方向性
第9講　テーマパークとマーケティング
第10構　米テーマパーク企業と海外戦略
第11構　テーマパークの仕事
第12構　テーマパークの人材論
第13講　我が国のヘルスツーリズム
第14講　海外のヘルスツーリズム
第15講　スポーツツーリズムとは

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
観光業界に関する日々のニュースや動向の確認を行うこと、および授業で学んだ重要項目の復習が求められる。

成績評価方法	受講態度：40%（出席、授業での発言等）、最終レポート：60%
テキスト参考書	必要なテキスト・参考書については別途指示します。

授業コード	2009	科目名	グローバルコミュニケーション入門	担当者	坂井純子 澤山明宏 劉争

【授業概要】
グローバル社会とは何かについて学び、グローバルコミュニケーションの背景と必要性を理解する。また、そこでの自分の役割発見を促す。
授業は三部構成とし、第1部「グローバル化社会について」、第2部「英語圏におけるコミュニケーション」、第3部「中国とアジアのケーススタディー」を扱う。

【到達目標】
（1）グローバルコミュニケーションについての基本理解を得る
（2）グローバルな時事問題に興味を持つ
（3）文化によるコミュニケーションの違いについて理解を深める
（4）グローバルコミュニケーション視点でのケースを発見し、分析できる

【授業計画】
第1部　グローバル化社会について（担当教員：澤山明宏）
　以下の構成でグローバル化社会への入門講義とします。授業ではできるだけ最近の時事ニュースなどを取り上げていく予定です。
（1）グローバルコミュニケーションとは何か？
（2）グローバル化と政治
（3）グローバル化と経済
（4）グローバル化と文化
（5）グローバル化社会を生き抜くために

第2部　英語圏におけるコミュニケーション
（1）英語圏の文化、社会
（2）（3）英語によるコミュニケーションのあり方
（4）（5）英語文化の人々の仕事に関する価値観

第3部
（1）中国とアジアの話
（2）ケースAのスタディー
（3）ケースAのワークショップと発表
（4）ケースBのスタディー
（5）ケースBのワークショップと発表

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
第1部：日ごろから時事ニュースに目を通すようにしてください。また、高校時代に使用したもので結構ですから世界地図を毎回持参願います。

成績評価方法	第1部：ショートテストと授業中に配布するコメントペーパーの内容を中心に評価します。　第2部：授業内で取り組む課題を中心に評価します。　第3部：課題レポートを中心に評価します。
テキスト参考書	テキストはありません。参考書は授業で必要に応じて紹介します。

授業コード	2010〜2015	科目名	観光文化学特別演習Ａ〜Ｆ イベントリーダープログラム	担当者	小野田　金司

【授業概要】
本科目はPBL（Problem Based Learning）型授業です。与えられた問題を解決していくスタイルの授業です。国内外の観光地でのフィールドワーク、観光事業遂行のPBL型授業を通じて、観光文化に関する知見と経験を同時に修得します。具体的には、特定地域の観光活性化事業、イベントやツアーの企画、運営、観光広報戦略の立案・実行、インバウンド商品開発などを通じて実施されます。この演習科目は、上限６単位まで修得可能です。この演習はイベントリーダープログラムです。内容は、新入生合宿（ルーキージャム）、COMIN'KOBE15、オープンキャンパスの企画運営を中心にした授業を展開します。特にリーダーとして下級生をマネジメントしながら、学外の旅行会社、イベント会社、ファシリテーター等と共同作業を展開していきます。

【到達目標】
1．担当イベント実施の課題を乗り越え、計画的に役割、業務をマネジメントし運営できる技能を身につける。対課題基礎力の向上
2．リーダーシップをつけ、チームでコミュニケーションをとり、目標を共有しながら、来場者や参加者のニーズを満たすことができる。対人基礎力の向上
3．タイムコントロール、ストレス耐性を身につけ、自発的に物事に挑戦できる。対自己基礎力の向上

【授業計画】
１月より履修仮受付
２月より事前研修スタート
２月10日　観光立国フォーラム　サポート
３月６日　関西観光教育コンソーシアム総会　サポート
３月　　事前合宿
　　オープンキャンパス
「新入生合宿（ルーキージャム）」　※新入生の人数により一部学生になる可能性があります。
・オリエンテーション運営実施
・４月24日〜26日の合宿運営、振り返りの実施、アンケートの集約、来年度の企画

「COMIN'KOBE15」
・４月29日のリーダー業務（販売関係、運営関係）
・４月29日に向けてのボランティアスタッフの募集と指導
・終了後の精算作業。来年度の企画
現場への交通費が必要となります。
※定期試験はありませんが、最後にレポート提出が必要です。
「オープンキャンパス」
春季のみ
５月中に終了の予定です。Ⅱ（前期）
春休みより事前研修を実施する。（実費必要15,000円程度）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・定員は設定しませんが、簡単な面接を行い授業内容のミスマッチがないかを確かめます。
産業界との連携も多く、モラルとモチベーションのない学生は履修をお断りする場合があります。春季期間から事前合宿等がありますので、それに参加できるのが条件です。
準備学習　テキストを事前に予習するとともにWEB等で情報を深めておくことが望ましい。
復習　講義で配布する資料や小テストの問題を繰り返して復習することにより理解が深まる。

成績評価方法	個人で目標を設定し、その達成度で成績を評価する。 「授業への参加姿勢」も考慮する。
テキスト参考書	必要な教材は配布する。

授業コード	2016 2017	科目名	コープ４Ａ、４Ｂ 中期企業実習	担当者	小野田　金司 山　本　　健

【授業概要】
①観光業界を対象とした企業・団体などでの実習します。
②実習参加に必要なビジネスマナー、企業研究など事前研修を実施します。
③実習後は事後学習として実習成果発表を行います。

【到達目標】
①企業・団体等のおける人材要件、業界と業務の理解と適合性を確認する。
②実習を通じて就業力を向上させる。
③進路選択をより具体的に実習を通して研究し、決定する力を育成する。

【授業計画】
「事前学習」「企業実習」「事後学習（成果発表）」が履修に際しての必須要件です。
どれも省くことはできません。
履修は、前・後期それぞれ各１回受け付けます。
【単元】
①事前学習　８時間
　ビジネスマナー、企業研究などを外部講師、専門講師、OBなどを招聘し実施予定
②企業実習　160時間（例：一日８時間×20日）
　要件は「実習時間」で期間ではない
③事後学習　８時間
　実習日誌・報告書などの作成、成果発表（パワーポイントでのプレゼンテーション）

【スケジュール】　※以下の日程は目安
●前期
①ガイダンス：４、５月（２回）
②事前学習：６、７月（２回）
③学内面談・企業面接６〜７月
④実習先決定：７月
⑤企業実習：８〜９月（夏季休暇期間）
⑥事後学習：10月
●後期
①ガイダンス：10月
②事前学習：11､12月（２回）
③学内面談・企業面接11〜12月
④実習先決定：12月
⑤企業実習：12〜３月（冬期及び春期休暇期間）
⑥事後学習：５月
※単位認定：事後学習を実施した学期

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・この科目は、企業留学、就業模擬体験で学外学習型です。　・実習先の決定は派遣先にあり、多くは事前面接があります
・観光業界の第一線で就業体験は、就職活動において、大きな強みになります。　・就職を検討するうえでも、履修することで、より的確に情報が収集できます。

成績評価方法	①事前、事後学習での受講態度　(10%)　②実習中の日誌、報告書　(20%)　③受入企業からの実習態度に対する評価　(20%)　④事後学習成果発表時のプレゼンテーション　(50%)　以上４点を総合して成績評価します。
テキスト参考書	講義時に適宜配布

授業コード	2018	科目名	コープ16 長期企業実習	担当者	小野田　金司 山本　健

【授業概要】
①観光業界を対象とした企業・団体などでの実習します。
②実習参加に必要なビジネスマナー、企業研究など事前研修を実施します。
③実習後は事後学習として実習成果発表を行います。

【到達目標】
①企業・団体等のおける人材要件、業界と業務の理解と適合性を確認する。
②実習を通じて就業力を向上させる。
③進路選択をより具体的に実習を通して研究し、決定する力を育成する。

【授業計画】
「事前学習」「企業実習」「事後学習（成果発表）」が履修に際しての必須要件です。
どれも省くことはできません。
履修は、前・後期それぞれ各１回受け付けます。
【単元】
①事前学習　８時間
　ビジネスマナー、企業研究などを外部講師、専門講師、OB などを招聘し実施予定
②企業実習　640時間（例：一日８時間×80日）
　要件は「実習時間」で期間ではない
　注）実習期間は、実習開始から１年間です。
③事後学習　８時間
　実習日誌・報告書などの作成、成果発表（パワーポイントでのプレゼンテーション）

【スケジュール】※以下の日程は目安
●前期
①ガイダンス：４、５月（２回）
②事前学習：６、７月（２回）
③学内面談・企業面接６～７月
④実習先決定：７月
⑤企業実習：８月～（夏季休暇期間も含め実習）
⑥事後学習：実習終了時点で日程を決定
●後期
①ガイダンス：10月
②事前学習：11､12月（２回）
③学内面談・企業面接12月
④実習先決定：12月
⑤企業実習：12月～、２月～（冬期､春期休暇期間も含め実習）
⑥事後学習：実習終了時点で日程を決定
※単位認定：事後学習を実施した学期

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・この科目は、企業留学、就業模擬体験で学外学習型です。　・実習先の決定は派遣先にあり、多くは事前面接があります
・観光業界の第一線で就業体験は、就職活動において、大きな強みになります。　・就職を検討するうえでも、履修することで、より的確に情報が収集できます。

成績評価方法	①事前、事後学習での受講態度　(10%)　②実習中の日誌、報告書　(20%)　③受入企業からの実習態度に対する評価　(20%)　④事後学習成果発表時のプレゼンテーション　(50%)　以上４点を総合して成績評価します。
テキスト参考書	講義時に適宜配布

授業コード	2101	科目名	世界遺産論	担当者	高根沢　均

【授業概要】
世界にはさまざまな素晴らしい文化・自然の産物が残されている。人類が団結してそれらを守り継承する制度として世界遺産制度は生まれた。その理念と歴史について学びながら､現在の世界遺産条約と遺産保全が抱えている課題とその将来について考える。

【到達目標】
世界遺産条約とその指定する遺産の価値及びその選定基準について理解する。
世界遺産条約の定める制度、運営の仕組み、およびその問題点を理解する。
遺産保全のための取り組みと保全の要点を理解し､観光の現場において保全と観光のバランスのとり方について具体的な提案ができる。

【授業計画】
講義では、以下のテーマを扱いながら世界遺産とその制度についての理解を深めていく。
第１講　　：オリエンテーション
　講義の内容、進め方について説明、世界遺産について受講者の意識調査
第２～４講：世界遺産とは何か～受講者アンケートに基づく討論
　・「人類の遺産」～理念の歴史
　・普遍的価値とは
第５～７講：世界遺産の類型
　・文化遺産、自然遺産、複合遺産について
　・各遺産の価値、および評価基準について
第８～12講：世界遺産条約の成立過程
　・武力紛争における文化遺産保護～ハーグ条約の理念
　・ヌビア遺跡救済キャンペーン
　・人類の遺産～自然遺産と文化遺産の総合的保護の枠組み形成
第13～15講：保存とオーセンティシティ
　・保存と継承～修復と修理、復元と復原
　・オーセンティシティの問題～奈良ドキュメント

＊テーマごとに、関係する世界遺産の事例を紹介しながら考えていく。
＊進行に応じてテーマの順序は適宜変更する。
＊世界遺産について、受講者の調査と報告を求めることもある。
＊プロジェクターを毎回使用します。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
世界遺産に関する知識を広げるために、積極的に関連する資料や新聞に毎日目を通しておくこと。授業のノートを毎回見直して整理しておくこと。世界遺産検定の受験を勧める。

成績評価方法	受講態度10%、期末試験90%で成績を評価する。
テキスト参考書	特に指定はしないが、世界遺産に関する本は大量に出版されているので、手ごろなものから読んでみると良い。

授業コード	2102	科目名	サステイナブルツーリズム論 持続可能な観光とは？	担当者	小槻　文洋

【授業概要】
サスティナブルツーリズム（持続可能な観光）の基本概念と歴史的経過を学び、地域・行政・観光事業者・観光客などのステークホルダーがそれぞれ果たすべき役割と課題について学習する。将来の地域産業および観光産業に対してサスティナブルツーリズムが持つ可能性についても考察する。

【到達目標】
関連する概念を理解し、説明できる。サスティナブルツーリズムを実現するために、観光産業に関わるさまざまなステークホルダーが実施可能な工夫・手法について理解し説明できる。

【授業計画】
イギリスで出版された学部生向けの教科書、David Weaver（2006） Sustainable Tourism: Theory and Practice, Butterworth-Heinemann にもとづき、以下の内容を順に扱う。
1. サスティナブルツーリズムの出現
2. サスティナブルツーリズムの諸問題
3. オールタナティブツーリズム：関連概念と限界
4. 従来型マスツーリズム
5. 関連産業の役割：旅行会社、ガイドブック、宿泊施設
6. アトラクションの役割
7. 品質管理：行動倫理、エコラベル
8. 観光受入地域の課題：コミュニティとの関係
9. 観光地における空間管理：環境収容力、ゾーニング、開発
10. 観光客管理の手法：人数制限、分散化、教育、デマーケティング
11. エコツーリズム：定義、産業、費用対効果

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
さまざまな観光地の取り組み事例を新聞記事などで読んでおくこと。

成績評価方法	小テスト40%、授業内レポート20%、期末テスト40%
テキスト参考書	プリントを配布する。

授業コード	2103	科目名	コンテンツツーリズム論 ―物語を旅する―	担当者	原　一樹

【授業概要】
近年、「コンテンツツーリズム」という実践やそれに関する研究が活発化しています。「コンテンツツーリズム」とは、文学や映画、アニメや漫画といったコンテンツ（物語）の舞台や「ゆかりの地」を訪問する観光の形で、言葉は新しいですが、古くから人間が実践してきた旅であるとも言えます。この授業では、人間にとって「物語」が持つ意味や、「コンテンツツーリズム」の歴史的事例・現代的事例を学び、将来の観光の在り方を展望します。

【到達目標】
・人間にとって「物語」が持つ意味について理解を深める。
・「物語（コンテンツ）」を対象とする旅の歴史や現代的事例を理解する。

【授業計画】
第１回　　イントロダクション
第２回～第４回　人間にとって「物語」とは何か（哲学・文学・歴史等を参考に）
第５回～第７回　「文学作品と旅」の歴史と現状
第８回　　前半部確認試験
第９回～第11回　「映画作品と旅」の歴史と現状
第12回～第14回　「アニメ・漫画作品と旅」の歴史と現状
第15回　　まとめと展望

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業では文学・映画・アニメや漫画を中心に、様々なコンテンツ（物語）を旅や観光と関連させつつ、紹介することとなります。大学生時代に多くの「物語」に触れておくことは、その後の人生を豊かなものとすることは確実です。授業内容の復習を兼ねて、様々なコンテンツに触れてみて下さい。

成績評価方法	毎回の小テスト４点×13回＝52点と、前半部確認試験（第８回）24点、後半部確認試験（定期試験期間）24点の積算100点で評価します。
テキスト参考書	特に用いません。適宜プリントを配布します。

授業コード	2104	科目名	グリーンツーリズム論 地域の魅力発掘研究！	担当者	本阪　恵美

【授業概要】
グリーンツーリズムって何？から学び、事例研究やフィールドワークを通じて、農村地域資源を活用し地域の活性化につながる参加・体験・交流型”グリーンツーリズム”の理解を深めます。
また、グループワーク等の実践、オリジナルグリーンツーリズム企画立案、プレゼンテーションを行います。

【到達目標】
①グリーンツーリズムの理解度を深めます。
②農村地域の魅力を引き出し、柔軟な発想で魅力的グリーンツーリズム企画立案を目指します。
③今後に役立つ「企画力」や「プレゼンテーション力」を向上も目指します。

【授業計画】
第１回　　：授業ガイダンス
第２回　　：農村資源地域の活用、パソナグループ農業・地域活性への取り組み
第３回　　：グリーンツーリズムの意義・効果を学ぶ
第４回　　：グリーンツーリズムの取り組み事例
第５～８回：フィールドワーク：グリーンツーリズム素材を体験・調査する　※兵庫県淡路市予定
第９・10回：グループワーク②グリーンツーリズムの素材を磨く
第11回　　：グリーンツーリズムの「価値」を確認・検討する
第12回　　：魅力的ツーリズム企画立案・プレゼンテーションについて事前説明
第13・14回：魅力的ツーリズム企画立案のためのワーク
第15回　　：プレゼンテーション・まとめ

※受講人数、進行状況により順番・内容（フィールドワーク実施回・行き先）を変更することがあります。
※第５～８回フィールドワークは10月24日（土）頃に実施予定（平日は振替休講とします）
　パソナ農援隊の自社農場、若手農業者グループ、他１次産業の拠点を訪れて体験・調査します。
※フィールドワークは交通費自己負担とします。現場主義授業ですので、交通費自己負担に納得できない方は参加しないほうが良いですのでご注意ください（岩屋港まで実費、淡路島内バスチャーター代1,200円程度）。
※プロジェクター使用

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
1．広い心で楽しく素直に学ぶ意識を持って参加してください。
2．ワークでは批評家にならないようにしましょう、良いアイデアを出すためには良い雰囲気作りを大切に。
3．日頃からアイデアを磨くための情報収集を心がけて参加してください。

成績評価方法	期間中の小レポート課題提出、期末レポート提出、授業参加姿勢（ワークでの積極性・協調性・聴講態度）
テキスト参考書	なし。適宜プリントを配布する。

授業コード	2201	科目名	ブライダルビジネス論	担当者	野田　明義

【授業概要】
ホテルにおけるブライダルを中心としてブライダルを文化、マーケッティング、プランニング、プロモーション、ホスピタリティ等多角的に捉えブライダル（業界）全体を考察する。

【到達目標】
1.基本知識及び関連知識の習得。
2.ブライダルプランナー養成ではなく、ブライダルをビジネスとして幅広く考えられる人の養成。

【授業計画】
第１講目　セレモニービジネス論概　オリエンテーション
　＊人生（法人）のサイクル・冠婚葬祭（行事）とビジネス
　＊ WEDDING　BUSINESS の位置付け（FUNERAL は後述）
　＊（DVD）
（ブライダル）
第２・３講目　ブライダルの歴史＆世界のブライダル
　＊発祥・歴史・ビジネスの発展
　＊各種言い伝え縁起・しきたり（六輝、結納、仲人他）
　＊世界のブライダル（DVD---- アラブ　インド）
第３・４講目　ブライダルの実態・トレンド他
　＊市場・利用実態・トレンド（各種 DATA より）
第５講目　ブライダル業界の構成　人材育成　来館受付～成約～当日の流れ
　＊ WEDDING を支える周辺業種（業界）、商品（含料理　ワイン）、STAFF（含サービス）
　＊ PLANNER の役割　資質　育成（BIA セミナー他）
　＊ WEDDING PLANNER（DVD）
第６講目　GUEST 講師（衣装／装花／写真の何れか専門家）
　＊ GUEST －最近の TREND を語る
第７・８・９講目　ブライダル（ビジネス）の位置付け及び市場
　＊マーケティング＜４Ｐ＞より
　＊意識分析
　　PROMOTION　パンフレット制作
　　PROMOTION　商品企画
　　PROMOTION　WEDDING FARE
　＊ VIDEO&DVD
第10講目　ホテル／ゲストハウス　比較
　　⇩⇩⇩
　　GUEST 講師（プランナー）
　　＊黒木ひとみさん
（葬儀）
第11・12講目　葬儀ビジネス（ホテルでのお別れ会等）
（PROTOCOL）
第12・13講目　プロトコール＆冠婚葬祭マナー
（まとめ）
第13・14講目　明日のブライダル業界ほか
第15講目　復習

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎授業、前回の復習（Q&A 小 TEST 形式）を織り込んで進めて行き、授業習得度判定材料の一部とする

成績評価方法	授業への貢献度（姿勢、課題仕上り）50%　期末テスト50%
テキスト参考書	特に特定せず。（その都度担当教員から配布、インストラクト）

授業コード	2202	科目名	航空ビジネス論 航空業務を知る	担当者	樫本　則子

【授業概要】
航空業界で働くという中でも人気の客室乗務員として必要な知識を学びます。
機内で実際に使用しているサービス英会話を練習してみましょう。

【到達目標】
①航空業界の仕組みや航空ビジネスに関する基礎知識を習得する。
②航空業務に関する知識を習得する。
③機内の接客サービスの現場で使う英会話を実習する。

【授業計画】
第１回　　：オリエンテーション
第２回　　：飛行機の仕組み
第３回　　：空港の仕組み
第４回　　：航空券の仕組み・Ｅチケット
第５回　　：時差と飛行時間の計算
第６回～第14回：客室乗務員のサービス英会話
第15回　　：英会話実技テスト

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
航空業界に強い興味を持ち、飛行機の中での接客サービスを学びたいという気持ちを持って受講して下さい。

成績評価方法	受講態度、小テスト＋ロールプレイ
テキスト参考書	プリント教材配布

授業コード	2203	科目名	クルーズビジネス論	担当者	田中　祥司

【授業概要】
　クルーズ産業は世界的に著しい成長を遂げており、今後、日本においてもその拡大が期待されている。
クルーズ産業が成長することで、クルーズ会社、クルーズを取り扱っている総代理店、旅行会社はもちろん、ハブ港やクルーズ寄港港も含めて経済波及効果が見込まれる。
　本講義では、こうしたクルーズ産業を「クルーズビジネス」という視点から捉え、経営学（特にサービス経営）の基礎を学びながら「クルーズビジネス」の産業特性を理解していく。

【到達目標】
・経営学の基礎を理解する。
・クルーズビジネスにおける歴史と現状を理解し、クルーズビジネスの特性を把握する。
・クルーズビジネスが抱える課題について理解し、今後の方向性について考える力を身につける。

【授業計画】
第１講　　はじめに
第２講～第３講　経営学の全体像
第４講～第５講　サービス経営
第６講～第７講　クルーズの歴史と発展
第８講～第10講　クルーズ会社の経営戦略
第11講～第12講　消費者からみたクルーズ旅行
第13講～第14講　クルーズビジネス事例研究
第15講　　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習：クルーズに関する新聞記事からクルーズの現状と課題について理解する。
復習：毎回の予習と授業で学んだことを関連付けてまとめる。
※必要に応じ、ゲストスピーカーの招聘や、学外での授業を実施することもある。

成績評価方法	受講態度：40%（出席、授業での発言等）、最終レポート：60%
テキスト参考書	別途指示

授業コード	2204	科目名	イベント・コンベンションビジネス論	担当者	森山　正

【授業概要】
・テーマパーク（TP）はアメリカを中心にヨーロッパや日本およびアジアの主要都市で大きな集客力を持つ産業であり、ハイテクノロジーのアトラクションやショー､ダンスを含む持続的で装置型のイベントである。集客戦略やコンテンツとメディアの戦略的融合､海外進出戦略など、国内外の主要テーマパーク企業の具体的な経営事例をマーケティングの視点から分析・検証し、テーマパークの実践的な経営戦略を学ぶ。

【到達目標】
・テーマパークの持つ経営と運営の諸課題について考察し、巨大なイベント型集客施設をビジネスの視点から考える。装置産業、労働集約型産業の事業特性からみて事業成功のための要因とは何かを考える。集客、価格、需要変動、コストマネジメント、継続的で巨額な設備投資や人材マネジメントなどはマーケティングの視点から見てなぜ重要で、戦略性はどこにあるのか。また、米テーマパーク企業の海外展開の狙いはどこにあるのかなど、日米テーマパーク企業の経営事例からテーマパークビジネスの戦略を分析し理解を深める。

【授業計画】
第１回　近代テーマパークへの発展過程
第２回　日本のテーマパークの現状
第３回　事業の特性と基本的成功要因①
第４回　同　②
第５回　アメリカのテーマパーク産業の現状
第６回　コンテンツの多重利用と有効性
第７回　グループワーク
第８回　アメリカのテーマパーク企業の海外戦略
第９回　テーマパークの経営課題①
第10回　同　②
第11回　同　③
第12回　同　④
第13回　集客マーケティングの戦略①
第14回　同　②
第15回　総括と理解度確認

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・一方的な授業にならないよう双方向のコミュニケーションを図ります。グループ・ワークやプレゼンテーションを含めた参加型の授業である。
・私語、携帯電話、飲食などの迷惑行為は一切禁止する。授業ルールの厳守を誓約のうえ履修すること。
【復習】
・毎回授業終了後に、当日授業の主要ポイントについて意見・質問カードを提出する。
・次週の授業内において同カードに記述の意見や質問に対しフィードバックを行う。
【予習】
・次週の学習については事前にシラバスに沿ったキーワードを提示するとともに予習のポイントを教示する。

成績評価方法	・定期試験 60%、授業参加（グループ・ワーク参加、発表など）30%、レポート 10%により評価する。
テキスト参考書	・参考書・・・①現代の観光事業（北川宗忠 編著、森山共著 ミネルヴァ書房） ②観光入門（森山共著 新曜社）

授業コード	2205	科目名	ヘルスツーリズム論	担当者	西村　典芳

【授業概要】
我が国において医療費の高騰が社会問題化する中、予防策としての健康サービスの重要性がクローズアップされている。経済産業省では、「健康サービス創造研究会報告書」において、健康サービスのあり方について具体的なモデルを提示しており、その一例として地域資源を活用した健康プログラムとしてヘルスツーリズムを取り上げている。
ヘルスツーリズムは、観光サービスと健康サービスの両側面を有するが、本講座では特に温泉療法、運動療法、森林セラピーに着目し、我が国におけるヘルスツーリズムに求められる要素及び今後の施策の方向性について学ぶ。この講座は、３年時以降の専門分野の研究の基礎となるテーマについて学ぶ。

【到達目標】
１．ヘルスツーリズム（概念、現状、課題、関連療法など）について実例をあげて説明できる。
２．自分の健康に配慮することができる。
３．ヘルスツーリズムの重要性について論述することができる。

【授業計画】
１．はじめに、到達目標、講義計画、評価、参考資料、自己紹介
２．ヘルスツーリズムの概念
３．森林セラピーとは
４．日本の森林セラピー
５．世界の森林セラピー
６．代替・統合医療と新しい健康つくり
７．健康保養地
８．食事療法
９．実例研究（ゲスト講師を予定）
10．メデイカルツーリズムの現状と課題
11．レスパイトツーリズム
12．温泉文化「温泉巡礼」
13．温泉医学
14．「湯治」の事例研究
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
欠席した場合は、欠席回の講義プリントを受け取り、必ず自ら補習しておくこと。また講義内容の理解が困難な場合は、積極的に質疑を行い疑問を残さないこと（メール可）。
授業開始後20分以上の遅刻は欠席扱いとする。出席回数が限界に達し、最終的に慌てることのないよう十分注意すること。

成績評価方法	レポート70%、平常点30%
テキスト参考書	必要に応じてプリントを配布する。　参考書：羽生正宗「ヘルスツーリズム概論」日本評論社2011、宮崎良文「森林医学」朝倉書店2006、宮崎良文「森林医学Ⅱ」朝倉書店2009、石川理夫「温泉巡礼」ＰＨＰ研究所2006

授業コード	2301	科目名	国際関係論 ニュースの裏を読む	担当者	四竈　丈夫

【授業概要】
他の国で、日本に関するニュースを見たことがあるだろうか。
世界から見る日本は、日本国内から見るのとは全然違うことが多い。ニュースの裏が見えてこなければ真実がとらえられない。ニュースの裏を読むためには世界の事情が理解できていなくてはならない。
まずは、世の中を動かす大きな力について学んでみよう。

【到達目標】
戦争や金融危機など、ある事件が発生した際に「誰が得をするのか。」という視点から、物事の本質をとらえていく努力ができるようになること。

【授業計画】
第一回　　ガイダンス
第二回～第五回　　ロスチャイルド家を代表するユダヤ勢力について学ぶ
第六回～第八回　　アメリカという国について学ぶ
第九回～第十一回　　中国という国について学ぶ
第十二回～第十四回　日本という国について学ぶ
第十五回　　試験

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
ニュースの裏を理解できるようになりたい人は受講してください。

成績評価方法	試験の成績による
テキスト参考書	特になし

授業コード	2302	科目名	グローバルヒストリー	担当者	伊多波　宗周

【授業概要】
この授業では、私たちの生きている世界が、どのように形成されてきたのかを世界史的な観点から探ります。特に、「近代」という時代がどのような特性のものなのか、また、その「近代」の中でも21世紀前半という私たちの生きる世界が、どのような位置を占めるものなのかを中心に考察し、「当たり前のもの」として接している世界を相対化する視点を育んでもらいます。

【到達目標】
・現在の世界の枠組みがどのような歴史的経緯のもとに成立したのかを理解し、これからの世界がどうなっていくのか・どうなるべきなのかを考察する力を身につけること。
・さまざまな物事の歴史性を知ることで、現在受け入れられている視点に捕らわれずに物事を考察することの重要性に気づくこと。また、複数の視点から物事を捉える力を身につけること。

【授業計画】
第１回　　：イントロダクション
第２回　　：時代区分の概説
第３回　　：古代の世界
第４回　　：中世の世界
第５～８回：近代という時代の特性
第９～12回：20世紀の政治史
第13～14回：20世紀の文化史
第15回　　：21世紀について、まとめ
DVD、CD を使用します。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
セメスター末試験に向けて、毎講義後、授業プリントを復習する必要があります。

成績評価方法	期末試験
テキスト参考書	教材は授業中に適宜配布します。より網羅的に独習した人のために、以下のものを推薦します。 福井憲彦『近代ヨーロッパ史』、ちくま学芸文庫　／橋本治『二十世紀』（上）（下）、ちくま文庫

授業コード	2303	科目名	日本地域研究	担当者	柴田　陽一

【授業概要】
近代以降の日本という国民国家の成り立ちと、各地方の自然と文化について学ぶ。より具体的には、地形や気候、歴史や文化、人口をはじめとする統計項目の概況を、日本の地方ごとに理解していく。加えて、日本の地方間、日本と近隣諸国（かつて植民地だった地域を含む）間の密接なかかわりや、文化や産業の国境を越えた動きについても把握する。

【到達目標】
・日本の各地方の地誌的知識の獲得
・日本の地方間、日本と近隣諸国間の関連性について説明しうる力の涵養
・地形図や統計資料の読解能力の習得

【授業計画】
（1）　　イントロダクション
（2）～（3）「日本」という国土空間の成立：近代化と国土計画
（4）　　関東地方
（5）　　東北地方
（6）　　北海道地方、樺太・千島
（7）　　中部地方
（8）　　近畿地方
（9）　　中国・四国地方
(10)　　九州地方
(11)　　沖縄・奄美地方
(12)　　台湾・南洋群島
(13)　　関東州・満洲
(14)　　まとめ
(15)　　レポートに向けて

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業中に課す課題（小レポート）をきちんと提出すること。各回の内容をしっかり復習すること。

成績評価方法	期末レポート：70%、平常評価（授業中の課題）：30%
テキスト参考書	教科書は使用しない。参考書として次のものがある。　・矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・古田悦造編『地誌学概論（地理学基礎シリーズ3）』朝倉書店,2007　・菊地俊夫編『日本（世界地誌シリーズ1）』朝倉書店,2011　・平岡昭利編『地図で読む百年』(10冊) 古今書院,1997-2006　・『日本の地誌』朝倉書店,2005-2012

授業コード	2304	科目名	東アジア地域研究	担当者	富田　愛佳

【授業概要】
東アジアは日本のほか中国・朝鮮・韓国・台湾などを含む近接地域ですが、しばしば「近くて遠い」という表現をされます。この科目では、知っているつもりのこの地域における文化交流や政治的葛藤の歴史をふまえながら、今日の社会状況や文化的多様性を学びます。

【到達目標】
・東アジアに関する基礎的知識を習得し、この地域に対する複眼的な視点を養う。
・日本と東アジアのその他の国・地域の関わりと現在も抱えている問題を理解する。

【授業計画】
第１回　　オリエンテーション：東アジア概観, 成績評価の方法, 受講のルール
第２回　　朝鮮半島の地理・社会・歴史
第３回　　朝鮮半島の言語と文化
第４回　　中国大陸部の地理・社会・歴史
第５回　　中国大陸部の言語と文化
第６回　　中国大陸部（少数民族居住地域）の言語と文化
第７回　　香港の社会・歴史, 言語・文化
第８回　　台湾の地理・社会・歴史
第９回　　台湾の言語と文化
第10回　　日本の言語と文化
第11回　　東アジア地域をめぐる個別の問題 I : 日本との関わり
第12回　　東アジア地域をめぐる個別の問題 II
第13～14回　受講者によるプレゼンテーション
第15回　　まとめ

受講人数や内容の進行状況によってはスケジュールを変更することがあります。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・特別な予習は必要としませんが、東アジアに関する情報に日頃から興味を持ち、意識的に触れるようにしてください。復習では、授業中にとったノートを自分なりにわかりやすくまとめ直しておくと、その後の授業理解や課題作成に役立ちます。
・他の受講者の妨げとなる私語・途中入退室や、また授業中の携帯電話・スマートフォン等の操作や居眠りなどは、授業に集中する気がないものとみなし、厳しく対処します。目に余る場合は退室させ、欠席の扱いとします。

成績評価方法	・受講態度・授業中のコメントシート：30%　・プレゼンテーション：35% ・期末テストまたはレポート：35%
テキスト参考書	教科書は使用しません。授業ごとに資料を配布します。参考図書は授業中に適宜紹介します。

授業コード	2305	科目名	東南アジア地域研究 アセアン諸国の社会・文化概論および日本との関わり	担当者	杉本　麗華

【授業概要】
授業では、まず東南アジア諸国（ASEAN 諸国）の歴史と特性を概観する。次に、これらの国々の21世紀における社会事情を考察し、日本や中国との関わりや連携状況を把握する。
近年、東南アジア諸国の経済力の上昇により、存在感を増している。しかし、日本では、これらの地域についての社会、文化および人々の暮らしなどは知られているようで、実はあまり知られていない。本講義では、複雑な東南アジア諸国事情を分かりやすく解説する。なるべく図像資料を用いて、東南アジアについてのイメージを持てるようにしたい。

【到達目標】
①東南アジア諸国の多民族、多文化および複雑な社会事情といった基礎知識を身につける。
②日本や中国との連携の重要性を理解する。

【授業計画】
タイトル：アセアン諸国の社会・文化概論および日本との関わり
1）オリエンテーション：東南アジア地域（アセアン10ヶ国）社会の概説、成績評価の基準
2）東南アジア諸国：ポストコロニアル社会の歴史背景と変遷
3）シンガポール：エスニックグループの共存共栄と観光政策の特性
4）インドネシア：宗教、文化、社会現象
5）マレーシア：宗教、文化、社会現象
6）タイ：宗教、文化、社会現象、観光政策
7）フィリピン：宗教の衝突、島々の暮らし
8）ベトナム：ポストコロニアル社会、文化
9）ミャンマー：民主化、文化、社会事情
10）カンボジア：宗教、社会事情
11）ラオス：宗教、社会事情
12）ブルネイ：宗教、社会事情
13）アセアン諸国と日本との過去、現在と未来
14）グループによる発表－1
15）グループによる発表－2
受講人数によっては上記計画が変更される場合がある。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
取り組みや授業態度を重視します。議論に積極的に参加してください。

成績評価方法	受講態度30%、発表30%、筆記試験40%
テキスト参考書	参考書：『東南アジアを知る事典』桃木至朗編集、平凡社､2008年 教科書は特に指定しません。参考文献は講義中の中で、適宜紹介する。

授業コード	2306	科目名	南アジア地域研究 暮らし、文化、歴史	担当者	小槻　文洋

【授業概要】
急速に変貌しつつある南アジア諸国について概説する。インド映画や料理、民族衣装など人々の暮らしにまつわるトピックからはじめ、文化・社会・歴史などの基礎知識を整理し、世界遺産などの遺跡の背景にある歴史、現代の南アジアが抱える紛争やグローバル化、急激な経済成長による変化についても紹介する。

【到達目標】
1. 南アジアに関する基本的知識（およそ高校「世界史 B」「地理 B」で南アジアについて扱う内容）を身につけ、文化の多様性や南アジアと世界との関わりについて、文章や地図を用いて説明できる。
・地理（国々、主要都市、地形、気候、産業）：地図を用いて説明できる。
・歴史（展開、重要人物・出来事、それらに関わる遺産）：時代展開に即して説明できる。
・文化（言語、宗教、それらの多様性）：事例を挙げて説明できる。
・社会（カースト、それらに関わる重要な概念）：事例を挙げて説明できる。
・現代南アジアの動向（地域紛争、経済発展、移民）：時代背景を含めて説明できる。

【授業計画】
第１回　　オリエンテーション
第２～５回　南アジアの気候と生活文化（生業と衣食住）
第６～９回　南アジアの社会と暮らし（言語、カースト、宗教）
第10～13回　南アジアの遺跡・人物と歴史　（古代・中世・近世・近代）
第14～15回　現代の南アジア（グローバル化とインド系移民）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・南アジアの地図、各種主題図、歴史の資料などを配布するので、資料集としてまとめておくこと。
・授業前に、関連する資料に目を通しておくこと（これだけで、理解が違うはず）。授業後は資料集を参照し、授業ノートを復習すること。地図・各国情勢などの宿題は、資料を確認しながら作業すること。

成績評価方法	知識・概念の習得が上記目標に達しているかを、ペーパーテストで評価する。 授業中に実施する小テスト40%、中間・期末試験（記述が中心）60%
テキスト参考書	講義はプリントを配布。参考書はリストをオリエンテーション時に配布。1 冊挙げるなら､辛島昇編（2012）『新版 南アジアを知る事典』, 平凡社。

授業コード	2307	科目名	西アジア地域研究 世界38億人の聖地を知る	担当者	小磯　学

【授業概要】
西アジアで生まれたユダヤ教、キリスト教、イスラーム教は、今日、政治や経済と複雑に絡み合いつつ世界情勢に大きな影響を与えています。お互いに兄弟関係にありながら異なる発展を遂げたこれらの宗教を概観します。また、人類史上初めての農耕・牧畜や都市（文明）、そして帝国が発生するとともに、東方のアジア世界とヨーロッパ世界とを結びつけてきた西アジアの地理的な特徴と役割について学びます。

【到達目標】
1．ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教それぞれの特徴と関係を理解する。
2．人類史上最初の農耕・牧畜と、それに基づき成立した文明（都市社会）について理解する。
3．西（ヨーロッパ）と東（南・東南・東アジア）を結ぶ東西交流の要としての西アジアを理解する。

【授業計画】
第1回　オリエンテーション：西アジアの人々。服装・建築、宗教、国々。
第2回　地理的環境と生業
第3回　イスラーム教1：ふたつの『聖書』と『クルアーン』
第4回　イスラーム教2：世界宗教としての広がり
第5回　エルサレム（ビデオ）
第6回　ユダヤ教1：エルサレムとユダヤ教
第7回　ユダヤ教2：信仰対象
第8回　キリスト教1：イエスと『新約聖書』
第9回　キリスト教2：世界宗教としての広がり
第10回　人類最初の農耕・牧畜の成立
第11回　人類最初の文明の成立
第12回　人類史上最初の帝国
第13回　アレクサンドロス大王とヘレニズム文化
第14回　古代ギリシャ以降の世界観の変遷：地図の上のアジア
第15回　『エリュトゥラー海案内記』と東西交易

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・初めて聞く地名や人名に戸惑うことなく、その音の響きを楽しむ余裕をもってほしい。
・地図を眺め、場所の確認をする習慣を身につける。
・西アジア関連のニュースに注意を向ける。

成績評価方法	やる気・根気・好奇心・情熱、期末試験
テキスト参考書	特になし。適宜プリントを配布します。

授業コード	2308	科目名	北米地域研究	担当者	坂井　純子

【授業概要】
北米地域のなかでもアメリカ合衆国を中心に扱い、その自然環境や歴史・社会・文化・経済・政治・宗教などについて、講義および映画を通して幅広く学びます。また、アメリカ人の考え方やその行動を決定している価値観について理解します。

【到達目標】
アメリカという国の様々な側面についての知識を得て、アメリカとはどういう国であるかを最後に自分なりの表現で述べられるようになることを目指します。また、外国の事情を学ぶことにより、自国をより深く知るようになり、さらには、比較することにより客観的に物事を観察し、理解し，分析する能力を身につけていきます。

【授業計画】
1. イントロダクション
2. 地理
3. 建国と歴史
4. 移民の国
5. マイノリティ
6. 州と連邦
7. アメリカの民主主義
8. 個人主義社会
9. 銃社会、訴訟社会
10. 教育文化
11. 競争社会
12. 宗教、大衆文化
13. 多文化主義
14. アメリカとカナダの関係
15. アメリカの今後とまとめ
(注)（トピックの順番が入れ替わることがあります）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業内容で興味をもった点について本、インターネット等でさらに調べるようにしましょう。授業の理解が深まります。また、関連のある映画を観ることもお勧めします。

成績評価方法	確認小テスト（毎回授業の最後に実施）30% 期末テスト70%
テキスト参考書	テキストはありません。参考書については授業で紹介していきます。

授業コード	2309	科目名	中南米地域研究	担当者	蝦名　大助

【授業概要】
中南米地域の基礎的知識を身につけます。観光に関わる重要な分野である歴史を中心に扱いますが、地理や文化、政治、経済など様々な分野にも触れます。

【到達目標】
中南米地域の歴史的な概要を理解する。
主要な観光資源とその歴史的背景について知る。
異文化に対する理解を深める。

【授業計画】
第１回　　イントロダクション
第２回～３回　中南米の地理
第４回～５回　先史時代と中南米の文明
第６回～７回　ヨーロッパ人の到来
第８回～10回　植民地時代と独立以降
第11回～15回　個別のトピック
個別のトピックとして、日系移民、言語と先住民､20世紀以降の中南米の社会問題などを扱う予定です。
（おおむね上記のスケジュールで進めますが、授業の進行状況により多少変更になる可能性もあります。）

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
基本的に予習は必要ありませんが、中南米地域の主要な国名と、国の位置を把握してもらう必要があります。
期末試験に向けてノートをまとめておいてもらう必要があります。毎授業後に30分程度、ノートをまとめる復習の時間をとることを推奨します。

成績評価方法	中間試験・期末試験・授業中の課題・受講態度から総合的に評価します（おおむね、中間試験：20%、期末試験：50%、授業中の課題および受講態度30%を予定）。
テキスト参考書	プリントを配布します。参考図書がある場合、授業中に随時指示します。

授業コード	2310	科目名	西ヨーロッパ地域研究	担当者	澤山　明宏

【授業概要】
現在のEU（ヨーロッパ連合）の中心であり、現在、国際観光においても、最大の集客を誇っている西ヨーロッパ。その魅力の裏にある歴史・政治・経済・文化を展望しながら、この地域についての理解を深め、世界の現状の理解、さらに将来の旅行企画に役立つ講義を狙います。

【到達目標】
１．現代のグローバル社会の主要メンバーである西ヨーロッパの歴史・伝統・文化についての教養
２．地域から国を理解する、逆に国から地域を理解する国際社会理解のための遠近法
３．現在話題になっている国際時事の理解力

【授業計画】
・西ヨーロッパに、歴史・政治、経済、文化の三つの観点から迫ります。
・授業は「受講生によるプレゼンテーション（授業スケジュール参照）」と「講義」の二つを軸として展開します。
・毎回コメントペーパーを配布し、授業内容に関する意見、感想、質問の三つを書いて頂きます。

【ヨーロッパへ】
第１回：オリエンテーション（プレゼンテーションの分担決定）
第２回：ヨーロッパとは何か？
＊第３回から14回までは、毎回受講生による事前研究プレゼンテーションで始めます。（　）内はテーマに関するキーカントリーで、これらの国についての発表をお願いします。
【経済の視点から】
第３回：グローバリゼーション（イギリス）
第４回：ＥＵ（ベルギー、オランダ、ルクセンブルク）
第５回：ユーロをめぐって　（ギリシャ、イタリア、スペイン）
【歴史・政治の視点から】
第６回：第２次世界大戦（ドイツ）
第７回：冷戦（ポーランド、チェコ、ハンガリー）
第８回：冷戦の終結　（ロシア）
第９回：第１次世界大戦（オーストリア）
第10回：ナショナリズム（フランス）
第11回：ヨーロッパの起源－ローマ帝国からフランク帝国へ（イタリア）
【文化の視点から】
第12回：ヨーロッパの精神基盤（ヴァチカン）
第13回：異文化間対立（トルコ）
第14回：観光資源　（スイス、北欧）
【総括講義】
第15回：ヨーロッパと世界
　内容および順序は受講生の理解への効果を重視し、変更する場合があります。
＊授業ではパソコン、プロジェクターを使用します。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・全受講者に必ずプレゼンテーションの機会がめぐってきます。毎回の授業を参考にしながら、各自割当てのテーマについて準備を進めてください。
・高校の世界史の教科書または参考書で授業内容の確認をお願いします。

成績評価方法	・コメントペーパーの内容：20%　・プレゼンテーション：40%　・ショートテスト（数回）＋期末試験またはレポート：40%
テキスト参考書	・テキストはありません。教材は授業で適宜配布します。　・世界地図帳（高校生時代に使用したもので可）を毎回持参願います　・参考書は必要に応じ授業で紹介します。

授業コード	2311	科目名	東ヨーロッパ地域研究	担当者	澤山　明宏

【授業概要】
東ヨーロッパは西ヨーロッパ（フランス、イタリア、ドイツなど）に比べて日本人になじみの薄い地域ですが、最近のウクライナ問題で注目されつつある地域でもあります。ヨーロッパの東西はどのような基準で分けられているのか。東ヨーロッパにはどのような国が含まれるのか。彼らは「東ヨーロッパ」と呼ばれることをどう感じているのか。このような問題を念頭に置き、東ヨーロッパの過去、現在を学びながら、ヨーロッパさらには国際社会への理解を深める授業にしたいと思います。

【到達目標】
・西ヨーロッパに比べてなじみの薄い東ヨーロッパの特徴を理解する。　・東ヨーロッパの政治史を中心に国際情勢理解の基本を身につける。　・東ヨーロッパ諸国の独自性を学び異文化理解を深める。

【授業計画】
第１回：オリエンテーション
　　授業の概要等説明
第２回：東ヨーロッパと西ヨーロッパ
　　ヨーロッパの東西区分の起源などを学ぶ
第３回：東ヨーロッパの力学
　　東ヨーロッパ理解のための基本的視点を解説
＊第４回から13回までは、毎回受講生に（　）内の国についての紹介プレゼンテーションを行なって頂きます。プレゼンテーションの割当ては第１回で決定します。
第４回：ドイツとロシアの狭間（ポーランド、チェコ、スロバキア）
第５回：ハプスブルク家の輝き　（オーストリア、ハンガリー）
第６回：二つの大戦（ドイツ）
第７回：冷戦（ロシア）
第８回：冷戦の終結（ブルガリア、ルーマニア）
第９回：コーカサス（グルジア、アルメニア、アゼルバイジャン）
第10回：バルカンの嵐（セルビア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ）
第11回：ＥＵの東方拡大（ＥＵ）
第12回：東ヨーロッパの政変（ウクライナ）
第13回：バルト三国（エストニア、ラトビア、リトアニア）
第14回：東ヨーロッパ文化の基礎
第15回：まとめ－ヨーロッパとは何か？

＊受講生の関心、理解度を考慮して内容・順序を変更することもあります。
授業ではパソコン、プロジェクターを使用します。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・全受講者に必ずプレゼンテーションの機会がめぐってきます。毎回の授業を参考にしながら、各自割当てのテーマについて準備を進めてください。
・高校の世界史の教科書または参考書で授業内容の確認をお願いします。

成績評価方法	・コメントペーパーの充実度：20%　・プレゼンテーション：40%　・ショートテスト（数回）＋期末試験またはレポート：40%
テキスト参考書	・テキストはありません。教材は十号で適宜配布します。　・ヨーロッパ地図を含む世界地図帳（高校生時代に使用したもので可）を持参願います　・必要な参考書等は授業に置いて適宜紹介します。

授業コード	2312	科目名	オセアニア地域研究	担当者	稲垣　和也

【授業概要】
オセアニアは、オーストラリアやニュージーランド、さらにハワイやグアムなどをふくむ、太平洋の広い地域を指す。この授業では、オセアニア世界における自然・地理・環境、そこに住む人々、人々が経た歴史、その背景にある社会・言語・文化・政治等の全体像を概観する講義をおこなう。

【到達目標】
・オセアニアにかんする基礎知識を身につけ、それを応用する力を養うことができる
・オセアニアと日本との共通点や相違点を見つけ出し、両者の理解を深めることができる
・オセアニアと世界とのかかわりを再認識し、世界にたいする考え方を広げることができる

【授業計画】
講義
1．イントロダクション
2．オセアニアの地理
3．オーストラリアの自然と人間
4．オーストラリアの歴史と文化
5．ニュージーランド
6．メラネシア
7．ポリネシア
8．ミクロネシア
9．オセアニアの言語１
10．オセアニアの言語２
11．オセアニアの旧石器時代
12．リモート・オセアニア
13．オセアニアにおける航海
14．オセアニアにおける文化形成１
15．オセアニアにおける文化形成２

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業中に学習したことを、自分の言葉で自分のオリジナルのノートに復習としてまとめるとよい。復習にかける目安の勉強時間は、授業時間と同じか、それよりも多めであることが望ましい。

成績評価方法	・授業への参加姿勢（20%）：基礎知識習得への取り組み姿勢　・小テスト（30%）：オセアニアと日本／世界とのかかわりに対する理解　・期末試験（50%）：オセアニアにかんする知識をどれだけ応用できるか
テキスト参考書	特になし。プリント配布。参考書は適宜紹介する。

授業コード	2313	科目名	アフリカ地域研究 アフリカの旅	担当者	疋田　浩一

【授業概要】
2005～06年にかけてエジプトから南アフリカまでアフリカ縦断旅行を行いました。そのとき各地を訪れ経験した観光地・ボランティア活動・トラブル等の体験談を、写真を交えながらお話します。同時に、多様なアフリカ社会を理解するために必要となる、各地の社会背景に関する知識を学びましょう。

【到達目標】
・アフリカの地理と近・現代史に関する基礎的な知識を学ぶ
・多様なアフリカ社会の現状と問題点を理解する

【授業計画】
毎回はじめに各地の社会背景について概説し、続いて適宜 Power Point・写真・ビデオ教材を使いながら旅行の体験談を話します。
1．Introduction アフリカの旅　－バックパッカーという旅－
2．人類発祥の地　アフリカ（ビデオ）
3．エジプト　－アフリカのアラブ－
4．北アフリカ　－アラブの春－
5．スーダン・ソマリア　－失敗国家－
6．ソマリア　－内戦の真実（ビデオ）－
7．エチオピア　－飢餓と援助－
8．ケニヤ　－東アフリカの玄関－
9．ウガンダ　－エイズ孤児とボランティア－
10．ルワンダ１　－ジェノサイドの丘－
11．ルワンダ２　－ジェノサイドの丘（ビデオ）－
12．タンザニア　－観光と環境－
13．南ア以外の南アフリカ経済圏　－経済破綻・HIV －
14．南アフリカ共和国　－アパルトヘイトとその後－
15．マダガスカル　－第６の大陸・地上の楽園－

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
バックパッカーになったつもりで、「一旅行者の目から見たアフリカ社会」を一緒に追体験しましょう。講義で取り上げる国について概略を調べておき、講義のノートをまとめましょう。

成績評価方法	授業への取り組み（60%）、試験（40%）
テキスト参考書	特になし。適宜プリント配布

授業コード	2912～2915 2917・2918 2920・2921	科目名	基礎演習	担当者	基礎演習担当教員

【授業概要】
大学生活に慣れること、大学での学び方を身につけることを目的とします。学び方については、「レポートの書き方」や「発表の仕方」を身につけます。

【到達目標】
調査対象となるテーマを決め、そのテーマについて「調べる・まとめる・発表する」力を身につけます。具体的には、調査したいテーマに応じた調査方法を習得するとともに、調査内容をまとめるための論理的思考力、および調査結果を発表するための表現力を養います。

【授業計画】
【前期】
一つのテーマについて、「調べる・まとめる・発表する」基礎を学ぶとともに実践します。チームで協力しながら進めていきます。大学生として自覚と責任をもって授業に臨んでください。
第１回　大学の授業とは
第２回～第３回　レポートの書き方①
第４回～第６回　図書館実習・研究成果発表会のテーマ設定・個人面談等
第７回～第13回　研究成果発表会に向けての準備
※クラス単位で自由にテーマを選び、それについて調査し、まとめ、最後に他のクラス合同の研究成果発表会で発表します。
※学外での実習やゲストによる講義を行う場合があります。
第14回　研究成果発表会
第15回　まとめ

【後期】
前期に身につけた「調べる・まとめる・発表する」力をさらに高めることを目指します。後期は個々にテーマを決め、調査し、まとめ、最後に個人発表会を行います。
第１回　後期ガイダンス
第２回～第12回　レポートの書き方②・発表の仕方・個人発表会に向けての準備等
※個々でテーマを選び、それについて調査し、まとめ、最後に他のクラス合同の個人発表会で発表します。
※学外での実習やゲストによる講義を行う場合があります。
第13回～第14回　個人発表会
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
１年生の学生生活の中心となる重要な授業です。必ず出席すること。

成績評価方法	授業における受講態度（課題への取り組み、期限遵守など）50%、課題発表50%
テキスト参考書	別途指示

授業コード	3002	科目名	日本史（2）	担当者	福原　栄太郎

【授業概要】
日本史（1）に続き、古代における歴史上の諸問題を取り上げます。（2）での中心は奈良時代になります。「咲く花の匂うがごとし」と歌われた平城の都にもしだいに暗い影がさしこんでくる過程を講義します。

【授業計画】
次の各テーマをそれぞれに１～２講義時間を当てて講義します。
1．持統天皇と藤原不比等
2．藤原氏の野望 －光明子立后と長屋王事件 －
3．長屋王家木簡について
4．長屋王家の生活
5．天然痘の流行と藤原四子の死
6．藤原広嗣の乱
7．聖武天皇と正倉院
8．橘奈良麿事件
9．藤原仲麻呂の権勢と没落
10．まとめ
講義はパワーポイントを使用します。

成績評価方法	レポート、筆記試験、受講態度重視（原則として遅刻、途中退席は認めない）
テキスト参考書	授業中にプリント資料を配付する。

授業コード	3003	科目名	外国史（1）	担当者	杉本　健三

【授業概要】
約20万年前に誕生した現生人類は、地球規模の移動を重ね、定住に結びつく農耕文化の成立以後もなお様々な集団が移動し続けた。そしてそれは地球上の人口構成の変更と文化的な変異にかかわる大きな要因となった。人類はなぜこの様に移動し続けたのであろうか。本講義では地球規模の人口移動を概観し、さらにいくつかの個別の人口移動についても考察する。

【到達目標】
人類史上繰り返されてきた地球規模の人口移動が、世界史上の政治的・文化的な変異にかかわる大きな要因になっていることを理解させる。

【授業計画】
第１週　ホモ・サピエンスの大移動
第２週　侵略史としてのヨーロッパ史概観
第３週　ゲルマン民族の大移動（1）
第４週　ゲルマン民族の大移動（2）
第５週　古代オリエントにおける移動
　　・イスラエル人の移動（1）
第６週　・イスラエル人の移動（2）
第７週　イスラエルとパレスチナ（1）
第８週　イスラエルとパレスチナ（2）
第９週　アメリカ大陸における移動
　　・アメリカ先住民の足跡
第10週　・ヨーロッパ人の植民活動
第11週　・アメリカ・インディアンの現状
第12週　イベリア半島の移動
　　・西ゴート族の移動
第13週　・アラブ人の侵入
第14週　・レコンキスタの結末
第15週　人類の移動についての総括

成績評価方法	授業での活動状況、筆記試験による総合評定とする。
テキスト参考書	適宜プリント等を配付する。

授業コード	3004	科目名	外国史（2）	担当者	杉本　健三

【授業概要】
太古以来、アジアとヨーロッパ及び北アフリカを結ぶ東西交通路であるシルクロードの主要な機能は交易にあったが、それに付随して物だけでなく文化交流や宗教の伝播がみられた。またシルクロードを舞台に多くの国家、民族が興亡を繰り返した。本講義では、こうした東西文化の架け橋であるシルクロードの果たした役割についても考察する。

【到達目標】
アジア、ヨーロッパ、北アフリカを結ぶシルクロードの果たした役割について、文化交流、宗教の伝播、そして多くの国家・民族の興亡など具体的な歴史事象と関連づけながら理解させる。

【授業計画】
第１週　シルクロードが果たした機能
第２週　シルクロードの三つの道　（１）
第３週　シルクロードの三つの道　（２）
第４週　シルクロードをめぐる国家、民族の興亡
　（１）　先史時代～アレキサンダーの帝国
第５週　（２）　漢の西域経営
第６週　（３）　随・唐の西域進出
第７週　（４）　国際都市長安の繁栄
第８週　（５）　イスラム諸国の興亡
第９週　（６）　シルクロードの変貌
第10週　宗教の伝播
　（１）　仏教の伝播①
第11週　（２）　仏教の伝播②
第12週　東西文化の交流
　（１）　玉の産地と交易
第13週　（２）　絹、染織、毛織物、木綿等の交易
第14週　（３）　ガラス、青銅器、鉄器、黄金器等の交易
第15週　まとめ

成績評価方法	授業での活動状況、筆記試験による総合評定とする。
テキスト参考書	適宜プリント等を配付する。

授業コード	3006	科目名	地理学（2） 旅行、植物、庭園をめぐる地理学	担当者	橘　セツ

【授業概要】
この授業では、旅行、植物、庭園という生活に身近な文化的諸現象から、英国と日本の文化交流について地理学の視点から考察する。

【到達目標】
この授業では、異文化の出会いによるコンタクト・ゾーンで行われた種々のスケールの文化の交流と創出の諸相について理解することを目標とします。

【授業計画】
第１回：19世紀後半から20世紀初期における、英国と日本の交流を地理学の視点から検討する。1862年のロンドン万国博覧会と1910年のロンドン日英博覧会に焦点をあてて、英国と日本の交流について考察する。
第２回：「風景 landscape」、「心象地理 imaginative geography」、「コンタクト・ゾーン contact zone」、「ハイブリッド hybridity」という４つの地理学の概念について検討し、これらの概念が異文化交流の考察に有効であることを示す。
第３回：英国における日本の風景のイメージについて、旅行記、植物採集、庭園という３つの次元から考える。
第４回：19世紀後半の英国と日本の旅行の環境について、旅行ガイドブックと旅行記を中心にして考える。
第５回：19世紀後半に日本を訪れた英国人のなかには、博物学的な知識をもった人びとがいた。駐日公使オールコックの富士登山（1860）を事例にして考察する。
第６回：日本を訪れた商業的プラント・コレクターについて検討する。英国の園芸雑誌の分析をもとにして、ジョン・ヴィーチとロバート・フォーチュンに焦点をあてる。
第７回：商業的プラント・コレクターによってもたらされた日本原産植物が、英国の風景に受容されてゆくプロセスについて、アオキとカラマツを事例として考察する。
第８回：英国において日本庭園が流行するまで、英国でどのような庭園が造られてきたかについて、「整形式庭園」と「風景式庭園」のせめぎあいと共存に注目して概観する。
第９回：18世紀に英国で流行した風景式庭園について概観し、同じ世紀に流行したピクチャレスクとシノワズリー（中国趣味）の特徴をもつ庭園の歴史的背景について考察する。
第10回：19世紀後半に流行した英国の日本庭園について、建築家のジョサイア・コンドルと造園家のレジナルド・ファラーのそれぞれの著作から、英国人の日本観の多様性を考察する。
第11回：ニューステッド・アベー（ノッティンガムシャー）の日本庭園について考察する。ニューステッド・アベーの地所管理をしていたエセル・ウェブとニューステッド・アベーの日本庭園に影響を及ぼしたコンドルの造園書について検討し、「コピーの日本庭園」型を提示する。
第12回：コウデン・カースル（スコットランド）の日本庭園について考察する。コウデン・カースルの地所管理者であるエラ・クリスティーの日本旅行、日本庭園の造園に関与した３人の日本人との交流を明らかにし、「真正な日本庭園」型を提示する。
第13回：レジナルド・ファラーの造園をとりあげ、日本庭園と英国庭園との交流によって産み出された「ハイブリッドな庭園」型について考察する。レジナルド・ファラーのロック・ガーデンとイングルボロー地所（ヨークシャー）の環境管理の試みについて検討する。
第14回：ウイリアム・ロビンソンの『ワイルドガーデン』（1870）にみられる庭園観に焦点をあて、近代の英国庭園における野生と異文化の問題について論じる。
第15回：まとめと期末レポートの作成指導および提出

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
この授業は基本的には講義形式の授業であるが、授業の後半に受講生に書いてもらう授業内レポートを通じて、双方向の授業を試みます。授業では、旅行・植物・庭園という生活に身近な事象を扱うので受講生も自身の経験と想像力を羽ばたかせて授業に参加してください。

成績評価方法	授業内レポート40点、期末レポート60点
テキスト参考書	プリントを配布します。

授業コード	3007	科目名	地誌学 世界の地理を学ぶ	担当者	佐々木　高弘

【授業概要】
世界の諸地域の自然や文化を、担当者のフィールド経験に基づき、分かりやすく説明します。

【到達目標】
地域の文化特性をフィールドワークを通して理解できるようになることを目標とします。

【授業計画】
地誌学の歴史・目的・方法、そしてそれらの問題点について概観した後に、主に東南アジア、東アジア、ヨーロッパを中心に、それぞれの地域の特性と都市や文化との相互関係について説明します。

第１回　　地誌学の歴史・目的・方法
第２回～５回　東南アジアの地域的特性と都市、文化
第６回～９回　東アジアの地域特性と都市、文化
第10回～13回　ヨーロッパの地域的特性と都市、文化
第14回～15回　地誌学の諸問題とまとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
常に世界地図を見ながら教科書等を読んで下さい。

成績評価方法	授業内レポート、学期末のレポートによって採点する。
テキスト参考書	『日本から見た世界の諸地域　世界地誌概説（改訂版）』河上税・田村俊和編（原書房）2009年。

授業コード	3010	科目名	文学と風土 阪神間の文学	担当者	岩見　幸恵

【授業概要】
神戸を中心に京阪神間を舞台にした現代文学作品を取り上げ、その風土性について探求する。歴史、文化、地理的背景をたどりながら作品相互間の影響関係について考える。具体的方法として見立てや引用といった文章表現技法に着目。題材として小説に限定せず漫画、アニメーション、実写映画、演劇も取り上げる。

【到達目標】
神戸、大阪、京都を舞台とした作品の持つ風土性に関する基本的知識を得る。現代文学読解上の基本的方法を把握するとともに、リンクという方法で背景とする歴史や事件から作品の持つ世界を広げ、多様な情報化社会における優れた読者となる。

【授業計画】
第１回：オリエンテーション（文学と風土、年表、地図、物語起源としての京都）
第２回：西尾維新『化物語』（例としての現代文学とキャラクター論）
第３回：阪神間の歴史と古典（西国街道、神功皇后、『源氏物語』、神戸の港）
第４回：谷崎潤一郎『細雪』（関東大震災後と洪水、第二次世界大戦）
第５回：野坂昭如（１）『火垂るの墓』（戦災とミラクルな現実）
第６回：野坂昭如（２）『アメリカひじき』とそのほかの作品（パラレル世界）
第７回：村上春樹（１）『風の歌を聴け』（地震前の世界）
第８回：村上春樹（２）『めくらやなぎと眠る女』（神戸の神話）
第９回：筒井康隆『時をかける少女』（時間旅行）
第10回：眉村卓『ねらわれた学園』（予言と現実）
第11回：谷川流『涼宮ハルヒの憂鬱』（地震と再開発、神の創造、脆弱化した現実）
第12回：有川浩『阪急電車』（震災後の世界）
第13回：ガイナックス『アベノ橋魔法☆商店街』（大阪ミナミの再開発）
第14回：森見登美彦『四畳半神話大系』（京都、パラレルワールド）
第15回：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
自分の好きな、あるいは読みこなせる作品を見つける努力は必要ですが、見つけた時点でレポートは半分完成しています。

成績評価方法	期末試験、レポート、受講態度、平常点等を総合的に評価する。
テキスト参考書	特になし。その代わり適宜プリントを配布する。プリントはファイリングして各自授業毎に持参する。ファイリングは研究及び社会生活の基本であり、それを経験的に身につけること。

授業コード	3011	科目名	民俗学 サブカルチャーの背景	担当者	岩見　幸恵

【授業概要】
文献による歴史とは異なる、伝承による歴史である民俗学、民俗誌の基礎を学ぶ。日本の民俗学がどのような経緯で生まれたかという歴史について詳述する。そして日本のオリジナリティの重要な部分を占めるサブカルチャーの持つ基本的な仕組み、あるいはメカニズムについて考察する。

【到達目標】
基礎的民俗調査を実践すると共に古代から現代までを貫く日本人の価値観について知る。そしてそれらのリンクによって、社会生活、あるいはマーケティング等の方法論として応用することができるようになる。

【授業計画】
第１回：オリエンテーション（レポートと評価について）
第２回：伝承と文献（遺跡と骨董品、神話と昔話、『古事記』と『日本書紀』、
　　フィールドワークとインタビュー）
第３回：豊穣予祝と死（祭り、年中行事、通過儀礼、冠婚葬祭）
第４回：歴史時代以前の日本（１）縄文文化、土器と石器
第５回：歴史時代以前の日本（２）海上の道、柳田国男
第６回：日本の暦（１）日本のスタンダード
第７回：日本の暦（２）旧暦と新暦、太陽暦と太陰暦、元号とキリスト教暦
第８回：妖怪と神（１）陰陽五行説と陰陽師
第９回：妖怪と神（２）妖怪画、玩具
第10回：童話と文法（グリム兄弟の語源研究）
第11回：江戸時代の国学（文献研究、上代特殊仮名遣い）
第12回：フレイザーの『金枝篇』（呪術、ジンクス、駄洒落、言霊）
第13回：小泉八雲（怪談と「日本の子供の歌」、マザー・グース）
第14回：ウイリアム・モリス（民芸運動と民具）
第15回：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
レポートは民俗誌の作成です。作成上のアドバイスを繰り返し行ないますので誰でも作れます。

成績評価方法	期末試験、レポート、受講態度、平常点等を総合的に評価する。
テキスト参考書	特になし。その代わり適宜プリントを配布する。プリントはファイリングして各自授業毎に持参する。ファイリングは研究及び社会生活の基本であり、それを経験的に身につけること。

授業コード	3014	科目名	考古学 フェニキア人にみる古代地中海の歴史	担当者	青木　真兵

【授業概要】
フェニキア人は古代地中海世界で活躍した海洋民族で、ギリシア人にアルファベットを伝えた商人であった。しかし自ら書いた史料を残しておらず、「謎の民族」とも呼ばれる。そのような人びとの歴史を再構築する手段として考古学がある。考古学の基本的な方法について学び、その成果からわかるフェニキア人の歴史と地中海文明の歴史を学ぶ。

【到達目標】
考古学の方法論を学びながら、フェニキア人を中心とした古代オリエント史と古代地中海史について理解する。

【授業計画】
１，２．フェニキア研究と歴史学と考古学
３－６．古代オリエントの歴史と考古学（青銅器時代）
７－10．古代地中海の歴史と考古学（青銅器時代から鉄器時代へ）
11－14．東地中海におけるフェニキア人の歴史と考古学
15.　　テスト

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
世界史への関心を持って講義に出席すること。

成績評価方法	毎回の授業で課す講評用紙（40パーセント）、期末のテスト（60パーセント）を合わせて評価する。
テキスト参考書	特に指定せず、参考書は適宜紹介する。

授業コード	3016	科目名	自然史（2）植物 植物と仲良くなるために	担当者	片山　雅男

【授業概要】
野外で目にする何気なく思われる植物でも、詳しく観察していくうちに、その生活の一端が見え、親しみあるものとなっていきます。この授業では植物の系統分類・生態に関する基礎知識として、植物の基本的な体のつくりや各器官の構造と機能やその進化的傾向を学びます。また、植物の生活史を通して具体的な植物の見方を習得します。

【到達目標】
① 植物の基本体制ならびに各器官の構造と機能を理解する。
② 代表的な植物の分類群について，系統上の位置とその特性を把握する。
③ 植物の生活史と繁殖様式の多様性を理解する。
④ 身近な植物を用いて，図鑑の記述と照合し，同定の手順を習得する。

【授業計画】
第１回：植物観察入門・・・・・・野外に出てみよう。高山植物はなぜきれいなのか？
第２～３回：植物の基本体制・・・葉・茎・根。植物と動物の類似点と相違点は何？
第４～５回：葉の形態・・・・・・葉の構造。単葉と複葉。葉序。葉はどこまで変わりうるのか？
第６～７回：茎の形態・・・・・・芽の種類。枝の形態。樹形。何のために茎はあるのだろう？
第８～９回：花のしくみ・・・・・花の構成要素。花序。花の進化。花のトリックにだまされるな！
第10～11回：果実のしくみ・・・・果実のなりたち。果実の分類。イチゴの種子はなぜ外にあるの？
第12回：植物標本の作成と同定・・植物採集と標本作成法。どんなふうに図鑑は使うのか？
第13～14回：植物の生活史・・・・生活史の基礎概念。繁殖様式。一年生草本。多年生草本。
木本。植物の巧妙な暮らしぶりに学ぼう！
第15回：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業や教科書の中だけの学習に終わらせず、日常生活の中で見慣れている樹木や野草に目を向け、本講義で学んだ知識で話しかけてみましょう。きっと、植物と仲良くなれるはずです。

成績評価方法	①試験：基本的な知識の理解と実践、②受講態度：授業への取り組み姿勢等、により総合的に評価する。
テキスト参考書	『グリーンセイバー』岩槻邦男編（研成社）

授業コード	3021	科目名	フィールドワーク１ 「数える」「観察する」「聴く」	担当者	大門　碧

【授業概要】
「フィールドワーク」、ちょっと気になるけど、具体的にどんなことをするんだろう。そんな興味をお持ちの方はぜひ、受講してみてください。本授業はフィールドワークの入門講座と位置づけ、フィールドワークの基本的な３つの方法、「数える」、「観察する」、「聴く」を実習をとおして学びます。

【到達目標】
「数える」、「観察する」、「聴く」、この３つの方法をつかって、実際に大学近辺を調査する実習を繰り返します。そして、実際におこなわれている研究を参照しながら、自分たちの調査から収集したデータの整理を積み重ねます。このことをとおして、フィールドワークの実施と調査結果の分析に必要な知識と手順を身につけます。

【授業計画】
以下の15回の講義をとおして、フィールドワークにおける３つの方法を学び、授業中に４つのミニ・レポートを仕上げることで、フィールドワークで集めたデータの整理方法も身につけます。実際にフィールドワークで使用されている「フィールドノート」を各自１冊ずつ配布しますので、そのノートを毎授業必ず持参して、調査の記録時、レポート作成時に使用してください。
(以下に挙げている実習内容は、状況に応じて変更したり追加したりすることがあります。)
第１回　講義の主旨説明、講師の自己紹介
第２～６回 「数える」(定量的な調査)
　樹木を「数える」、食事を「数える」、商店街の人びとやモノを「数える」、方法と結果の分析、ミニ・レポートの作成
第７～11回 「観察する」(参与観察)
　百貨店での人びとの行動を「観察する」、電車の中で乗客の行動を「観察する」、方法と結果の分析、ミニ・レポートの作成
第12～15回 「聴く」(インタビュー調査)
　親族系図を「聴く」、ライフヒストリーを「聴く」、方法と結果の分析、ミニ・レポートの作成

※10月から12月のいずれかの土曜日に学外でフィールドワークを実施します。どの土曜日に実施するかは受講者のみなさんと相談の上、決定します。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
フィールドワークの経験の有無は問いません。ただし、本授業では調査の実施と調査結果のまとめをおこなう授業を連なったものとして考えますので、できるだけすべての授業に出席することを心がけてください。

成績評価方法	受講態度（60%）と授業期間中に提出してもらう４つのミニ・レポート（40%）から評価します。授業中に配布するフィールドノートへ、調査結果やその日の課題等を書き込むことで出席とします。
テキスト参考書	特に指定しません。授業中に参考にしてほしい資料を紹介、もしくは配布します。

授業コード	3027 3028	科目名	特殊講義（3）	担当者	兼田　裕子

【授業概要】
社会人として必要なマナーや立ち居振る舞いを身に付け、働く上で必要な実践的知識を習得する授業です。就職に有利な秘書技能検定３級の取得を目標とします。秘書技能検定試験は神戸山手大学が準指定会場になるので、学校内で受験できます。

【到達目標】
就職を念頭に、社会人としての立ち居振る舞い、マナー、話し方を身に付ける。
秘書技能検定３級の取得。

【授業計画】
第１回目：卒業後のキャリア（仕事の仕方）をプランニング（計画）する。就職に有利な資格の秘書検定とは。
第２回目：社会人としての立ち居振る舞い、マナー、言葉遣い。
第３回目：秘書技能検定３級の問題から、必要とされる資質。
第４回目：秘書技能検定３級の問題から、企業で働く上での職務知識、一般知識。
第５回目：言葉遣い、敬語。
第６回目：マナー・接遇。
第７回目：事務処理能力①
第８回目：事務処理能力②
第９回目：秘書技能検定３級過去問題より模擬試験実施。
★⇒６月20日（土）　第106回秘書技能検定３級試験　／　試験会場は神戸山手短期大学。
第10回目：第106回秘書技能検定試験３級の答え合わせ。
第11回目：一般常識と時事。
第12回目：事務処理能力／文書作成
第13回目：マナー・接遇の実践①
第14回目：マナー・接遇の実践②
第15回目：学期末試験

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
秘書技能検定３級を前期で取得し、後期は２級を取得できるように、順序よく組み立てられた授業です。欠席すると分からなくなるので、欠席しないこと。

成績評価方法	期末試験の成績、秘書技能検定３級の受験、受講態度
テキスト参考書	秘書検定３級実問題集2015年度版、新秘書特講

授業コード	3101	科目名	現代企業論	担当者	久富　健治

【授業概要】
現代社会において企業（会社）とはどのような存在かを学ぶ。

【到達目標】
「企業（会社）」について、その種類や成り立ちを理解し、個人との関係、市民社会との関係、環境問題との関係など、多様な側面から考えるための基礎知識を習得する。

【授業計画】
第１回　ガイダンス「現代企業論で何を学ぶのか」
第２回　「企業（会社）」にはどのような種類があるか
第３回　株式会社の基本的性格「株主有限責任と株式自由譲渡性」
第４回　株式会社のガバナンス構造①　「所有と経営の分離」論
第５回　株式会社のガバナンス構造②　「ステイクホルダー・アプローチ」
第６回　組織と個人を考える①　「テイラーの科学的管理法の功罪」
第７回　組織と個人を考える②　「ビデオ鑑賞『モダン・タイムス』」
第８回　組織と個人を考える③　「ホーソン実験と人間関係論」
第９回　法人資本主義と企業①　「自然人と法人～法人格否認の法理」
第10回　法人資本主義と企業②　「八幡製鉄政治献金事件を題材に」
第11回　法人資本主義と企業③　「チッソ水俣病事件を題材に」
第12回　環境問題と企業①
第13回　環境経営と企業②
第14回　CSR（「企業の社会的責任」）①
第15回　CSR（「企業の社会的責任」）②

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
予習は不要だが、復習には力を入れてほしい。ノートの整理や基本用語・概念の習得に毎回１時間以上はかけること。著しい遅刻、途中退出、居眠り、私語、内職等は厳禁である。授業に集中すること。

成績評価方法	①会社の種類や株式会社の基本的成り立ちを理解しているか。　②現代社会における法人企業の社会的意義を理解しているか。　③CSR の基本について理解しているか。　小テスト（ミニレポートを課す場合もあり）と期末テストによる。なお、出席はして当然なので「出席点」なるものは存在しない。
テキスト参考書	なし

授業コード	3102	科目名	食生活論	担当者	野間　万里子

【授業概要】
生存の基盤でもあり、生活の中の楽しみでもある食は現在、経済のグローバル化の中で大きな変化の途中にあります。食生活がどのように形成されているのか、どのように変化してきたのかを学びます。

【到達目標】
① 食生活の多様性とその形成要素を理解する。
② 今後の食生活のありようについて自分の意見を持つ。
③ ②で得た自分の意見を他者に説明できる。

【授業計画】
第１回　ガイダンス―世界の食生活概観
第２－５回　近代日本の食生活―歴史的に食を理解する
第６－９回　現代日本の食生活
第10－13回　西欧近代の食生活と食のグローバル化
第14回　アジアの中の日本
第15回　まとめ―これからの食生活を考える

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義テーマに沿って、参考文献・映画を紹介します。興味を持ったテーマについて積極的に時間外学習を行ってください。

成績評価方法	授業内レポート（40%）と学期末レポート（60%）で評価する。
テキスト参考書	テキストは使用せず、適宜プリントを配布する。

授業コード	3103	科目名	環境考古学 カルタゴ人にみる古代地中海の歴史	担当者	青木　真兵

【授業概要】
カルタゴとは古代地中海世界で活躍した海洋民族のフェニキア人の植民都市である。前６世紀には西地中海世界に覇権を確立したが、前３世紀に勃発した三度にわたるローマとの戦いの末に滅亡した。カルタゴ人たちは自ら書いた史料を残しておらず、「ローマの敵」として古代地中海の歴史に登場する（有名な武将にはハンニバルがいる）。そのような人びとの歴史を再構築する手段として考古学があり、その一分野に環境考古学がある。考古学の基本的な方法について学び、その成果からわかるカルタゴ人の歴史とローマによって統一されていく地中海文明の歴史を学ぶ。

【到達目標】
考古学の方法論を学びながら、カルタゴ人を中心とした古代地中海史について理解する。

【授業計画】
１，２．カルタゴ研究と歴史学と考古学
３－６．カルタゴの歴史と考古学
７－10．カルタゴとローマの戦いの歴史と考古学
11－14．ローマ帝国成立の歴史と考古学
15．　テスト

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
世界史への関心を持って講義に出席すること。

成績評価方法	毎回の授業で課す講評用紙（40パーセント）、期末のテスト（60パーセント）を合わせて評価する。
テキスト参考書	特に指定せず、参考書は適宜紹介する。

授業コード	3104	科目名	文化財学 世界遺産にみる歴史と現代社会	担当者	青木　真兵

【授業概要】
主に地中海周辺域の世界遺産に注目し、それぞれの地域が有する歴史や世界遺産として登録された経緯、現状において抱える問題点を通じて現代社会について学ぶ

【到達目標】
本授業では映像や写真等の資料を用いながら、西アジア・北アフリカ・ヨーロッパの世界遺産について学ぶとともに、現代社会において文化財が立つ危機的状況などを理解することを目的とする。

【授業計画】
1．文化財学とはなにか、世界遺産の歴史と現代社会における問題点
2．ヌビア遺跡群と世界遺産条約の成立
3．ローマ歴史地区と越境遺産
4．ケルンの大聖堂と景観問題
5．サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路と道の世界遺産
6．エルサレムの旧市街とその城壁と危機遺産
7．紀伊山地の霊場と参詣道と日本の世界遺産
8．イビサ島の生物多様性と歴史地区と島の世界遺産
9．ギョレメ国立公園とカッパドキアの岩石群と複合遺産
10．ヴェネツィアとその潟と全ての登録基準を満たす遺産
11．マカオの歴史地区と観光
12．石見銀山遺跡とその文化的景観と日本の世界遺産Ⅱ
13．ニュー・ラナークと近代産業遺産
14．アウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所と負の遺産
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
日本を含めた世界史への関心を持って講義に出席すること。

成績評価方法	毎回の授業で課す講評用紙（40パーセント）、期末のレポート（60パーセント）を合わせて評価する。
テキスト参考書	特に指定せず、参考書は適宜紹介する。

授業コード	3105	科目名	環境アセスメント論 環境アセスメントの概要を知る	担当者	井上　尚之

【授業概要】
我が国では、平成９年に環境影響評価法、通称環境アセスメント法が制定された。
また自治体独自の環境アセスメント制度も存在している。
本講座では我々の生活の質を高める重要なツールとなる環境アセスメントの概要を教授する。

【到達目標】
環境アセスメントの流れを言うことができるようになる。

【授業計画】
（１）環境アセスメントとは何か
（２）環境アセスメントの意味
（３）市民の視点からみた環境アセスメント
（４）事業者の視点から見た環境アセスメント
（５）行政・学者・審査委員からみた環境アセスメント
（６）システムからみた環境アセスメントの問題点
（７）我が国の環境アセスメント法
（８）条例による環境アセスメント
（９）アメリカの環境アセスメント
（10）ヨーロッパの環境アセスメント
（11）日米欧の環境アセスメントの相違
（12）発展途上国の環境アセスメント
（13）環境アセスメントのあるべきすがた
（14）インターネットによる環境アセスメント検索①
（15）インターネットによる環境アセスメント検索②
以上の内容などを教授する予定である。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
復習としてその日の授業内容をノートにまとめる。

成績評価方法	積極的授業参加・発表・態度、中間試験、定期試験による総合評価。詳細は授業中に説明する。
テキスト参考書	プリントなどで行う予定。

授業コード	3107	科目名	環境文化史１ 産業革命の意味	担当者	岩見　幸恵

【授業概要】
産業革命によって世界は激変した。大量生産や複製技術の進歩と環境や文化との関連を文学や映画、アニメを例に論じる。また環境問題を通して現代社会の成り立ち及び仕組みを知る。３.11以後、飛躍的に環境問題に関する情報は増えたが、その中から必要な情報を取捨選択し、独自の環境観を構築できるようになる。

【到達目標】
環境問題に関する基礎的知識を習得する。例えば日本における歴史時代以前の姿を想像できることは、来るべき未来の日本を作り出す上での重要な基礎知識となる。縄文時代、宮崎アニメ、涼宮ハルヒ等をモデルに環境問題を考える。そしてそれらを環境リスク低減の一つの目標とする。またリンクを利用して情報をまとめレポートを作ることができるようになる。

【授業計画】
第１回：オリエンテーション（レポート及び評価について）
第２回：縄文時代（日本オリジナルの環境モデル）
第３回：.奈良・平安時代の産業革命（分業と輸出）
第４回：『もののけ姫』（１）
第５回：『もののけ姫』（２）
第６回：三つの革命（１）農業革命
第７回：三つの革命（２）産業革命（１）複製技術と大量生産
第８回：三つの革命（３）産業革命（２）綿花と植民地
第９回：三つの革命（４）情報革命（涼宮ハルヒ）
第10回：産業革命の弊害
第11回：『天空の城ラピュタ』（１）
第12回：『天空の城ラピュタ』（２）
第13回：涼宮ハルヒ（１）
第14回：涼宮ハルヒ（２）
第15回：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
DVD の鑑賞後、直ちにその場で簡単なレポートを書いてもらいますが、気後れせず大胆に書くことを心がけて下さい。

成績評価方法	期末試験、レポート、受講態度、平常点等を総合的に評価する。
テキスト参考書	特になし。その代わり適宜プリントを配布する。プリントはファイリングして各自授業毎に持参する。ファイリングは研究及び社会生活の基本であり、それを経験的に身につけること。

授業コード	3108	科目名	環境文化史２ 食と農の環境文化	担当者	一宮　真佐子

【授業概要】
日本の農業や農村について、実態とメディアに取り上げられるイメージの双方を学ぶことで、「コミュニティ」、「まち・むらづくり（地域振興）」、「都市と農村の関係」、「ライフスタイル」、「食文化」などについて考えていく。

【到達目標】
①日本の農業や農村の成り立ちと現状について学ぶことで、産業構造・政策や国土・地域（風土）について理解を深める。
②農村を見直すことで、環境問題・都市問題の解決を目指し、また自分たちの暮らす「地域」・「コミュニティ」の未来を考える力を身につける。
③農産物や食文化、農村で培われた生活文化を学ぶことで、自分たちのライフスタイルについて見つめ直し、より良い選択をするための見解を持つ。

【授業計画】
第１回　　環境・文化・農村という場について（ガイダンス）
第２～５回　日本農業・農村の変遷（近世から現代）
第６～８回　田園空間論（ヨーロッパと日本）
第９～11回　食の安全を求めて～農業生産と消費～
第12～15回　マンガで見る農業・農村～田舎暮らし・スローライフ・スローフード～

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
毎回、講義資料（講義ノート）を配布します。また、第２回から講義中に、前回の内容についてのミニテストを行います。これが出席票の代わりとなります。

成績評価方法	講義内容の理解：①ミニテストの提出と②最終試験（ミニテストから抜粋して出題）から総合的に判断する。
テキスト参考書	教科書は特に指定しない。参考書は必要に応じて講義中もしくは配布資料に提示するが、講義内容についてより深く学びたい人には、『むらの資源を研究する』および『むらの社会を研究する』（ともに日本村落研究学会編、農文協､2007年）の２冊は、一読することをお勧めする。

授業コード	3110	科目名	環境マネジメント論（2） ISO14000 パフォーマンスの見える化の実践	担当者	井上　尚之

【授業概要】
本学における ISO14001パフォーマンス（成果）を見える化する方法を習得する。
「環境マネジメント論」の履修者も、この授業を受けることが望まれる。

【到達目標】
本学の電力使用量、コピー使用量、電気使用量に伴うＣＯ２排出量、コピー使用量に伴うＣＯ２排出量をエクセルで計算し、グラフ化して、学内に貼り出す等の実践を行う。

【授業計画】
第１回　昨年度の本学の環境パフォーマンスを知る。
第２回　昨年度の本学の電気使用量をグラフ化する。
第３回　昨年度の本学のコピー使用枚数をグラフ化する。
第４回　昨年度の本学の電気使用量及びコピー使用枚数に伴うＣＯ２発生量をグラフ化する。
第５回　今年度４月の電気使用量をグラフ化して、学内に掲示する。
第６回　今年度４月のコピー使用枚数をグラフ化して、学内に掲示する。
第７回　今年度４月の電気使用量及びコピー使用枚数に伴うＣＯ２発生量をグラフ化して、学内に掲示する。
第８回　今年度５月の電気使用量をグラフ化して、学内に掲示する。
第９回　今年度５月のコピー使用枚数をグラフ化して、学内に掲示する。
第10回　今年度５月の電気使用量及びコピー使用枚数に伴うＣＯ２発生量をグラフ化して、学内に掲示する。
第11回　今年度６月の電気使用量をグラフ化して、学内に掲示する。
第12回　今年度６月のコピー使用枚数をグラフ化して、学内に掲示する。
第13回　今年度６月の電気使用量及びコピー使用枚数に伴うＣＯ２発生量をグラフ化して、学内に掲示する。
第14回　今年度４～６月の電気使用量とコピー枚数をそれぞれ１枚のグラフにまとめ、学内に掲示する。
第15回　今年度４～６月の電気使用及びコピー使用に伴うＣＯ２発生量をそれぞれグラフにまとめ学内に掲示。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
エクセルにおける数値のグラフ化知識が必須であるのでエクセルの使用方法を十分準備しておくこと。復習としてその日作成したグラフの意味を理解すること。

成績評価方法	積極的授業参加・発表・態度・提出物・テスト等による総合評価。
テキスト参考書	井上尚之著『環境学』（関西学院大学出版会）

授業コード	3112	科目名	環境マネジメント演習（2） ISO14000 パフォーマンスの見える化の実践	担当者	井上　尚之

【授業概要】
本学における ISO14001パフォーマンス（成果）を見える化する方法を習得する。
「環境マネジメント演習」の履修者も、この授業を受けることが望まれる。

【到達目標】
本学の電力使用量、コピー使用量、電気使用量に伴うＣＯ２排出量、コピー使用量に伴うＣＯ２排出量をエクセルで計算し、グラフ化して、学内に貼り出す等の実践を行う。

【授業計画】
第１回　今年度前期の本学の環境パフォーマンスを知る。
第２回　今年度前期の本学の電気使用量をグラフ化する。
第３回　今年度前期のの本学のコピー使用枚数をグラフ化する。
第４回　今年度前期の本学の電気使用量及びコピー使用枚数に伴うＣＯ２発生量をグラフ化する。
第５回　今年度９月の電気使用量をグラフ化して、学内に掲示する。
第６回　今年度９月のコピー使用枚数をグラフ化して、学内に掲示する。
第７回　今年度９月の電気使用量及びコピー使用枚数に伴うＣＯ２発生量をグラフ化して、学内に掲示する。
第８回　今年度10月の電気使用量をグラフ化して、学内に掲示する。
第９回　今年度10月のコピー使用枚数をグラフ化して、学内に掲示する。
第10回　今年度10月の電気使用量及びコピー使用枚数に伴うＣＯ２発生量をグラフ化して、学内に掲示する。
第11回　今年度11月の電気使用量をグラフ化して、学内に掲示する。
第12回　今年度11月のコピー使用枚数をグラフ化して、学内に掲示する。
第13回　今年度11月の電気使用量及びコピー使用枚数に伴うＣＯ２発生量をグラフ化して、学内に掲示する。
第14回　今年度４～12月の電気使用量とコピー枚数をそれぞれ１枚のグラフにまとめ、学内に掲示する。
第15回　今年度４～12月の電気使用及びコピー使用に伴うＣＯ２発生量をそれぞれグラフにまとめ学内に掲示する。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
エクセルにおける数値のグラフ化知識が必須であるのでエクセルの使用方法を十分準備しておくこと。復習としてその日作成したグラフの意味を理解すること。

成績評価方法	積極的授業参加・発表・態度・提出物・テスト等による総合評価。
テキスト参考書	井上尚之著『環境学』（関西学院大学出版会）

授業コード	3114	科目名	神戸の歴史と文化	担当者	福原　栄太郎

【授業概要】
神戸のもつ開放的な雰囲気がどのように形成されてきたかを、歴史と文化の側面から時代のエポックとなるテーマをとりあげて講述します。

【授業計画】
1．授業オリエンテーション
2．古代史料や古典に現れる神戸
3．歌枕の地としての神戸
4．平氏政権と神戸１
5．平氏政権と神戸２
6．瀬戸内海航路における大輪田泊
7．南北兵庫関
8．南北朝動乱期の兵庫
9．神戸周辺における戦国期１
10．神戸周辺における戦国期２
11．支配者と兵庫
12．兵庫の海商たち１
13．兵庫の海商たち２
14．神戸開港 －維新と神戸
15．神戸の異人たち

成績評価方法	レポート、筆記試験、受講態度重視（原則として遅刻、途中退席は認めない）
テキスト参考書	授業中にプリント資料を配付する。

授業コード	3202	科目名	神戸学入門	担当者	田中　正人

【授業概要】
神戸というまちについて学ぶと同時に、神戸というまちから学ぶことが本講義のねらいである。歴史や事象について、ただ知識を得るだけでなく、これからのまち（づくり）にとって、何が重要で、どんなことに注目していくべきかを考えていく上でのきっかけをつかみとってほしい。

【到達目標】
神戸の市街地形成の歴史を通して、都市計画／まちづくりをめぐる主な現代的課題について理解する。

【授業計画】
【総論】
1．授業ガイダンス
2．我が国における神戸の位置
3．神戸の歴史（1）近世～近代～戦争
4．神戸の歴史（2）戦後～震災前
5．神戸の歴史（3）震災後～現在
【各論】
6．旧居留地と北野町（異人館）（1）
7．旧居留地と北野町（異人館）（2）
8．南京町（1）
9．南京町（2）
10．人工島とニュータウン
11．阪神・淡路大震災と市街地復興（1）
12．阪神・淡路大震災と市街地復興（2）
13．阪神・淡路大震災と住宅復興（1）
14．阪神・淡路大震災と住宅復興（2）
15．まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・神戸の大まかな地理、地名について把握しておくこと。
・講義で扱った対象について、できるだけ自分の目で現地（現物）を見るよう心掛けること。

成績評価方法	平常点（40点）※毎回のミニレポートおよび筆記試験（60点）
テキスト参考書	特になし。講義中に参考図書を紹介する。

授業コード	3203	科目名	設計製図基礎（1）＜複式＞	担当者	田中　栄治

【授業概要】
建築設計図を作成するための製図の基礎的な技術を習得する。
建築士・インテリアコーディネーター試験のうち製図分野の基本的技術を習得する。

【到達目標】
製図道具の使い方や図面表現のルールを把握し、実例図面をトレースすることにより、建築製図の基本を身につける。

【授業計画】
前期「設計製図基礎（1）」と後期「設計製図基礎（2）」は、同時に履修すること。
第１回　　建築における図面の役割説明
　　建築製図の基本的技術説明
　　道具の使い方：鉛筆、平行定規、三角定規、三角スケールの使い方など
　　線の引き方：線の太さの使い分け、平行線、直角の線の引き方、文字の書き方など
第２回　　身体寸法、線の練習
第３回　　平面図の製図
第４～５回　断面図、立面図、配置図の製図
第６～７回　らせん階段、傾斜した壁の製図、縮尺と図面表現
第８～15回　木造住宅の製図：住宅実例図面をトレースすることにより、建築製図の方法を学ぶ。
（第８～10回：平面図の製図、第11～13回：断面図の製図、第14～15回：立面図の製図）
授業は演習形式で行ない、各自が課題図面を作図する。
第１回目の授業で道具の使い方や基本的な線の引き方、図形の描き方を説明するので、履修希望者は必ずこれに出席すること。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
課題を真面目に丁寧にこなしていくと、自然に基本的な技術が身につきます。

成績評価方法	作図された図面により行う。
テキスト参考書	授業時にプリントを配布する。〔参考書〕建築ドリル　空間表現の基礎を学ぶ（学芸出版社）、その他、建築士・インテリアコーディネーター等の試験資料を参考にする。

授業コード	3204	科目名	設計製図基礎（2）＜複式＞	担当者	田中　栄治

【授業概要】
建築設計図を作成するための製図の基礎的な技術を習得する。
建築士・インテリアコーディネーター試験のうち製図分野の基本的技術を習得する。

【到達目標】
・自ら住宅のテーマ、コンセプトを設定し、それに沿った計画を立案する力を身につける。　・計画したものを建築図面として表現できる技術を身につける。　・住宅模型を作成することができる。　・図面、模型を使用して、自らの考えをプレゼンテーションすることができる。　・空間を２次元の中で、立体的に表現することができる。

【授業計画】
原則として、前期「設計製図基礎（1）」を履修しなかった者は受講できない。
住宅を中心としたインテリア・建築の設計製図課題を行う。
課題１：定められた空間の中にインテリアのプランニングを行う。（期間：６週間程度）
　第１回　　課題説明：インテリア各スペースの構成、空間・家具の必要寸法、家具配置などについて
　第２～４回　インテリアプランニングとチェック
　第５～６回　インテリア透視図の作成とチェック
課題２：定められた規模の中に住宅のプランニングを行う。（期間：９週間程度）
　第７回　　課題説明：住宅各スペースの必要寸法と構成やつながり、動線、空間の演出などについて
　第８～９回　エスキース検討とチェック
　第10回　　エスキース検討とチェック、中間発表
　第11～14回　プレゼンテーション図面・模型の作成とチェック
　第15回　　図面・模型提出とプレゼンテーション及び講評会
授業は演習形式で行ない、各自が課題図面を作図する。課題で設定された諸条件に基づき、各自が自分のアイデアを考え、インテリア・建築のデザイン・設計を行い、「設計製図基礎（1）」で学ぶ建築製図の技術を用いて配置図、平面図、断面図、立面図等の設計図面の作成を行う。さらに建築模型を制作することで自分の考えた空間を立体的に表現し、それらをプレゼンテーション図面としてまとめることにより、よりよい住まいのあり方を考える。またそれを表現し、他の人に伝えるための技術を学ぶ。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
普段から建築雑誌、住宅雑誌をパラパラめくって見て、自分が好きだなと思う空間を見つけておくことを勧める。

成績評価方法	作図された図面およびプレゼンテーションにより行う。
テキスト参考書	授業時にプリントを配布する。〔参考書〕『住宅をデザインする －はじめての建築学 －建築デザイン基礎編』建築学教育研究会編（鹿島出版会）、その他、建築士・インテリアコーディネーター等の試験資料を参考にする。

授業コード	3205	科目名	建築文化史（2） 西洋建築史	担当者	高津　章雄

【授業概要】
現代建築は西洋建築の時代だと言えます。そのルーツである西洋建築史を学びます。

【到達目標】
・西洋建築における古典・古代から現代までの概略の流れを身につける。
・各時代の建築様式についてその概略を身につける。

【授業計画】
1　なぜヨーロッパの建築なのか
2　古代ギリシャ建築について、特にギリシャ神殿の建築を学ぶ。オーダーについて勉強する。
3　古代ローマ建築について、アーチ、ボールトの構造およびバシリカについて学ぶ。
4　ヨーロッパ中世の建築について、４世紀キリスト教が公認されてから15世紀ルネッサンスまでを中世と呼ぶ。
5　初期キリスト教会
6　ロマネスク建築
7　ゴティック建築
8　ルネッサンスの建築
9　マニエリスムの建築
10　バロック建築
11　ロココ建築
12　古典主義建築
13　ロマン主義建築
14　折衷主義建築
15　歴史主義建築

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
・なるべくたくさん画像や映像を使って授業を行いますので、息抜きの授業だと思って楽しんで受講して下さい。

成績評価方法	受講態度を重視する（2／ 3以上出席のこと）。試験による。
テキスト参考書	毎回授業の前に配るプリントを使います。 参考図書；西洋建築入門　森田慶一著　東海大学出版会

授業コード	3206	科目名	建築調査演習 敷地測量と建物実測	担当者	田中　栄治

【授業概要】
土地と建物を調査することが、建築計画・設計のスタートである。
その基本である敷地測量と建物実測の基礎的な技術を学ぶ。

【到達目標】
測量機器や実測用具を使用して敷地や建物を測量・実測し、図面化する技術を習得する。

【授業計画】
［第１回～第５回］測量概論と平板測量による敷地測量
・測量概論：多角測量、水準測量、GPS 測量などの基礎知識を学ぶ。
・敷地測量：実際に大学内の敷地を測量し、測量図面を製図・作成する。
平板測量、トランシット、レベルの利用
［第６回～第10回］平板測量による敷地測量
・敷地測量：１日目に引続き、実際に大学内の敷地を測量し、測量図面を製図・作成する。
平板測量、トランシット、レベルの利用
［第11回～第15回］建物実測
・建物実測：実際に建物の内部・外部・外構などを実測し、実測図面を製図・作成する。

授業は３日間の集中講義として行う。
４・５人程度のグループを組んで、測量・実測作業を行い、そのデータをもとに各自で測量図面・
実測図面を製図・作成する。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
この講義を履修する学生は、「設計製図基礎（1）、（2）」も合わせて履修することが望ましい。
作業は屋外で測量機器を使って行うので、作業の邪魔にならない動きやすい服装で来ること。

成績評価方法	授業時に製図・作成した成果提出物及びレポートによる
テキスト参考書	授業時に資料のコピーを配布する。

授業コード	3207	科目名	生活デザイン	担当者	田中　正人

【授業概要】
身の回りの日用品から工業製品，グラフィック，建築，都市まで，大小さまざまなモノを通してデザインの役割について考えます。

【到達目標】
デザインが果たす社会的役割について理解する。

【授業計画】
【総論】
1．デザインとはなにか？
2．デザインの歴史（1）
3．デザインの歴史（2）
4．デザインの歴史（3）
5．ユニバーサルデザインとは？
【各論】
6．プロダクト・デザイン（1）
7．プロダクト・デザイン（2）
8．グラフィック・デザイン（1）
9．グラフィック・デザイン（2）
10. 建築デザイン（1）
11. 建築デザイン（2）
12. 都市デザイン（1）
13. 都市デザイン（2）
14. まとめ
15. 試験

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義で扱った対象について，できるだけ自分の目で現物（現地）を見るよう心掛けること。

成績評価方法	各回のミニレポートと試験により評価します。
テキスト参考書	

授業コード	3209	科目名	コンピュータグラフィクス（2）	担当者	岡　本　　久

【授業概要】
身近な映像機器を用いた動画作品の制作演習。ビデオカメラをはじめ、日頃から使っている携帯電話やデジカメなどを用いて様々なテーマでの撮影を行う。また撮影した映像をパソコンで編集し、タイトルや音声、ＢＧＭをつけるなど、映像作品の一連の制作方法について広く学習する。

【到達目標】
①撮影や編集の基本や応用について幅広く身に着ける。
②身近な機械を有効活用できるようになる。
③制作に関する複数のプロセスを、最初から最後まで一人でできる力を身につける。

【授業計画】
第１回　：授業ガイダンス
第２～９回：撮影、編集の演習（撮影方法や編集ソフトの基本学習とケーススタディ）
　　音声やタイトルのつけ方、エフェクト処理など映像効果に関する学習
第10～14回：与えられたテーマによる課題制作（シナリオ制作・撮影・編集）
　　完成した映像の発表（合評）
第15回　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
普段使っている携帯電話やデジカメ、パソコン等を使いこなし、より表現力の高い映像作品の制作方法を学習することで、さまざまな場面で役立つプレゼンテーション能力を高めることができます。

成績評価方法	受講態度、取り組み姿勢、課題による総合評価。
テキスト参考書	配布資料等

授業コード	3210	科目名	設計製図演習（1） 住環境の提案・設計	担当者	田中　栄治

【授業概要】
住宅の設計を行い、設計図および模型を制作してプレゼンテーション図面として表現・発表し、これからの住環境のあり方を考える。建築士・IC 試験のうち製図分野の技術を修得する。

【到達目標】
戸建て住宅の平面、断面、立面を計画する技術を習得する。また、自分のアイデアを形にし、提案を図面や模型で表現してプレゼンテーションする力を身に付ける。それを通して、より良い住まいはどうあるべきか考える。

【授業計画】
「設計製図基礎（1）、（2）」で修得した技術を用いて住宅を中心とした建築の設計製図課題を行う。
課題１：定められた敷地の中に住宅のプランニングを行う。（期間：７週間程度）
　第１回　　課題説明：敷地条件、敷地内での住宅の配置、外部空間を活用したプランニングなどについて
　第２・３回　エスキース検討とチェック
　第４回　　エスキース検討とチェック、中間発表
　第５・６回　プレゼンテーション図面・模型の作成とチェック
　第７回　　図面・模型提出とプレゼンテーション及び講評会
課題２：定められた実際の敷地の中に住宅のプランニングを行う。（期間：８週間程度）
　第８回　　課題説明：敷地設定や現地調査、周辺環境を考慮した住宅のプランニングなどについて
　第９・10回　エスキース検討とチェック
　第11回　　エスキース検討とチェック、中間発表
　第12～14回　プレゼンテーション図面・模型の作成とチェック
　第15回　　図面・模型提出とプレゼンテーション及び講評会
授業は演習形式で行ない、各自が課題図面を作図する。
課題で設定された諸条件に基づき、各自が自分のアイデアを考え、住宅の設計を行い、配置図、平面図、断面図、立面図等の設計図面の作成を行う。さらに建築模型を制作することで自分の考えた空間を立体的に表現し、それらをプレゼンテーション図面としてまとめることにより、よりより住環境のあり方を考える。またそれを表現し、他の人に伝えるための技術を学ぶ。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
前期「設計製図演習（1）」と後期「設計製図演習（2）」は、同時に履修すること。
この演習を履修する場合は、「設計製図基礎（1）、（2）」の単位取得が望ましい。

成績評価方法	提出された図面・模型により行う。
テキスト参考書	なし　[参考書]『住宅をデザインする - はじめての建築学－建築デザイン基礎編』　建築学教育研究会　鹿島出版会　その他、建築士・インテリアコーディネーター等の試験資料を参考にする。

授業コード	3211	科目名	設計製図演習（2） 住環境の提案・設計	担当者	田中　栄治

【授業概要】
住宅の設計を行い、設計図および模型を制作してプレゼンテーション図面として表現・発表し、これからの住環境のあり方を考える。建築士・インテリアコーディネーター試験のうち製図分野の技術を修得する。

【到達目標】
集合住宅や複合施設の平面、断面、立面を計画する技術を習得する。また、自分のアイデアを形にし、提案を図面や模型で表現して、プレゼンテーションする力を身に付ける。それを通して、より良い住まいはどうあるべきか考える。

【授業計画】
「設計製図基礎（1）、（2）」で修得した技術を用いて住宅を中心とした建築の設計製図課題を行う。
課題１：定められた実際の敷地の中に集合住宅のプランニングを行う。（期間：７週間程度）
　第１回　　課題説明：集まって住むことの意味、住居集合の形式、住戸計画などについて
　第２・３回　エスキース検討とチェック
　第４回　　エスキース検討とチェック、中間発表
　第５・６回　プレゼンテーション図面・模型の作成とチェック
　第７回　　図面・模型提出とプレゼンテーション及び講評会
課題２：各自が選んだ実際の敷地の中に集合住宅と文化・商業施設などの複合施設のプランニングを行う。（期間：８週間程度）
　第８回　　課題説明：敷地設定、地域特性、用途複合による住環境の形成などについて
　第９・10回　エスキース検討とチェック
　第11回　　エスキース検討とチェック、中間発表
　第12～14回　プレゼンテーション図面・模型の作成とチェック
　第15回　　図面・模型提出とプレゼンテーション及び講評会
授業は演習形式で行ない、各自が課題図面を作図する。
課題で設定された諸条件に基づき、各自が自分のアイデアを考え、住宅の設計を行い、配置図、平面図、断面図、立面図等の設計図面の作成を行う。さらに建築模型を制作することで自分の考えた空間を立体的に表現し、それらをプレゼンテーション図面としてまとめることにより、より良い住環境のあり方を考える。またそれを表現し、他の人に伝えるための技術を学ぶ。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
前期「設計製図演習（1）」と後期「設計製図演習（2）」は、同時に履修すること。
この演習を履修する場合は、「設計製図基礎（1）、（2）」の単位取得が望ましい。

成績評価方法	提出された図面・模型により行う。
テキスト参考書	なし　[参考書]『住宅をデザインする - はじめての建築学－建築デザイン基礎編』　建築学教育研究会　鹿島出版会　その他、建築士・インテリアコーディネーター等の試験資料を参考にする。

授業コード	3213	科目名	CAD（2） コンピュータによる設計製図	担当者	井田　英石

【授業概要】
コンピュータ（CAD ソフト）を用いて建築製図・プレゼンテーションを行うための技術を習得する。

【到達目標】
CAD（1）で修得した技術を用いて、より高度な建築製図の技術を学ぶ。
さらに3D ソフトの技術を修得することにより、設計提案のプレゼンテーション図面を作成する。

【授業計画】
第1～6回　設計製図演習などで作成した各自の提案を、CAD を用いて図面化する。
第7～12回　その図面をもとに、各自の提案を3D ソフトで立体的に表現する。
第13～15回　作成した図面や3D 画像を用いてプレゼンテーション図面を作成する。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
授業は演習形式で行ない、各自が課題図面を作図する。
この授業を履修する者は、必ずCAD（1）の単位を修得していること。

成績評価方法	提出された図面による。取組姿勢を考慮する。
テキスト参考書	『やさしく学ぶ Sketch up』 Obra Club 著（エクスナレッジ）〔参考書〕『やさしく学ぶ Jw_cad 5』Obra Club 著（エクスナレッジ）、『Jw_cad 5 徹底解説（操作編）』Jiro Shimizu, Yoshifumi Tanaka 著（エクスナレッジ）、『Jw_cad 5 徹底解説（リファレンス編）』Jiro Shimizu, Yoshifumi Tanaka 著（エクスナレッジ）

授業コード	3214	科目名	建築構造力学（1）	担当者	山邊　友一郎

【授業概要】
安心安全で快適な建築空間を創造するために必要な建築構造力学の基礎を学ぶ。

【授業計画】
静定構造物を対象とし、建築物に作用する力の種類と流れ、および建築構成部材に作用する力とそれに対する架構の変形など、建築構造力学の基礎的知識を学ぶ。

第1回　構造物と構造力学
第2回　力とモーメント
第3回　力の合成と分解
第4回　力のつりあいと力のつりあい式
第5回　静定構造物
第6～8回　静定ばり・静定ラーメンの応力
第9～11回　静定トラスの応力
第12～13回　断面の応力
第14～15回　部材の変形

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
分数、平方根、方程式など初歩的な数学を使いますので、習得しておいて下さい。

成績評価方法	レポート及びテストによる。受講態度を重視する。（2/ 3以上出席のこと）
テキスト参考書	「やさしい構造力学」 浅野清昭著　学芸出版社

授業コード	3215	科目名	建築構造力学（2）	担当者	山邊　友一郎

【授業概要】
建築構造力学（1）で習得した力学原理の理解を確認・発展させ，建築構造設計を行う際に必要とされるより高度な力学原理を学ぶ。

【授業計画】
不静定構造物を対象とし、部材に生じる応力度と変形、骨組みに生じる力と変形、マトリクス法、終局強度などを学ぶ。

第１回　　建築物に作用する力の種類と流れ
第２回　　静定構造物の応力
第３回　　断面の応力と変形
第４～５回　部材に生じる応力度と変形
第６～７回　骨組みに生じる力と変形
第８～９回　マトリクス法
第10～11回　終局強度
第12～13回　座屈
第14～15回　構造設計

※この授業を履修する者は、必ず建築構造力学（1）の単位を修得していること。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
分数、平方根、方程式など初歩的な数学を使いますので、習得しておいて下さい。

成績評価方法	レポート及びテストによる。受講態度を重視する。（2/ 3以上出席のこと）
テキスト参考書	「やさしい構造力学」 浅野清昭著　学芸出版社

授業コード	3216	科目名	インテリア技術	担当者	松村　哲浩

【授業概要】
住む人にとって快適な住環境を作るために必要なインテリアについての技術的な基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
インテリアコーディネーター及びインテリアプランナー受験に向けての基本的知識の取得に限らず、インテリア空間のもつ文化的な背景をも理解できるようになること。

【授業計画】
インテリアの社会的役割や歴史から実際のインテリアのデザインに必要な計画手法や構法、プレゼンテーションのための表現技法まで、幅広くインテリアの技術的な基礎知識を学ぶ。

第１～２回　住宅と社会
　住まいの役割と変遷、およびストック社会における住まいの課題について学ぶ。
第３～４回　インテリアの歴史
　古代から現代における日本および西洋のインテリア・家具の歴史を概観する。
第５～６回　人間工学
　人体寸法および動作空間の特性、そのインテリア計画への応用について学ぶ。
第７～８回　インテリアの計画
　生活空間における寸法、性能、安全、維持管理など、インテリア計画の内容と課題について学ぶ。
第９～10回　造形
　インテリアにおける形や色などのデザインと造形原理について学ぶ。
第11～13回　インテリア構法
　床・壁・天井・造作・開口部・階段などインテリア各要素の構法と仕上げ材の特性について学ぶ。
第14～15回　表現技法
　フリーハンドスケッチから透視図、CAD・CG までインテリア計画を表現するための技法について学ぶ。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
知識や技術を覚えるだけでなく、それらが成り立っている背景をも考えるようにして下さい。

成績評価方法	テストによる。　及び受講態度（2/ 3以上出席者のみ）とノート記録力重視
テキスト参考書	「インテリアコーディネーターハンドブック　統合版　上」 社団法人インテリア産業協会 「隠れた次元」 エドワード・ホール　みすず書房

授業コード	3217	科目名	インテリアエレメント	担当者	松村　哲浩

【授業概要】
住む人にとって快適な住環境を作るために必要なインテリアエレメントの種類と施工法および機能と性能についての基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
インテリアコーディネーター及びインテリアプランナー受験に向けての基本的知識の取得に限らず、インテリア空間のもつ文化的な背景をも理解できるようになること。

【授業計画】
床・壁・天井の建築内装からキッチン・バス・トイレなどの住宅設備機器、照明・家具・ウィンドートリートメントなどのインテリア要素まで、インテリアのデザインに必要な各素材や製品などの種類と施工法および機能と性能についての基礎知識を学ぶ。

第１回　インテリアコーディネート：建築におけるインテリア空間の構成とインテリアコーディネートの役割について学ぶ。
第２回　床仕上げ材：木質系床材、プラスチック系床材など各種床仕上げ材の種類と施工法および機能・性能について学ぶ。
第３回　壁仕上げ材：湿式壁材、乾式壁材など各種壁仕上げ材の種類と施工法、および機能・性能について学ぶ。
第４回　天井仕上げ材：各種天井仕上げ材の種類と施工法、および機能・性能について学ぶ。
第５回　造作部品：各種造作部品の種類と施工法、および造作ユニットについて学ぶ。
第６回　建具：金属製建具、木製建具など各種建具の種類と施工法、および機能・性能について学ぶ。
また、建具金物およびガラスの種類と機能について学ぶ。
第７回　塗料・塗装：各種塗料の種類と施工法、および性能について学ぶ。
第８回　住宅設備機器：キッチン、洗面化粧台、浴室など各種住宅設備機器の種類と施工法、および機能・性能について学ぶ。
第９回　照明：光に対する人間の感覚と、各種光源・照明器具の種類と施工法、および性能について学ぶ。
第10回　家具：造付収納や椅子、テーブルなど各種家具の種類と施工法、および機能・性能について学ぶ。
第11回　ウィンドートリートメント：カーテン、ブラインドなど各種ウィンドートリートメントの種類と施工法、および機能・性能について学ぶ。
第12回　寝装・寝具：ベッド、ふとんなど各種寝装・寝具の種類と性能について学ぶ。
第13回　テーブルウエア・キッチン用品：食器やキッチン用品など各種テーブルウエア・キッチン用品の種類と性能について学ぶ。
第14回　インテリア・オーナメント：絵画や写真、観葉植物、雑貨など各種インテリア・オーナメントの種類と性能について学ぶ。
第15回　エクステリアエレメント：各種外構の種類と施工法、および機能・性能について学ぶ。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
知識や技術を覚えるだけでなく、それらが成り立っている背景をも考えるようにして下さい。

成績評価方法	テストによる。　及び、受講態度（2/３以上出席のこと）とノート記録力重視
テキスト参考書	「インテリアコーディネーターハンドブック　統合版　下」 社団法人インテリア産業協会 「隠れた次元」 エドワード・ホール　みすず書房

授業コード	3218	科目名	景観デザイン論 アーバンデザイン／環境デザイン	担当者	小林　郁雄

【授業概要】
都市のアーバンデザイン／環境デザインとは何か、めざすべきものは何か。神戸市内の水際地区や密集地区での実例を基に、その景観デザインがどのような形で計画・設計されたのかを学ぶ。

【到達目標】
街を歩く時、その景観デザインに注意を払い、街の成り立ちとの関わりを理解する。特に、神戸の水際地区や密集地区における景観デザインが果たす役割を知って、都市の構造への理解が深まる。

【授業計画】
第１回　　アーバンデザイン／環境デザインとは何か
第２・３回　神戸のウォーターフロント整備
第４回　　神戸港ポートアイランドの計画・設計（都市軸のデザイン）
第５回　　六甲アイランド RIC の計画・設計（住宅地区のデザイン）
第６回　　神戸ハーバーランドの計画・設計（商業地区のデザイン）
第７回　　HAT 神戸（神戸東部新都心）の計画・設計（震災復興シンボルプロジェクト）
第８・９回　神戸の密集市街地整備
第10回　　長田区真野・兵庫区浜山のまちづくり（密集市街地の改善・改造）
第11回　　兵庫区上沢・松本の復興まちづくり（ネットパークとせせらぎ）
第12回　　東灘区岡本・灘区水道筋の市民まちづくり（住宅・商業市街地の整備）
第13回　　神戸の景観整備
第14回　　中央区北野・旧居留地の景観地区
第15回　　眺望景観地区・みなと景観地区

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
目に見える景観だけでなく、都市を構成するデザインに考えをめぐらす必要がある。

成績評価方法	レポート
テキスト参考書	資料コピーを配布する。 〔参考書〕「UBAN DESIGN　都市環境デザイン－13人が語る理論と実践」 1995年　学芸出版社

授業コード	3219	科目名	都市・地域計画 都市地域概論	担当者	小林　郁雄

【授業概要】
都市を計画するとはどういうことか。都市計画として扱うさまざまな分野ついて、歴史的な経緯を中心にその大略について学ぶ。

【到達目標】
都市計画、住宅計画とは何か、その制度や事業の実際を把握する。さらに、神戸を中心とした都市、住宅、公園などの計画や方法を体感する。

【授業計画】
第１回　都市計画・住宅計画の変遷
第２回　日本の都市計画史
第３回　神戸の都市計画・住宅計画100年の歩み
第４回　神戸の建築・住宅・公園
第５回　都市計画制度・建築制度
第６回　都市計画事業・住宅建設事業
第７回　御堂筋と関一
第８回　田園都市と郊外ニュータウン
第９回　阪神間住宅地と千里ニュータウン
第10回　住宅団地の再生
第11回　住宅政策の変遷と HOPE 計画
第12回　住宅総合計画と建築指導
第13回　公園計画制度
第14回　緑地保全と六甲山緑化
第15回　公園ワークショップ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
歴史的な時間軸と地理的な空間軸のなかで、制度や事業の成り立ちを見るように努める。

成績評価方法	レポート
テキスト参考書	「都市計画とまちづくりがわかる本」 2011年　彰国社 〔参考書〕 ヴィジュアル版建築入門10「建築と都市」 2003年　彰国社

授業コード	3220	科目名	建築設備	担当者	赤山　明

【授業概要】
建物の機能を十分に生かすための建築設備の役割や特性を概説するとともに、環境に配慮した建築設備の計画手法について学ぶ。

【授業計画】
快適な住環境をつくり・維持するための建築設備の具体的な原理・技術について学ぶ。
さらに、環境負荷軽減や省エネルギーのための手法、ヒートアイランド対策などと建築設備との関わりについて学ぶ。
第１回　　住居と設備
第２回　　給排水設備
第３回　　衛生設備
第４～５回　空気調和設備
第６回　　換気設備
第７～８回　消火・防災設備
第９～10回　照明・コンセント設備
第11～12回　弱電設備
第13～15回　環境問題と建築設備

成績評価方法	テストによる。受講態度を重視する。（2/ 3以上出席のこと）
テキスト参考書	「初学者の建築講座　建築設備」 大塚雅之著　市ヶ谷出版社

授業コード	3941	科目名	卒業研究 実践と卒論で社会と関連づけよう	担当者	中野　加都子

【授業概要】
４年間の教育の集大成として、学生が環境について総合社会的な視点でテーマを設定し、４年間で培った知識と能力を自発的に発揮して、各自の個性に基づいた論文、調査報告、発表に取り組む。

【到達目標】
学外での環境活動実践を積み重ねて自信ある態度を身につける。

【授業計画】
環境対策やリサイクル、環境教育に関するテーマを各自が選択し、それに関する活動を実践する。それらに関する発表を行い、卒業論文としてまとめあげてゆく。
また、環境負荷の少ないライフスタイルに転換していくための方法を学生の立場から考え、神戸市、兵庫県などと連携して地域でのフィールドワークを行う。リサイクル施設、浄水場など実際の現場への見学にも出かける。それらの経験を卒業論文に反映できるようにする。また、神戸市水の科学博物館での環境教育は必ず実践してもらう。
第１回　　ゼミの進め方の説明
第２～15回　調査、資料収集、分析、社会の施設見学、環境教育の実践
第16～29回　卒論指導、卒論発表会の練習
第30回　　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
先輩として３年生を指導できるぐらいの実践力、知識を身につけよう。

成績評価方法	区切りごとに提出するレポート、外部への調査・見学への参加回数、卒業論文の完成度などによって評価する。
テキスト参考書	必要に応じて資料配付

授業コード	3942	科目名	卒業研究	担当者	和田　有朗

【授業概要】
環境文化学演習で興味を持ったテーマについて、さらにデータ分析を進め、論文作成を行う。

【到達目標】
データ分析力やまとめ方およびプレゼンテーション能力、コミュニケーション力等を身につける。

【授業計画】
第１回　　ガイダンス
第２～15回　資料収集、データ集計、分析、発表
第16～25回　論文執筆
第26～29回　卒業論文発表会の準備
第30回　　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
他人に自分の考えを伝える・コミュニケーションを日頃から意識するように心掛けてください。

成績評価方法	論文作成への取り組みと内容、レポート、発表への積極的参加等を総合的に評価する。
テキスト参考書	必要に応じて資料を配付する。

授業コード	3943	科目名	住環境・インテリア研究	担当者	田中　栄治

【授業概要】
身近な住環境・インテリアに対して、各自で自分のテーマを設定し、調査・研究して卒業論文・卒業設計にまとめる。身近なモノからインテリア、住宅、建築、街の空間、あるいは身近な自然の活用までが対象。

【到達目標】
４年間のまとめとして、学んだ事柄を自分のことばや表現で他者に伝える能力を養い、同時に各自が選んだ研究のテーマと研究方法について、客観的に点検、評価することのできる能力を身につける。

【授業計画】
第１回　　ガイダンス　研究の進め方
第２回～第14回　資料収集、テーマ設定、既存研究レビュー、調査
第15回　　研究計画のまとめ
第16回～第28回　調査データの分析、考察の指導
第29回・第30回　発表準備

研究テーマの例
○インテリア、住宅、建築、住宅地、街の空間等の実例や計画事例とその利用実態。
　実際の建築や地域等の空間構成や利用実態、利用者意識等を調査し、計画の評価、課題抽出を行なう。
○都市空間あるいは住宅地における生活行動空間。
　都市空間や住宅地などにおいて、人はどのように行動をしているのか、またその空間に対してどのような意識を持っているのかを調査し、環境をデザインするための基礎的研究を行なう。
○歴史文化遺産の活用。
　登録有形文化財や登録記念物など、古い建造物や庭園、公園などを歴史文化遺産として景観やまちづくりなどに活用している事例を調べ、その手法や課題、有効性などを検証する。
○身近な自然の活用。
　里山や河原・海辺空間など、身近な自然を生活環境として活用している事例を調べ、その手法や課題、有効性などを検証する。
○身近な生活環境のモノのデザイン。
　家具や雑貨など、身近なモノのデザインの意図や成り立ち方を調べ、よりよい生活環境の手がかりを探る。
○現在の建築、都市、住宅、住環境などの諸課題についての調査を行ない、具体的な計画案を立案し、卒業設計として計画図面、模型、透視図、計画説明書などを作成して、環境デザインの独自の提案を行なう。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
日頃から身近な生活環境に興味・疑問を持つことから研究はスタートします。

成績評価方法	提出レポートと口頭発表の内容で評価する。
テキスト参考書	[参考書]『大学生のためのレポート・論文術』　小笠原喜康著　講談社現代新書　2002年

授業コード	3944	科目名	住環境・インテリア研究	担当者	山隈　直人

【授業概要】
身近な生活環境をデザインという視点から捉え、各自で自分のテーマを設定し、調査・研究して卒業設計・卒業論文にまとめる。身近なモノからインテリア、住宅、建築、街の空間、あるいは身近な自然の活用までが対象。

【到達目標】
４年間のまとめとして、学んだ事柄を建築の設計として表現する能力を養う。研究の場合は、自分のことばや表現で他者に伝える能力を養い、同時に各自が選んだ研究のテーマと研究方法について、客観的に点検、評価することのできる能力を身につける。

【授業計画】
第１回　　ガイダンス　設計・研究の進め方
第２回～第14回　資料収集、テーマ設定、既存研究レビュー、調査
第15回　　研究計画のまとめ
第16回～第29回　調査データの分析、考察の指導
第30回　　まとめ

研究テーマの例
○現在の建築、都市、住宅、住環境などの諸課題についての調査を行ない、具体的な計画案を立案し、卒業設計として計画図面、模型、透視図、計画説明書などを作成して、環境デザインの独自の提案を行なう。
○インテリア、住宅、建築、住宅地、街の空間等の実例や計画事例とその利用実態。
　実際の建築や地域等の空間構成や利用実態、利用者意識等を調査し、計画の評価、課題抽出を行なう。
○都市空間あるいは住宅地における生活行動空間。
　都市空間や住宅地などにおいて、人はどのように行動をしているのか、またその空間に対してどのような意識を持っているのかを調査し、環境をデザインするための基礎的研究を行なう。
○身近な生活環境のモノのデザイン。
　家具や雑貨など、身近なモノのデザインの意図や成り立ち方を調べ、よりよい生活環境の手がかりを探る。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
日頃から身近な生活環境に興味・疑問を持つことから研究はスタートします。

成績評価方法	提出作品、またはレポートと口頭発表の内容で評価する。
テキスト参考書	[参考書]『大学生のためのレポート・論文術』　小笠原喜康著　講談社現代新書　2002年

授業コード	4101	科目名	日本文化論 漫画・アニメと人生	担当者	岩見　幸恵

【授業概要】
世界の漫画・アニメーションの大半は日本で製作され、消費されている。この現象を解明するために歴史や表現技法の仕組みについて、代表的な作品を例に解説を加える。そしてそれらを基礎に妖怪やSFといった日本文化の特性、日本人の生き方について論じる。

【到達目標】
古代から現代までを貫く日本人の文化観についての具体的な知識を深めることによって外国文化も含め、その文化のオリジナルな価値観を理解し尊重できるようになる。リンクを利用して情報を統合しレポートをまとめることができるようになる。

【授業計画】
第１回：オリエンテーション（日本人の人生と死生観、陰陽道、忍法、魔法）
第２回：キャラクター論（『サザエさん』家族の肖像と歳時記、１コマから４コマ）
第３回：『鳥獣戯画』と『伴大納言絵詞』
第４回：『源氏物語絵巻』から『北斎漫画』（ディフォルメと写実）
第５回：妖怪画
第６回：絵解き、紙芝居、のぞきからくり、戦前のアニメ『桃太郎』
第７回：戦後の出版文化（雑誌とアニメーション）
第８回：映画『千と千尋の神隠し』（１）あらすじ
第９回：映画『千と千尋の神隠し』（２）作品背景
第10回：ロボットとSF、手塚、富野、庵野（科学万能から暴走）
第11回：水木しげると緑川ゆき『夏目友人帳』（妖怪、見えるもの）
第12回：高橋留美子（学園ラブコメ、ＳＦファンタジー）
第13回：空知英秋『銀魂』と岸本斉史『NARUTO』（パラレルワールド）
第14回：二ノ宮知子『のだめカンタービレ』（音楽、ポリフォニー）
第15回：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
知っている漫画やアニメでも単なる読者として見るのではなく、研究のために見る場合には少し違った視点が必要であり、その点に早く気付いて下さい。

成績評価方法	期末試験、レポート、受講態度、平常点等を総合的に評価する。
テキスト参考書	特になし。その代わり適宜プリントを配布する。プリントをファイリングして各自授業毎に持参する。ファイリングは研究及び社会生活の基本であり、それを経験的に身につけること。

授業コード	4106	科目名	観光交通論	担当者	山田　健治

【授業概要】
鉄道関係を中心に他の交通機関を含め、観光交通と運輸の実態、仕組み、観光地理の初歩、関連する歴史・現状・課題、大型時刻表の使い方などを学習します。

【到達目標】
観光交通に関する基礎知識と時刻表の使い方など基本的な実務を習得するとともに、観光交通の動向などに関心を持ち、日常的な交通関係情報を新たな視点から理解することを可能とします。

【授業計画】
第１回　　オリエンテーション
第２回～第３回　観光学初歩（観光産業としての運輸業を中心に）
第４回　　観光地理初歩
第５回　　鉄道概論（歴史、鉄道事業会社）　　鉄道の仕組み（１）･･･線路、車両
第６回　　鉄道の仕組み（２）･･･車両基地、架線、信号、駅、乗務員
第７回　　鉄道の仕組み（３）･･･運行管理、駅付帯サービス、関連事業
第８回　　列車ダイヤと時刻表
第９回　　大型時刻表の使い方
第10回　　運賃・料金の概略
第11回　　駅の仕事、観光列車、リニア新幹線
第12回　　阪神間の鉄道（１）･･･ＪＲ（新幹線、在来線、観光列車）阪急、阪神
第13回　　阪神間の鉄道（２）･･･山陽、神鉄、神戸高速、神戸地下鉄、新交通
第14回　　神戸地区の鉄道あれこれ
第15回　　まとめ、試験
※観光・交通に関連した新聞報道などについても随時解説します。
※講義の順序、内容は多少変更する場合があります。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
観光交通に関心を持ち、学習した内容を実際に見たり、体験したりすれば理解はより深まります。

成績評価方法	試験、受講態度等から総合的に判断します。
テキスト参考書	毎回、必要なプリントを配布します。市販の「大型時刻表」を各自用意してください。

授業コード	4201	科目名	文学と都市 迷宮小説と都市	担当者	岩見　幸恵

【授業概要】
都市文化の代表である小説という文学・芸術形式について考察する。日本は早くから港湾をひかえた門前町や城下町等、近代的な都市が各地に存在しており、他の国とは異なった特徴を持つ。そこで都市を主役とする迷宮小説という形式に着目し、都市と文学の成り立ちをたどりながら、作品相互間の文学的影響関係を見る。

【到達目標】
震災、再開発といった地域に残る痕跡は作家に文学的素材を供給する。これらに着目し近代・現代文学読解上の基本的方法を把握すると共に、リンクという方法で背景とする歴史や事件から作品の持つ世界を広げ、自ら積極的に情報を引き出すことが出来る優れた読者となる。

【授業計画】
第１回：オリエンテーション（近代文学と現代文学、年表と地図、江戸と東京）
第２回：都市の条件（１）古代の都市（アジア・ヨーロッパ、城壁で囲まれた都市空間）
第３回：都市の条件（２）中世の都市（日本の城下町、小京都、門前町、城壁のない都市空間）
第４回：都市の条件（３）近代の都市（産業革命の特徴と消費階級、商業出版、大量生産と複製技術）
第５回：都市のアイテム「迷路」（田園、田舎の対比、産業革命の弊害、環境破壊、外食産業の発達）
第６回：島尾敏雄『死の棘』（東京と神戸、地震と戦争と再開発、『新世紀エヴァンゲリオン』）
第７回：永井荷風（１）『日和下駄』（下駄と傘、現代文学の入門書）
第８回：永井荷風（２）『すみだ川』（隅田川両岸と村上春樹『１Q84』）
第９回：永井荷風（３）『墨東綺譚』（向こう岸という世界）
第10回：江戸川乱歩『陰獣』（荷風作品との関係、探偵小説という現代文学）
第11回：横溝正史『鬼火』（神戸、東京、岡山、土俗、民俗、神話）
第12回：村上春樹『神の子どもたちはみな踊る』『東京奇譚集』（新たなる惨禍）
第13回：有川浩『塩の街』（終末、ネオ東京）
第14回：貴志祐介『新世界より』（その後の世界）
第15回：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
都市も文学も時代と共に変化し姿を変えている。それらを情報として認識する。リンクを用い情報を統合し、読みこなすことは現代生活で最も重要な課題です。

成績評価方法	期末試験、レポート、受講態度、平常点等を総合的に評価する。
テキスト参考書	特になし。その代わり適宜プリントを配布する。プリントをファイルして各自授業毎に持参すること。ファイリングは研究及び社会生活の基本であり、その方法を経験的に身につけること。

授業コード	4202	科目名	映画論（1）	担当者	吉本　陽一

【授業概要】
映画・映像が持っている表現の多様性、社会や時代との関係を映画・映像についての歴史や理論等を映画・映像作品や制作者を通して検証、考察することで理解を深める。
『映画・映像と時代』、『映画・映像とジャンル』、『制作者と作品』という視点から作品を見るということを中心に授業を進める。

【到達目標】
映画・映像作品等を広い視野に立って見る姿勢を身に付ける。
さらに、そこから自分なりの評価や批評を展開することが出来る。

【授業計画】
第１回　映画映像と時代１　映画前史映画の発明
第２回　映画映像と時代２　映画の文法
第３回　制作者と作品１
第４回　映画映像と時代３　ソ連映画とモンタージュ
第５回　映画・映像とジャンル１
第６回　映画映像と時代４　ネオレアリズモ
第７回　制作者と作品２
第８回　映画映像と時代５　ヌーヴェルヴァーグ
第９回　映画・映像とジャンル２
第10回　映画映像と時代６　アメリカンニューシネマ
第11回　制作者と作品３
第12回　映画映像と時代７　ハリウッドの復権ブロックバスター映画
第13回　映画・映像とジャンル３
第14回　制作者と作品４
第15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義で紹介した作品や関連作品を鑑賞する。見た感想等を文章にしてみる。

成績評価方法	課題レポート：課題を理解し自分の意見や考えを文章にまとめ、述べることが出来たか。
テキスト参考書	特になし。適宜プリント等を配付。

授業コード	4203	科目名	映画論（2）	担当者	吉本　陽一

【授業概要】
映画・映像作品を多角的視点から考察・分析する事によって、我々がいかに情報メディアとしての映画・映像を受容し感じているかを映画・映像作品を通してその理解を深めていく。
『映画・映像の構造』、『映画・映像とジャンル』、『制作者と作品』という視点から作品を見るということを中心に授業を進めます。

【到達目標】
映画・映像作品等を広い視野に立って見る姿勢を身に付ける。
映像作品の制作方法を理解する事で分析能力を身に付ける
さらに、そこから自分なりの評価や批評を展開することが出来る。

【授業計画】
第１回　映画・映像の構造１　「時間」「空間」「人間」（「十二人の怒れる男」他）
第２回　映画・映像の構造２　続「時間」「空間」「人間」
第３回　映画・映像とジャンル１
第４回　映画・映像の構造３　「ハリウッド三幕構成」（「リトル・ミス・サンシャイン」他）
第５回　映画・映像の構造４　続「ハリウッド三幕構成」
第６回　制作者と作品１
第７回　映画・映像の構造５　「シナリオの形式：回想」
第８回　映画・映像の構造６　「続・シナリオの形式：回想」
第９回　映画・映像とジャンル２
第10回　映画・映像の構造７　「登場人物の葛藤と克服」（「ラジオの時間」他）
第11回　映画・映像の構造８　「対峙シーンにおける映像力学」
第12回　制作者と作品２
第13回　映画・映像の構造９　「リアルとフェイク」
第14回　映画・映像とジャンル３
第15回　制作者と作品３

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
講義で紹介した作品や関連作品を鑑賞する。見た感想等を文章にしてみる。

成績評価方法	出席・受講態度：講義に真剣に取り組めたか。 課題レポート：課題を理解し自分の意見や考えを文章にまとめ、述べることが出来たか
テキスト参考書	特になし。適宜プリント等を配付。

授業コード	4204	科目名	マンガ論 マンガ表現論	担当者	諸岡　知徳

【授業概要】
マンガときくと趣味や娯楽と考える人が多いと思う。しかし、マンガの表現はとても複雑で興味深い点が多い。マンガという表現を読解することを通じて読むことの奥深さを知ってほしい。

【到達目標】
サブカルチャ―がもつ社会的な意味を知ることは社会を考えることにも通じる。また、表現の読解を行うことによって情報に対するリテラシーを高めることができる。

【授業計画】
第１回　　ガイダンス
第２～４回　マンガ表現にとってコマとはなにか
第５～８回　マンガのなかのことばたち
第９～11回　カメラワークとマンガ
第12～14回　マンガとキャラクター
第15回　　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
この時間はマンガの読解を行うもので、実作、作画やシナリオの作り方などについての時間ではありません。
また、マンガだから簡単と思わないでください。

成績評価方法	①講義プリントと小課題　65%　+②レポート　25%　+③その他　10%　という配分で評価します。
テキスト参考書	テキストはない。毎時間プリントを配布します。

授業コード	4207	科目名	広告論 広告を多面的に考える	担当者	山崎　方義

【授業概要】
時代を映す鏡として社会と密接に関係している広告について、その目的やターゲット、表現方法等、多くの事例を交えながら理論と実践の両面から学ぶ。

【到達目標】
①広告の基本的な知識を身に着ける。
②実際の広告を見て目的やターゲットを分析する。
③企業経営や社会環境における広告の位置づけを理解する。
④広告クリエイティブのプロセスと手法を理解する。
⑤広告メディアの多様性と潮流を理解する。

【授業計画】
第１回：広告とは何か
第２回：社会の変化と広告
第３回：メディアの種類と特徴
第４回：クリエイティブと制作プロセス
第５回：広告計画と戦略
第６回：商品広告と企業広告
第７回：海外広告
第８回：ブランディング
第９回：広告効果
第10回：公共広告
第11回：広告とマーケティング、広告規制
第12回：広告ビジネスの拡大と広告会社の機能
第13回：統合コミュニケーション
第14回：企業経営とこれからの広告
第15回：試験

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
日頃から以下の習慣を身に着けてください。
①広告を見て、どのような企業（団体）が、誰に向けて、何のために展開しているのかを考える。
②好きな広告について、その理由を説明できるように考えを整理する。

成績評価方法	試験および受講態度と取り組み姿勢に基づいて評価する。
テキスト参考書	特になし。適宜プリント配付。

授業コード	4208	科目名	サウンドスケープ論 音を観る・見る・視る	担当者	岡本　久

【授業概要】
サウンドスケープとは何か､そして"音"とは何かについて考察できる力を養うための講座。単に音やサウンドスケープ（音風景）の解説だけではなく、音そのものの面白さや不思議な現象を紹介、またフィールドワークを通して受講者自らが音について観察し、楽しみながら日常生活にも役立ていけるような体験的学習を目指す。

【到達目標】
①サウンドスケープとは何かについて理解する。
②音についての観察力、さまざまな視点で考える力を身につける。
③身近な生活環境における音について注視し、保全や改善等について考えられるようになる。

【授業計画】
第１回　：授業ガイダンス
第２～14回：教科書や配布資料をもとにサウンドスケープの解説。
　　音や音楽にまつわる様々な面白い事例や不思議な現象などを具体的に紹介。
　　この期間２，３回、学校周辺にフィールドワークを行い音の観察・記録活動を行う。
第15回　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
普段なにげなく聞いている音について、深く考える機会です。また音の様々な性質や現象を知ることで、より音楽を楽しく聴くことや、身近な生活音に面白さを感じることができるようになります。

成績評価方法	受講態度、取り組み姿勢、課題（小論文）提出内容等による総合評価。
テキスト参考書	「サウンドスケープ―その思想と実践」、その他配布プリント等

授業コード	4941	科目名	卒業研究	担当者	橘　セツ

【授業概要】
都市交流学演習を通して発見したテーマを、発展・深化させて卒業論文を執筆する。

【到達目標】
1、3年時の都市交流学演習で発見したテーマにふさわしいアプローチの方法を身につけ実践することができるようになる。
2、卒業論文の構成を適切に組み立てることができるようになる。
3、卒業論文のテーマについての研究史や先行研究の論文を読解して、研究テーマにおける自らの研究の視角や位置づけを理解して、それについて適切に書くことができる。
4、計画をたてて、卒業論文を持続的に執筆し続け、完成させることができる。

【授業計画】
前期
1回～2回：オリエンテーション：目標の設定と卒業論文執筆のタイムスケジュールをたてる
3回～14回：都市交流学演習の後期レポート（卒業論文のテーマと研究の視点（序論）について）をもとに卒業論文のテーマの本決定→章立ての構成・先行研究論文の購読・本論の執筆
15回　：まとめ

後期
1回　：オリエンテーション：スケジュールの見直し
2回～12回：卒業論文の執筆
13回～14回：卒業論文発表会の準備
15回　：まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
卒業論文を完成させるために、受講生には、まず計画をたて、その計画にしたがって、持続して執筆を続ける努力を求めます。

成績評価方法	日常の授業への取り組み30%、卒業論文の途中経過の提出物50%、卒業論文の途中経過の発表20%
テキスト参考書	授業中に紹介します

授業コード	4942	科目名	卒業研究 苦労そして喜び！	担当者	山崎　正雄

【授業概要】
都市交流学演習等学習の中で興味を持ったテーマを深耕し、卒業論文に仕上げる。
興味ある課題の選択、周到な準備と積重ね、果敢な取組み、先手必勝、新たな発見。

【到達目標】
興味ある課題を深く掘り下げ、自ら考え行動し、論文としてまとめる。
現代社会における「観光」の意義について再確認する。
国家試験合格を目指す。（国内旅行業務管理者試験・総合旅行業務管理者試験）

【授業計画】
【前期】
1回　オリエンテーション
2回～4回　テーマ検討と全体スケジュールの確定 / 先行研究・文献調査開始
5回～6回　個人面談、草稿作成に向けて全体構成など確認
7回～9回　第一回草稿作成と内容検討
10回～12回　第一回発表
13回～14回　内容の再検討と論文作成にむけての再調査等
15回　まとめ
【後期】
1回～5回　論文作成
6回～8回　第二回発表
9回～10回　論文完成
11回～14回　卒業論文発表会の準備
15回　まとめ

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】
先手必勝

成績評価方法	論文作成への取組みと内容・レポート・発表・期限の厳守等総合的に判断。
テキスト参考書	都度資料を配布する。

授業コード	4943	科目名	卒業論文	担当者	永井　純一

【授業概要】
卒業論文の執筆。

【到達目標】
大学での学びの成果として卒業論文を完成させる。

【授業計画】
前期
第１回～14回　中間報告
第15回　まとめ
後期
第16回～29回　中間報告
第30回　まとめ

成績評価方法	
テキスト参考書	

授業コード	4944	科目名	卒業研究	担当者	楠本　和歌子

【授業概要】

【到達目標】

【授業計画】
第１回目の授業時に説明します。

【受講上のアドバイス・準備学習・復習】

成績評価方法	
テキスト参考書	

授業コード	9001 9002	科目名	教育実習（1）、（2）	担当者	杉本　健三

【授業概要】
教育実習は、はじめて教職を体験し、生徒への教育愛を体得し、教師としての教育実践についての経験を得る貴重な場である。本講義では、教育実習を意義ある充実したものにするために、教育実習の意義・目的を明らかにし、その展開、実習の内容を解説し、さらに実習の実際を各場面に対応して具体的な事例を用いて実践力を養う。

【到達目標】
教育実習の意義・目的を充分に理解し、充実した教育実習が実践できる力量を身につけさせる。

【授業計画】
第１週　教育実習の目的と意義
第２週　教育実習の心構え
第３週　教育実習の内容　　①学校経営、学校の組織、教育課程・教育目標
第４週　教育実習の内容　　②生徒理解と生徒指導
第５週　教育実習の内容　　③教師としての勤務、学校の施設と環境
第６週　教科指導への取り組み　　①　授業づくりの原則と方法、教材研究の実際
第７週　教科指導への取り組み　　②　学習指導案の作成　－１－
第８週　教科指導への取り組み　　③　学習指導案の作成　－２－
第９週　教科指導への取り組み　　④　模擬授業の実施
第10週　教科指導への取り組み　　⑤　研究授業の実際、授業分析
第11週　教科外指導への取り組み　－特別活動（学級活動・生徒会活動・学校行事）
第12週　教科外指導への取り組み　－道徳・総合的な学習の時間－
第13週　教育実習の反省と課題発見による教師としての資質・能力の育成　　①実習記録の重要性と実習評価の観点
第14週　教育実習の反省と課題発見による教師としての資質・能力の育成　　②自己研修課題の発見
第15週　総括

成績評価方法	授業での活動状況、及びレポート等による総合評定とする。
テキスト参考書	『教育実習の研究（三訂版）』教師養成研究会　編著（学芸図書株式会社）

授業コード	9003	科目名	教職実践演習（中・高）	担当者	杉本　健三

【授業概要】
履修カルテに基づき、教職課程の履修履歴を把握した上で、各科目の総まとめを行う。
テーマ：教員として最も重要である使命感、倫理観、教育的愛情について、さらに社会性、対人関係能力を体験的に学ぶ。また、教員の必要な実践力としては、学級経営、生徒・保護者との理解、学習指導の力をつけることを目的とする。

【到達目標】
本学の教職課程及び他の授業科目の履修などさまざまな学びの中で、知識・能力・実践的指導力などが、どのように身についてきたかを確認し、さらに実践的指導力などを今後どのように高めていくのかを学ぶことが授業の目的である。

【授業計画】
理論的な学習とロールプレイングなどを通して教員に求められる学級経営の力を育成し、学級経営に必要である生徒や保護者の理解、学級集団の理解、学校を支える地域への理解を深める。教科に関しては基礎基本をふまえたうえでフィールドワーク、授業実践などを通して主体的な社会科（地理歴史科）の指導力の育成をめざす。
第1回　ガイダンス　教育実践演習の意義　教員をめざすとはどういうことか―特に教育実習の経験を踏まえ、教員の使命観、倫理観、教育的愛情について講義、グループ討議を行う。
第2回　学級経営（1）　学級経営とは何か。都道府県、市町村の教育施策の理解　地域の教育ニーズの把握　各学校の学校経営目標・重点目標の理解と学級経営との関係について講義・グループ討議を行う。
第3回　学級経営（2）　学級経営に必要な生徒・保護者、地域についての実態把握の方法とそれを学級経営に生かすための方略について、高等学校教員経験者の方をゲストスピーカーとして招き、講義・グループ討議を行う。
第4回　学級経営（3）　ゲストスピーカー：兵庫県の教育的ニーズ、兵庫県で求められる教員像について元兵庫県教育委員会の方をゲストスピーカーとして招き、講義・グループ討議を行う。
第5回　学級経営（4）学級経営案の作成と発表　学校の目標、生徒、地域などの実態を踏まえた学級経営案を作成する。―学習指導、生徒指導の目標の重点化を中心に―
第6回　学級経営における教員のあり方（1）　集団として学級をどう捉えるかと、教員に求められる社会性と対人関係能力とは何か、という点について講義・グループ討議を行う。
第7回　学級経営における教員のあり方（2）　教員として必要とされるコミュニケーション力（特に聞く力）を高める。（ロールプレイング）
第8回　学級経営における教員のあり方（3）　生徒、保護者一人ひとりを理解する力をつける。対人関係能力の育成。（ロールプレイング）
第9回　学級経営における教員のあり方（4）　学級という集団での学級経営の力をつける。学級内の問題に対して、どう対応するのか。（ロールプレイング）
第10回　授業設計と授業展開（1）学習指導要領にしめされている「生きる力」、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成とはどのようなことをめざしているのか、という点について講義・グループ討議を行う。
第11回　授業設計と授業展開（2）　授業を主体的に組み立てる力と、板書、話し方、表情など授業を行う力の育成。
第12回　授業設計と授業展開（3）　学生が神戸市内のいずれかの中学校または高等学校を想定して、社会科（地理歴史科）におけるフィールドワークを取り入れた単元や授業を構成する。
第13回　授業設計と授業展開（4）　対象地へフィールドワークを実施①　地域の把握（地域にある史跡や社会教育施設などの地域の教育資源、地域の安全・防犯、地域の自然、環境の保護など）
第14回　授業設計と授業展開（5）　対象地へフィールドワークを実施②　授業を想定したフィールドワーク（第12回で構成した神戸市の地理と歴史を理解し、それを授業として展開する方法を考察し、授業案を作成する）
第15回　授業設計と授業展開（6）　フィールドワークの結果に基づく研究授業と報告書作成。

成績評価方法	課題50%　テスト50%
テキスト参考書	授業内で指示する。